

2017年度（平成29年度）
日野市環境基本条例第18条に基づく年次報告書

日野市環境白書



日 野 市

日野市立カワセミハウス開所式(表紙の写真)

2017年4月1日(土)に日野市立カワセミハウスがオープンし、同日に開所式を行ないました。

開所式には、準備段階から施設の建設、運営について話し合いを重ねるなどご尽力いただいた皆さまをはじめ、多くの方々に足をお運びいただきました。

カワセミハウスの詳細については、本書の「1. 2017年度の日野市における環境への取組のトピックス (1) 日野市立カワセミハウスが開館しました。」及び「7. 環境基本計画の推進体制 (2) 日野市立カワセミハウスの活動状況」をご覧ください。

はじめに

日野市は 27.55 平方キロメートルの市域の中に、多摩川・浅川を代表とする河川が流れ、これらの流れによって作られた肥沃な沖積低地や、多摩丘陵、市役所や多くの企業が立地する日野台地が広がり、低地と台地の崖線には屏風のような緑地が連なり、丘陵地の緑や、ハケ下からの湧水などと相まって日野市らしい原風景を留めています。



日野市では、これらの良好な環境を市民活動と行政とが早くから協働して、用水路や湧水地などの水辺の保全・再生、緑地や緑の保全活動など、私たちの暮らしと身近で恵まれた自然環境との共生を目指すまちづくりが様々な形で展開されてきました。

2017 年には本書のトピックスにもあります通り、「ひの生きものプラン」～日野市生物多様性地域戦略～を策定いたしました。

このプランでは、これまで多くの市民の皆様と協働して先進的に取り組んできた様々な施策や成果を総括するとともに、私たちがこれまで享受してきた良好な環境を次世代につなぐため、市民一人ひとりの力を合わせて行動していきたいと考えております。

しかし、地球規模ではスーパーサイクロンの発生や豪雨や乾燥の顕在化、国内では局所的なゲリラ豪雨の頻発や季節の変化の前倒し感が強まるなどの気候変動に加え、目まぐるしい経済構造の変化等により日野市の原風景も急速にその姿を変えようとしている現実があります。

本白書をご覧になっていただいているお一人おひとりが、地球環境の保全に直結している私たちの暮らしと日野市の環境の変化について再確認いただき、多様な生きものと共生できる持続可能なまちづくりを考え、「緑と清流」を日野市の宝としていつまでも誇れるよう、一步ずつ着実に行動されることを切にお願いいたします。

日 野 市 長

大 坪 冬 彦

日野市環境基本条例と 2017 年度日野市環境白書作成の経緯

日野市環境基本条例（抜粋）

〈前文〉

私たちは、豊かな自然の恵みを受けて、生命の糧を与えられてきた。現代社会において、私たちは、大量生産・大量消費の社会システムの中で、物質的に豊かで便利な暮らしを享受する一方、自然環境の消失や資源とエネルギーの限りのない消費と多量の廃棄を生みだしてきた。このような生産と生活の在り方は、地球規模での環境破壊をもたらしている。

日野市民は、野生生物が棲み、水を育む森林、暮らしに潤いをもたらす川、農地や崖線の緑などの自然や、それらによって培われた歴史的・文化的環境を祖先から受け継いできた。このような環境を私たちの世代限りで終わらせることなく、次の世代に引き継いでいかなければならない。

私たちは、これまでの生産と生活を見直し、自然を育み、環境保全型のまちを創り出すとともに、持続可能な社会への展望を見いだすべきときにきている。

このような認識の下に、私たちは、日野市、日野市民及び事業者の責務と役割を明らかにし、良好で快適な環境を確保するとともに、環境への負荷の少ない日野市を創りあげていくために、この条例を制定する。

〈第 18 条〉

市長は、毎年、議会に、環境の保全等のために市が実施した事業の概要に、日野市環境審議会の意見を付けて、報告書を提出しなければならない。

1995 年に市民の直接請求により、上掲の前文に掲げる目的で日野市環境基本条例が制定されました。その条例の第 9 条に基づいて、1999 年に日野市環境基本計画が策定されました。この計画に定められた施策の進行状況は前記条例第 18 条に基づいて、日野市環境白書として環境審議会での審議、議会の承認を経て 1999 年度以降毎年公表してきました。2005 年には環境情報の発信拠点として日野市環境情報センター（かわせみ館）が設立され、これを契機にそれ以降の環境白書は同センターが作成してきました。2017 年に日野市環境情報センターの機能を引き継ぐ日野市立カワセミハウスがオープンし、環境白書はカワセミハウスが作成しています。

この環境白書の特色は、環境基本計画で設定された分野ごとに計画の進捗を計るための数値目標を掲げ、それらの達成度から環境問題への対応を評価し、翌年度の事業に反映させたところです。

第 1 次となる環境基本計画の策定から 5 年後の 2004 年に環境基本計画の見直しが行われ、重点的に実施すべき項目とその進捗を計る数値目標を新たに追加しました。そして第 1 次計画の計画年度が満了となる 2011 年には、公募市民・事業者・市職員からなるワーキングチームにより、第 1 次計画の理念を踏襲した第 2 次環境基本計画を策定しました。その際着実にそして計画的に進められるよう、計画に掲げた施策には優先順位を設けて中長期の具体的な目標を盛り込みました。また計画の推進についても市民・事業者と各主管課が協働して実施できるような体制づくりに努めています。

今回の環境白書は第 2 次計画に掲げた施策を基本に、これまで取り組んできた内容や結果をまとめたもので、計画の策定にあたった市民と主管課が、1 年間活動した結果のコメントも掲載しています。このほか、市民団体・各学校・事業者等の環境への取組状況等も掲載しています。

望ましい環境像

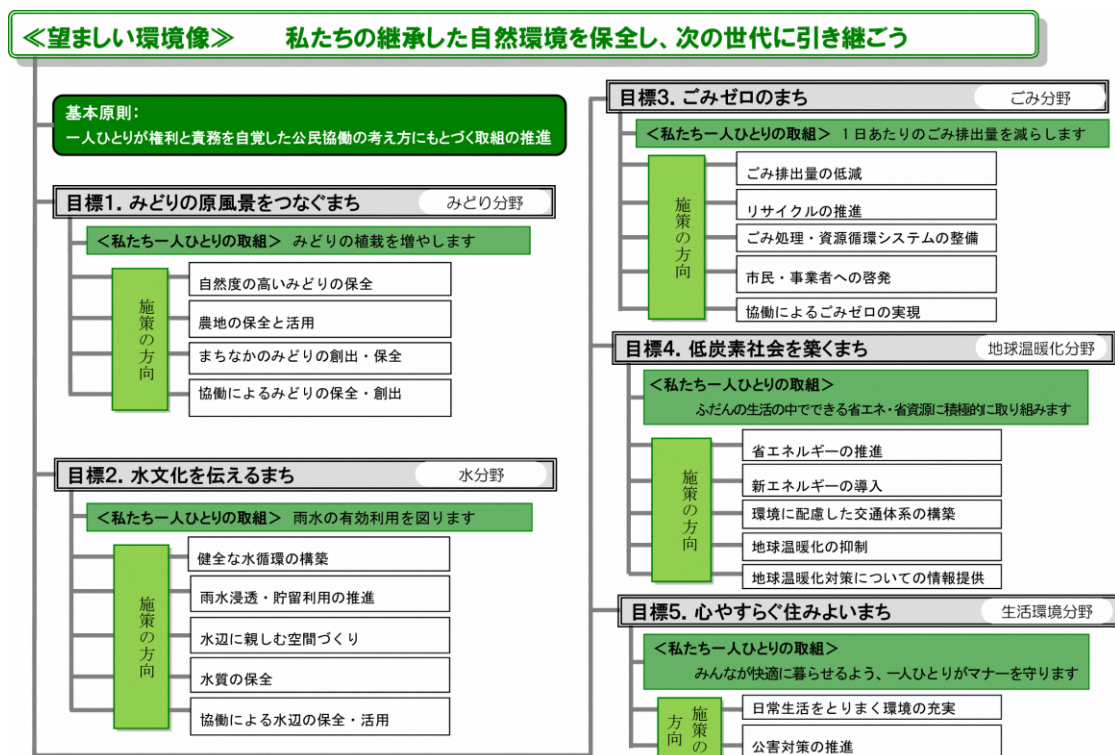
日野市環境基本計画とは

「市民が健康で安全かつ快適な生活を営む上で、必要とする良好な環境を確保するための方向性を示すもの」で、望ましい環境像は「私たちの継承した自然環境を保全し、次の世代に引き継ごう」とし、先人から受け継いだ豊かな自然を守り育て、少しでも質の高い形にして次の世代に引き継げるよう、一人ひとりが自覚をもって行動することを目指します。

【第2次環境基本計画の特徴】

- ① 潤いや安らぎを与えてきた水やみどり等の自然環境を市の財産として守り生かしながら、少しでも良くして次の世代に引き継ぐ。
- ② 計画的な施策の実施に向けた優先順位の設定や、市民一人ひとりの行動や意識をステップアップさせ、自覚と責任ある行動の浸透を目指し、確実に次の一步を進める。
- ③ 市民一人ひとりが日常生活において環境配慮を実践し、市全体の環境についても広い視点で考え行動するよう働きかけるなど、「公民協働」の考えを基本として計画を推進する。

計画の施策体系の柱は、日野市の特徴である水やみどりの分野に、ごみ、地球温暖化及び生活環境を加えた5分野です。推進主体である市民・事業者・市の役割を明確にし、お互いに連携して計画を推進していきます。



「第2次日野市環境基本計画」(2011年3月)より

2017 年度（平成 29 年度）日野市環境白書

— 目 次 —

- ・ 日野市環境基本条例と 2017 年度日野市環境白書作成の経緯
- ・ 望ましい環境像

1. 2017 年度の日野市における環境への取組のトピックス	1
(1) 日野市立カワセミハウスが開館しました。	1
(2) 「ふだん着でCO ₂ をへらそう」事業が 10 周年を迎えました。	3
(3) 「ひの生きものプラン（日野市生物多様性地域戦略）」を策定しました。	4
(4) 日野用水開削 450 周年事業	5
2. 環境基本計画目標達成状況	6
(1) 環境の現状	8
(2) 市の取組状況	8
(3) 分野別目標達成状況	8
3. 環境の現状と取組状況の評価	11
みどり分野(環境の現状/市の取組状況/市民コメント)	12
水分野(環境の現状/市の取組状況/市民コメント)	20
ごみ分野(環境の現状/市の取組状況/市民コメント)	35
地球温暖化分野(環境の現状/市の取組状況/市民コメント)	45
生活環境分野(環境の現状/市の取組状況)	52
4. 環境への取組状況	61
(1) 市民および市民・行政の協働による環境への取組状況	61
(2) 行政による環境への取組状況	95
(3) 学校等による環境への取組状況	100
(4) 大学による環境への取組状況	107
(5) 事業者による環境への取組状況	108
5. 環境関連決算額	116
6. 市役所の環境配慮の状況	118
7. 環境基本計画の推進体制	120
(1) 環境基本計画の推進	120
(2) 日野市立カワセミハウスの活動状況	121
8. 環境審議会の意見等	127
9. 省エネ法に関する措置	129
付表 指標・参考データ出典一覧	130

1. 2017 年度の日野市における環境への取組のトピックス

2017 年度に実施された環境問題に対する取り組みの中から、つぎの 4 項目を注目すべきトピックスとして取り上げました。

(1) 日野市立カワセミハウスが開館しました。

2017 年 4 月 1 日これまでの環境情報センターと吹上地区センターの機能に加え、市内外への情報発信や、誰もが気軽に心地よく利用できるスペースを提供することにより、地域を構成する多様な主体間の交流をはかり、ひいては重層的かつ複合的につながることによって、新たな地域連携の創造や各主体の活力強化を目指しスタートしました。

◇日野市立カワセミハウス運営の基盤

①カワセミハウス協議会

日野市立カワセミハウス（以下「ハウス」という。）の運営の基盤となる市民組織として自治会、子ども会を中心とした地域団体、環境団体、各種サークル、大学、ボランティアグループ等々多彩な 43 の団体と 1 人の個人で組織され、協議会としての年間事業推進など、事務局と一体となって誰もが居心地のよいハウスの運営に努めています。

◇2017 年度の利用状況

①ハウス出入口に設置したカウンター数値 104,651 カウント

※ センサー前を 2 回通過すると 1 カウントするよう設定

②集会室利用者数 10,615 人

※ 旧環境情報センターの 2016 年度来館者数 2,656 人

※ 吹上地区センターの 2016 年度利用者数 4,220 人

◇2017 年度の主な成果

①黒川かわせみサロンの開催

高齢者を対象に、9 月から毎月 1 回（原則第 1 火曜日）有志の地域のご方々と市内の実践女子大学学生ボランティアとが協働して開催し、毎回多様な催し物とお茶やお菓子を提供しながら多くの方々と賑わっています。

②第三の居場所の提供（フリースペースの活用）

ハウス周辺の恵まれた環境を背景に乳幼児を連れた親子から高齢者まで、毎日多くのお客様が来館されています。来館される目的は多様で、遊び、学習、休憩、食事、おしゃべり、編み物、調理、ちょっとした打合せ等々居心地の良い自由な空間として活用されています。

③実践女子大学との多様な連携

先述した黒川かわせみサロンへのボランティア参加を始め、多摩地域の大学間によるまちづくりコンペティションにおいて、ハウスを拠点として自分たちのスキルを生かした「まちづくり工房」の提案、地域の絆を強めるイベント「オクトーバーフェスト」を自ら提案し、協議会の有志と協働して開催し地域のつながりを強化するなどの活躍をされています。

1. 2017 年度の日野市における環境への取組のトピックス

④アートディレクション事業（アーティストと子どもたちとのコラボ）

日野市出身で気鋭の版画家蟹江杏さんと志ある 9 人の中学生との協働により、創作絵本「ぼくのまちにはもりがある」を発刊しました。この絵本は、日野市の宝である身近な自然をテーマに蟹江杏さんと子どもたちが描いた絵と想像される音から構成されています。

⑤環境分科会の誕生

協議会会員の中から自発的に分科会の立ち上げが提案され、環境基本計画の遂行と環境関連イベント等の事業を展開し、日野市の環境に関心を持ち行動していただける方を一人でも増やせるよう今後活動していきます。

この他にも、本白書ではご紹介しきれない人的化学反応が起きています。本白書をご覧になっている皆様も是非カワセミハウスをご利用いただければ幸いです。

(2) 「ふだん着でCO₂をへらそう」事業が10周年を迎えました。

地球規模での環境問題、温暖化問題への対応が、もう待ったなしのところに来ています。

これら環境問題解決への取り組みは、何よりも多くの市民の関わりにより、行政を含めたまちぐるみで行なうことが最大の必要条件になります。

「ふだん着でCO₂をへらそう」事業は、地球温暖化対策として、二酸化炭素（CO₂）排出削減を全市民的な取り組みとするため、市民一人ひとりが、日常生活の中で無理をせず環境に負荷を与えない行動を行うことを目的に、2008 年度から市民・事業者・市との協働により市をあげて取り組んで来ました。

この「ふだん着」という事業名は、肩肘をはることなく、決して無理をせず、一人ひとりが毎日のくらしの中で、地道にこつこつと途絶えることなく継続していくという「普段」と「不断」の意味が込められております。

本事業は、当初は 5 年間の期限事業としてスタートしましたが、地球温暖化問題の重要性と本事業が定着しつつあることから、2 回の事業延長を経て、2017 年度で 10 年目の節目を迎え、2 月には「ふだん着でCO₂をへらそう 10 周年記念誌～10 年の振り返り」を発行しました。

当初から事業の柱として行なっている、自らの省エネ行動を宣言していただく宣言世帯数は、皆様のご協力により、当初の目標世帯を大きく上回り、市民のCO₂削減意識の醸成と省エネの行動継続に大きな成果を得られているところです。「ふだん着でCO₂をへらそう」事業は、地球環境に配慮した持続可能な社会をつくることのできる事業として高く評価され、特定非営利活動法人環境カウンセラー全国連合会から「環境大賞」を受賞しました。

しかしながら、2011 年 3 月の東日本大震災以降、一人ひとりの省エネ意識は以前より高まってはいるものの、家庭から出る二酸化炭素排出量は思うような減少とはなっていない状況です。

私たちが先人から引き継いだ美しい地球、美しい「ふるさと日野」を次の世代へ手渡すためには、今後更に、私たち一人ひとりが自らの生活スタイルを見直し、行動することが求められています。

青い地球を次の世代へ引き継ぐため、一人ひとりが、持続可能な省エネ行動を継続することができるよう、各種事業を展開してまいりますので、引き続き皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。



1. 2017 年度の日野市における環境への取組のトピックス

(3) 「ひの生きもののプラン（日野市生物多様性地域戦略）」を策定しました。

私たちが暮らす日野市は、市の北側を多摩川、市内の中央部を浅川が流れ、低地には用水路が流れるほか、湧水地点も多数点在するなど「水の郷」と呼ぶにふさわしい環境にあります。また、多摩丘陵や日野台地の崖線などには自然度の高い緑が存在するなど、豊かな生態系が維持されています。

かつては、人はこうした身近な自然環境の中で生物多様性の恵みを得て、そこに暮らす生きものと共生しながら暮らしてきました。このような中、幸いにも日野市においては、地元を愛する市民の地道な保全活動と、日野市による多年にわたる環境施策の積み重ねによって、都市部で失われつつある自然環境や生物多様性が守られてきました。

しかし、こうした取り組みにもかかわらず、都市化による緑被率や耕地面積・生産緑地面積の減少や、水路の廃滅は進行しており、日野市においても残された自然が少しずつ消えている現状があります。

これらの背景をふまえて、これまで市が誇りとしてきた「みどりと清流のまち ひの」を次世代へ良好な状態で引き継ぐため、2015 年度から策定委員会を設け市民・事業者の方と共に 3 か年をかけて検討を重ね、この度、「ひの生きもののプラン（日野市生物多様性地域戦略）」が完成いたしました。

この「ひの生きもののプラン」は、これまでの日野市の取り組みの成果を総括するとともに、「みどりと清流のまち ひの」を持続可能なまちづくりの根幹とし、日野市の目指すべき姿とそれを実現するための様々な生きものの視点に立った具体的な取り組みを示しております。

この戦略を通じて、私たち一人ひとりができることを考え、そして行動することで、先人から引き継いだ大切な自然や日野に棲む多様な生きものを次の世代へしっかりと伝え、日野らしいまちづくりを目指し、運用していくものとしています。



(4) 日野用水開削 450 周年事業

日野用水は 1567(永禄 10)年に開削され、2017(平成 29)年に開削 450 年の節目を迎えました。

2016 年度に市長から委嘱を受けた日野用水土地改良区 2 名、市民 7 名、市職員による「日野用水開削 450 周年記念事業推進委員会」により、6 月にまち歩きイベント、8 月のアユまつりでは P R テントブースの設置、10 月には集大成であるシンポジウムを日野煉瓦ホール（市民会館）小ホールにて開催し、来場者は 200 名を超え日野の用水の大切さをあらためて認識しました。周年記念として、2018 年 3 月には栄町五丁目で、粗朶柵や木杭を用いて昔ながらの水路を復元しました。

今後も日野市清流保全条例に基づいた年間通水を行い、「水の郷 日野」を守り続けます。

① まち歩きイベントの実施

☆2017 年 6 月 17 日…探ろう！歩こう！日野用水 2

② シンポジウム開催

☆2017 年 10 月 15 日…日野用水開削 450 年 ～昨日と今日・そして明日へ～



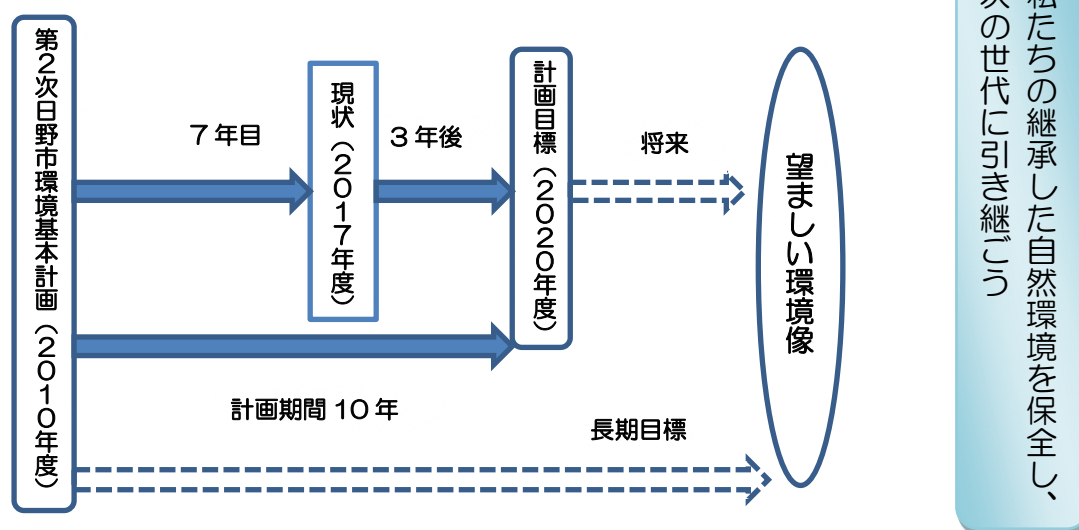
③ 記念冊子の作成



2. 環境基本計画目標達成状況

2011年3月に策定された「第2次日野市環境基本計画」では、“将来の望ましい環境像”が掲げられています。そして、“望ましい環境像”の実現に向けて、各分野(みどり、水、ごみ、地球温暖化、生活環境)別に、10年後に目指す環境の姿(目標)と、目標を達成するための市の取り組み(施策)が掲げられています。

これらの“望ましい環境像”の指標(環境の現状を評価する指標)および市の取組状況(施策の実施状況)が、環境基本計画の目標を達成しているかどうかの指標となっています。本白書に掲載している指標は全体で52項目です。



環境基本計画の計画期間と目標

ここでは、「環境の現状」「市の取組状況」「分野別目標達成状況」の順に、第3章で詳述している内容について目標達成状況の概況をとりまとめています。各指標の評価基準は以下の通りです。

凡例	評価	評価の基準	
		環境の現状(望ましい環境像)の指標	市の取組状況の指標
😊	達成	計画目標を達成もしくは良くなる傾向	過去の実績を踏まえて良くなる傾向
😞	未達成	計画目標を未達成もしくは悪くなる傾向	過去の実績を踏まえて悪くなる傾向
◇	どちらとも言えない、判断できない(定量的な比較が困難なもの等)		

2. 環境基本計画目標達成状況

表1 本白書掲載の指標・データと目標達成状況

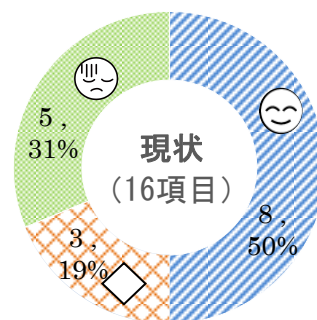
分野	施策の方向	施策	指標・参考データ	達成状況	掲載頁
みどり	環境の現状（望ましい環境像）の指標		指標1 土地利用現況調査「森林」の割合	×	12
			指標2 緑被率	×	12
			指標3 農地面積	×	13
			（参考）生産緑地面積	-	13
			指標4 市民一人当たり都市公園面積	×	14
			（参考）多摩地区の一人当たり都市公園面積	-	14
	自然度の高いみどり	民有緑地の公有地化等の推進	指標5 市が寄付や買収等で取得した樹林地面積	○	16
		緑地管理協定等による保全の推進	指標6 緑地信託面積	△	16
		市民緑地活動の積極的支援	指標7 緑のトラストへの寄付件数	△	16
		ボランティアによる里山の管理と活用	指標8 雑木林ボランティア講座修了者数	○	17
	農地の保全と活用	市民農園等の拡充	指標9 市民農園の面積	○	17
		援農ボランティア制度の拡充	指標10 援農人数	○	17
		地元野菜にふれる機会の充実	指標11 「市」の開催日数	○	18
	まちのなかのみどりの創出・保全		指標12 学校給食における地元野菜等利用率	○	18
			指標13 給食野菜納品農業者数	○	18
		生け垣緑化の推進	指標14 生け垣の助成件数	△	19
水	環境の現状（望ましい環境像）の指標		指標15 浅川の水位	×	20
			（参考）浅川の流量測定結果	-	21
			指標16 湧水確認地点数・湧水量	△	22
			（参考）湧水地点の状況	-	22
			指標17 各用水路の水質分析結果	○	24
			指標18 河川・用水・湧水の水生生物確認状況	○	25
			（参考）水生生物による水質の生物学的判定	-	26
			指標19 水辺に親しみやうるおいを感じる市民の割合	△	28
	湧水・地下水の保全	地下水揚水量の把握	指標20 地下水揚水量	○	30
	雨水浸透・貯留利用の推進	家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置促進	指標21 雨水浸透ます設置個数	○	30
			（参考）透水性舗装整備状況	-	31
	水質の保全	生活排水および污水处理の施設整備	指標22 下水道普及率	○	32
	協働による水辺の保全・活用	水辺に親しむ活動の推進	指標23 水辺イベントの開催数	○	32
			（参考）「ビオトープづくり」の取組件数	-	33
ごみ	環境の現状（望ましい環境像）の指標		指標24 「用水守」の登録団体数	×	33
			指標25 1人1日当たりのごみ排出量	○	35
			（参考）ごみの行方	-	36
			指標26 資源化率	△	36
			（参考）ごみ量内訳	-	37
	ごみ排出量の低減	レジ袋無料配布中止の拡大	指標27 マイバック持参率・レジ袋辞退率	○	39
		容器包装お返し大作戦の展開	指標28 ペットボトル、発砲トレーの行政回収率	△	39
	リサイクルの推進	分別ルールの徹底	指標29 焼却ごみの組成	○	40
			（参考）焼却ごみの組成割合（2017年度分析結果・温ベース）	-	40
		生ごみの家庭内循環（自家処理）の普及促進	指標30 生ごみ処理機補助の件数	○	41
	市民・事業者への啓発		指標31 生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数	×	42
		情報提供ツールの充実	指標32 環境学習出前講座の実施回数	×	42
			指標33 ごみ相談窓口への相談件数	○	43
	協働によるごみゼロの実現	新聞紙の民間回収への移行	指標34 クリーンセンター見学者数	△	43
地球温暖化	環境の現状（望ましい環境像）の指標		指標35 新聞紙の行政回収量	○	43
			指標36 日野市二酸化炭素排出量	○	45
			（参考）エネルギー消費量	-	46
			指標37 公共交通機関（ミニバス・バス）の整備率	○	47
			指標38 市内連絡バス（ミニバス）年間利用者数	○	47
			指標39 「ふだん着でCO2をへらそう宣言」の宣言数及びCO2削減量	○	48
	省エネルギーの推進	CO2の見える化の推進	指標40 ワットチェッカー等貸出状況	△	49
		省エネ診断の支援	指標41 省エネ診断の参加事業者数	×	49
	新エネルギーの導入	太陽光発電等導入補助の実施	指標42 太陽光発電等の導入補助件数	○	50
	環境に配慮した交通体系の構築	太陽光、太陽熱、風力等の積極的な活用	指標43 公共施設の新エネルギー導入状況	○	50
生活環境	環境の現状（望ましい環境像）の指標		指標44 都市計画道路の整備率	○	51
			指標45 心やすらぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合	○	52
			（参考）苦情受付件数	-	52
	日常生活をとりまく環境の充実	PRの実施	指標46 マナーアップのための啓発活動状況	○	54
	公害対策の推進		指標47 浮遊粒子状物質（SPM）年平均値	○	54
			指標48 二酸化窒素の年平均濃度	○	55
		大気汚染物質の監視	指標49 二酸化窒素24時間測定結果	○	56
			指標50 雨の酸性度	△	56
			（参考）富士山ウォッチング	-	57
		道路交通騒音の測定および対策の実施	指標51 道路交通騒音	○	58
		航空機騒音についての対策	指標52 横田飛行場に係る航空機騒音	○	59
		放射線測定	（参考）市内空間放射線量測定	-	60

○：達成 ×：未達成 △：どちらともいえない -：評価対象外（参考データ）

2. 環境基本計画目標達成状況

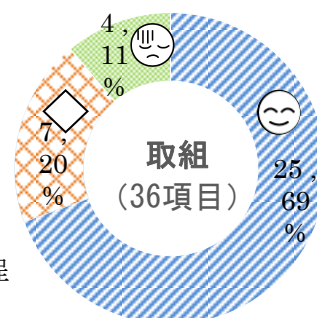
(1) 環境の現状

環境の現状（望ましい環境像）を評価する指標は52指標中16指標あります。目標達成状況は前出の表1（P.7）と右の円グラフに示す通りで、16の指標のうち8指標で「達成」と評価され、「未達成」は5指標と、全体では前年度よりやや良くなりました。「未達成」の5指標の内訳は、「土地利用現況調査「森林」の割合」、「緑被率」、「農地面積」、「市民一人当たり都市公園面積」、「浅川の水位」で、みどり分野において特に現状が厳しいことがうかがえます。



(2) 市の取組状況

市の取組状況を評価する指標（「環境の現状」の指標以外）は52指標中36指標です。目標達成状況は前出の表1（P.7）と右の円グラフに示す通りで、36指標のうち25指標（69%）で「達成」と評価されています。「未達成」は4指標（11%）と少なく、前年度とほぼ同程度の結果で、行政や市民の努力がうかがえます。

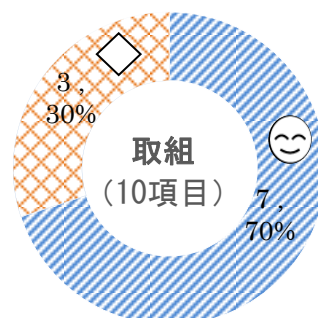
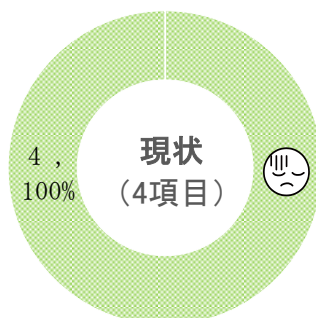


(3) 分野別目標達成状況

達成
 未達成
 どちらともいえない

○みどり分野

みどり分野の現状（環境の現状）と取組（市の取組状況）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状は、4指標中全てが目標を未達成と評価されており、厳しい状況と言えます。一方で、取組では10指標中7指標で目標を達成しており、行政や市民の努力は評価できます。取り組みにより現状が改善されない点が課題と言えます。

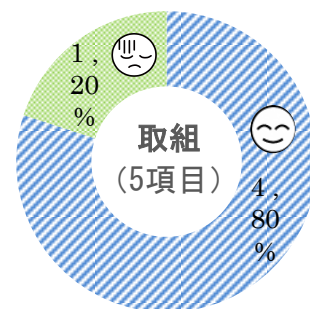
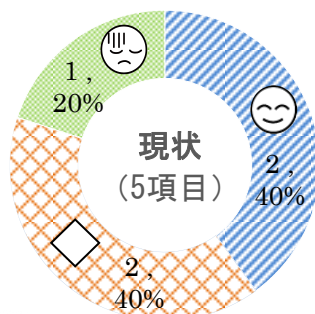


ここがポイント！

- 森林の割合、緑被率、農地面積のいずれも減少。特に農地の減少が深刻ですが、相続が主な原因と考えられ、現在の施策により歯止めをかけることが困難な状況です。
- 「雑木林ボランティア講座」「農の学校(援農ボランティア育成講座)」については着々と修了者数が増加。修了者のボランティア活動への参加を期待します。
- 「生け垣の助成件数」は、新たな助成制度（ウェルカムツリー）により大幅に増加。今後もみどりの創出への効果が期待できそうです。

○水分野

水分野の現状（環境の現状）と取組（市の取組状況）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状は、5指標中2指標で「達成」、2指標が「どちらともいえない」、1指標が「未達成」でした。数字で見れば悪くない状況ですが、「未達成」指標の「浅川の水位」については、流域全体の問題であり、大きな課題と言えます。取組では5指標中4指標が目標を達成しており、行政や市民の努力が評価できます。

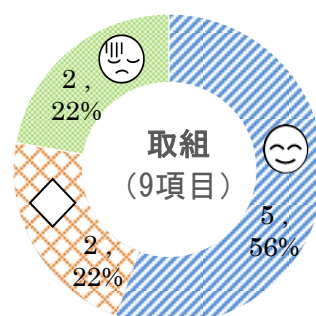
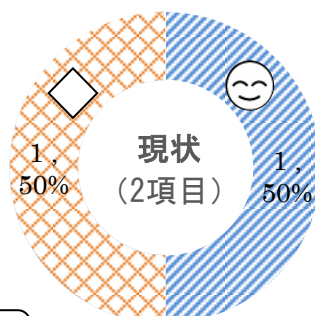


ここがポイント！

- 浅川の流量（水位）は目標値を未達成の状況が続いていることから、2017年2月から市のプロジェクトチームによる流量調査を実施しています。今後のデータの蓄積により対策に寄与できることを期待します。
- 下水道普及率は高い水準を保ちながら微増し、河川や用水の水質は良好です。
- 市による湧水量調査や水生生物調査の実施、水辺に親しむ活動が例年通りの規模で開催されるなど、水環境保全のための取り組みが行われています。

○ごみ分野

ごみ分野の現状（環境の現状）と取組（市の取組状況）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状は、2指標中1指標で「達成」、1指標が「どちらともいえない」で、悪くない状況です。取組では9指標中5指標で「達成」と評価されており、行政や市民の意識の高さがかがえる一方、まだ努力の余地があるとも言えます。



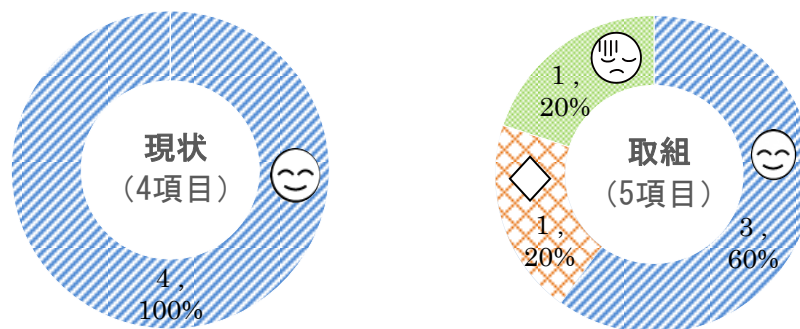
ここがポイント！

- 1人1日当たりのごみ排出量は年々減少し、目標値に近づいています。
- 容器包装の行政回収量がここ数年増加傾向にあることが気がりではありますが、レジ袋無料配布中止の拡大や生ごみの家庭内循環については一定の成果が見られます。
- クリーンセンター見学者数は建て替えのため少ない状態ですが、建て替え後には見学施設の整備により増加することに期待します。

2. 環境基本計画目標達成状況

○地球温暖化分野

地球温暖化分野の現状（環境の現状）と取組（市の取組状況）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状は、前年度未達成だった「日野市二酸化炭素排出量」が短期目標を達成し、4指標全てが「達成」となりました。取組では5指標中3指標で「達成」となっており、「未達成」は1指標のみで、現状の目標達成状況を鑑みれば、行政や市民の努力が評価できると言えます。

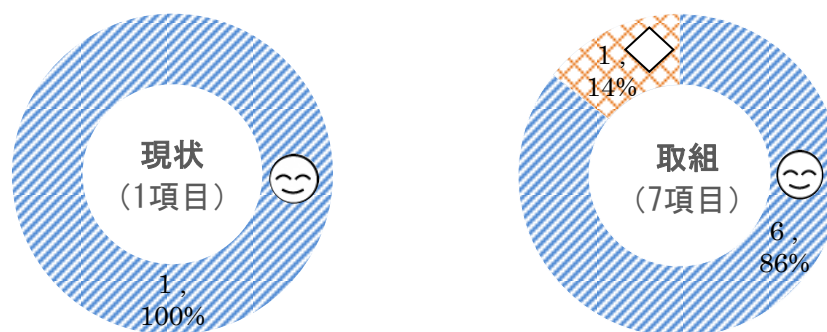


ここがポイント！

- 二酸化炭素排出量は3年続けて減少し、短期目標(2015(平成27)年度に設定)を達成することができました。
- 「ふだん着でCO₂をへらそう宣言」や「環境家計簿(エコキング)」といった、市民一人ひとりの取り組みについても目標値を大きく上回っており、市民の意識の高さが評価できます。

○生活環境分野

生活環境分野の現状（環境の現状）と取組（市の取組状況）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状を評価する指標は1つだけで「達成」と評価されています。取組の指標は7指標ありますが、このうち6指標は大気質や騒音の現況を評価するものです。「未達成」の指標はなく、生活環境については良好な状況が保たれていると言えます。



ここがポイント！

- 「未達成」の指標は1つもなく、良好な生活環境が維持されていると言えます。
- 「雨の酸性度」や「空間放射線量測定」といった、市民の関心が高いデータも掲載しています。

3. 環境の現状と取組状況の評価

ここでは、第2次日野市環境基本計画における望ましい環境像を実現する5つの分野である、みどり、水、ごみ、地球温暖化、生活環境について以下の流れで順に紹介します。

評価の凡例と基準は第2章に記載していますが、以下に再掲します。

凡例	評価	評価の基準	
		環境の現状（望ましい環境像）の指標	市の取組状況の指標
☺	達成	計画目標を達成もしくは良くなる傾向	過去の実績を踏まえて良くなる傾向
☹	未達成	計画目標を未達成もしくは悪くなる傾向	過去の実績を踏まえて悪くなる傾向
◇	どちらとも言えない、判断できない(定量的な比較が困難なもの等)		

(1) 環境の現状

第2次日野市環境基本計画では、分野ごとに現在の環境（環境の現状）を評価する「環境の状況を測る指標と目標」が設定されています。これらの指標の目標年度の多くは、計画策定時から10年後の2020（平成32）年度としており、当白書で年度ごとに各数値を確認することにより、「望ましい環境像」に近づいているかを把握することができます。ここでは、指標ごとに現在までの推移をグラフや表にまとめています。

なお、ごみ分野については「第3次日野市ごみゼロプラン（2017（平成29）年3月）」で定められた目標年度と目標値を2016年度以降適用していきます。

(2) 市の取組状況

第2次日野市環境基本計画で施策として位置付けられた取り組みについて表にまとめました。また、指標ごとに、施策の実施状況や、進捗状況、効果等を確認するため、現在までの推移をグラフや表にまとめています。指標が定められていない施策については、実施状況を記載しました。ただし、全ての施策について掲載すると膨大な量となるため、定量的な評価が可能な施策を中心に抽出しています。

なお、第2次日野市環境基本計画により2020年度の目標が設定されている指標については目標値を掲載し、評価の参考としました。また、ごみ分野に関しては、「第3次日野市ごみゼロプラン（2017（平成29）年3月）」で目標値が定められているものについてはその値を掲載しています。

(3) 市民コメント

2001年度以降、白書には環境基本計画作成に携わった方々による分科会ごとのコメントを掲載してきました。引き続き今回も環境基本計画推進会議に参加する市民のコメントを掲載しました。

みどりの分野

< 目 標 >

みどりの原風景をつなぐまち

1. <環境の現状>

1.-1 土地利用現況調査「森林」の割合と緑被率

森林の割合
目標値: 7.4%
緑被率
目標値: 32.7%
(2020 (平成 32) 年度)

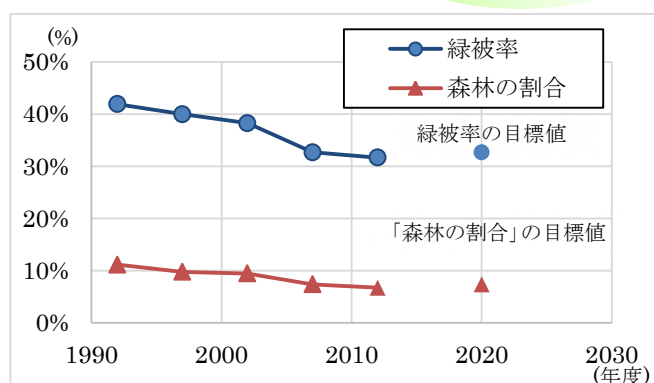
指標 1: 土地利用現況調査「森林」の割合〔5 年毎調査〕

指標 2: 緑被率〔5 年毎調査〕

環境基本計画では、みどり全体の量の保全を目指しています。みどりの量を計る指標である緑被率と、その中でも自然度が高い「森林」（樹木樹林被覆地）の割合については、2007 年度数値の維持を目標として掲げています。

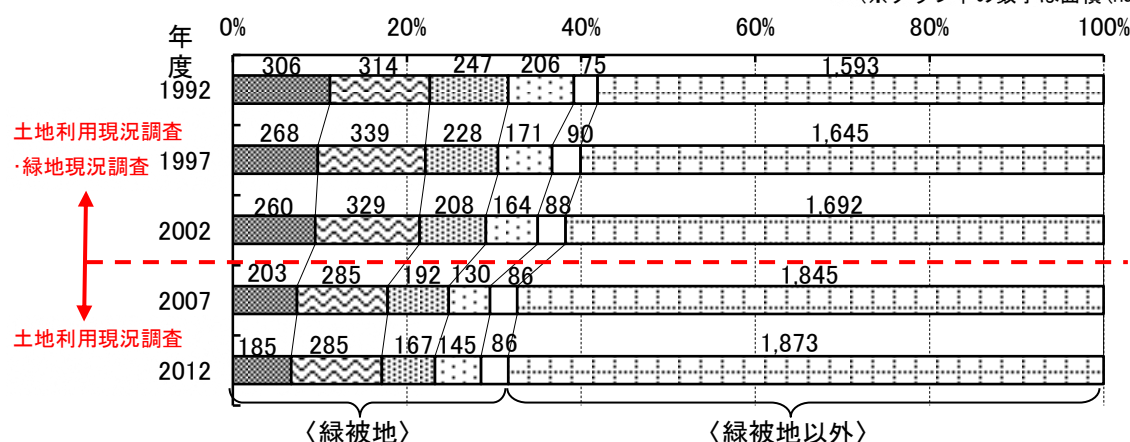
調査は 5 年ごとに実施しており、本白書では直近の 2012 年のデータを再掲しています。

下記に示すように 2007 年以降の調査内容が異なることに注意しながら現状をみても、減少傾向であることに変わりはないと思われます。2012 年度の「森林」の割合は 6.7%で、2007 年度に比べ 0.7 ポイント減少しました。また、緑被率も 31.7%と 1.0 ポイント減少しています。



緑の構成比〔5 年毎調査〕

(※グラフ中の数字は面積 (ha))



■ 樹木樹林被覆地 □ 草地 □ 農地 □ 裸地 □ 水面部 □ 構造物被覆地

※1992～2002 年度調査は土地利用現況調査と同時に進行する緑地現況調査の成果報告値。

2007 年度以降の調査は東京都が行っており、緑地現況調査は実施されなかったため、土地利用現況調査のみどり率から抽出したもので、全く調査内容が異なる。

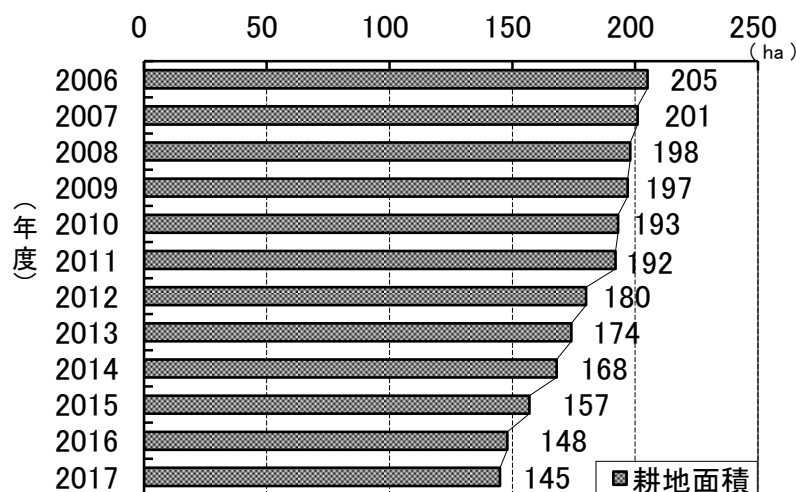
1.-2 農地面積



指標 3：農地面積

目標値: 160ha

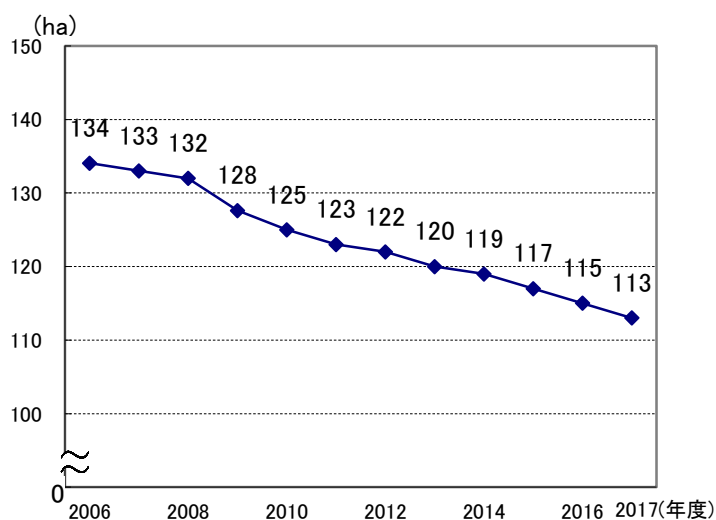
(2020(平成 32)年度)



農林水産省発表の耕地面積の数値を使用しています。

農地は年々減少し、2015年度には157ha と目標値を割り込んでしまいました。2016年度以降も減少傾向は続き、2017年度では145ha となり、農地の減少に歯止めがかかりません。農地減少の主な原因は相続の際の宅地化によるものと考えられます。

(参考) 生産緑地面積



生産緑地地区とは

市街化区域内にある農地等の農業生産活動に裏付けられた緑地機能に着目して、農業が営まれている等の一定の要件を満たす一団の農地について、「保全する農地」として計画的に保全し、税制上の優遇措置などにより良好な都市環境の形成を図る都市計画の制度。

生産緑地は2002年度から他市に先がけて追加指定を行っています。2017年度は前年度に比べ、約2ha減少の約113haでした。10年前と面積を比較すると約20haの減少となり、年間約2haの生産緑地が減少しています。生産緑地の面積減少の要因には、相続や後継者難等が考えられます。

3. 環境の現状と取組状況の評価

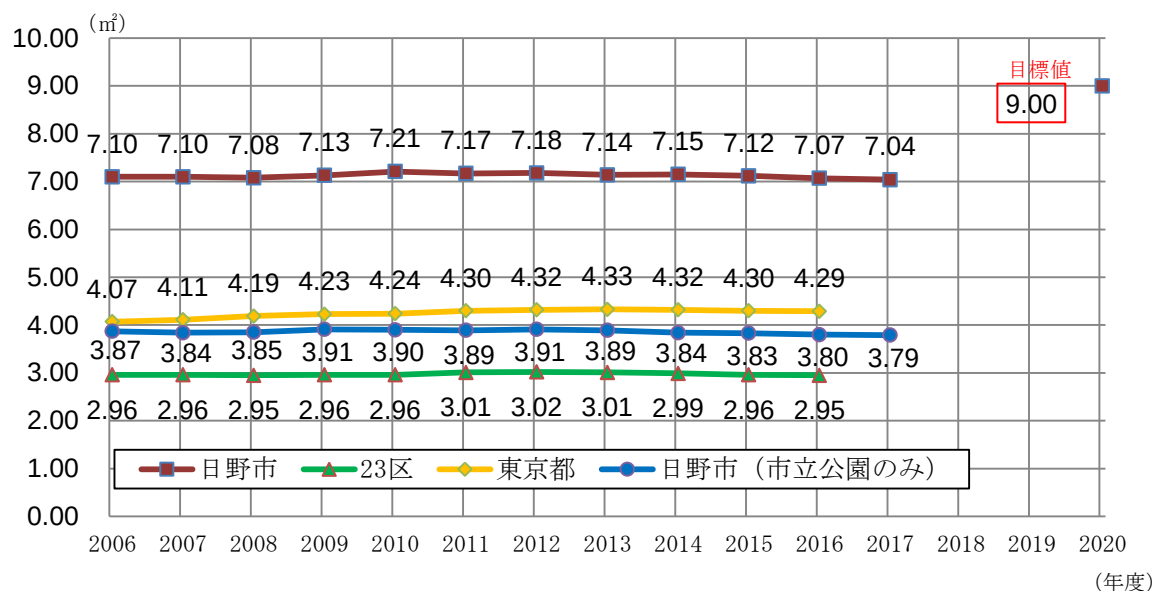
1. -3 市民一人当たり都市公園面積

目標値: 9.00 m²/人

(2020(平成 32)年度)

指標 4: 一人当たり都市公園面積

一人当たり都市公園面積は 2006 年以降ほぼ横ばいで、2020 年度に目標値の 9.00 m²/人を達成するのは困難な状況です。日野市の総人口が増加傾向にあることも一因と考えられます。



※23 区と東京都は、本書編集時点で最新となる 2016 年度までの数値を掲載しています。

都市公園とは

下記に該当する公園または緑地である。

- ・都市計画施設である公園又は緑地で、国又は地方公共団体の設置するもの。
- ・都市計画法による都市計画区域内において、地方公共団体が設置する公園又は緑地。

(参考) 多摩地区の一人当たり都市公園面積

(2017 年 4 月 1 日現在)

10 m ² 以上	7 m ² 以上	4 m ² 以上	4 m ² 未満
瑞穂町(36.71)	昭島市(9.91)	福生市(6.87)	あきる野市(3.71)
武蔵村山市(17.21)	町田市(9.63)	府中市(6.85)	日の出町(3.19)
多摩市(15.93)	立川市(9.34)	小金井市(6.46)	三鷹市(3.15)
八王子市(11.89)	東大和市(8.15)	羽村市(6.12)	小平市(2.66)
稲城市(10.97)		調布市(5.28)	東久留米市(2.08)
		東村山市(5.16)	国立市(2.05)
		青梅市(4.41)	国分寺市(1.77)
		武蔵野市(4.14)	狛江市(1.30)
			西東京市(1.28)
			清瀬市(0.67)

※指標 4 と「(参考)多摩地区の一人当たり都市公園面積」では出典が異なるため、参考として他自治体の状況を掲載しています。上記の表の平均は 7.29 m²です。

2. <市の取組状況>

目標	施策の方向	施策		具体的な取組	実施状況
緑の原風景をつなぐまち	自然度の高いみどり	丘陵地・斜面緑地等の保全	民有緑地の公有地化等の推進	一定予算確保を継続し、残すべき民有緑地の公有地化を計画的・選択的に推進する。環境緑化募金なども引き続き活用する。	国費、都費を導入し、林間公園用地約 3,450 ㎡の用地買収を行った。 (緑と清流課) →指標 5(P. 16)
			緑地管理協定等による保全の推進	緑地信託制度など、緑地所有者との管理・利活用に関する協定による緑地の保全を図る。	相続の関係で緑地信託4箇所合計 6,130 ㎡を解約。そのうち 2 箇所 2,732 ㎡については東豊田緑地保全地域拡張指定となり、公有地化の緑地となる。前記以外は開発業者に売買され分譲開発された。また、1 箇所 761 ㎡を分筆し、674 ㎡を市に寄付、87 ㎡を相続により緑地信託解約。 (緑と清流課) →指標 6(P.16)
			市民緑地活動の積極的支援	ひの緑のトラストなど、市民の緑地保全活動の普及・啓発を積極的に支援するとともに、市民とともに有効的な方法について検討し、緑地の保全を図る。	ひの緑のトラスト参加団体と市で会議を行い、今後の緑地保全等について検討した。 (環境保全課) →指標 7(P.16)
			「残したいみどり」の選定	市民のふるさとの風景として残したいみどりを選定し、優先的な保存を検討する。	2014 年末に「残したいみどりの選定」の成果まとめを報告。今後も引き続き生きものマップの作成と共に進める。 (緑と清流課)
		里山文化の継承を兼ねた管理体制	ボランティアによる里山の管理と活用	雑木林ボランティア講座を継続し、講座修了生等の維持管理への派遣制度を検討する。また、維持管理活動を活かして里山文化の継承や環境教育等を行うような、全市的な仕組みを構築する。	第 13 期の雑木林ボランティア講座を年間を通して 5 月から翌 3 月まで実施し、里山の維持管理について学んでもらった。その結果、27 名の修了生のうち 8 名がボランティアを継続して活動している。 (緑と清流課) →指標 8(P. 17)
	農地の保全と活用	構築農のある風景の保全	市民農園等の拡充	低利用の宅地化農地を市民農園として利用していくほか、生産緑地でも開設可能な農業体験農園として活用するなど民設の農園も増やすことで、市民の農業体験機会を創出するとともに、農地の保全に努める。	・市営市民農園は 11 農園(664 区画) ・民営(NPO 法人めぐみ)による市民農園 3 園 ・農家経営による農業体験農園は 3 園(86 区画)と前年度と変わらず。 (都市農業振興課) →指標 9(P.17)
			援農ボランティア制度の拡充	援農を希望する農業者に対して、JA のコーディネートのもと援農ボランティアを派遣しているが、野菜生産農業者だけでなく、果樹農業者や稲作農業者等へも派遣することにより、幅広く営農を支援していく。	2005 年 1 月に「農の学校」を開校し、現在まで、13 期 229 名の市民援農ボランティアを輩出した。卒業生は NPO 法人日野人・援農の会でボランティア活動を行っている。また、NPO 法人日野人・援農の会により日曜日に援農が出来る方を対象に一年単位で実習を行い、終了後に援農ボランティアとして活動する「野菜栽培塾」を開催。 ・2017 年度は 99 名が 45 農家で援農。 ・2018 年度は 14 期生 15 名が 12 月まで受講中。 (都市農業振興課) →指標 10(P. 17)
		地産地消による生産流通システムの確立	地元野菜にふれる機会の充実	農産物の流通過程における CO ₂ 排出量を削減するための「市(いち)」や直売所などの既存の機会や施設を活かし、さらにスーパーや駅前など、あらゆる場所で地元野菜を購入できるようなネットワークを構築する。また、日野産野菜を積極的に購入してもらうための制度など、ソフト的な取り組みも検討する。	・学校給食供給農家は、現在 44 農家が供給。 ・市役所本庁舎 1 階ロビーにて、毎月第 2、第 4 木曜日にファーマーズセンター「みのり處」の出張販売を行い来庁者への販売、また、ファーマーズセンターにて市内農産物を使用したランチを提供。 ・「ひの恵み焼きカレーパン」への素材提供(ジャガイモなど)。 (都市農業振興課) →指標 11.13(P.18)
	まちのなかのみどりの創出・保全	民有地等の緑化	生け垣緑化の推進	ブロック塀撤去と生け垣設置補助に関する実態を把握し、より使いやすい補助制度を検討する。また、地域で生け垣緑化に取り組むモデル事業などを実施するとともに、地区計画で生け垣設置を推奨する。	2017 年度から新たに日野市ウェルカムツリー等植栽補助制度を開始した。合計 11 件のウェルカムツリーや生け垣が設置できた。年度当初に多くの問合せがあったが、申請をキャンセルするケースもあった。 (緑と清流課) →指標 14(P. 19)
	創出	協働による普及啓発	市民・事業者への情報提供・PR	農地を含むみどりの保全・創出の大切さや、みどりの良さを市民と協働で整理し、市民・事業者へ PR する。また、窓口での相談や、緑地に関する講習会等を実施する。	市が管理している緑地信託地(民有地)を初めての試みで自然観察会で案内し PR した。 (緑と清流課)
協働によるみどりの実態把握		みどり・生き物マップの作成	市民参加のもと、市域の植生や街路樹・生け垣等の樹種、みどりの連続性、外来種の侵入状況などの現状を調査してマップを作成し、今後の取り組みの基礎資料として活用する。	今後のマップ作りのために水と緑のつながりを学び再認識した。 (緑と清流課)	

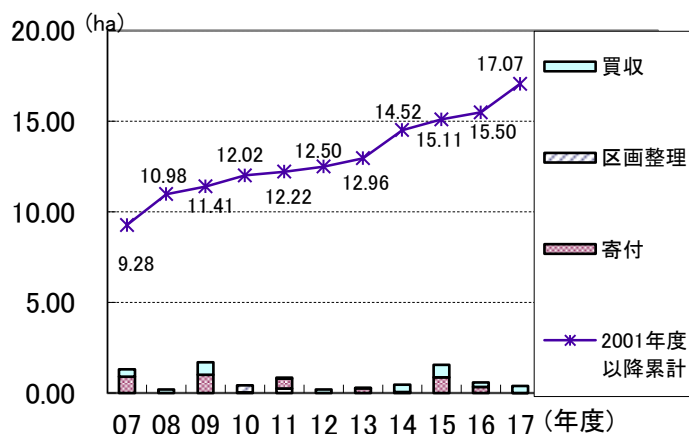
3. 環境の現状と取組状況の評価

2-1 自然度の高いみどり

(1) 丘陵地・斜面緑地等の保全

民有緑地の公有地化等の推進

☺ 指標 5：市が寄付や買収等で取得した樹林地面積

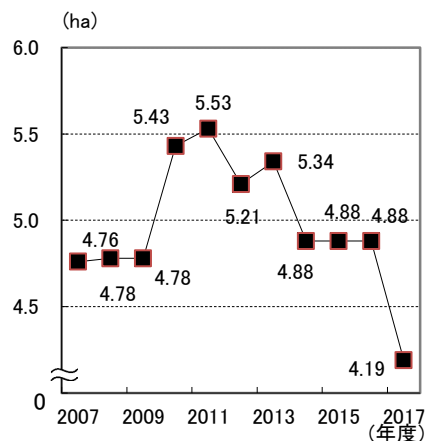


2017年度に市が取得した樹林地面積は、買収が0.34ha、寄付が1.23haで、合わせて1.57haが増加しました。

緑地信託面積は、相続の関係で4か所を解約したため、0.69ha減少しました。

緑地管理協定等による保全の推進

◇ 指標 6：緑地信託面積



緑地信託制度とは

良好な緑地、里山等について、所有者と市が信託契約を結び、市が緑地を管理する制度のことです。市がサポートすることで、安定した緑地維持ができる措置を図っています。

市民緑地活動の積極的支援

◇ 指標 7：緑のトラストへの寄付件数

年度	寄付件数(件)
2009	32
2010	85
2011	248
2012	592
2013	281
2014	279
2015	85
2016	13
2017	3
累計	1,618

寄付件数の累計は1,618件となりました。金額では2017年度末時点で累計3,369,947円にのびります。

市では、市民による緑のトラスト運動の後押しを受け、この運動の発端となった真堂が谷戸の緑地を公有地化するための具体的な手続きを進めています。

なお、2011年度以降は街頭募金の件数も計上されています。

ひの緑のトラストとは

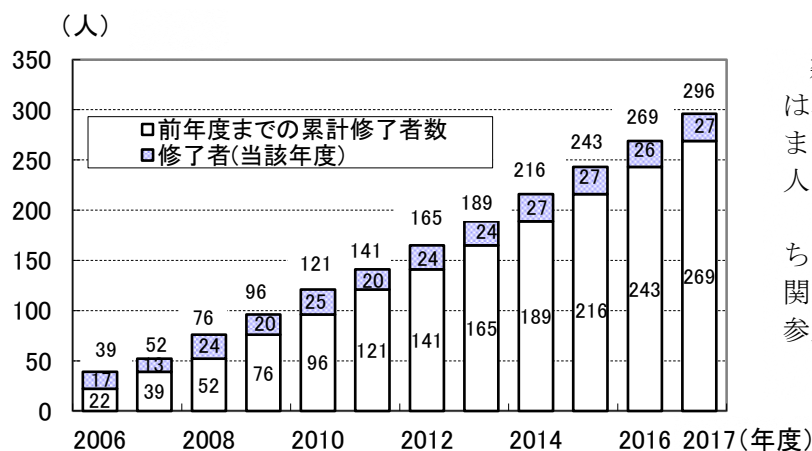
貴重な里山の保全を市民自らの力で支援するために2009年12月に設立されました。市内の市民団体が主体となって、市の公有地化を進めるための取得費として募金活動を実施しています。

(2) 里山文化の継承を兼ねた管理体制の構築

ボランティアによる里山の管理と活用

☺ 指標 8：雑木林ボランティア講座修了者数

2020 年度目標値：累計 339 名



雑木林ボランティア講座は、2017 年度で 13 年目となりました。修了者は、累計 296 人に達しました。

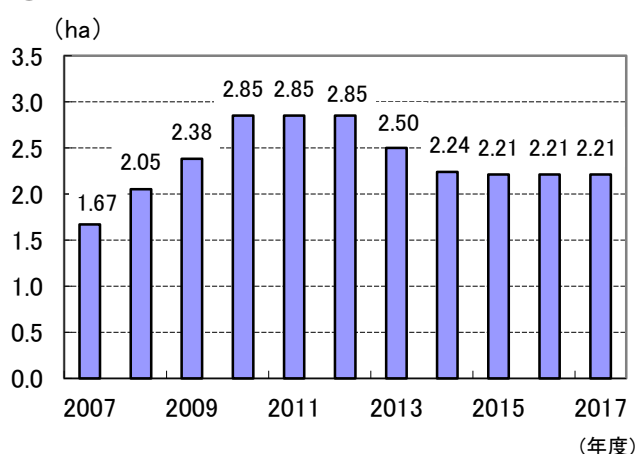
2017 年度の修了者のうち、8 名が継続して雑木林に関するボランティア活動に参加しています。

2-2 農地の保全と活用

(1) 農のある風景の保全

市民農園等の拡充

☺ 指標 9：市民農園の面積

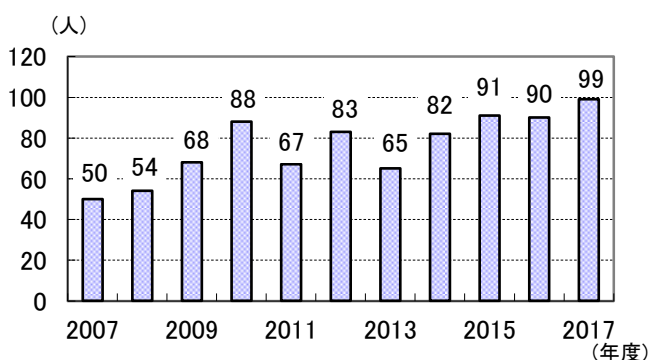


市民農園の面積は、市が開設した市民農園（11 園）の面積と農業体験農園（3 園）の合計です。面積の内訳は、市民農園 11 園 16,611 m²、農業体験農園 3 園 5,518 m²（岸野農園 1,080 m²、石坂ファームハウス 1,616 m²、コバサン農園 2,822 m²）です。

市では民営による市民農園の支援を進めていますが、民営による市民農園は 2017 年度は前年度と同じ 3 園で、市民農園の数は 14 農園です。

援農ボランティア制度の拡充

☺ 指標 10：援農人数



市民農園が農地保全になっている理由

日野市の市民農園では、宅地化農地(生産緑地ではない)を農家から借用しています。様々な理由で、自分で耕作することが困難な農地を市民農園として活用することで、農家の負担軽減・農地の保全・市民が土に親しむ場の提供を行なっています。

なお、市民農園に借用する農地は、固定資産税が免除されます。

援農ボランティア育成のため 2017 年度も「農の学校」を開設し、卒業生が援農ボランティアとして活動しています。

3. 環境の現状と取組状況の評価

(2) 地産地消による生産流通システムの確立

地元野菜に触れる機会の充実

2020 年度目標値:共同直売所:3 か所
定期即売会:3 か所
イベント会場での即売実施

指標 11: 2017 年度に実施した「市」の開催日数

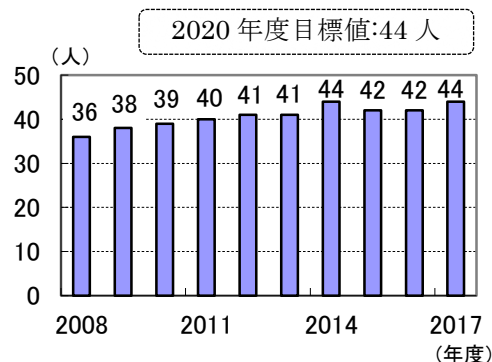
「市」の開催場所(2017 年度)	区分	開催時期	開催日数
日野農産物直売所 (10 月 26 日閉店) みなみの恵み (10 月 30 日開店)	共同直売所	通年、月～土曜 (日野農産物直売所) 通年、木～火曜 (みなみの恵み)	304
マルシェひらやま (平山農産物直売所)	共同直売所	通年、月～土曜	304
JA 七生地区農産物直売所	共同直売所	通年、月～土曜	304
日野市立七ッ塚ファーマーズセンター	共同直売所	通年、月～日曜	357
ひののやっちゃ場	共同直売所	通年、月～土曜	304
日野駅東側広場	定期即売会	通年、火・木・土曜	140
多摩平第七公園	定期即売会	通年、火・木・土曜	140
多摩平の森 ユリの木集会所	定期即売会	通年、火・木・土曜	140
日野市役所 (NP0 法人めぐみ)	定期即売会	月 2 回、第 2 木曜・第 4 木曜	24
春の野菜苗即売会 (1 か所)	定期即売会	4 月下旬	1
ひのよさこい祭	イベント即売	7 月 30 日 (日)	1
産業まつり	イベント即売	11 月 11 日 (土)・12 日 (日)	2
暮れの野菜即売会	定期即売会	12 月下旬	5
都市農業シンポジウム	イベント即売	1 月 13 日 (土)	1
合計			2,027

2017 年度の「市」は、共同直売所 5ヶ所、定期即売会 6か所、イベント即売 3回で開催されました。開催数は 2,027 回で、2013 年度以降同様の開催数を維持しています。

指標 12: 学校給食における地元野菜等利用率



指標 13: 給食野菜納品農業者数



※ 学校給食における地元野菜等利用率は、学校給食に使用する野菜等のうちの金額ベースの、地元野菜等の使用比率。

学校給食における 2017 年度の地元野菜等利用率は、前年度の 25.6%と比較して 1.6 ポイント増加して 27.2%となりました。

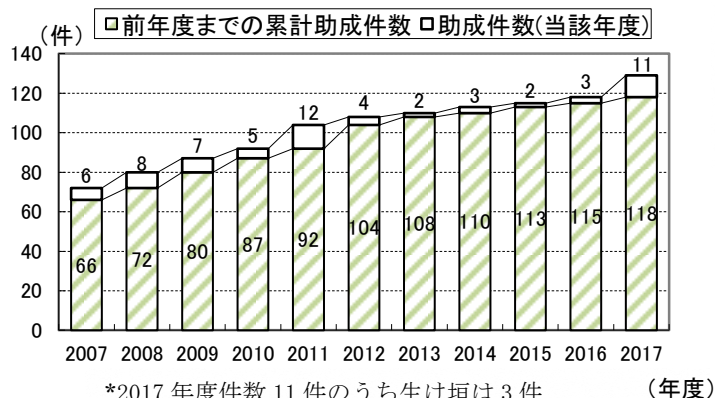
2017 年度の給食野菜納品農業者数は、前年度より 2 人増加して 44 人でした。

2-3 まちなかのみどりの創出・保全

(1) 民有地等の緑化

生け垣緑化の促進

◇ 指標 14：生け垣の助成件数*



日野市では、住宅地を安全、快適で緑豊かな生活環境にする目的で、生け垣設置の費用を補助してきました。

2017 年度からは新しく「日野市ウェルカムツリー等植栽補助制度」となり、11 件（生け垣 3 件、ウェルカムツリー 8 件）の補助を行いました。

ウェルカムツリーとは

日野市へ転入された方やお子さんを出産された方、家屋（戸建住宅・マンション等）を新築された方や事業所等を新築された方等が記念として植栽した樹木をいいます。

3.<市民コメント>

森林の割合と緑被率、農地面積といった、「みどり」そのものの絶対面積は、減少しています。一方、民有緑地の公有地化の面積、雑木林ボランティア講座修了数、援農ボランティアの人数、学校給食における地元野菜利用率、生け垣の助成件数といった指標の数値は増加傾向にあります。これは、みどりへの関心が少しずつですが、浸透してきたことがあるのかもしれません。みどりが少しずつ減っていくことから、身近なみどりへの危機感や、みどりへの郷愁が強くなってきたからという見方もできます。

人々のみどりへの関心が本当に高まっているとしたら、それにもかかわらず、守るべきみどりの減少を食い止めることに結びついていないことが問題であり、これをきちんと連動させる仕組みが必要と感じます。これからは、この人々の思いをみどりの保全に結びつける実効性のある方策を積み上げていくことが必要です。みどりの問題は、所有者や管理者が多様で、私有地であることも多く、市民の思いだけでは何ともできない難しい面を持っていて、これをどうクリアするかが問われています。

一方、まだまだ取り組みが足りないと考えられるのは、市民緑地活動への積極的支援として緑のトラストへの寄付件数です。これは、市民の思いをみどりの保全に結びつけることのできる貴重な方法と言えます。しかし、そもそも「ひの緑のトラスト」とは何か、そのような取り組みの存在すら知らない市民がまだまだ多いのではないのでしょうか。このような取り組みをまず知ってもらうための PR が不足していると感じます。今は、日野市の広報だけでなく、様々な情報媒体が存在し、情報を拡散することが可能です。

時代の流れには逆らえず、高齢化の波、人口減少、子育て支援へのニーズの高まりという新しい時代の流れが押し寄せてくる今、時代の変化に合致したみどりの活用や保全があるはずです。従来のような土地の使い方では、負の遺産が増えるばかりではないかと危惧します。後世に残すべきまちの姿について、市民ひとりひとりがもっと責任を持って考えるべきだと思います。一度無くしたら元に戻らないみどりの土地をどう残すか。まずは市のあらゆる人々に考えてもらうこと、知った人々がみどりを残すために力を出すことのできる仕組みを考えることが、これからの課題だと言えます。

水分野

< 目 標 > 水文化を伝えるまち

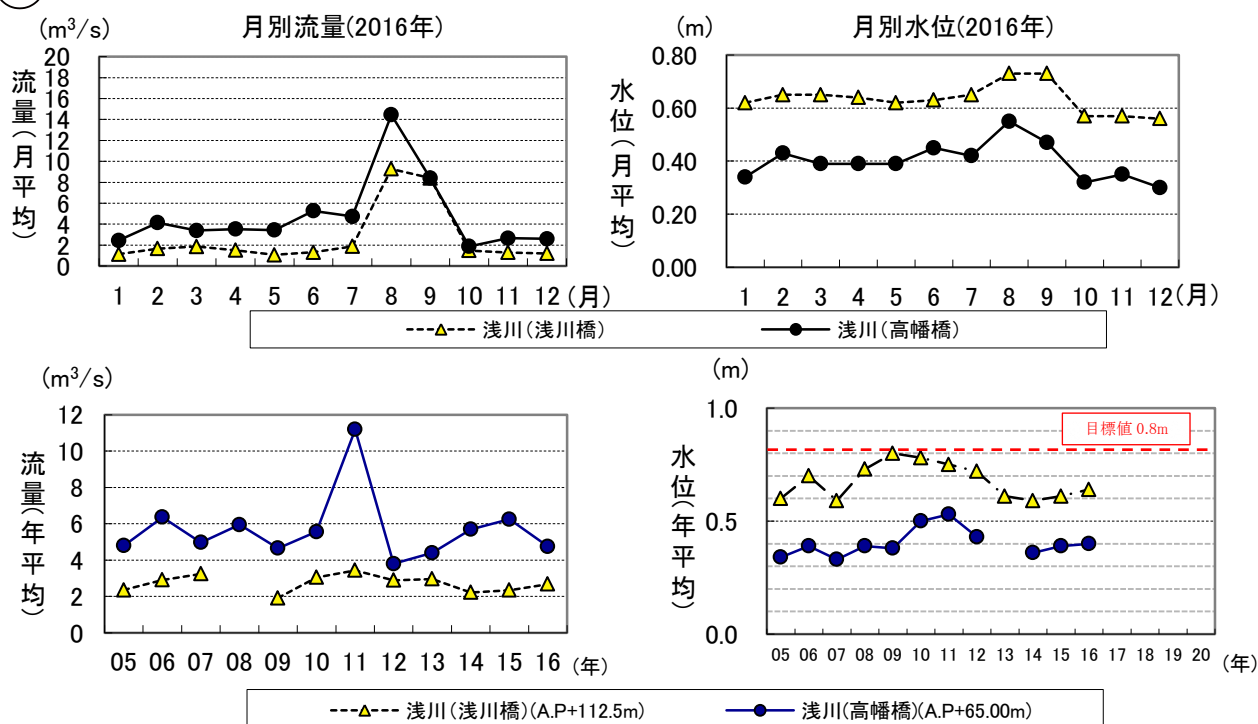
1. <環境の現状>

1-1 浅川の水位

目標値: 年平均 0.8m

(2020(平成 32)年度)

指標 15 : 浅川の平均河川水量・水位



浅川橋の2016年の月平均流量は、8月に最大値(9.28 m^3/s)、5月に最小値(1.08 m^3/s)、年平均流量は2.68 m^3/s となりました。月平均水位は、0.56m(12月)から0.73m(8月、9月)の間で変動し、年平均は0.64mとなりました。

高幡橋の2016年の月平均流量は、8月に最大値(14.5 m^3/s)、10月に最小値(1.89 m^3/s)が観測され、年平均流量は4.75 m^3/s となりました。月平均水位は0.32m(10月)から0.55m(8月)の間で変動し、年平均は0.40mとなりました。

2016年は8月後半に台風や前線の影響でくもりや雨の日が多くなりました。8月20日は台風11号の影響で大雨となり、22日には台風9号が関東地方に上陸し175.5mmの大雨となりました。また9月20日には台風16号の影響で74mmの大雨となりました。気象庁八王子観測地点における8月の降水量は412mmに達しました。そのため8月に高幡橋では流量と水位の最大値がそれぞれ観測されました。9月の降水量も275mmと多く、浅川橋で水位と流量の最大値がそれぞれ観測されました。

(参考) 浅川の流量測定結果 (2016 年度および 2017 年度)

○ 市民連携流況調査 (京浜河川事務所、八王子市、日野市、市民)

多摩川水流実態解明プロジェクトの一環として浅川の流量測定が行われた。

日時 2016 年 2 月 16 日 午前

場所 一番橋下流

方法 2m ごとに水深、各中間地点で流速 (電磁流速計) をそれぞれ測定し、各区分の流量を求め、各区分の流量を合計して全流量を求めた。

測定結果: 川幅 33m 流速 0.2~0.61m/s 流量 2.3 m³/s

○ 日野市浅川流量測定 PT による測定結果

浅川の水量減少と水位低下の課題に対処するプロジェクトチーム (PT) が発足し、流量測定を実施した。PT の構成は環境共生部 (緑と清流課・環境保全課・下水道課の職員) である。

【測定日・測定場所・参加者】

第 1 回	2017 年 2 月 23 日	午前	場所	一番橋上流	約 400m	参加者	10 名
第 2 回	2017 年 5 月 23 日	午前	場所	一番橋上流	約 400m	参加者	8 名
第 3 回	2017 年 10 月 3 日	午前	場所	一番橋上流	約 400m	参加者	8 名
第 4 回	2018 年 2 月 27 日	午前	場所	一番橋上流	約 320m	参加者	6 名

【測定方法】

1m ごとに水深、各中間地点で流速をそれぞれ測定し、各区分の流量を求め、各区分の流量を合計して全流量を求めた。水深が浅く流速計が使用できない個所では浮子の 1m の流下時間より流速を求めた。

【測定結果】

測定日	川幅 (m)	水深 (cm)	流速 (m/s)	流量 (m ³ /s)
第 1 回 (2017. 2. 23)	18. 5	6. 4~22. 5	0. 14~0. 61	1. 10
第 2 回 (2017. 5. 23)	18. 6	6. 3~22. 3	0. 13~0. 65	1. 19
第 3 回 (2017. 10. 3)	24. 9	11. 0~35. 0	0. 018~0. 38	3. 90
第 4 回 (2018. 2. 27)	14. 8	1. 5~74. 3	0. 0~0. 25	0. 84

※流速の測定には、電磁流速計 TAHAYA UC-204 を使用した。

3. 環境の現状と取組状況の評価

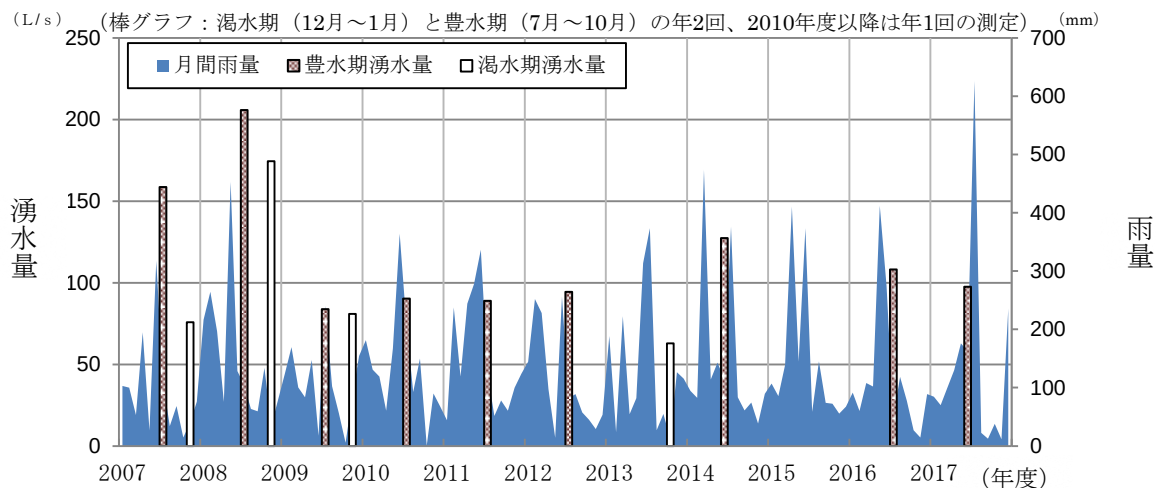
1-2 湧水確認地点数・湧水量

目標値:【地点数】179箇所

【湧水量】10,000t/日(115.74L/s)

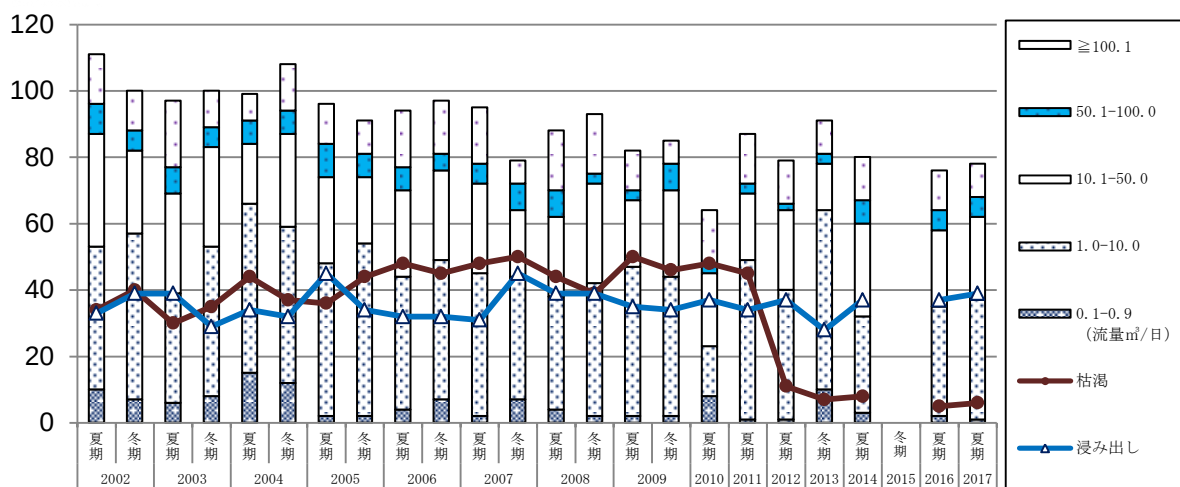
(2020(平成32)年度)

◇ 指標 16：月別雨量と調査地点の総湧水量



(参考) 湧水地点の状況

(箇所)



2017年度の日野市内全域の総湧水量調査（湧水現況調査）は2017年9月13～27日に実施されました。湧水量を調査した地点数は133地点でしたが、実際に湧水量を測定できた地点は78地点となりました。総湧水量は8,425 m³/日（97.5 L/秒）となりました。この値は湧水量調査報告書（平成30年4月）の中から七生中学校と豊田小学校の自噴水や用水とみられる地点を除外したものです。前年の総湧水量調査は2016年10～11月に実施され、総湧水量は9,340 m³/日（108.1 L/秒）であり、今回の結果は前年よりやや少なくなりました。

調査した 133 地点のなかで湧水量を測定できた地点は 78 地点で、「浸み出し・溜り」や「枯渇」などの地点は 53 地点となり、全地点の約 41%に達しました。

2017年度の降水量（気象庁八王子観測地点）は1,669mmであり、2016年度の1,422mmより多くなりました。

総湧水量の 2011 年以降の経年変化を表 1 に示します。各年度で調査時期が異なりますが、2014 年度に最も多く（10,399 m³/日）、2013 年度に最も少なくなりました（5,430 m³/日）（表 1）。湧水量に関連する降水量は、2012 年度は 2011 年度に比べ少なくなりましたが、総湧水量はやや増加していました。また 2017 年度の湧水量は 2016 年度より少なくなりましたが、降水量は多くなっていました。これらの原因として調査時期やその降水量の違いおよび調査地点の変化などが考えられます。2015 年度は 30 地点のみで調査されたため、総湧水量を算出することができませんでした。

表 1 総湧水量の経年変化（2011 年度～2017 年度）

調査年月	総湧水量（m ³ /日）	年度降水量（mm）
2011 年 7 月～8 月	7,690	1,799
2012 年 7 月～9 月	8,165	1,344
2013 年 12 月～2014 年 2 月	5,430	1,595
2014 年 9 月～11 月	10,399	1,745
2015 年 2 月	算出できず	1,733
2016 年 10 月～11 月	9,340	1,422
2017 年 9 月	8,425	1,669

2017 年度の湧水の状況を湧水量ごとに分け整理すると次のようになります（表 2）。

湧水量が 100.1 m³/日以上（1.16 L/秒以上）の地点数は 10 地点で全体の 7.6%、1.0～10 m³/日（0.01～0.12 L/秒）の地点数が最も多く、36 地点で全体の 27.5%になりました。

表 2 湧水量ごとの地点数

総湧水量（m ³ /日）		地点数	割合（%）
（m ³ /日）	L/秒		
100.1 以上	1.16 以上	10	7.6
50.1～100	0.58～1.15	6	4.6
10.1～50	0.12～0.57	25	19.1
1.0～10	0.01～0.12	36	27.5
0.1～0.9	0.001～0.01	1	0.76
測定可能な地点合計		78	59.5
浸み出し・溜り		39	29.8
枯渇		6	4.6
その他（測定不能）		8	6.1
測定不可能な地点合計		53	40.5
調査地点総計		131	100

集計から除外した地点 2

2017 年度の湧水の状況を地域別に分けて整理すると次のようになります（表 3）。

黒川清流公園など日野台地上位面（100m崖線）からの湧水地点数は 25 地点で全体（測定可能な地点）の 32.1%ですが、湧水量は全体の 57.4%を占めていました。中央図書館下など日野台地下位面（80m崖線）からの湧水地点数は 9 地点で全体の 11.5%、湧水量は全体の 38.1%になりました。一方、小沢緑地など多摩丘陵からの湧水地点数は 44 地点と最も多く、全体の 56.4%に達しましたが、湧水量は全体の 4.5%に過ぎませんでした。また多摩丘陵で湧水量を測定できなかった地点数（浸み出し、溜り、枯渇）は 31 地点になりました。多摩丘陵は開発などに伴い、湧水量に影響を受けやすい地域であると考えられます。

3. 環境の現状と取組状況の評価

表3 地域別に分けた湧水量測定可能な地点数と湧水量

	日野台地上位面（100m崖線）からの湧水	日野台地下位面（80m崖線）からの湧水	多摩丘陵からの湧水	総計
湧水量（m ³ /日）	4,834	3,211	380	8,425
湧水量（L/s）	56.0	37.2	4.40	97.6
湧水量（%）	57.4	38.1	4.5	100
湧水地点数（箇所）	25	9	44	78
湧水地点数（%）	32.1	11.5	56.4	100

環境基本計画の目標値は湧水地点数 179 箇所、湧水量 10,000 m³/日であり、2017 年度は目標値を達成することができませんでした。目標値を達成するためには湧水地点の環境を保全することが重要です。湧水量は降水量や季節により変化しますが、湧水地域の宅地化など土地利用の変化により、減少したり、枯渇することが考えられます。今後もさらに長期的な推移を見ながら湧水の保全を考える必要があります。

1-3 用水の水質

☺ 指標 17：各用水路の水質分析結果

目標値:生活環境の保全に関する環境基準 B 類型に適合
(B 類型環境基準値 BOD 3mg/L 以下)
(2020(平成 32)年度)

市内の河川・用水(調査対象)は、2016 年度まではすべて「B 類型」、2017 年度からは多摩川を除き「A 類型」に指定されていますが、目標値は、目標を設定した時点での類型指定「B 類型」の環境基準に適合することとしています。

2017 年度は、2016 年度の結果に比べやや低い値で、すべての地点で生物化学的酸素要求量(BOD)の B 類型基準値 (3mg/L 以下) を満足する良好な値で、目標値を達成していました。

※A 類型基準値は、2mg/L 以下

河川の類型指定とは

水質汚濁に係る環境基準を定める際に、水域の利用目的、水質汚濁の状況、水質汚濁源の立地状況等を考慮して、水域の類型が指定されます。この類型により適用される環境基準値が異なります。河川については 6 類型(AA、A、B、C、D、E)に分けられており、AA 類型が最もきれいな水域、E 類型が最も汚れた水域という位置づけです。

調査地点名		BOD(mg/L)		
		2015 年	2016 年	2017 年
多摩川(石田大橋付近)		2.4	1.4	<0.5
浅川(落合地内)		1.6	1.0	<0.5
用水路	日野用水下堰(東光寺市営住宅前)	1.0	0.5	0.5
	日野用水上堰(よそう森堀)	0.9	0.5	0.7
	豊田用水(豊田 2 丁目地内)	1.1	0.8	1.2
	豊田用水(堀之内緑道)	1.0	0.9	1.0
	黒川水路(黒川清流公園)	1.3	0.7	0.5
	上田用水(延命寺・日枝神社付近)	1.5	1.0	0.5
	新井用水(新井用水親水路)	1.4	0.8	0.9
	平山用水(平山東公園・ふれあい水辺)	0.9	1.1	0.8
	落川用水(落川公園)	1.3	0.9	0.9
	向島用水(向島用水親水路)	1.2	0.8	0.7
流入河川	谷地川(連光寺グランド周辺)	1.0	1.1	0.7
	根川(クリーンセンター付近)	1.7	2.1	1.2
	程久保川(程久保川ワンド)	1.8	0.9	0.8

2017 年度：多摩川・浅川・上田用水は年 1 回(2017 年 8 月)の測定値
その他の用水路等は年 4 回(2017 年 5 月、8 月、11 月、2018 年 2 月)の平均値

1.4 河川・用水・湧水の水生生物

☺ 指標 18：河川・用水・湧水の水生生物の確認状況

目標値:底生生物:90 種

魚類:15 種

付着藻類:42 種

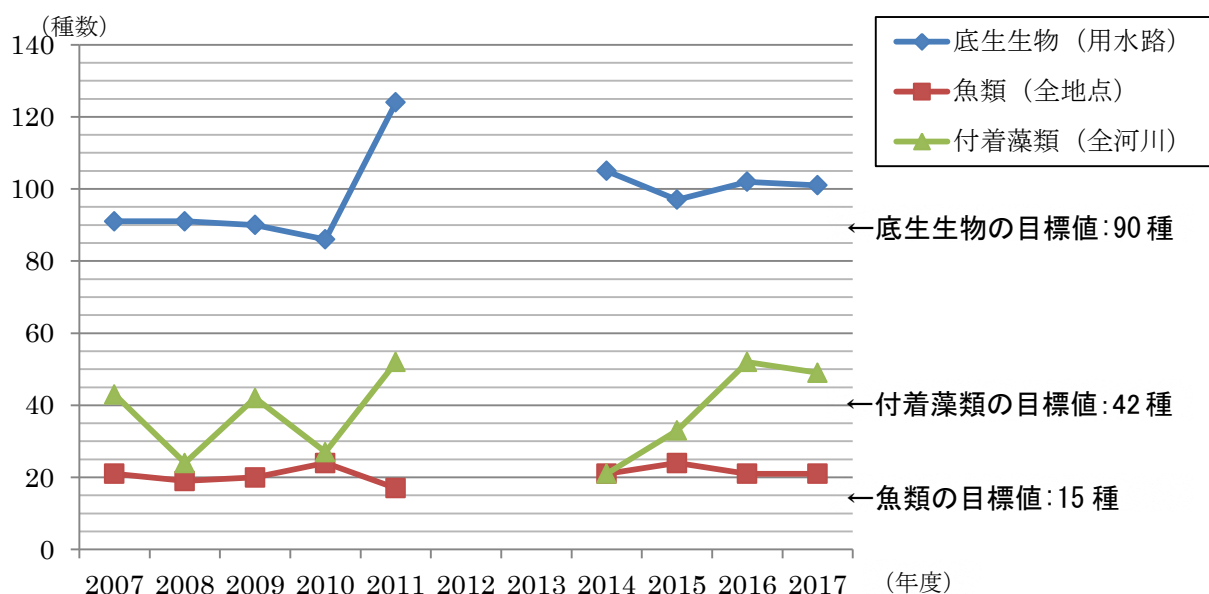
(2020(平成 32)年度)

2017 年度の調査は 2016 年度と同様に 8 月に実施されました。確認された底生生物の種数は河川で 46 種(多摩川:35 種、浅川:33 種)、用水路で 101 種、流入河川で 53 種となり、2016 年度とほぼ同じ結果となりました。魚類の種数は、河川で 10 種(多摩川 8 種、浅川 6 種)、用水路で 17 種、流入河川で 15 種、全調査地点では 2016 年度と同じ 21 種でした。確認された付着藻類の種数は 49 種であり、多摩川で 41 種、浅川で 29 種となり、2016 年度に比べ多摩川で増加し、浅川で減少しました。多摩川ではかなり増加し、その中でケイ藻類が最も多く確認されました。確認された水草の種数は用水路で 19 種、流入河川で 13 種となりました。

底生生物、魚類、付着藻類の種数の経年変化をみると、いずれも目標値に近い水準で推移しているといえます。

水生生物の確認種数

調査地点	調査年度	2016 年度				2017 年度			
		底生生物	魚類	付着藻類	水草	底生生物	魚類	付着藻類	水草
多摩川		31	42	11	12	35	52	—	—
浅川		34	6	37	52	—	—	35	46
用水路 (10 地点)		102	14	—	18	101	17	—	19
流入河川 (3 地点)		52	18	—	15	53	15	—	13
全調査地点		—	21	52	23	—	21	49	22



本調査で確認された重要種は、底生生物調査で 1 種、魚類調査では 9 種、水草調査では 4 種となりました。底生生物調査で確認された重要種はマメシジミ属の一種が用水路(6 地点)で確認されました。魚類の重要種として、「環境省レッドリスト 2017 年」で絶滅危惧 I B に指定されているムサシノジュズカケハゼが程久保川ワンドと黒川水路で確認されました。その他に「東京都レッドリスト 2013 年」に記載されているアブラハヤ、カマツカ、ニゴイ、ヒガシシマドジョウ、ミナミメダカなどが多摩川で 5 種、浅川で 3 種、用水路で 7 種、流入河川で 6 種、各々確認されました。東京都レッドリストで留意種に指定されているスジエビ

3. 環境の現状と取組状況の評価

が谷地川で、サワガニが豊田用水と黒川水路で確認されました。水草の重要種としてセキショウモ、ササバモ、マコモ、ミクリの4種が用水路や程久保川ワンドで確認されました。

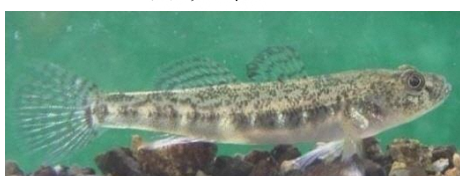
確認された外来種は、底生生物調査で7種、魚類調査で3種、水草調査で5種の合計13種でした。底生生物調査および魚類調査では、生態系被害防止外来種リストに指定されているフロリダマミズヨコエビが用水路と流入河川で、カワリヌマエビ属の一種が全地点(15地点)でそれぞれ確認されました。近年、多摩川水系ではコクチバス分布域が拡大しています。本年度の調査では確認されませんでしたが、今後も注目して監視することが必要です。水草では特定外来種であるオオフサモおよびオオカワヂシャが流入河川1地点と程久保川ワンドでともに確認されました。これらの種は近年、多摩川水系で分布を広げており、とくにオオカワヂシャは本調査で2014年度に初めて確認され、本年度まで毎年確認されています。



アブラハヤ



カマツカ



ムサシノジュズカケハゼ



ヒガシシマドジョウ

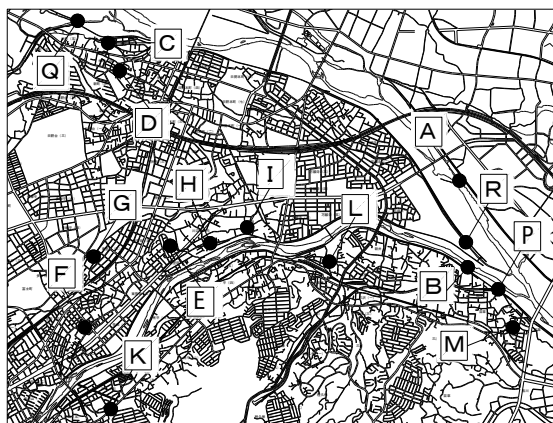
(参考) 水生生物による水質の生物学的判定

(1) 調査の概要

調査期間: 2017年8月22日から24日

調査地点: 河川(多摩川、浅川)、用水路等、流入河川を含む15地点(図AからP参照)

調査内容: 底生生物、魚類、付着藻類(河川のみ)、水草(用水路、流入河川のみ)、BOD、BOD 負荷量(用水、流入河川のみ)、DO(溶存酸素)、pH



(2) 水生生物による水質判定

水生生物による水質判定は長期間の水質変動の平均的な様相を把握することができますが、生物には環境に対する適応性があるため、指標生物と水質の関係は絶対的なものではありません。

・底生生物による水質判定

多くの地点で「きれいな水域」や「きれいな水域～わりあいきれいな水域」と判定されましたが、用水路2地点で「汚れている水域」と判定されました。

・魚類による水質判定

河川では多摩川・浅川ともに「きれいな水域」と判定されました。用水路ではほとんどの地点(8地点)で「きれいな水域」～「わりあいきれいな水域」と判定されましたが、2地点で「汚れて

いる水域」と判定されました。流入河川の3地点では「きれいな水域」～「わりあいきれいな水域」と判定されました。

今回の水生生物調査では全般的に多くの地点で水質は良好と判定されました。

(3) 理化学的水質と生物学的水質判定結果の比較

調査地点のBOD値は、ほとんどの地点で 0.5mg/L か、それ以下であり、「きれいな水域」と判定されました。生物学的水質判定による水辺の評価についても多くの地点で「わりあいきれいな水域」以上であると判定されました。BODによる理化学的水質判定結果と生物学的水質判定結果を比較すると、両者の結果は概ね一致しました。上田用水と落川用水では生物学的水質判定とに差が見られました。両地点では水の流れが遅く、きれいな水域の指標種である水生昆虫類や魚類の生息に適していない環境と考えられます。

水生生物による水質判定

分類	調査地点		2016 年度			2017 年度		
			底生生物	魚類	BOD(mg/L)*	底生生物	魚類	BOD(mg/L)*
河川	A	多摩川（日野市多摩川総合グランド付近）	A～B	A	1.4	A～B	A	<0.5
	B	浅川（クリーンセンター付近）	A～B	A	1.0	A～B	A	<0.5
用水路等		用水路						
	C	日野用水下堰（東光寺市営住宅前水路）	A～B	B	0.6	B	B	<0.5
	D	日野用水上堰（よそう森堀）	A～B	B	0.5	A～B	B	<0.5
	F	豊田用水（取付口）	B～C	A	0.7	B～C	A	0.5
	E	豊田用水（堀之内縁道）	B～C	B	1.0	B～C	B	<0.5
	G	黒川水路（黒川清流公園）	A～B	A	0.9	A～B	A	<0.5
	H	上田用水（延命寺・日枝神社付近）	B～C	C	1.4	C	C	0.5
	I	新井用水（新井用水水親水路）	B～C	A	0.9	A～B	A	0.5
	K	平山用水（平山東公園・ふれあい水辺）	B～C	A	2.0	B～C	B	<0.5
	M	落川用水（落川公園）	C	A	1.0	C	C	<0.5
	L	向島用水（向島用水親水路）	C	B	1.3	B	A	<0.5
		流入河川						
	Q	谷地川（多摩川合流点前）	C	A	1.1	B	A	<0.5
	R	根川（クリーンセンター付近）	C	C	2.5	B～C	B	0.6
	P	程久保川（程久保川ワンド）	B～C	A	1.3	B～C	A	<0.5

*BOD の値は、水生生物の調査時期である 8 月の値

水質階級：その生物がよく出現する水域 A=きれいな水域（0S） B=わりあいきれいな水域（βm）

C=汚れている水域（αm） D=とても汚れている水域（PS）

3. 環境の現状と取組状況の評価

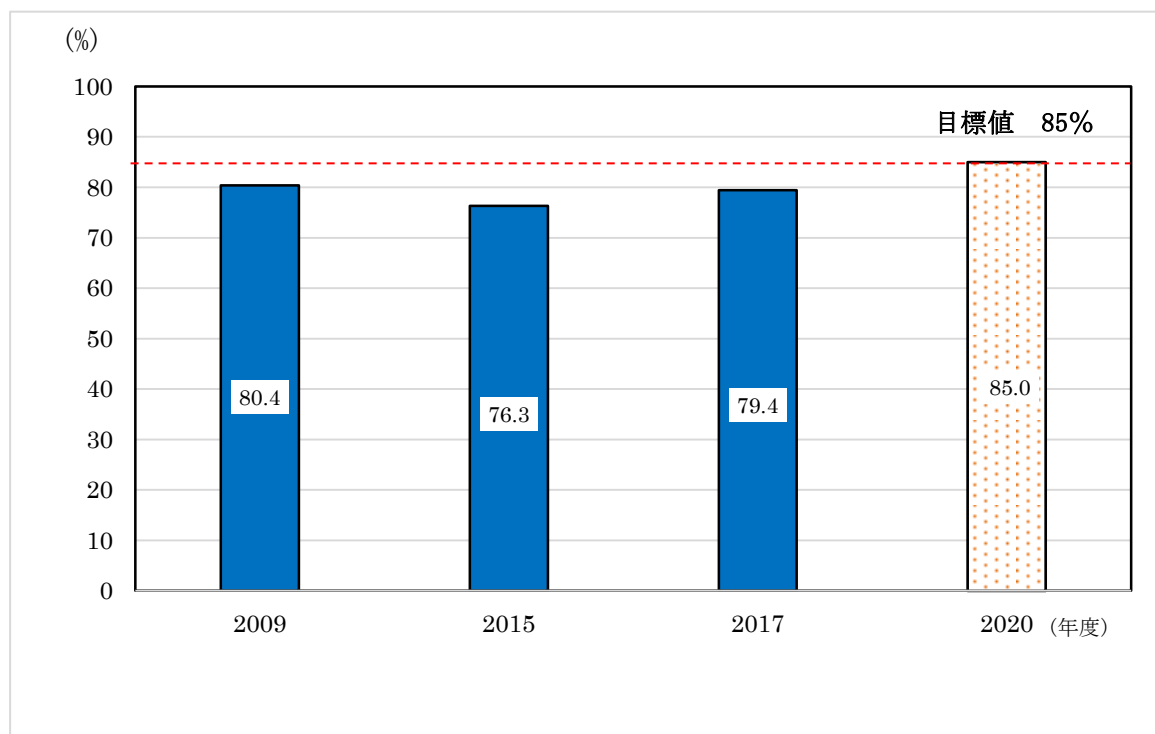
1-5 水辺に親しみやうるおいを感じる市民の割合

◇ 指標 19：水辺に親しみやうるおいを感じる市民の割合

目標値:85.0%
(2020(平成 32)年度)

2017 年度の市民意識調査での「自然環境が良い(水とみどり、農のある風景など)」という回答率は 79.4%で、2015 年度より 3.1 ポイント増加し、2020 年度目標値 85.0%に近づきました。

なお、この数値は市民意識調査の「日野市の良いところ」で最も多くの回答率を得ており、今後も様々な施策により自然環境を保全していくことが期待されます。



2.<市の取組状況>

目標	施策の方向	施策	具体的な取組	実施状況
水文化を伝えるまち	健全な水循環の構築	水循環に寄与する方策の検討	市内の水収支の実態や、重要箇所における降水量と湧水量の関係、湧水周辺の生態系などを調査する。調査結果をもとに、地下水かん養、水辺の環境保全から水利用、治水までを含めた水循環に寄与する方策を検討する。	湧水量及び地下水位計測調査を継続実施(年4回⇒12回へ調査回数増)。(緑と清流課) → 指標 16(P.22) プロジェクトチームにより浅川の流量測定を実施。(環境共生部)
		用水の保全・活用	(仮)用水路改修・補修計画の策定	用水カルテに基づき、東京都小規模土地改良事業を活用し5か年計画で改修を進めている。 日野用水開削 450 周年記念事業として、栄町地区に農業だけでなく生態系にも配慮した水路整備を実施。(緑と清流課)
		湧水・地下水の保全	地下水揚水量の把握	法令に基づく揚水量の報告を徹底し、急激な揚水量の増加による地下水位の低下や湧水の枯渇、地盤沈下等が起こらないよう監視する。
	雨水浸透・貯留利用の推進	雨水浸透・貯留施設の設置促進	家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置を呼びかけるとともに、補助金の交付を推進する。また、公共施設でも積極的に雨水浸透・貯留利用を推進する。	2017 年度は地下水揚水量が大幅に減少した。原因としては、東京都水道局が施設更新のため揚水を停止していたことによる。2018 年度より揚水を再開することにより、揚水量が増加する予定である。今後も揚水量変化を注視していきたい。(環境保全課) → 指標 20(P.30)
		雨水浸透・貯留施設の設置促進	家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置促進	新築・増改築の雨水処理方法の相談時に水循環や雨水浸透施設の地下水涵養へ与える影響など、本事業の大切さを伝える指導を行った。(緑と清流課) → 指標 21(P.30)
	水質の保全	水質の実態把握	水質調査・生物調査の実施	用水、河川、湧水、地下水の水質調査や、用水、河川の生物調査を実施し、水質や生態系の状態を継続的に把握する。
		水質汚濁の防止	生活排水及び汚水処理の施設整備	身近な水辺の一斉調査を実施。(緑と清流課) 用水等の水質調査・水生生物調査を実施(環境保全課) → 指標 17,18(P. 24~26)
	協働による水辺の保全・活用	流域連携による活動の推進	汚水管の整備や下水道接続の促進(戸別指導、工事費用融資あつせん)、下流部の汚濁状況の情報提供などを実施する。	供用開始後の公共下水道未切替え世帯に対し、水洗化を要請した結果 24 件の切替えが行なわれた。これに伴う利子補給の融資あつせんを 1 名に対して実施した。(下水道課) → 指標 22(P.32)
		水辺に親しむ活動の推進	流域連携による水源かん養の活動や、水辺づくりなどを通じた啓発活動を推進する。	日野市・八王子市の浅川流域連携事業で小学生を対象に多摩川の干潟観察を実施。(緑と清流課)
		水辺の保全・管理活動の推進	用水やビオトープをはじめとする水辺に親しめる場や機会を創出するとともに、水辺の楽しさや大切さなどを伝えることのできる指導者の確保に努める。	水辺の楽校の活動に協力。 水辺 50 選ガイドツアーを実施(案内人は「みずとくらす・ひの」のメンバー)。(緑と清流課) → 指標 23(P.32)
			用水守制度を充実するとともに、地域や学校、用水守等が用水組合や農業者の用水管理活動を支援するための新たな活動を進める。また、清掃や草刈りなど、河川敷の美化・保全活動を行っている団体や個人への支援を行う。	用水守によって、継続的な清掃活動が行われた。(緑と清流課) → 指標 24(P.33) 程久保川を考える会による「程久保川クリーンデー」へも積極的に参加している。(緑と清流課) → 4. 環境への取組状況(P.96)

3. 環境の現状と取組状況の評価

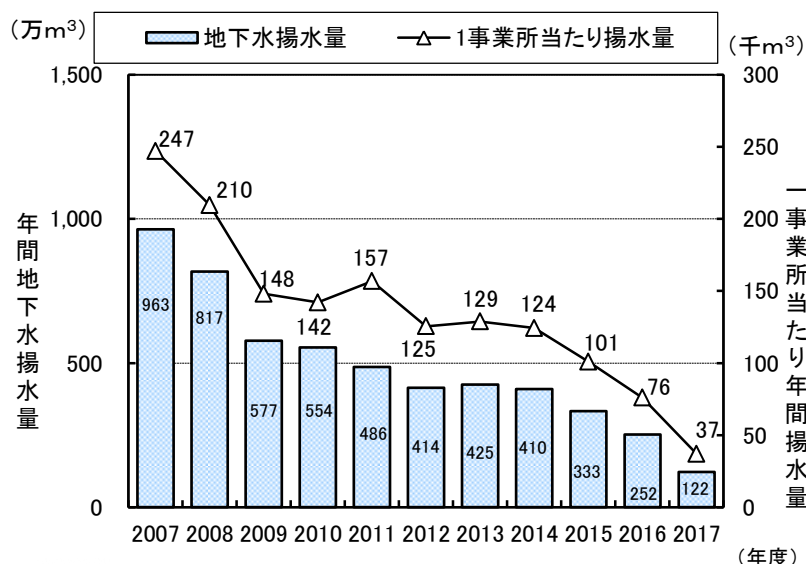
2-1 健全な水循環の構築

(1) 湧水・地下水の保全

地下水揚水量の把握



指標 20：地下水揚水量



揚水量とは

ここでいう揚水量とは、出力が300ワットを超えるモーター等で汲み上げた地下水の量のことです。

過度に地下水を汲み上げることによる空洞化が、地盤沈下の原因の一つとされています。

地下水汲み上げによる地盤沈下は、戦前から観測されており、戦争により多くの工場などが休業したため、一時的に下げ止まりをみせたものの、戦後は更に被害が大きくなりました。

このため1960年代より工業用水法やビル用水法、温泉法、環境確保条例等により規制され現在に至っています。

地下水の揚水量計測は、過度の汲み上げによる地盤沈下が起きないように、規制値を超えて汲み上げていないか監視することが目的であり、監視することで地盤沈下の進行を止めることにつながっています。

2017年度の年間地下水揚水量は122万m³となり、前年度より130万m³の減少がみられました。一事業者当たり年間揚水量約3.7万m³となり3.9万m³の減少がみられました。この揚水量の減少は、東京都水道局所管の飲用井戸が、施設更新のため揚水を停止したことによるものです。この施設は2018年度から揚水を再開する予定です。

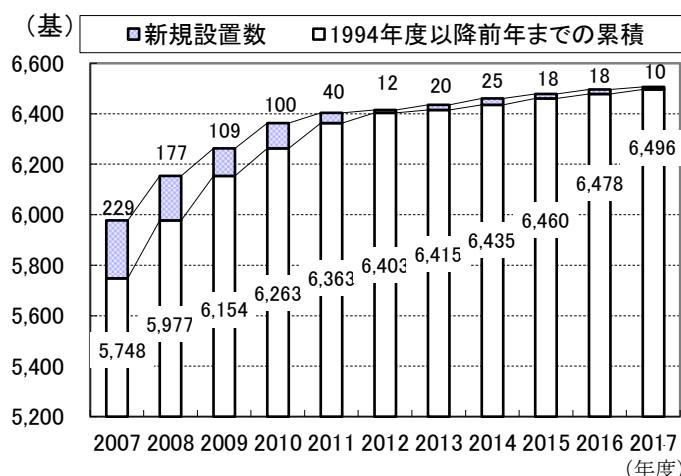
2-2 雨水浸透・貯留利用の推進

(1) 雨水浸透・貯留施設の設置促進

家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置促進



指標 21：雨水浸透ます設置個数



2017年度は10基が新規に設置されました。

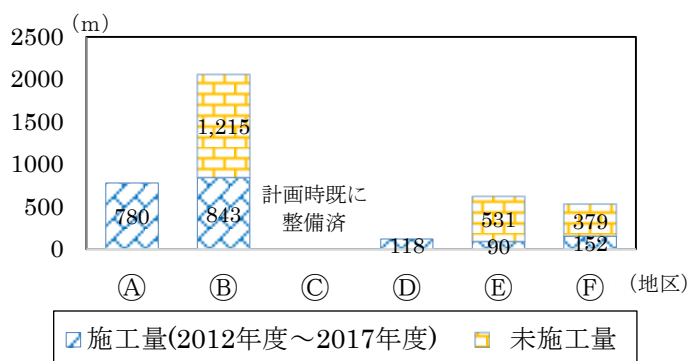
雨水浸透ますとは

雨水浸透ますは、屋根などに降った雨水を地下に浸透させるための施設です。雨水を地下に浸透させることで、雨水の分散化による河川の洪水防止等の治水対策への貢献、涵養域拡大による緑の保全と育成、湧水の回復による河川の清流復活、地下水の還元による地盤沈下防止などが期待できます。

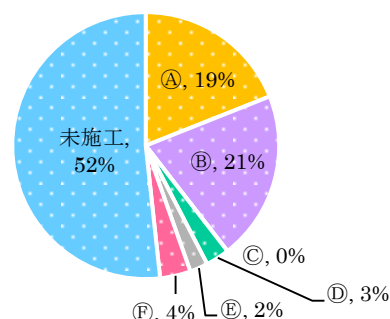
(参考) 第二次日野市交通バリアフリー特定事業計画の透水性舗装整備状況

※都道については、2016 年度までのデータを掲載

各地区の計画事業総量に対する施工量



計画事業総量に対する施工量の割合



透水性舗装とは

透水性舗装とは、舗装体を通して雨水を直接路床へ浸透させ、地中に還元する機能を持つ舗装です。

本項では、第二次日野市交通バリアフリー特定事業計画により設定された計画事業量と、実際の整備状況を示しています。

グラフ凡例:地区名 (施工量/地区計画事業総量)	路線内訳	計画事業量	施工量	実施予定期間 または実施年度
①: 日野駅周辺 (780m/780m)	幹線市道Ⅰ-20号線	100m	100m	2017 年度
	幹線市道Ⅰ-13号線	100m	100m	2014 年度
	幹線市道Ⅰ-14号線	—	施工済	整備済
	幹線市道Ⅰ-9号線	108m	108m	2016 年度
	幹線市道Ⅰ-10号線	—	0m	未定
	市道B33号線	—	0m	未定
	都道169号線	472m	472m	2013 年度
	都道169号線	—	0m	未定
	都道41号稲城日野線(川崎街道)	—	施工済	整備済
②: 豊田駅周辺 (843m/2,058m)	幹線市道Ⅱ-44号線	173m	173m	2014 年度
	市道E103号線	295m	295m	2014 年度
	幹線市道Ⅰ-12号線	295m	295m	2014 年度
	幹線市道Ⅰ-12号線	80m	80m	2014 年度
	市管理道路	—	施工済	整備済
	駅前ロータリー(区画整理事業で整備予定)	130m	0m	2014 年度～2017 年度
	日野都市計画道路3・4・15号線	310m	0m	2016 年度～2018 年度
	日野都市計画道路3・4・15号線	185m	0m	2016 年度～2018 年度
	日野都市計画道路3・4・19号線	260m	0m	2014 年度～2017 年度
	日野都市計画道路3・4・15号線	180m	0m	2018 年度～2020 年度
	日野都市計画道路3・4・19号線	150m	0m	2014 年度～2017 年度
③: 高幡不動駅周辺 (—)	幹線市道Ⅱ-8号線	—	施工済	整備済
④: 百草園駅周辺 (118m/118m)	河川管理用通路(両側)	118m	118m	2012 年度
	幹線市道Ⅱ-62号線	—	0m	未定
	幹線市道Ⅱ-5号線	—	施工済	整備済
⑤: 南平駅周辺 (90m/621m)	都道173号線(北野街道)	231m	90m	事業中～2020 年度
	都道173号線(北野街道)	390m	0m	2012 年度～2020 年度
⑥: 平山城址公園駅周辺 (152m/531m)	都道173号線(北野街道)	291m	0m	事業中～2016 年度
	都道155号線町田・平山・八王子線 (立体交差部～交差点接続部)	88m	0m	2013 年度～2016 年度
	都道155号線町田・平山・八王子線	152m	152m	2015 年度
総 量		4,108m	1,983m	

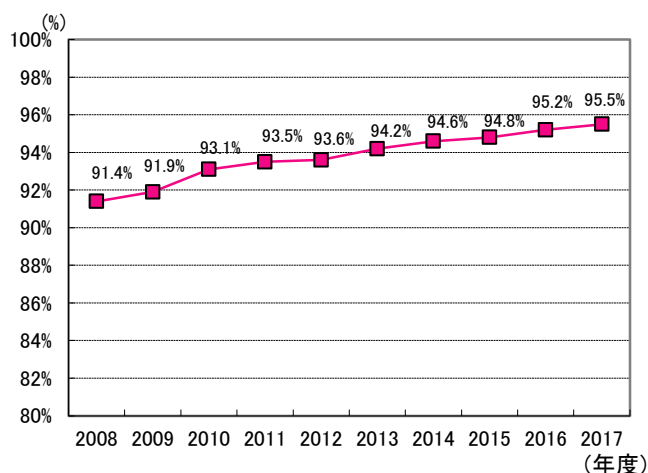
3. 環境の現状と取組状況の評価

(1) 水質汚濁の防止

2-3 水質の保全

生活排水及び汚水処理の施設整備

😊 指標 22：下水道普及率



下水道普及率は、2017 年度は 95.5% となりました。

近年の傾向として、公共下水道の未普及地域は、土地区画整理事業の街路未整備地域と重なります。

下水道普及率とは

$$\text{下水道普及率} = \frac{\text{公共下水道使用可能人口}}{\text{行政人口}}$$

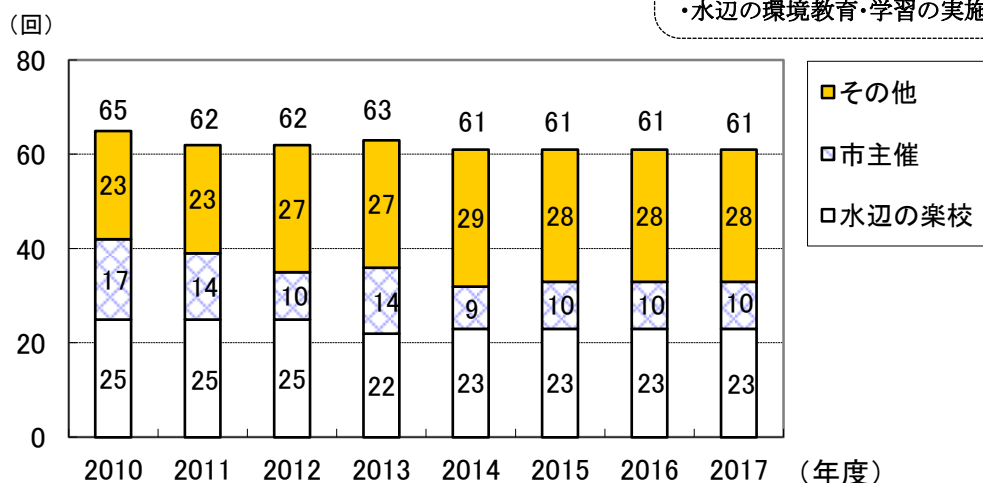
2-4 協働による水辺の保全・活用

(1) 水辺に親しむ活動の推進

😊 指標 23：水辺イベントの開催数

2020 年度目標:

- ・水辺の楽校による水辺での活動実施校 3 校
- ・水辺の環境教育・学習の実施回数 100 回



水辺のイベントに関しては、浅川潤徳と滝合両水辺の楽校の活動をはじめ、昨年度と同数の開催でした。

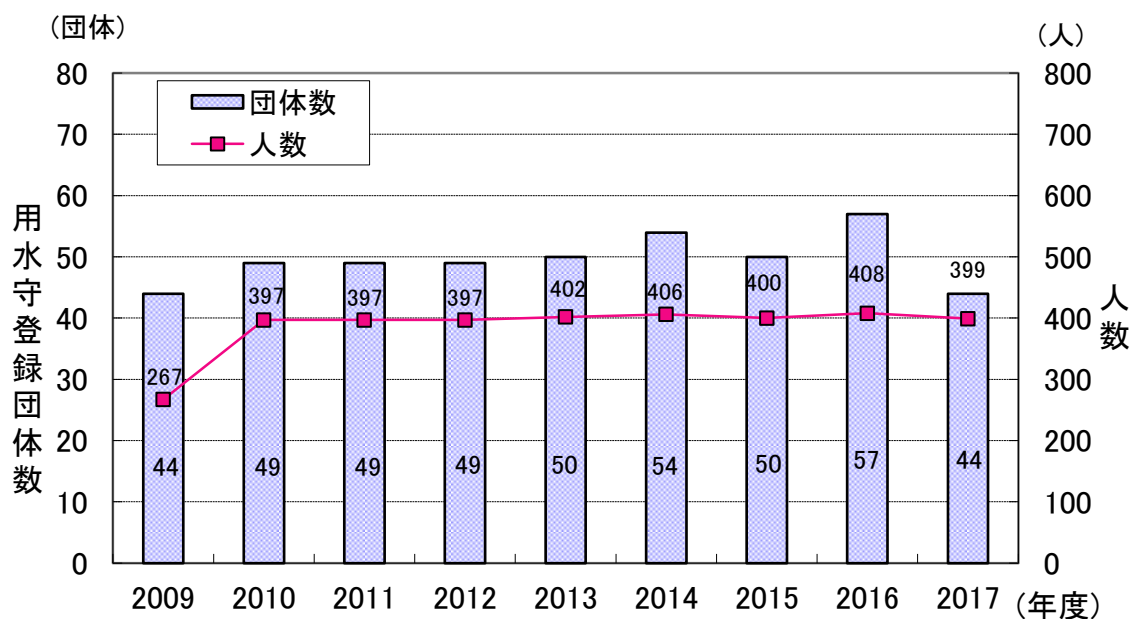
(参考) : 「ビオトープづくり」の取組件数

年度	累積件数	取組開始学校・団体
2001 以前	4	七生中、潤徳小、滝合小、日野三小
2002	4	
2003	6	仲田小、日野一小
2004	9	滝合ワンド、日野二小、南平小
2005	10	日野六小
2006	11	多摩平保育園
2007	12	平山小
2008	13	日野四小
2009	13	
2010	13	
2011	13	多摩平保育園移転に伴いビオトープも移設
2012～ 2017	13	

2012 年度以降、新規の取り組みはありませんでした。

(2) 水辺の保全・管理活動の推進

指標 24 : 「用水守」の登録団体数



用水守(ようすいもり)とは

日野市では、恵まれた水環境を次世代に伝えるため、用水路・湧水地等での清掃、草刈、緑化等のボランティア活動をしていただける方を「用水守」として登録いただき、その活動を支援しています。

2017 年度の登録団体数は 44 団体、人数は 399 名で、それぞれ前年度より減少しました。

3.<市民コメント>

1. <環境の現状>

10 年後に目指す環境の姿に対し、環境の状況を測る指標・目標を決めての現状把握であるが、収集されたデータをそのままとめ、目標値への到達程度の評価が行われているが、収集されたデータの妥当性(計測回数、計測時期、計測方法)・課題・その対応の検討があまりなされず、現状把握での PDCA 特に CA への取り組みが必要と考えます。

既に10年に及ぶ経年データがある現状、各指標の傾向から指標、目標値、データ収集(計測回数、計測時期、計測方法)を見直す必要があると考えます。

以下にその具体例を提示します。

1-1 浅川の水位

- ・ 目標値：年平均 0.8m (2009 年の値) の意味、その妥当性を再検討する必要があるように思われる。

流量(年平均)、水位(年平均)の経年変化グラフからは、浅川の水量減少、水位低下が明確でない。2008 年～2011 年は上昇期で流量は 2011 年、水位は 2009 年が最大である。渇水期の流量減少、水位低下が課題であるならば年平均の水位は目標値として意味がない。

1-2 湧水確認地点数・湧水量

- ・ 目標値:【地点数】179 箇所 【湧水量】10,000t/日(115.74L/s)の意味、その妥当性を再検討する必要があるように思われる。

平成 21 年度の値を維持することを目標としたと思われるが、湧水地域の宅地化など土地利用の変化により枯渇した湧水への対応は不可能と思わざるを得ず、総湧水量が測定可能な 78 箇所でも減少しているとはいえないことを考えると、目標値:【地点数】179 箇所は意味がない。また総湧水量は年 12 回となった湧水量および地下水位計測調査での湧水量でバックアップする必要があると思う。

1-5 水辺に親しみと潤いを感じる市民の割合

- ・ 目標値の意義、妥当性が不明確と思う。

市民意識調査での「自然環境が良い(水とみどり、農ある風景など)」と回答した市民が何故「水辺に親しみと潤いを感じる市民」となるのか。

2. <市の取組状況>

環境基本計画中間検証報告書で決めた重点施策の方向性及び重点施策及び推進方法での取組状況が把握されていない。

- ・ 下記施策は実施状況に具体的な取り組みでの内容からずれた実施項目があげられている。
 - 水循環に寄与する方策の検討
 - 用水の保全・活用 (仮)用水路改修・補修計画策定
 - 水辺の保全・管理活動の推進
- ・ 推進会議水分野重点施策進行管理シートまとめの内容が反映されていない。

ごみ分野

< 目 標 > ごみゼロのまち

1. <環境の現状>

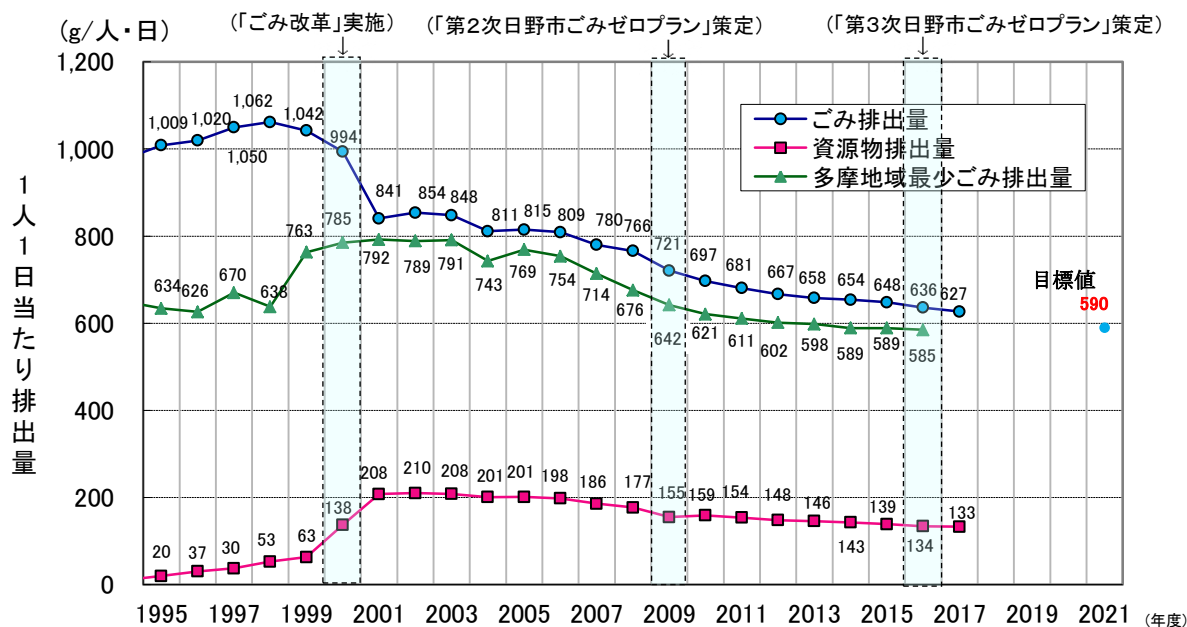
1.-1 1人1日当たりのごみ排出量

目標値: 590g

(2021(平成33)年度)



指標 25: ごみ・資源排出原単位



※多摩地域最少ごみ排出量は、本書編集時点で最新となる2016年度までの数値を掲載しています。

- ① 1人1日当たりのごみ排出量は、総ごみ量÷各年10月1日現在人口÷年間日数で算出。
- ② 総ごみ量は国や市の統計に準じて、可燃・不燃・粗大・有害・資源物の収集と持込量の合計とした。
- ③ 資源物排出量は、上記の式の総ごみ量を資源物収集量(集団回収量は除く)に置き換えて算出した。

2017年度の1人1日当たりのごみ排出量は前年度より9g減少し、627gとなりました。また、1人1日当たりの資源物排出量は1g減少し、133gとなりました。

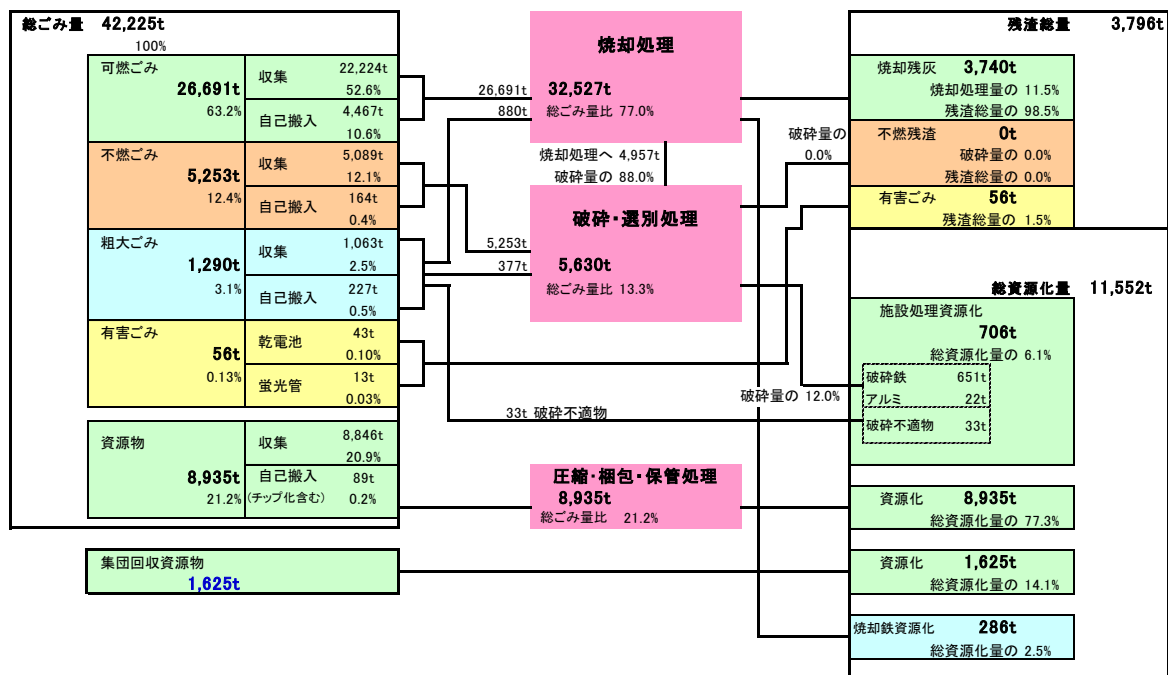
ごみ排出量は年々減量し、目標値に近づいています。

3. 環境の現状と取組状況の評価

(参考) ごみの行方

ごみ量及び処理状況

3 月 (平成29年度) まで



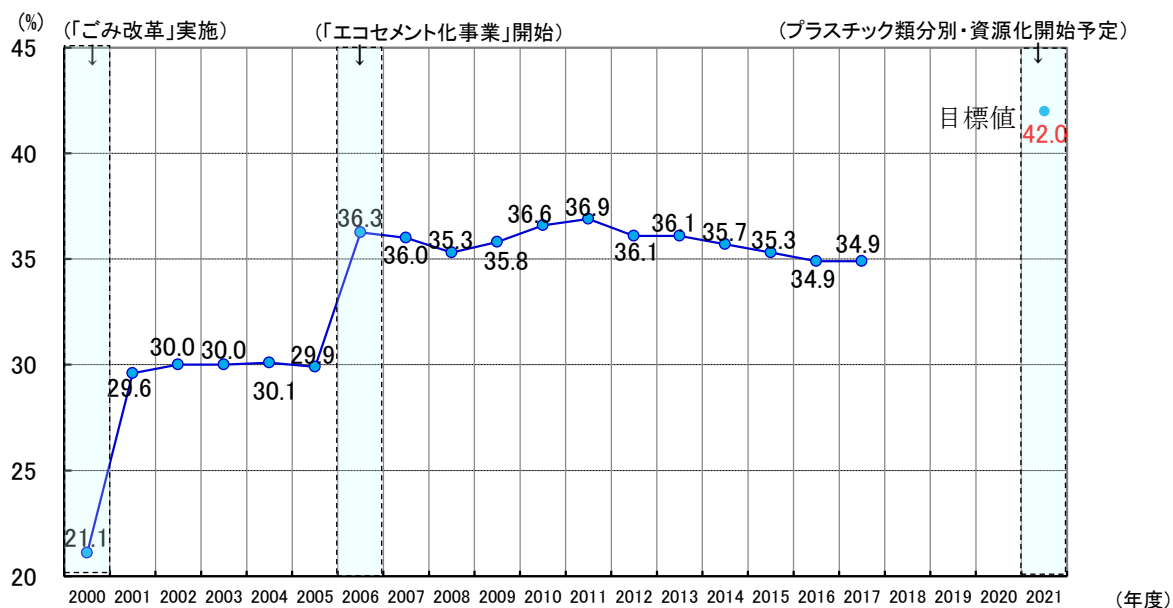
1.-2 資源化率



指標 26 : 資源化率

目標値: 42%

(2021(平成 33) 年



2017 年度の資源化率は前年度と同じ 34.9%でした。2000 年 10 月のごみ改革及び2006 年 7 月より開始された焼却灰のエコセメント化事業等により、資源化率は、13.8%だった第 1 次環境基本計画の策定時（1999 年）に比べ大幅に向上し、2006年度以降は 36%前後で推移していましたが、近年若干の減少傾向になっています。

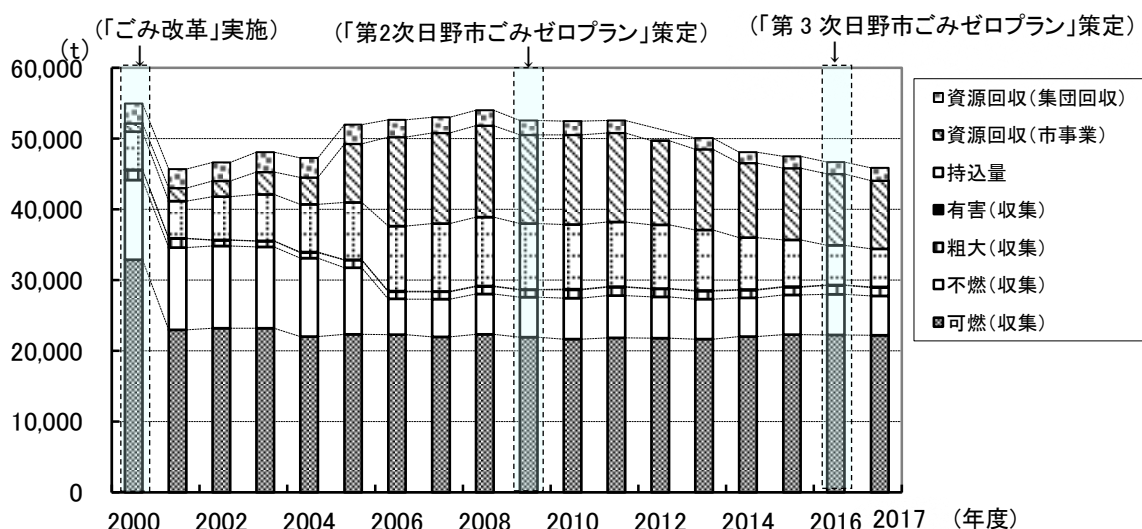
2020 年度から開始するプラスチック類の分別・資源化の取り組みにより、目標達成を目指しています。

$$\text{資源化率} = \frac{(\text{資源ごみ量} + \text{施設処理資源化量} + \text{エコセメント化量} + \text{その他資源化量} + \text{集団回収量})}{(\text{総ごみ量} + \text{集団回収量})}$$

※エコセメントについては、2006 年度データより計上しています。

（参考）ごみ量内訳

毎年人口が増えている中、ごみ量は横ばいの状況が続いており、市民 1 人 1 日当りのごみ排出量は減少傾向が続いています。市民一人ひとりの努力によるものと考えられます。



3. 環境の現状と取組状況の評価

2. <市の取組状況>

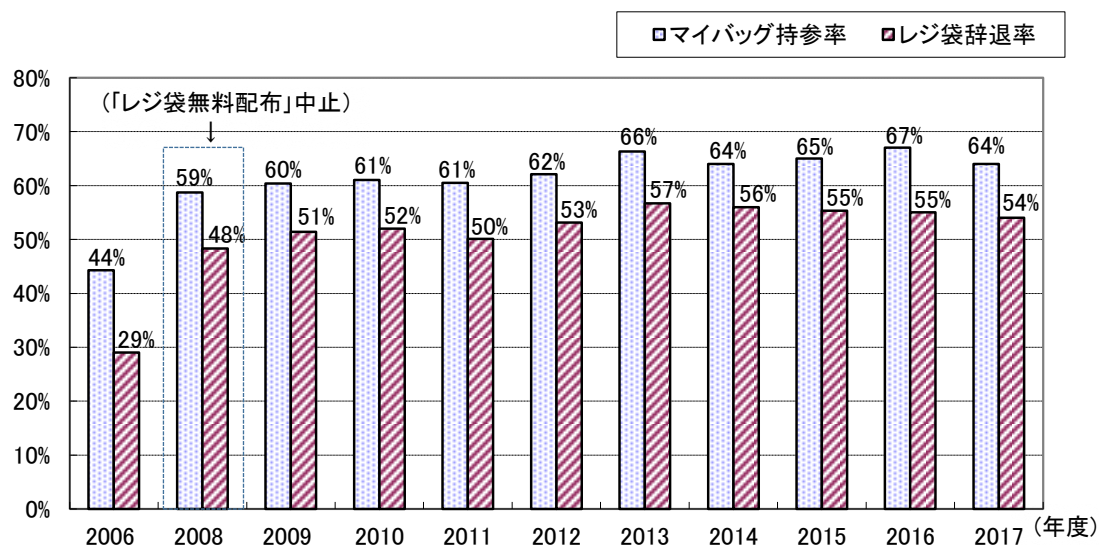
目標	施策の方向	施策		具体的な取組	実施状況
ごみゼロのまち	ごみ排出量の低減	リフューズ（発生回避）の促進	レジ袋無料配布中止の拡大	一部スーパー等で実施しているレジ袋無料配布中止を市内全域に拡大するために、3者（市民、事業者、市）によるレジ袋無料配布中止に向けた共同会議を継続して進めていく。	市民・事業者・行政の3者によるレジ袋無料配布中止に向けた共同会議を年4回（4/27、7/27、10/26、1/25）開催。海洋汚染、海外事例等も議題に上げ、オリンピック開催に向けた東京都の動きや国の動向を見守りながら、レジ袋無料配布中止に向けた取り組みを検討していく。（ごみゼロ推進課） →指標 27(P.39)
		リターン（回収ボックスのある店頭への返却）の促進	容器包装お返し大作戦の展開	容器包装の店頭回収を促進するため、回収を実施している販売店の情報提供、販売店への協力依頼等を実施する。	広報・ごみ情報誌（エコー・ごみ分別カレンダー）で定期的に情報を提供。 スーパー事業者に対し店頭回収量の調査を実施し、集計結果を基に店頭回収品目拡大に向けて引き続き取り組んでいく。（ごみゼロ推進課） →指標 28(P.39)
	リサイクルの推進	資源物回収の推進	分別ルールの徹底	プラスチック製容器包装や古紙類・繊維類、びん・缶類をごみとして排出しないよう、分別方法を周知・徹底する。それにより、不燃ごみの減量化も促進する。	ごみ情報誌エコー、ごみ分別カレンダー、市広報などを活用し、ごみの分別徹底についての啓発を実施 ごみ分別アプリを導入し、分別辞典や排出方法などが簡単に検索できるように実施した。（ごみゼロ推進課） →指標 29(P.40)
		生ごみリサイクルの推進	生ごみや剪定枝の地域内循環の拡大	生ごみや落ち葉、剪定枝を堆肥化して利用する地域内循環を拡大する。	地域内循環を進めていくためには、堆肥化する土地（施設）、回収に協力できる団体等、排出に協力できる地域が一体となって実施していかなければならない。 生ごみ回収に協力できる団体は新たに増えていないが、新たな生ごみリサイクルの情報発信・啓発拠点となる場所が2か所加わった。生ごみ堆肥化の体験やダンボールコンポストの情報発信拠点として活用し、生ごみリサイクルの輪が地域の人々に広がるよう推進していく。（ごみゼロ推進課）
			生ごみの家庭内循環（自家処理）の普及促進	生ごみの減量化と堆肥化を促進するために、コンポスト容器購入補助や生ごみリサイクルステッカーの配布を実施する。	ダンボールコンポストの普及促進のため、ダンボールコンポスト講習会やイベントでの啓発活動を13回実施した。 参加者数・来場者合計 488 名。申込者数は、ダンボールコンポスト 40 基、竹パウダー12 基、生ごみリサイクルステッカー配布 32 名（ごみゼロ推進課） →指標 30,31(P.41,42)
	市民・事業者への啓発	市民の意識向上・行動促進	情報提供ツールの充実	ごみ回避・発生抑制に重点をおいて、市民がすべきことを広報や HP、市民団体主催の講座等で啓発するとともに、携帯電話サービスの活用など、新たな情報提供方策を検討する。また、市民・市民団体と連携し、各種キャンペーンを実施する。	ごみ情報誌エコーやごみ分別カレンダーで市民のページを設け、ごみ減量推進市民会議や生ごみリサイクルサポーターなどと連携し、ごみ分別や資源化についての啓発を行った。 携帯電話（スマートフォン）やタブレットなどで利用できるごみ分別アプリの利用促進を図るため、イベント等でPRを実施した。産業まつりでは、「マイバッグ持参の取り組みを推進するため、「オンラインワンマイバッグ」の制作を参加者に呼びかけ、マイバッグ持参の取り組みを啓発した。（ごみゼロ推進課） →指標 32～34(P.42,43)
	協働によるごみゼロの実現	コミュニティ単位での取組	新聞紙の民間回収への移行	関係機関との調整のもと、新聞紙の分別収集を販売店回収、集団回収へと移行し、地域の取組のひとつとして位置づける。	回収を行っている販売店に対し、行政回収日と重複した回収を避けていただくように案内を発送した。（ごみゼロ推進課） →指標 35(P.43)

2. -1 ごみ排出量の低減

(1) リフューズ（発生回避）の促進

レジ袋無料配布中止の拡大

😊 指標 27：マイバッグ持参率・レジ袋辞退率

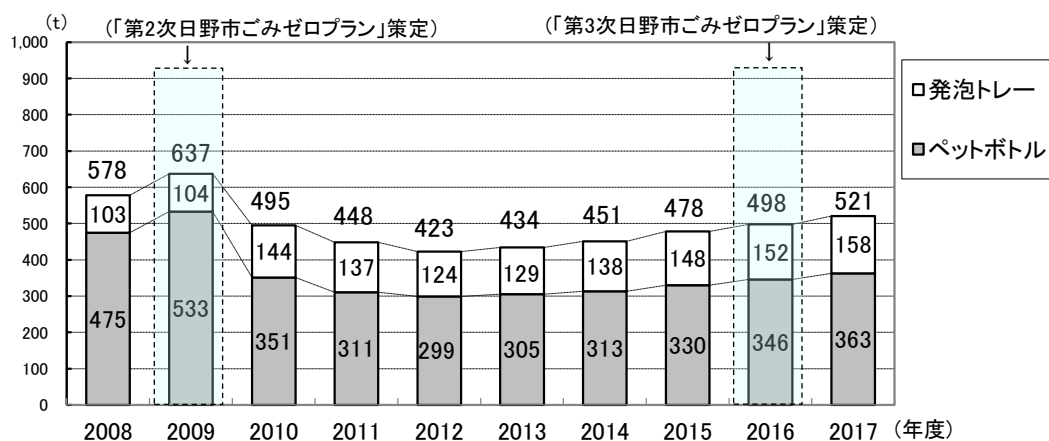


2017年度は、マイバッグ持参率が64%、レジ袋辞退率は54%であり、ここ数年はほぼ横ばいの状況が続いています。引き続き市民の皆様と協働してマイバッグ運動を展開するとともに、オリンピック・パラリンピック開催を契機とした、東京都のレジ袋削減の取り組みにも期待されるところです。

(2) リターン（回収ボックスのある店頭への返却）の促進

容器包装お返し大作戦の展開

◇ 指標 28：ペットボトル、発泡トレーの行政回収量



3. 環境の現状と取組状況の評価

容器包装お返し大作戦と銘打った民間回収啓発を促進し、行政回収の減量に取り組んでいます。2017年度の行政回収量は521t となりました。2012年度以降は増加傾向が見られ、2017年度も前年度から23t の増加となりましたが、第2次日野市ごみゼロプラン策定以降は低い水準を保っています。

なお、近年はペットボトル製品の増加や惣菜等の購入率の増加など、生活の利便性向上に伴うごみ量の変化がうかがえます。

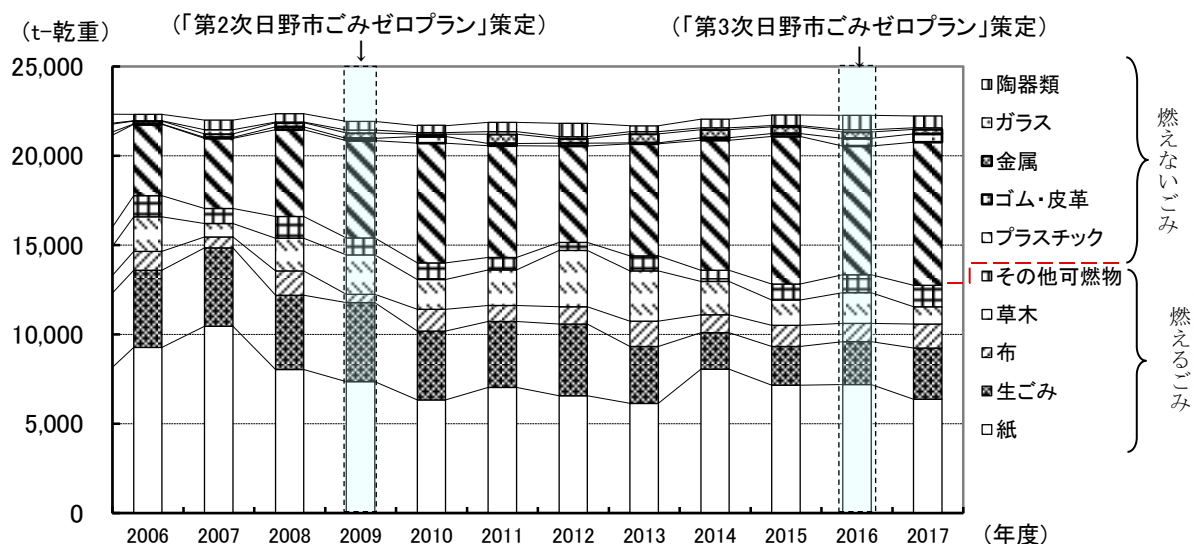
2. -2 リサイクルの促進

(1) 資源物回収の推進

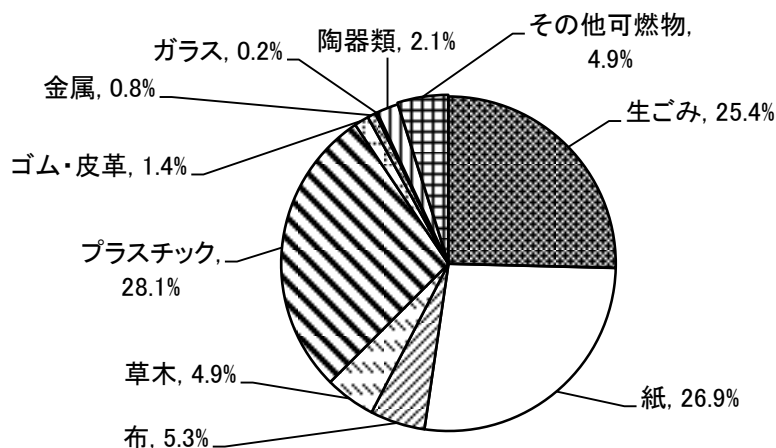
分別ルール徹底



指標 29：焼却ごみの組成



(参考) 焼却ごみの組成割合 (2017 年度分析結果・湿ベース)



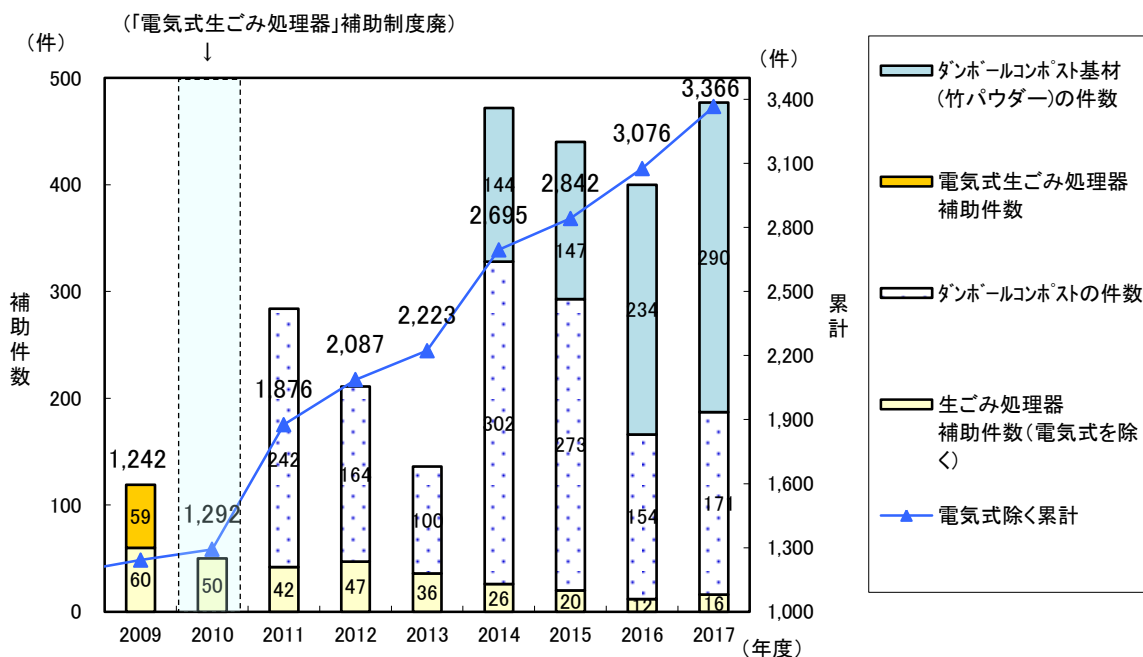
(2) 生ごみリサイクルの促進

生ごみの家庭内循環（自家処理）の普及促進



指標 30：生ごみ処理器補助の件数

2021 年度目標値:生ごみ処理器補助の件数
(電気式除く):累計 4,000 件



2016 年度に制定した第 3 次ごみゼロプランでは、2009 年度まで実施していた電気式生ごみ処理機を除いた生ごみ処理器補助件数を、2021 年までに 4,000 件に、さらに 5 年後の 2026 年までに 8,000 件に増やすことを目標にしました。

2014 年度にダンボールコンポストの補助率引き上げに伴う自己負担の軽減を実施したことで利用者数が増加しました。さらに、2016 年度から基材の自己負担軽減を実施したことで継続利用者も増加しています。

ダンボールコンポストの新規購入者の伸び悩みへの対応については、市民サポーターとともに検討しています。

ダンボールコンポストとは

文字どおりダンボールでできており、安価で、プラスチック製品よりも環境にやさしいものです。お庭や畑のない家庭でも手軽に体験できるように、市民と協働して開発し、市内福祉施設と協力して作製しました。生ごみを混ぜ込む基材には竹から作った「竹パウダー」(竹を細かく破碎したもの)を使用したり、ダンボールに被せる虫除けカバーは、古布リサイクル品から作ったりするなど、工夫と試行錯誤を重ねた日野市オリジナル品です。

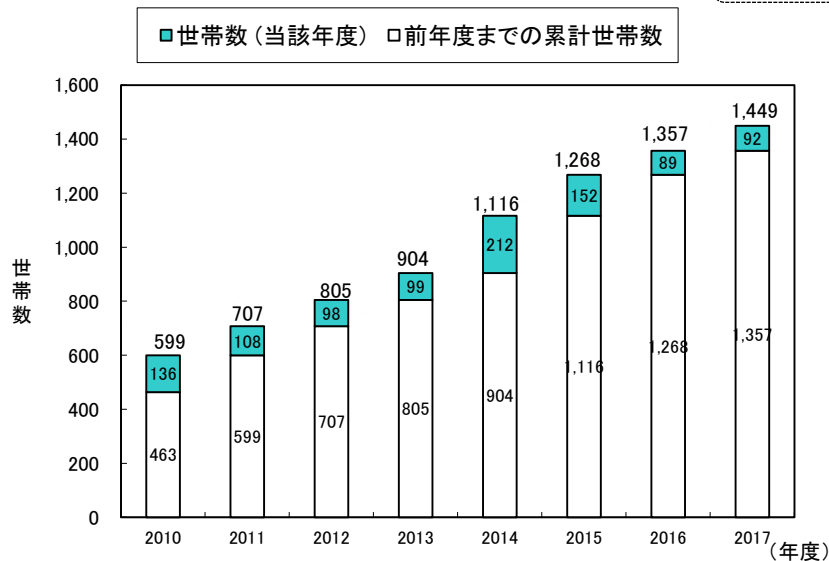


3. 環境の現状と取組状況の評価



指標 31：生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数

2020 年度目標値累計8,000 件



生ごみリサイクルステッカーとは

市では、家庭での生ごみ処理の輪が更に広がるよう、また、生ごみを可燃ごみとして出さない人が市内にどの位いるのかがわかるよう、玄関ドアなどに掲示するステッカーです。



生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数は、2017年度は前年度より92世帯増加しました。

このステッカーは、ダンボールコンポスト新規購入者に送付しています。指標30のとおりダンボールコンポスト新規購入者の伸び悩みに伴い、ステッカー掲示世帯数も伸び悩んでいるため、今後の対応を検討しています。

2. -3 市民・事業者への啓発

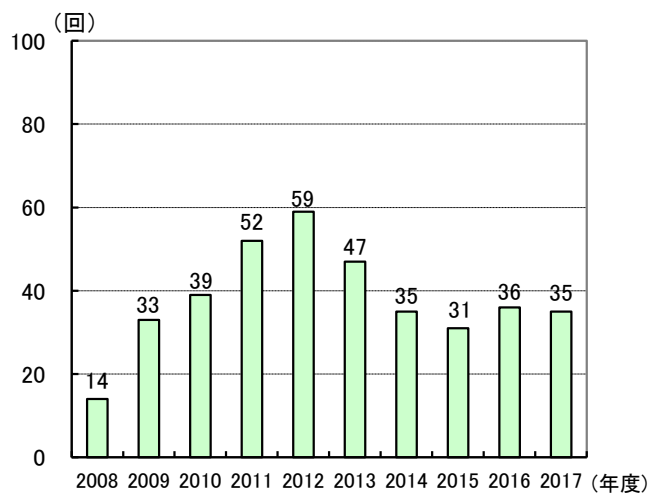
(1) 市民の意識向上・行動促進

情報提供ツールの充実

2020 年度目標値:環境学習出前講座の実施回数 60 回



指標 32：環境学習出前講座の実施回数



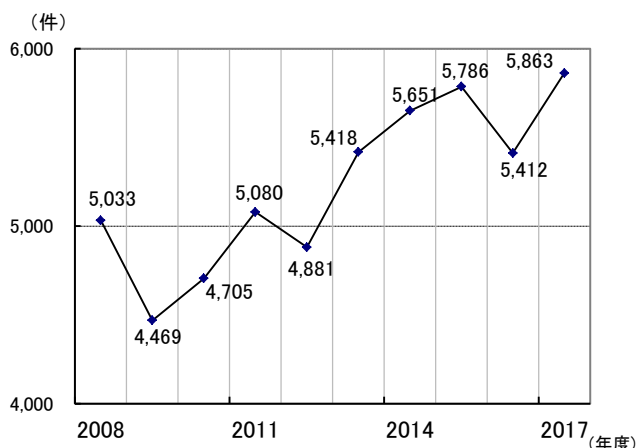
市内保育園・幼稚園・小学校からの希望を受け実施しています。

小学校については、施設見学を行なった学校に出向いて環境学習を行なっています。

子どもたちへの啓発をととして家族への啓発につながるような環境学習に取り組んでいます。

2017 年度は、前年度に比べ 1 回減少しました。

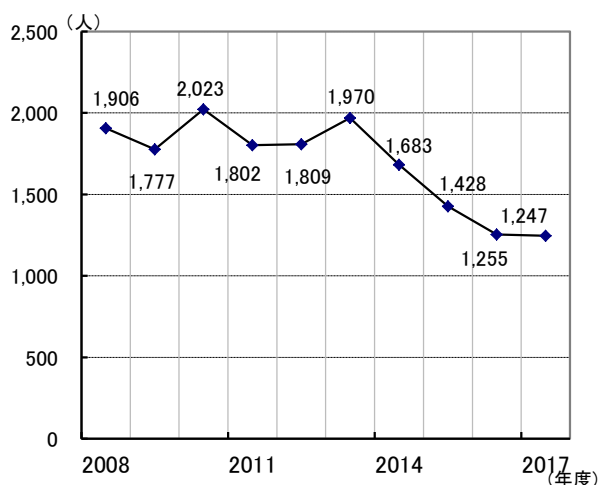
😊 指標 33：ごみ相談窓口への相談件数



ごみ相談窓口は、市役所本庁舎一階に設置しており、転入者に対するごみの排出方法などの相談、その他分別に悩むものの排出方法などの相談に応じています。

相談件数は、2017 年度は前年度より 451 件増加し 5,863 件となりました。多くの市民のごみへの関心や意識の高さがうかがえます。

◇ 指標 34：クリーンセンター見学者数



2021 年度目標値：クリーンセンター見学者数 2,000 人

2017 年度のクリーンセンター見学者数は、前年度より 8 人少ない 1,247 人でした。

2013 年度からはごみゼロ推進員を通じて自治会対象の見学会を実施してきましたが、新可燃ごみ処理施設及びプラスチック類資源化施設建設工事に伴い安全確保が難しいことから見学会は一時中断します。

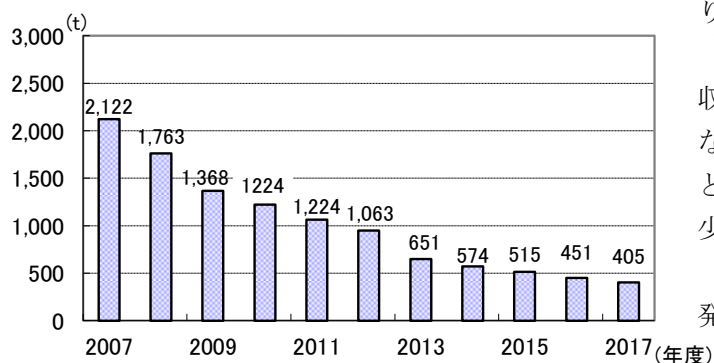
新施設建設後の見学方法については、市民が見学しやすいものとなるよう検討を進めます。

2-4 協働によるごみゼロの実現

(1) コミュニティ単位での取組

新聞紙の民間回収への移行

😊 指標 35：新聞紙の行政回収量



2017 年度の行政回収量は、前年度より 46 t 少ない 405 t でした。

行政による新聞紙の回収量は、民間回収への移行が順調に進んでいるだけでなく、インターネットの普及等を背景とした新聞購読者数の減少から、年々減少傾向となっていると推測されます。

集団回収の推奨、販売店回収への啓発等を行い、今後も減量を進めます。

3. <市民コメント>

ごみ分野では、行政と市民が「ごみ減量推進市民会議」や「ひの・まちの生ごみを考える会」(略称「まち生」)を通して協働し、以下の施策を推進しています。

■レジ袋無料配布中止の拡大

現在市内のスーパー・生協 7 店舗で実施されているレジ袋無料配布中止を市内全スーパーに拡大するため、スーパー・市民団体・行政による「レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」を定期的に開催しています。しかし、こうした地域での自主的な取り組みでは実現が難しく、東京都が 2020 年を目標に都内全域での無料配布中止の実施を目指している計画に期待しているところです。

■家庭での生ごみ自家処理の推進

「まち生」の別動隊である「生ごみリサイクルサポーター連絡会」では、家庭で手軽に生ごみの堆肥化を始められる、ダンボールコンポストを普及させるため、講習会や各種イベントでの展示・説明を実施するとともに、チラシや『生ごみ菌ちゃん通信』、『エコー』の「市民のページ」などの媒体を使ってPRを行っています。

■生ごみの地域内循環の推進

同じく「まち生」の別動隊である「まちの生ごみ活かし隊」が、新井地区の人たちとともに、約 200 世帯の生ごみを戸別回収し、「せせらぎ農園」の畑に直接投入して野菜を栽培しています。

ここは、地域の人たちの居場所や、幼稚園児などの農体験を通しての食育や環境教育の場にもなっており、各方面から注目され、市内外からの見学者が絶えません。

しかしながら、新井の農地一帯の区画整理事業準備会が発足し、早ければ来年秋には撤退しなければならない状況となっています。市に対し、持続的な利用が可能な農地の確保を要望しているところです。

■販売店への返却の促進

ペットボトルと発泡トレーの行政収集頻度を 2 週に 1 回から 4 週に 1 回に減らすことによって販売店への返却を推進してきましたが、このところ行政収集量の増加が止まらず、追加施策として、発泡トレーを含む容器包装プラスチックやペットボトルの収集有料化を導入する必要があります。

同じく行政収集頻度を 2 週に 1 回から 4 週に 1 回に減らした新聞紙の行政収集量は順調に減り続けていますが、それを加速するため、新聞販売店が回収している地区については、行政収集を停止すること（ただし、新聞販売店の回収に出せなかった家庭のために、小型家電・金属類の収集日に新聞紙も一緒に収集）が可能かどうかを、まずモデル地区を設定して実験してみることを提案したいと思います。

■リサイクルの推進

リサイクル率を高め、焼却量を減らすためには、現行のリサイクル対象品目の分別排出を徹底する一方、リサイクル対象品目の拡大が必要です。第 3 次ごみゼロプランに盛り込まれている、剪定枝のリサイクル（民間リサイクル施設を活用）への着手を急ぐとともに、生ごみ処理施設を利用した生ごみ処理についての方向性を明確にするため予備的な検討を始めることを要望したいと思います。

地球温暖化分野

＜ 目 標 ＞ 低炭素社会を築くまち

1. ＜環境の現状＞

1. -1 日野市二酸化炭素排出量

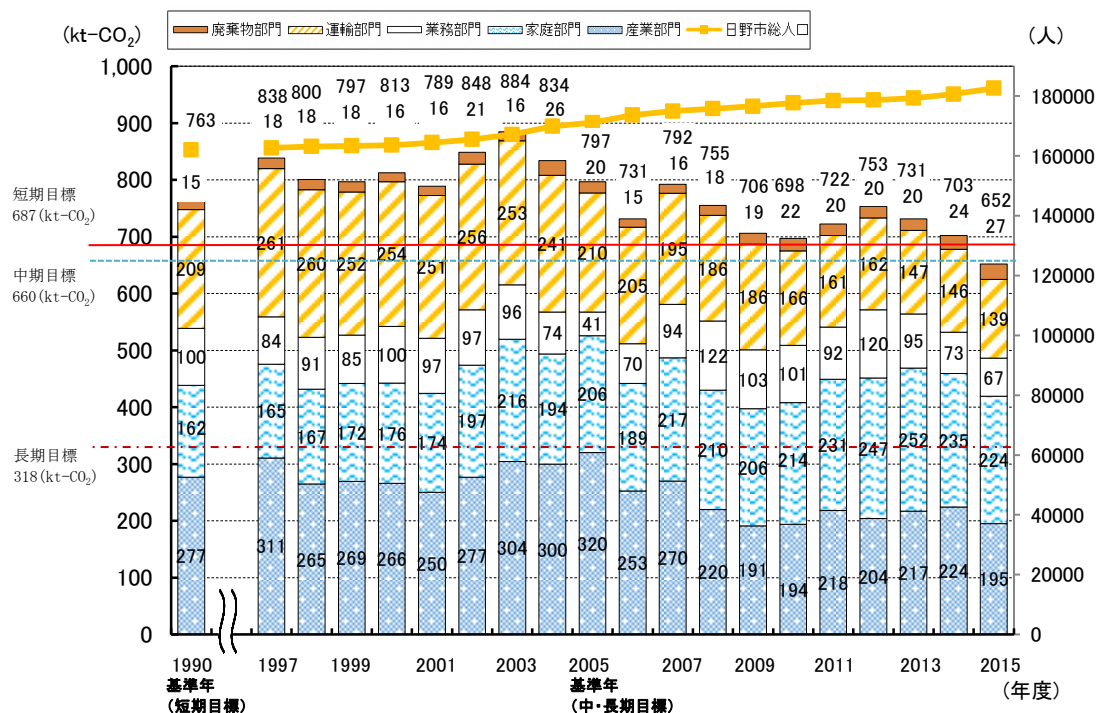
削減率

短期目標 10% (2015 年度): 基準年度 1990 年

目標値: 中期目標 17% (2020 年度): 基準年度 2005 年

長期目標 60% (2050 年度): 基準年度 2005 年

😊 指標 36 : 二酸化炭素排出量



「第3次日野市地球温暖化対策実行計画」(以下、第3次実行計画)の策定が2012年3月にされましたが、環境基本計画では目標値が設定されていませんでした。従ってここに掲げる目標値は、第3次実行計画によるものです。

二酸化炭素排出量の削減目標は、国の2050年度までに1990年度比60～80%という目標を踏まえ、設定されています。さらに、目標値は環境基本計画の目標年度に併せ2020年度の中期目標値、見直し年度である2015年度の短期目標値が設定されています。

その後、2016年度の見直しにて新たに国が示している2030年度までに2013年度比で26%削減(2005年度比25.4%削減)することが決定し長期的な目標として2050年度までに80%の削減を目標としています。

3. 環境の現状と取組状況の評価

そのため、2017 年 3 月に第 3 次実行計画を見直した際に削減目標の基準年度については、国の目標の基準年度との整合を図り 2005 年度とし、目標の見直しを行いました。

現況の二酸化炭素排出量は、オール東京 62 市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」により作成された温室効果ガス排出量算定手法の標準化区市共通版の数値を基準とされています。また、当手法では 2015 年度が最新データとなっています。この数値を使うことにより、東京都における他自治体と同一の算定条件のもとで比較もでき、有用であることから第 3 次実行計画策定以降、採用しています。

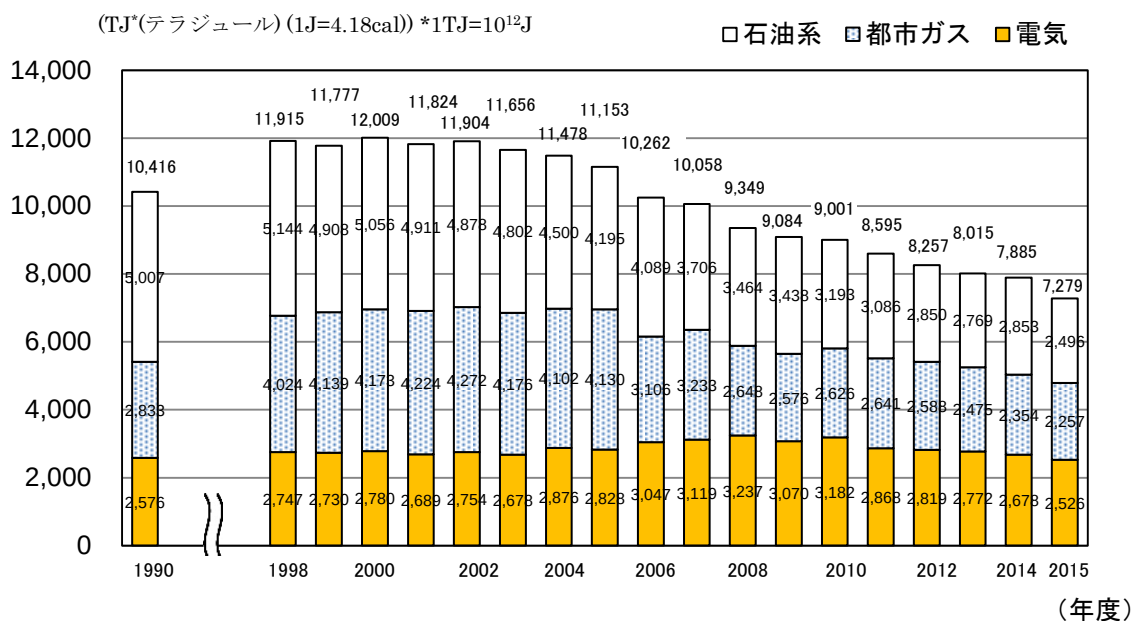
2015 年度における二酸化炭素排出量(652 kt-CO₂)は、前年度と比べるとやや減少し、基準年(1990 年度)と比べて 14.5%(111 kt-CO₂)減少しています。部門別にみていくと、基準年(1990 年度)と比べ廃棄物部門は 80.0%、家庭部門は 38.3%の増加となりましたが、運輸部門は 33.5%、業務部門は 33.0%、産業部門は 29.6%の減少となりました。

平成 20 年度より、事業者や家庭から排出される CO₂ の削減に向けた取り組み「ふだん着で CO₂ をへらそう事業」を実施しています。

家庭部門から排出される CO₂ は、基準年(1990 年度)から見ると増加傾向が続いています。日野市の総人口が増加を続けていることも一因と考えられますが、総排出量を減らすためには、より多くの市民が省エネに取り組むよう、積極的なはたらきかけが必要です。

1.-2 日野市エネルギー使用量

(参考) エネルギー消費量



基本計画では目標値が設定されていましたが、第 3 次実行計画では二酸化炭素排出量に目標が集約されているため、エネルギー使用量の目標値は設定されていません。そのため、参考扱いとします。

エネルギー消費量は、2006 年以降は基準年と比べて減少傾向にあり、特に石油系の消費量が大幅に減少しています。

1.-3 公共交通機関(ミニバス・バス)の整備率

😊 指標 37: 公共交通機関(ミニバス・バス)の整備率

目標値: 80.0%

(2020(平成 32)年度)

年度	公共交通機関の整備率
2009	78.2%
2010	79.0%
2011	79.0%
2012	79.2%
2013	79.6%
2014	79.6%
2015	80.1%
2016	80.1%
2017	80.1%

公共交通の整備率は、ミニバスやワゴンタクシーを含めた市内にある全ての停留所から半径 200m、駅から半径 500m 以内にある面積が市全域の面積に占める割合です。

2017 年度の整備率は、2016 年度と同じ 80.1%となりました。既に 2020 年度目標の 80.0%を達成しており、今後さらなる整備率上昇が期待されます。

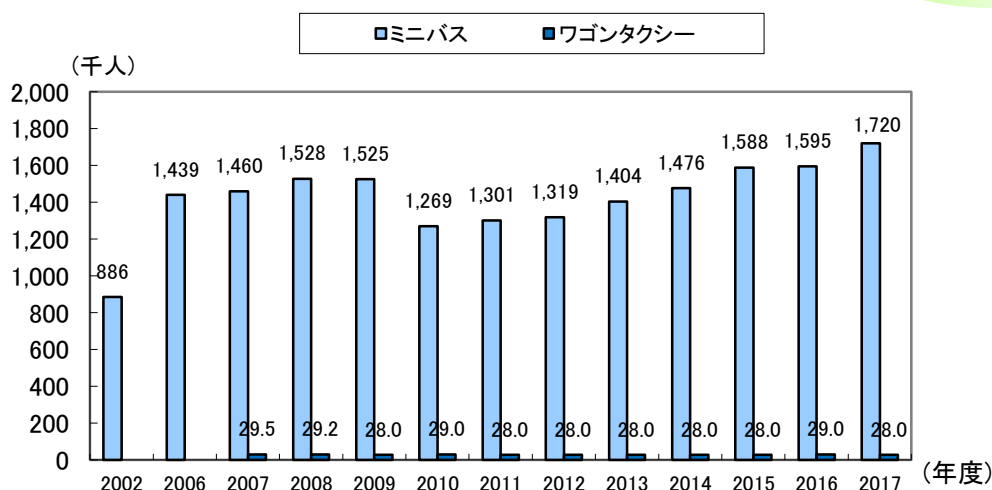
1.-4 公共交通機関(ミニバス・バス)の利用人数

😊 指標 38: バス路線の整備状況: 市内連絡バス(ミニバス)年間利用者数

ミニバス

目標値: 158 万人

(2020(平成 32)年度)



2017 年度は、ミニバスの利用者が前年度より 125,000 人増加し 1,720,000 人となりました。

ワゴンタクシーは、前年度より 1,000 人減少し、28,000 人でした。

ミニバスの利用者は、2002 年度*と 2017 年度を比較すると約 2 倍に増加しました。路線・運行時間帯の拡充を行ない利便性の向上が図られたことや、通勤・通学者の利用増、高齢社会の到来による免許証返納等に起因し、マイカーから公共交通への移動手段の変換などが主な理由と考えられます。

ワゴンタクシーの利用者は、統計開始以降 29,000 人前後で推移しています。

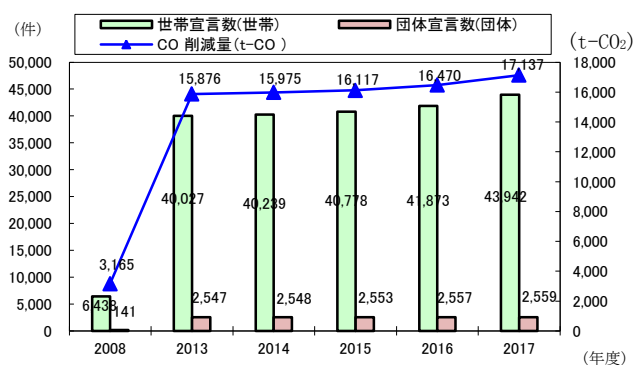
今後も、公共交通網の拡充に伴う利便性の向上や公共交通機関利用者の増加に伴う温室効果ガスなどの排出削減が促進されることにより、環境の改善が期待されます。

*運行開始は 1986 年 8 月 20 日

3. 環境の現状と取組状況の評価

1. -5 「ふだん着で CO₂ をへらそう宣言」の宣言数及び CO₂ 削減量

☺ 指標 39: 「ふだん着で CO₂ をへらそう宣言」の宣言数及び CO₂ 削減量



「ふだん着で CO₂ をへらそう宣言」の宣言数は増加を続けており、2017 年度はイベントにおける宣言数獲得運動に力を入れ、新たに 2,069 件の世帯宣言数を得て、近年では大幅な増加となりました。

今後も、日々の生活などにおいて、CO₂ の削減に貢献するよう、市民の皆様のご協力をお願いいたします。

2. <市の取組状況>

目標	施策 の 方向	施策	具体的な取組	実施状況
低炭素社会を築くまち	省エネルギーの推進	家庭における省エネルギーの促進	CO ₂ の見える化の推進	ワットチェッカーの貸し出しやモニターによる省エネ実践、身近にふれるもの(食料品、省包装商品など)の CO ₂ 削減効果のデータ化などにより、CO ₂ の見える化を図る。 (環境保全課) →指標 40(P.49)
			「ひのっ子エコアクション」の推進	市民団体と市関連部署との連携により、各学校での「ひのっ子エコアクション」をさらに推進する。それによって、環境配慮行動を当たり前のようにできるひのっ子を育み、家庭での取組にもつなげていく。 (環境保全課)
		工場や事業所の省エネルギーの促進	省エネ診断の支援	小規模な工場や事業所でも省エネ診断をできるよう、省エネ診断に関する情報提供や省エネ診断員の紹介等を行う。 (環境保全課) →指標 41(P.49)
	新エネルギーの導入	家庭への太陽光発電等の導入促進	太陽光発電等導入補助の実施	国・都が推進する太陽光発電システムや太陽熱温水器、高効率機器等の導入を促進するために、日野市としても上乗せの補助を実施する。 (環境保全課) →指標 42(P.50)
		公共施設における太陽光等新エネルギーの活用	太陽光、太陽熱、風力等の積極的な活用	公共施設において、新築、改築、大規模修繕等の各種事業に合わせて、積極的な新エネルギーの導入を図る。 (環境保全課) →指標 43(P.50)
	交通環境に配慮した体系的な構築	自動車利用時の排出ガスの低減	渋滞の解消	交差点改良や道路の拡幅、バイパス化、路上駐車規制、ITS の導入、荷さばき用の駐車場の確保等により渋滞を解消し、自動車のスムーズな定速走行を促進することで、CO ₂ 排出量を抑制する。 (道路課) →指標 44(P.51)
				2017 年 8 月～2018 年 5 月にかけて、日野駅北の栄町一丁目 1 番地先の幹線市道 I-20 号線、道路延長約 280m、幅員 20m の道路改良工事(道路拡幅工事)を実施した。2017 年度工事分はボトルネックとなっていた箇所(道路拡幅工事)を実施し CO ₂ 排出量の抑制を行なった。また、新たに設置した歩道、延長約 100m については環境に配慮した透水性舗装を実施した。 (道路課)

2. -1 省エネルギーの推進

(1) 家庭における省エネルギーの促進

CO₂の見える化の推進

◇ 指標 40: ワットチェッカー等貸出状況

2020 年度目標値: ワットチェッカー貸出数累計 500 件
省エネナビ貸出数累計 100 件
環境家計簿活用状況 1,000 件

年度	ワットチェッカー		省エネナビ		環境家計簿活用件数 (エコキング回収数)
	貸出数	累計貸出数	貸出数	累計貸出数	
2012	42	97	25	73	12,752
2013	36	133	20	93	6,554
2014	53	186	37	130	11,086
2015	35	221	13	143	11,841
2016	29	250	2	145	14,399
2017	12	262	6	151	14,473

2017 年度のワットチェッカー・省エネナビの貸し出しは、あわせて 18 件と前年度より 13 件減少しました。ワットチェッカーについては、省エネコンテスト等の工夫を行わないと貸出数が伸びないものと思われます。一方、省エネナビについては「広報ひの」で周知したことにより、前年度よりも貸出数を伸ばすことができました。

環境家計簿活用件数は 14,473 件と前年度よりも 74 件増加しました。なお、集計した環境家計簿の結果は各家庭へフィードバックし、地球温暖化防止についての意識啓発を行なっています。

ワットチェッカーとは

消費電力量等を簡単に測定できる機器であり、コンセントに設置して、対象家電の電源プラグを差し込んで測定します。

省エネナビとは

家庭の分電盤に設置して電力消費量を計測し、モニターに表示するシステムです。

環境家計簿とは

家庭で使用した電気やガスなどのエネルギー量を記録し、どのくらいの CO₂を排出しているか確認するものです。

日野市では、市内の全小学校を対象に年 2 回、「エコキング」と称して 1 日環境家計簿の作成呼びかけと集計をしています。エコキングは、市民・事業所・市による「環境基本計画推進会議 CO₂グループ」が実施しています。

(2) 工場や事業所の省エネルギーの促進

省エネ診断の支援

2020 年度目標値: 累計 1000 件

☺ 指標 41: 省エネ診断の参加事業者数

省エネ診断は 2011 年度から開始しました。2017 年度の参加事業者数は 0 件で、累計 21 件にとどまっています。参加事業者数が少ない理由としては、事業者に対する省エネ診断の意義が周知されていないことが考えられることから、周知方法について検討する必要があります。また、目標値とここまでの実績があまりにかけ離れており、目標を見直す必要もあるかもしれません。

3. 環境の現状と取組状況の評価

2-2 新エネルギーの導入

(1) 家庭への太陽光発電等の導入促進

太陽光発電等導入補助の実施

2020 年度目標 太陽光発電等導入補助件数
累計 180 件

☺ 指標 42：太陽光発電等の導入補助件数

年度	太陽光発電（件）	高効率給湯設備（件）	累計（件）
2011	33	17	50
2012	32	17	99
2013	40	13	152
2014	45	6	203
2015	40	1	244
2016	38	5	287
2017	37	5	329

エコ住宅に太陽光発電・高効率給湯設備を設置したものを補助対象としています。2017 年度の補助件数は計 42 件と前年度から 1 件減少しました。引き続き PR に努めます。

(2) 公共施設における太陽光等新エネルギーの活用

太陽光、太陽熱、風力等の積極的な活用

2020 年度目標値：累計 200kW

☺ 指標 43：公共施設の新エネルギー導入状況

年度	新エネルギー導入状況(kW)	備考
2009	0(24)	平山小学校 10kW, 第一中学校 10kW 日野駅北側トイレ 4kW
2010	34(10)	東光寺小学校 10kW
2011	144(110)	ふれあいホール 100kW, 多摩平保育園 10kW
2012	147(3)	ファーマーズセンター 3kW
2013	157(10)	発達支援センター 10kW
2014	163(6)	豊田南地区センター 6kW
2015	165(2)	東宮下地区センター 2kW
2016	194(29)	日野第二中学校 29kW
2017	194(0)	新規導入なし

* () 内の数値は単年度の導入数値

2017 年度は前年度から増加はなく、累計は 194kW です。

新エネルギーとは

「新エネルギー」とは、太陽光発電や風力発電などの「再生可能エネルギー」のうち、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量が少なく、エネルギー源の多様化に貢献するエネルギーです。

2-3 環境に配慮した交通体系の構築

(1) 自動車利用時の排出ガスの低減

渋滞の解消

😊 指標 44：都市計画道路の整備率

2020 年度目標値:96.0%

年度	都市計画道路の整備率 (%)
2010	89.9
2011	92.8
2012	92.8
2013	92.8
2014	92.8
2015	92.8
2016	92.8
2017	92.8

自動車のスムーズな定速走行を促進することで、CO₂排出量の抑制を図ります。

整備率は、2017 年度も 2016 年度と同じ 92.8% でした。

2015 年 12 月に日野都市計画道路 3・4・24 号線の事業認可を取得しており、工事初年度である 2017 年度は、J R 中央線を挟んで南北に橋脚 2 基ずつの計 4 基の築造を実施しました。

3.<市民コメント>

地球温暖化分野の現状や取組状況について良くまとめられていますが、いくつかの点については、もっと積極的な目標が必要だと感じます。

理由としては、現在の地球全体の温暖化対策では、既に遅いという科学者の意見が多いことと、EU での取組みは積極的で、日本政府の 2030 年目標を多くの国が既に達成しており、さらに高い目標を掲げています。

そこで、2 つの点の目標数値 UP とその実行計画を詳細にする必要があると感じます。

1 点目は、新エネルギーの導入で、補助金、規制、税金控除、指導要請を大学、工場に実行することです。省エネ活動は重要であります。既になんかなり進んでおり、これから更に多くは期待できません。また、家庭も含めて、蓄電池設置に対する補助金など優遇策が必要です。

2 点目は、自動車利用時の排出ガス低減を強化すべきと考えます。路線バス、物流センターへのトラックの EV、FCV、HV 化を促進する規制もしくは指導が必要です。10 年以内に、バス、トラックのディーゼル車は、禁止にするべきです。これは、CO₂以外にも、SO₂、NO_xの大気汚染対策にも必要なものです。一般家庭向けにも、マンションの電気ステーション設置の促進を補助金、税金控除などを使って実施検討すべきです。それによって、現在世界の潮流になっている EV、PHV の促進を行うことが必要です。

これらによって、実効性とスピード UP を望みます。

生活環境分野

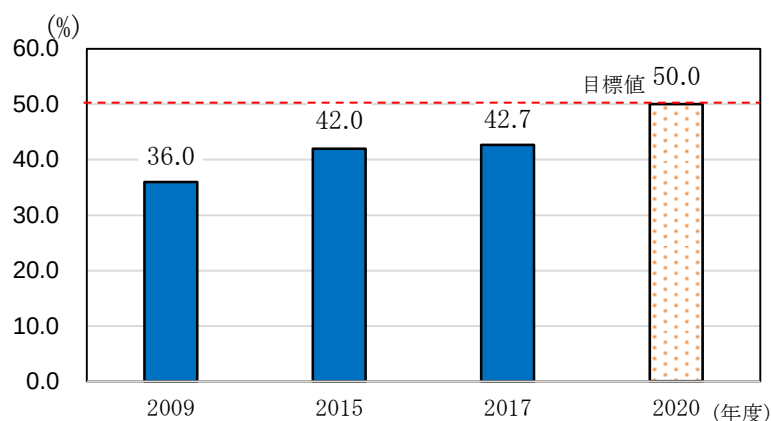
＜ 目 標 ＞ 心やすらぐ住みよいまち

1.＜環境の状況＞

1.-1 心やすらぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合

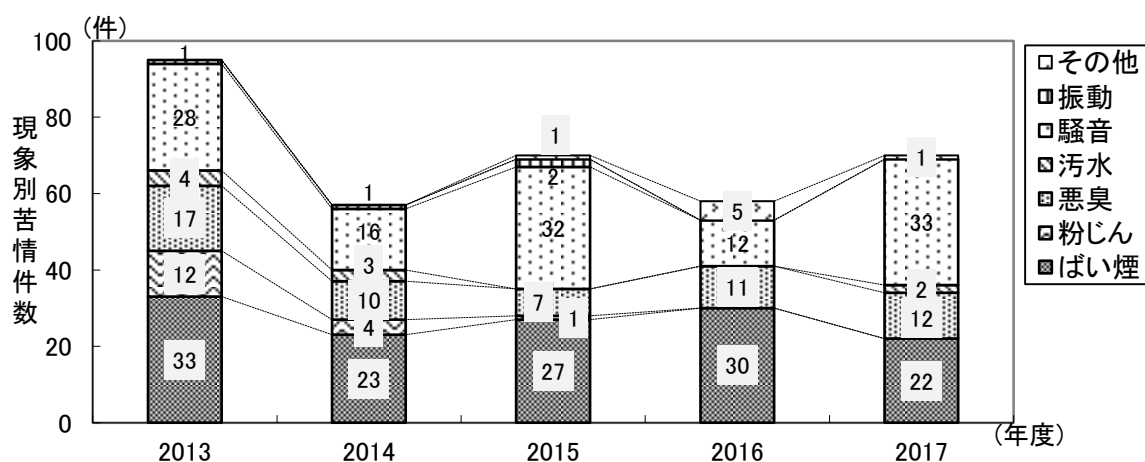
😊 指標 45：心やすらぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合

目標値: 50.0%
(2020(平成 32)年度)



2017 年度の市民意識調査では「きれいな水や空気・騒音やポイ捨てがないなど、良好な生活環境が確認されている」という回答率は 42.7% となっており、2015(平成 27)年度に比べて 0.7 ポイント上昇し、徐々に目標値に近づいています。

(参考) 苦情受付件数



市に寄せられた環境・公害に関する苦情件数をみると、2017 年度の苦情受付件数は 70 件となりました。種別でみると、多い順に、騒音、ばい煙、悪臭となっています。粉じん、振動、有毒ガスの苦情はありませんでした。

2017 年度は、前年度よりも騒音の件数が増加しましたが、他の種別は平均的またはやや低い傾向です。

2.〈市の取組状況〉

目標	施策の方向	施策	具体的な取組	実施状況
心やすらぎ住みよいまち	日常生活をとりまく環境の充実	快適な生活環境の確保	PRの実施	誰もが快適に暮らし心安らぐ生活環境を維持・確保するため、一人ひとりが近隣に配慮した行動を心がけるようPRを実施する。 (環境保全課) → 指標 46(P.54)
			苦情に対する適切な対応	市民等から生活環境に関わる苦情・要望等が寄せられた場合には、状況を確認し、適切に対応する。 (環境保全課)
	公害対策の推進	大気・土壌・地下水汚染等の防止	大気汚染物質の監視	窒素酸化物、大気中のダイオキシン類の濃度を継続的に測定する。数値の悪化を防ぐため引き続き監視を行うと共に、光化学スモッグなど健康に影響を与える情報は速やかに公表する。 (環境保全課) → 指標 47～50(P.54～56)
			道路交通騒音の測定及び対策の実施	道路交通騒音を定期的に測定し、現状の把握に努める。また、環境基準(または要請限度)を超過するなどの場合には、関係部署と連携し、適切な処置を講ずるよう努める。 (環境保全課) → 指標 51(P.58,59)
		騒音・振動対策の推進	航空機騒音についての対策	市内の航路に該当する地点の航空機騒音を定期的に測定し、現状把握に努めた。また、環境基準を超えることはなかったが、市民等からの苦情・要望等に対しては、適切な処置を講じた。 (環境保全課) → 指標 52(P.59)

3. 環境の現状と取組状況の評価

2. -1 日常生活をとりまく環境の充実

(1) 快適な生活環境の確保

PRの実施

各年度目標値:14回以上



指標 46: マナーアップのための啓発活動状況

(単位: 回)

マナーアップのための啓発活動状況	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	備考
喫煙マナーアップキャンペーン	4	3	4	3	5	3	3	京王線高幡不動駅、JR 日野駅、JR 豊田駅において各1回
広報によるマナー啓発	3	5	5	8	8	8	8	生き物4回、喫煙2回、公害1回、樹木1回
犬・猫の飼い方講習会	5	2	4	4	3	3	4	ドックラン3回、日野市役所1回
自治会によるマナー啓発	2	2	2	2	2	2	2	5月上旬、11月上旬
計	14	12	15	17	18	16	17	

2017年度に行われたマナーアップのための啓発活動は17回と、年度目標を上回る結果となりました。

今後も、市民一人ひとりが、周囲の人々の行動、意見、考えを尊重しつつ、自らの行動について考えていく必要があります。

2. -2 公害対策の推進

(1) 大気・土壌・地下水汚染等の防止

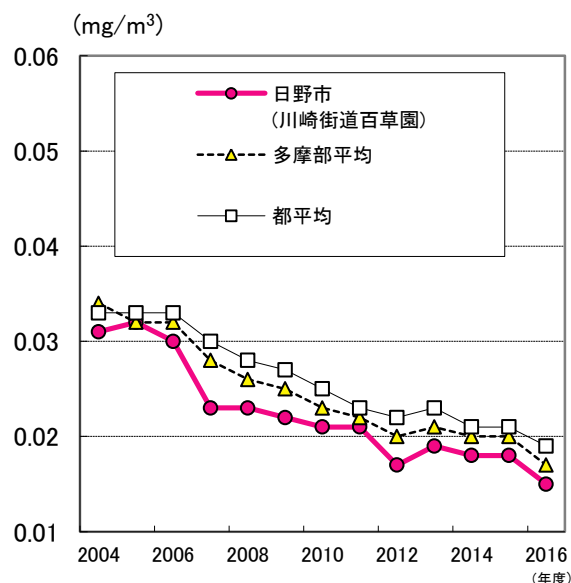
大気汚染物質の監視



指標 47: 浮遊状粒子物質 (SPM) 年平均値

東京都自動車排出ガス測定局の測定結果によれば、本書編集時点で最新データとなる2016年度の日野市(川崎街道百草園)のSPM年平均値は $0.015\text{mg}/\text{m}^3$ であり、多摩部平均や都平均よりも低く推移しています。2007年3月に開通したバイパスにより、自動車の交通量は分散したことが考えられ、2007年度以降は低い数値を示しています。

なお、本書編集時点での最新データとなる2016年度の微小粒子状物質($\text{PM}_{2.5}$)の同測定局結果は、1年平均値が $11.2\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、1日平均値が $26.9\mu\text{g}/\text{m}^3$ となり、環境基準($\text{H}21.9.9$ 環境省告示)である「1年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。」を下回るものとなりました。前年度に比べ値が減少し、大気汚染の状態が改善されたといえます。



浮遊粒子状物質

(SPM: Suspended Particulate Matter)とは

大気中に浮遊している粒径 $10\mu\text{m}$ 以下の粒子と定義されています。

その構成成分は多種多様で、例えば自動車(主にディーゼル車)の排気ガスに含まれている燃焼の際のスス等(排気管一次粒子)や、タイヤや路面が摩耗して堆積し、自動車の走行によって巻き上げられるもの、海塩粒子、土壌粒子等も含まれますし、ガス状物質として大気中に放出されたものが粒子に変化して、硝酸塩等になる二次生成粒子と呼ばれるものも含まれます。

環境基準

「1時間値の1日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること。」(S48. 5.8 告示)

微小粒子状物質(PM_{2.5})とは

大気中に浮遊している粒径 $2.5\mu\text{m}$ ($1\mu\text{m}$ は 1mm の千分の1)以下の小さな粒子のことで、従来から環境基準を定めて対策を進めてきた浮遊粒子状物質(SPM: $10\mu\text{m}$ 以下の粒子)よりも小さな粒子です。

PM_{2.5} は非常に小さいため(髪の毛の太さの $1/30$ 程度)、肺の奥まで入りやすく、呼吸器系への影響に加え、循環器系への影響が心配されます。

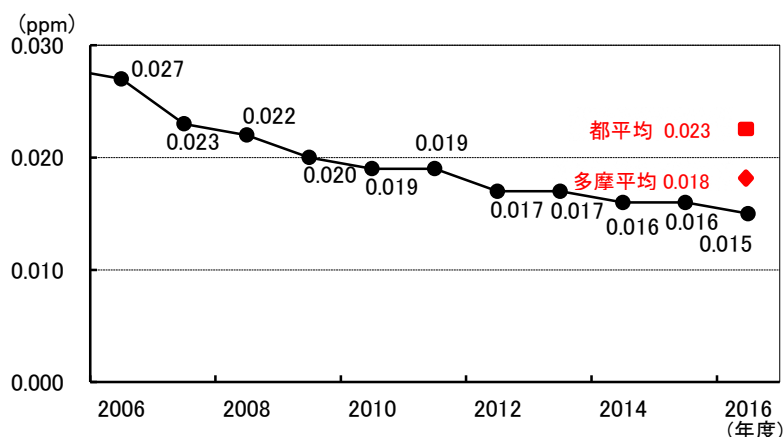
粒子状物質には、物の燃焼などによって直接排出されるものと、硫黄酸化物(SO_x)、窒素酸化物(NO_x)、揮発性有機化合物(VOC)等のガス状大気汚染物質が、主として大気中での化学反応により粒子化したものがあります。発生源としては、ボイラー、焼却炉などのばい煙を発生する施設、コークス炉、鉱物の堆積場等の粉じんを発生する施設、自動車、船舶、航空機等、人為起源のもの、さらには、土壌、海洋、火山等の自然起源のものもあります。

(出典:環境省「微小粒子状物質(PM_{2.5})に関する情報」<http://www.env.go.jp/air/osen/pm/info.html>)



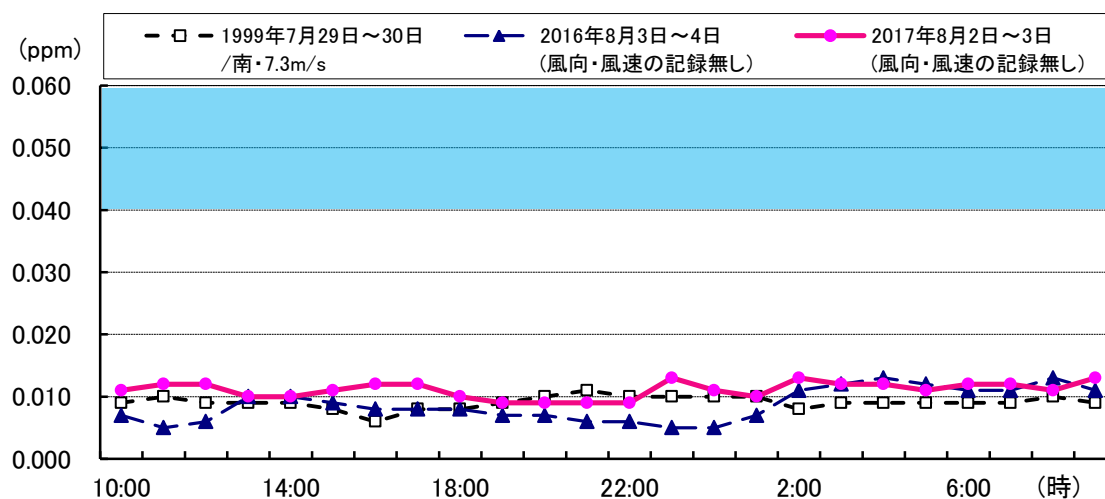
指標 48 : 二酸化窒素の年平均濃度

日野市川崎街道百草園にある東京都自動車排出ガス測定局の調査結果(東京都環境局資料)によれば、本書編集時点で最新データとなる2016年度の二酸化窒素濃度平均値は前年度より減少し、 0.015ppm を示しています。日野市の値は、都平均値 0.023ppm 、多摩平均値 0.018ppm と比較して低い値となっています。



3. 環境の現状と取組状況の評価

☺ 指標 49：二酸化窒素 24 時間測定結果



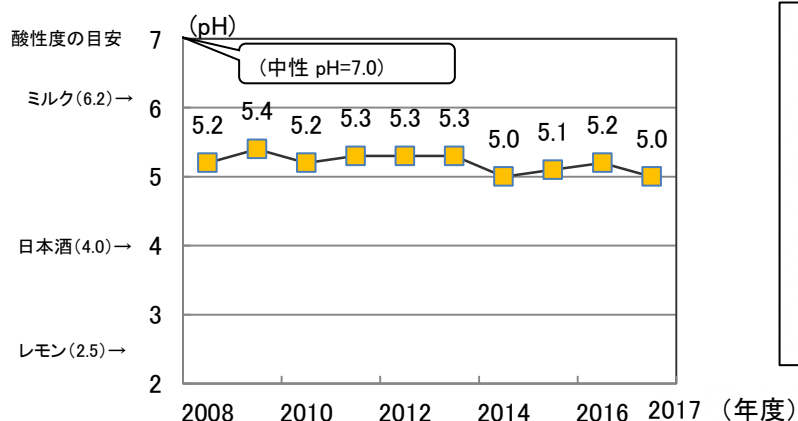
【二酸化窒素24時間測定結果の測定条件 日野市役所屋上(地上高40m)】

環境基準: ■ 1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること

1 日における二酸化窒素濃度(日野市役所屋上)の変動(2017 年 8 月 2～3 日)と、1999 年、昨年の 2016 年を比較した結果、大きな変化は認められませんでした。

また、平均濃度は、2016 年の 0.009ppm に対し、2017 年度が 0.011ppm となっており、0.002ppm の増加が見られましたが、二酸化窒素濃度の環境基準「1 時間値の 1 日平均値が 0.040～0.060ppm までのゾーン内またはそれ以下」をクリアしています。

◇ 指標 50：雨の酸性度



酸性雨とは

自動車や工場から大気中に排出された硫黄酸化物や窒素酸化物により、雨水が pH5.6 以下に酸化する現象です。

pH とは

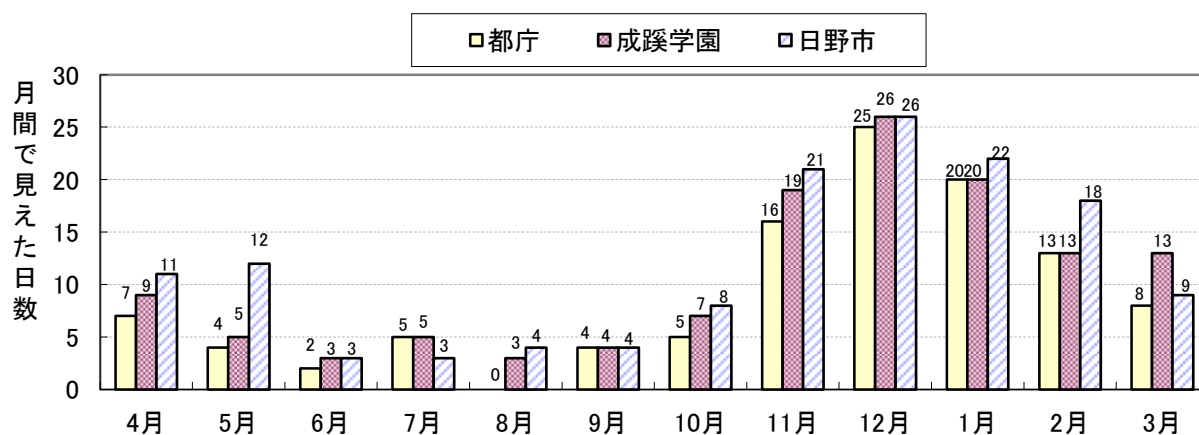
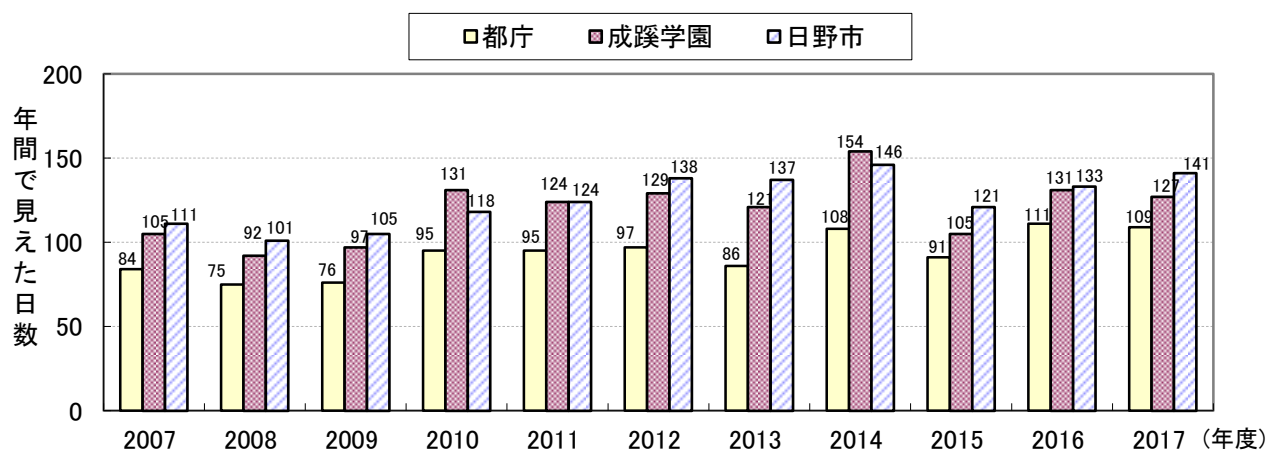
酸性の度合いを示し、中性は pH7.0 です。酸性度が強くなるほど数字が低くなります。

2017 年度における雨の pH 値は pH5.0(市内 8 か所で 8 人の市民モニターにより測定された 97 試料の平均値)で、2002 年度以降大きな変化は認められませんでした。

試料は各市民により、2017 年 4 月から 2018 年 3 月までの間に、毎月 1 回程度一雨ごとに採取されたものです。

(参考) 富士山ウォッチング(富士山が見えた日数)

※各々、毎日定時に観測し、かすかに見える日を含んでカウントしている。



都庁 = 毎日9時に観測 場所：新宿区都庁舎35階（標高191.5m）
 成蹊学園 = 毎日9時に観測 場所：武蔵野市吉祥寺北町（標高56.0m）
 日野市 = 毎日8時に観測 場所：南平5丁目（七生中南東角交差点付近：標高75.0m）

日野市での観測結果を、インターネット上で公開されている都庁（新宿区）での観測値と30年以上の実績のある成蹊学園気象観測所（吉祥寺）の協力を得て入手したデータを比較しました。データを比較するにあたり、都庁は35階（約200m）の高層での観測値であり、日野市は観測標準時間より早い8時の観測値であることに留意する必要があります。

2017年度の富士山が見えた日数は日野市では前年度より8日間増加していますが、都庁、成蹊学園では3日間減少しています。2017年度の降水量（気象庁八王子観測地点）は1669mmであり、前年度（1422mm）より多く、2地点では観測時の視界が悪かったことが考えられます。

月別で見ると、12月に見える日数が最も多くなっており、八王子観測地点における12月の降水量は12.5mmと最も少なく、日照時間は234時間と最も多かったためと考えられます。

過去10年間（2007～2016年度）の平均値は都庁で92日、成蹊学園で119日、日野市で123日であり、いずれの地点でも過去10年間に比べ増加しています。

3. 環境の現状と取組状況の評価

(2) 騒音・振動対策の推進

道路交通騒音の測定及び対策の実施

☺ 指標 51：道路交通騒音

2017年度の昼間及び夜間の数値は、前年度と同程度の値が観測されました。昼夜とも環境基準を達成しており、要請限度も超えておりません。

路線名	測定地点	昼間	夜間
国道 20 号 バイパス	市立病院 (多摩平 4-3-1)	69	65
	日野商工会館前 (多摩平 7-23-23)	69	65
	農産物直売所 (万願寺 6-35-13)	69	65
都道 155 号	富士電機社宅前 (旭が丘 1-8)	64	60
都道 173 号 (北野街道)	第 6 分団消防小屋前 (平山 5-1-19)	68	64
都道 41 号 (川崎街道)	三沢浄水場前 (三沢 1-19-1)	62	58

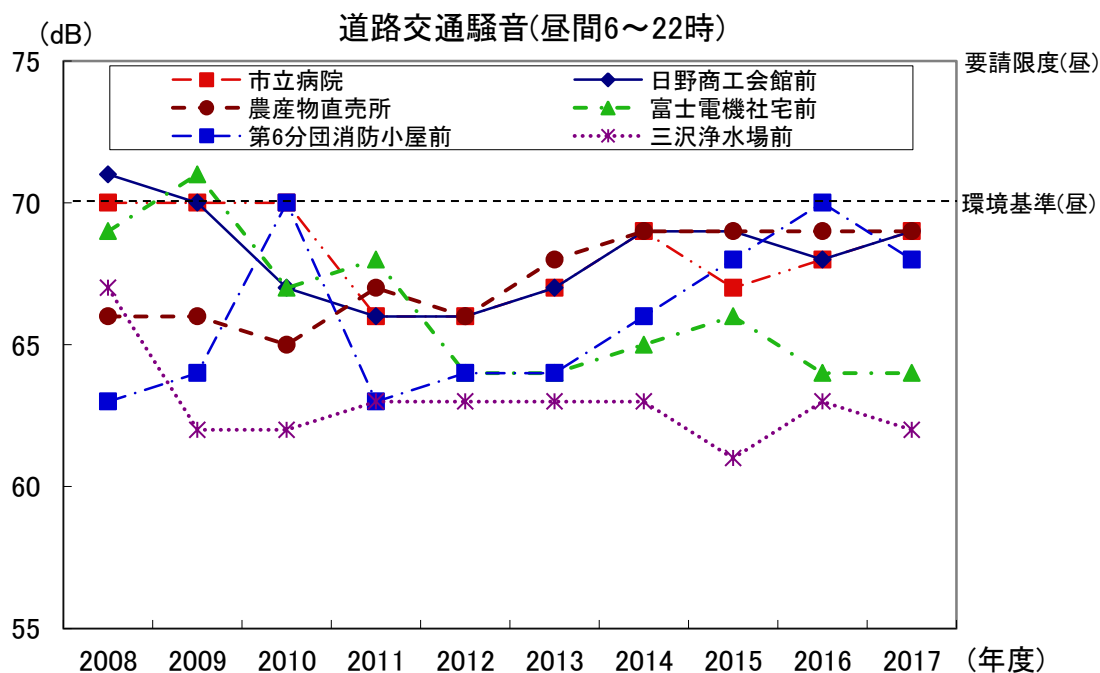
騒音測定法について

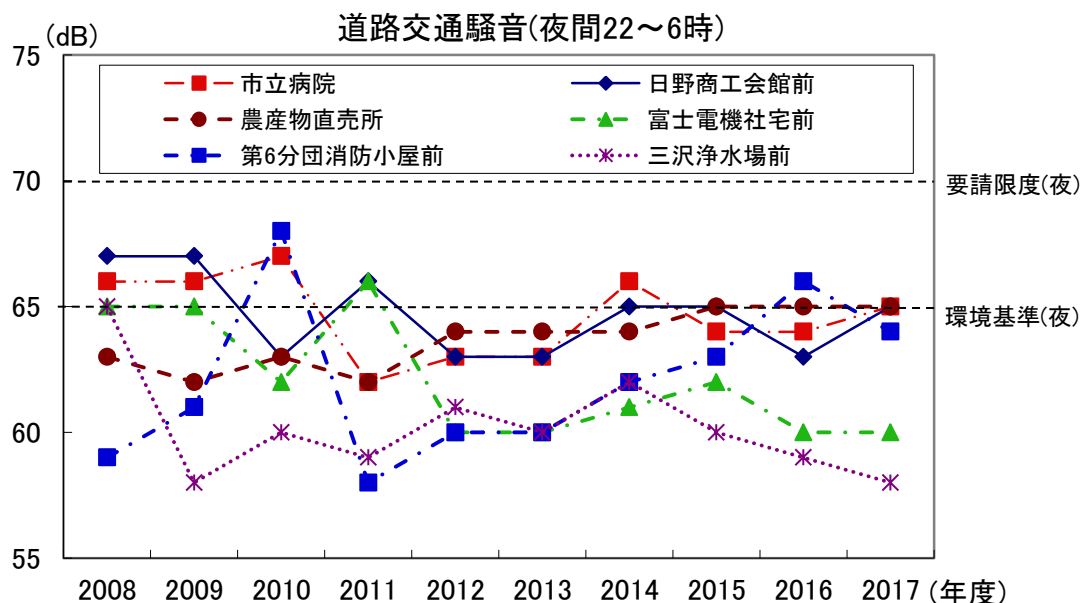
毎正時から10分間測定を行い、(1時間の等価騒音レベルを算出し)各時間区分の等価騒音レベルを演算。

【等価騒音レベル】時間内で変動する騒音レベルのエネルギー的な平均値で、人に感じられる感覚的なうるささとの対応に優れているといわれる。

【環境基準】人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい騒音レベルで、目標値となる。(環境基本法)

【要請限度】道路管理者に改善を要請することのできる騒音レベル。(騒音規制法)



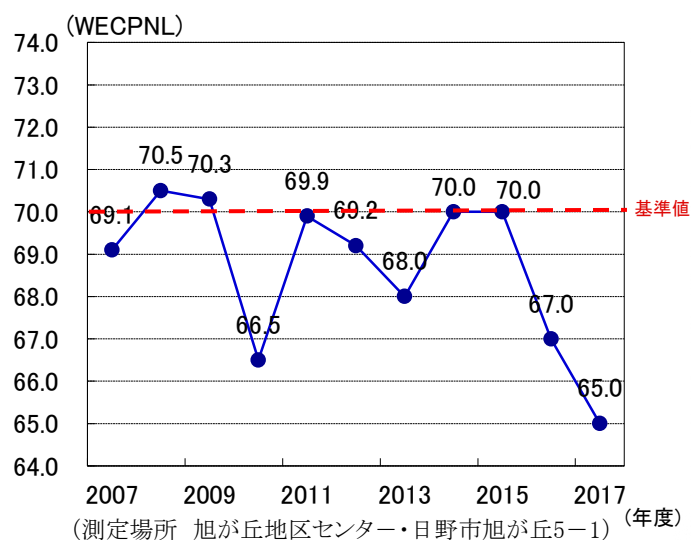


調査期日：2018年1月15日～2018年3月5日

環境基準：幹線交通を担う道路に近接する空間 昼 70dB, 夜 65dB
 要請限度：b 区域(主として居住の様に供される地域)の2車線以上
 C 区域(相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される区域)の車線を有する
 昼 75dB, 夜 70dB

航空機騒音についての対策

😊 指標 52：横田飛行場に係わる航空機騒音



日野市では、横田基地に係る航空機騒音の測定を1977年から実施してきました。1988年まではリオン社製 NA-30 により夏期及び冬期にそれぞれ1ヶ月間測定していましたが、1989年以降はリオン社製 NA-33 により常時測定を行なっていました。

2013年度から環境基準がLdenに変更となり、リオン社製 NA-37 で常時測定を行っています。2017年度は前年度より2.0低く 65.0(WECPNL)でした。新基準では51.4 (Lden)となり、環境基準を満足しています。

※環境基準値はWECPNLでは70、Ldenでは57となります。

WECPNLとは

Weighted Equivalent Continuous Perceived Noise Level「加重等価平均間隔騒音レベル」のことで、航空機の一日の総騒音量を評価する国際単位。同じ音の大きさでも、昼、夕、夜で、人の感じる大きさは異なることから、それぞれの時間帯の音に対して、人の感じ方の度合いを考慮して算出した値です。

Ldenとは

「時間帯補正等価騒音レベル」のことで、各飛行機の騒音を、聞こえ始めから聞こえ終わりまでの人が受ける騒音エネルギーで測定した値です。

3. 環境の現状と取組状況の評価

2. -3 放射線測定

(参考) 市内空間放射線量測定

2011年3月11日に発生した東日本大震災に伴う福島第一原発事故により、放射性物質による環境汚染が生じました。市では、2011年7月11日から、市内の空間放射線量の測定を開始しました。国の基準※では、0.23マイクロシーベルト/毎時以上の地域が除染対象となります。2017年度の測定結果は、基準を超える地点はなく、健康に影響を与える数値ではありませんでした。また、局地的に高い測定値を示す場所(ホットスポット)は確認されませんでした。

※国の基準:『平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法』(2011年8月公布)

表-2017年度の最小及び最大値

測定区分	場 所	実施日	結 果(単位:マイクロシーベルト/毎時)
定 点	公園8地点	2011年7月11日～継続中 毎週1回	0.03～0.09

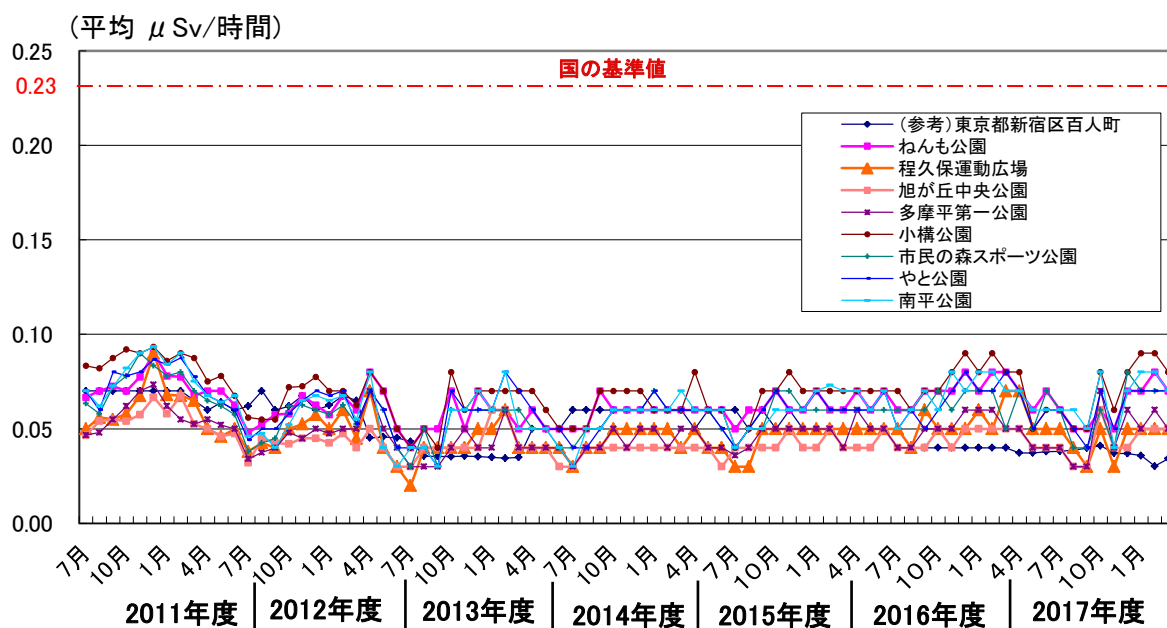
調査期間:週1回(2011年7月11日から)

調査地点:市内の中学校区を基準にして8分割し、各校区内の1カ所を測定場所とする。計8カ所。

調査内容:高さ1メートル位置にて、5分間保持後、30秒ごとに5回測定した空間放射線量の平均値を測定結果とする。

測定機器:RAE Systems 社製「DoseRAE2 PRM-1200」

中学校区	測定場所
三沢中学校区	ねんも公園(高幡)
第三中学校区	程久保運動広場(程久保)
第四中学校区	旭が丘中央公園(旭が丘5丁目)
第二中学校区	多摩平第一公園(多摩平4丁目)
大坂上中学校区	小構公園(日野台1丁目)
第一中学校区	市民の森スポーツ公園(日野本町7丁目)
平山中学校区	やと公園(平山3丁目)
七生中学校区	南平公園(南平4丁目)

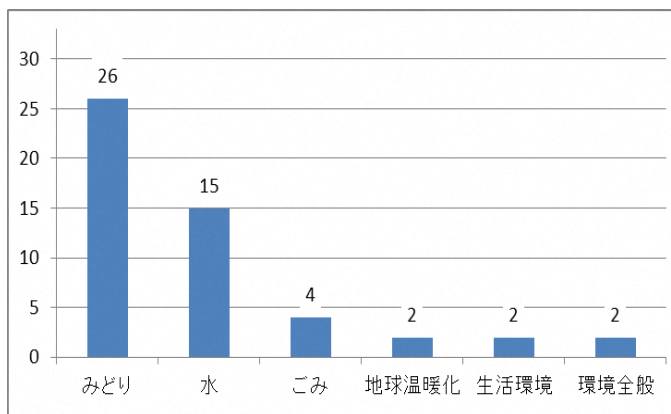


4. 環境への取組状況

本章では、日野市において、市民及び市民・行政との協働、行政、学校等、大学、事業者による環境への取り組みを主体別に紹介します。

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

ここでは、日野市において種々の環境問題に対し、市民及び市民と行政との協働で継続的に実施している主な活動事項を紹介します（五十音順）。2017年度に活動実績のある団体（活動）は下表の37団体（活動）で、活動分野別では「みどり」が最も多く26団体（活動）、次いで「水」が15団体（活動）、「ごみ」「地球温暖化」「生活環境」「環境全般」分野の活動は少ない傾向にあります。



番号	団体（活動）名	取組分野					
		みどり	水	ごみ	地球温暖化	生活環境	環境全般
1	浅川潤徳水辺の楽校	○	○				
2	浅川滝合水辺の楽校運営委員会		○				
3	浅川流域市民フォーラム		○				
4	石坂ファームハウス(自然の恵みを楽しむ会)	○					
5	NPO 法人環境教育ネットワーク						○
6	倉沢里山を愛する会	○					
7	NPO 法人子どもへのまなざし	○	○				
8	市民による都市農業研究会	○					
9	NPO 法人樹木・環境ネットワーク	○					
10	真堂が谷戸虫の会	○	○				
11	雑木林ボランティア講座	○					
12	ツバメのくるまち事業	○	○				
13	南丘雑木林を愛する会	○					
14	農の学校	○					
15	八王子・日野カワセミ会	○					
16	東豊田緑湧会	○	○				
17	日野産大豆プロジェクト	○					
18	ひの市民リサイクルショップ回転市場			○			
19	日野団塊世代広場	○		○			
20	ひのどんぐりクラブ	○	○			○	
21	日野の自然を守る会	○	○				
22	日野の水車活用プロジェクト		○				
23	日野みどりの推進委員会	○					
24	ひの緑のトラスト	○					
25	ひの・まちの生ごみを考える会			○			
26	まちの生ごみ活かし隊	○		○			
27	ふだん着でCO2をへらそう実行委員会				○		
28	FFATOKYO (フライ・フィッシュ・アグリー東京)		○				
29	程久保川を考える会		○				
30	まちづくり市民フェア						○
31	みずとくらす・ひの		○				
32	水と緑の日野・市民ネットワーク	○	○		○	○	
33	緑を愛する会日野	○					
34	南平・緑と水のネットワーク	○	○				
35	百草山の自然と文化財を守る会	○					
36	谷中山緑地を守る会	○					
37	緑地管理ボランティアの会	○					
合計		26	15	4	2	2	2

4. 環境への取組状況

① 浅川潤徳水辺の楽校推進協議会

○ 活動目的

川を昔のように、自然豊かな環境に少しでも近づけ、そこで子どもたちが思いっきり遊ぶことができる自然体験の場を「水辺の楽校」といいます。水辺の楽校は、1996年から国土交通省が推進している事業で、すでに全国300か所以上の地区において、この取り組みが始まっています。大人も子どももみんなで楽しく語り合い、浅川でのイベントを中心とした遊びの中から、自然の大切さを学んでもらうのが水辺の楽校です。

○ 対 象：潤徳小学校の児童を中心に、浅川近隣の小学生が対象

○ 活動場所：おもに浅川高幡橋～新井橋区間と向島用水

○ 連 絡 先：代表者 会長 小倉 紀雄／事務局 日野市緑と清流課・日野市立カワセミハウス 笹木延吉 TEL:042-642-0422

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2017. 4. 23	多摩川・浅川クリーン作戦に参加	浅川ふれあい橋付近・向島用水清掃	30
5. 10	種まき（学校内）	潤徳小5年生（授業）	136
5. 13	「浅川で遊ぼう1」	竹馬、竹笛づくり、竹ぼっくり、天狗の下駄、石絵、豚汁、その他	105
6. 4	「浅川で遊ぼう2」 身近な水環境の一斉調査	子供中心に用水で3箇所、ふれあい橋下1箇所	38
6. 5	田植え	潤徳小5年生（授業）	136
7. 12	田圃の草取り	潤徳小5年生（授業）	136
7. 22	「浅川で遊ぼう3」 浅川の源流探検	川は流域で考えることから、浅川の清冽な源流域を体験する	35
8. 5	「浅川で遊ぼう4」	思いっきり、水遊び（水泳など）	80
8. 22	田圃の草取り	潤徳小5年生	48
9. 9	「浅川で遊ぼう5」	バッタ取りと植物観察（杉浦氏）	50
10. 10	稲刈り	潤徳小5年生（授業）	136
10. 14	特別企画 「みんなで石絵を描こう」	潤徳小児童・保護者（みずとくらす・ひの共催）	30
11. 1	脱穀	潤徳小5年生（授業）	136
11. 21	水車でもみすり	潤徳小5年生（授業）	136
11. 26	日野市地域清掃に参加	浅川ふれあい橋付近・向島用水清掃	28
12. 5	水辺の楽校発表会	潤徳小体育館で全校生徒集合	720
12. 9	多摩川子供シンポジウム	多摩川流域の水辺の楽校が集う発表会	30
12. 10	笹刈り	笹刈り（どんど焼き用）	46
12. 21	餅つき大会	潤徳小5年生（授業）（学校運営委員会、PTA共催）	136
2018. 1. 20	どんど焼き準備	お団子づくり、やぐら作りなど（PTA共催）	57
1. 21	「浅川で遊ぼう6」	どんど焼き（PTA共催）	500
3. 10	「浅川で遊ぼう7」	浅川で野鳥観察	32

②浅川滝合水辺の楽校運営委員会

- 対 象:滝合小学校の生徒を中心に、同校保護者・卒業生及び地域住民
- 活動場所:滝合小学校付近の浅川、ビオトープ
- 事 務 局:浅川っ子の会(滝合小学校教員・保護者・地域住民で構成)、日野市緑と清流課
- 活動実績

実施日	内 容	参加人数
2017. 4. 23	浅川クリーン作戦&春野菜カレー	大人 42、こども 24
8. 27	夏だ浅川で遊ぼう	大人 22、こども 9
11. 26	浅川一斉清掃&白玉	大人 14、こども 3
2018. 2. 25	バードウォッチング&焼き芋	大人 31、こども 17

③ 浅川流域市民フォーラム

○ 活動目的

浅川及び大栗川、程久保川、谷地川流域の良好な水辺環境を守り、いい川づくりをしていくことについて、市民の意見交換や行政に対しての提案を行い、交流の機会や場を形成するとともに、流域の行政との良好なパートナーシップを形成していくことを目的として、次世代に身近な自然である河川環境を残していくことを目的としています。

○ 活動内容

当会では、2004 年から毎年日野市・八王子市の市民の参加を得て、「身近な水環境の全国一斉調査」の水質調査を行っています。調査結果をもとに流域の水質マップを作り、解説面に流域の情報を写真によってわかりやすく載せて配布し、市民への啓もう活動をしています。

また、河川改修などによって、河川内の樹木や平常時の河川流量の減少などが発生しています。そのため多自然、流量の確保を目的に管轄行政と立ち合い、話し合いを行っています。

他には、浅川・湯殿川クリーンデー（毎年4月）を開催。

浅川流域連絡会に参加し、行政や市民との河川情報の交換を行い、ニュースレターで流域の情報を伝えています。

毎年6月に行われる八王子市環境フェスティバルに出店し、流域水質マップ、ニュースレターを配布しています。

○ 人 数: 約 50 名

○ 連 絡 先:事務局 諏訪 祥子 TEL:042-621-1779 E-mail:CBB00853@nifty.com

④ 石坂ファームハウス(自然の恵みを楽しむ会)

○ 活動目的:都市農業の普及と理解・四季を通じての活動・食農教育

○ 人 数:登録会員 約 50 人

○ 活動場所:日野市百草 672-1 石坂ファームハウス

○ 連 絡 先:TEL:042-591-6477

○ 情報提供方法:<http://blog.goo.ne.jp/ishizakafarmhouse/> TEL:042-591-6477

4. 環境への取組状況

○ 活動実績

年・月	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2017. 4	野菜の種まき体験と畑散策	自然の恵みを楽しむ会	約 20
	とうもろこし種まき	近隣幼稚園	約 20
5	里芋の植え付け	三中育成会	約 70
6	田植え	お米づくり講座 第1回・関東農政局	約 100
	じゃがいも堀り	都内幼稚園	約 20
7	じゃがいも堀り試食会	自然の恵みを楽しむ会	15
	夏休み子ども村	JA	20
8	農場視察	京都芸術学院	約 10
10	稲刈り	おつくり講座 第2回	約 160
	里芋収穫	都内保育園	約 20
11	芋ほり	近隣保育園	約 10
	秋の収穫体験	自然の恵みを楽しむ会	約 20
	職場体験	三中	6
	里芋収穫	近隣保育園	約 100
	里芋収穫	三中育成会	約 10
12	わらリース作り	お米づくり講座 第3回	約 100
2018. 1	お餅つき	近隣幼稚園	約 100
	お餅つき	都内幼稚園	約 50
	お餅つき	お米づくり講座 第4回	約 120
2	昔の道具見学	近隣小学校	約 90
3	思い出遠足・野外活動	近隣保育園	約 20

⑤ NPO 法人環境教育ネットワーク（旧：比留間塾環境プロジェクトクラブ）

○ 活動目的・活動内容

小学生及び中学生に環境教育・環境活動の支援を行うとともに、高校生、専門学校生、大学生、さらには広く社会人に対して、環境学習の機会を提供します。

○ 活動場所：日野市旭が丘4-7-5シティハイツ日野旭が丘4号棟510号室

○ 連絡先 理事長：比留間 文彦

TEL:042-584-0900 FAX:042-581-9909

○ 情報提供方法：環境学習、セミナーなど

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2017. 4. 4～7. 25	公害論Ⅰについて	公害論についての講義を行った。 大学生を対象	300
2017. 6. 8	第1回環境学懇談会	環境学についての懇談会を行った。 社会人を対象（山梨県上野原市）	10
2017. 9. 5～ 2018. 1. 30	公害論Ⅱについて	公害論についての講義を行った。 大学生を対象	300
2017. 10. 11	第2回環境学懇談会	環境学についての懇談会を行った。 社会人を対象（山梨県上野原市）	10
2018. 1. 17	第3回環境学懇談会	環境学についての懇談会を行った。 社会人を対象（山梨県上野原市）	10
2018. 3. 7	第4回環境学懇談会	環境学についての懇談会を行った。 社会人を対象（山梨県上野原市）	10

⑥ 倉沢里山を愛する会

○ 活動目的と経緯・活動内容等

百草倉沢地域で市民の手でエコ循環も実践しながら一帯の里山的な景観を永く残し、植生保護や緑地の維持・管理活動を通じて雑木林や農地の緑に親しみ、同時に会員並びに地域の市民相互のコミュニケーションを深めていくことを目的として、2000(H12)年から活動。

2004年、日野市と市有緑地の管理・運営に関するパートナーシップ協定を締結、その後活動の成果として複数の地元農家の相続の際、寄付等による緑地保全が実現し、公有緑地が拡大され、本会の管理範囲も拡大した。また、エリア内で工場跡地(民有地)を本会が一括して借り受け市民農園化、新しい形での緑地の再生を実現させ、さらに近隣の遊休民有地数カ所を地主の理解を得て市民農園として再生・管理している。

《主な活動内容》

- ・下草刈り、落ち葉掃き、樹木の手入れ等、雑木林を中心とする緑地の基本的・日常的な維持・管理作業および里山内の稀少動植物の保護育成・調査。
- ・里山内の市民農園(緑地としての耕作地、アリスの丘ファームⅠ・Ⅱ・Ⅲ)の運営・管理、及び雑木林の腐葉土をはじめ、おから、牛・馬・鶏糞等地域内でのエコ循環の実践。
- ・百草・倉沢地区の里山全体の保全のための市民や行政への働きかけ。
- ・外部の諸団体・学校等からの見学・体験参加等の受け入れ、研究フィールドの提供。
- ・上記諸活動を通じて、ボランティア参加市民の交流・交歓のためのイベント実施、コミュニケーションの場の提供、高齢層の社会参画機会の提供。

○ 会員数： 120 家族、登録人数 約 200 名

○ 活動場所： 日野市百草倉沢地区の公有緑地(数カ所)を拠点として活動。

○ 連絡先： 事務局(田村) Tel. (042) 592-5859 E-mail: info@alice-fm.info

○ 情報提供方法および2017年度の活動実績

《情報提供方法》 ニュースレター(季刊)、ホームページ(<http://alice-fm.info>)、Eメール等
《活動実績》 雑木林を中心とする緑地の基本的・日常的な維持・管理の公式活動年間約20回のほか、フィールド内の果樹の手入れ・収穫、他の里山ボランティアの見学会、市民農園アリスの丘ファームの運営・管理等、随時必要に応じて活動、年間参加者数は延1000名を超える。

⑦ NPO 法人子どもへのまなざし

○活動目的・活動内容

子どもが主人公の居場所づくりを通して「子どもがいるからつながる人の輪」を広げる

あなたの『子ども時代』を思い出してください。あなたは「誰と、どこで、何をして」遊んでいましたか？

今、子どもたちは「自由」に遊んでいるのでしょうか？ 子どもにとって『あそび』は生きることそのもの！子どもが「やってみたい！」と思うこと全てが「あそび」です。挑戦なので、失敗はつきもの。“危なっかしい”“汚い”“うるさい”と大人の都合であそびを制限してしまうと、子どもの自ら育とうとする力を奪ってしまうことになるのです。

「あそび」の中で子ども同士のケンカや失敗が大切だと思っても、「迷惑をかけないように」と周りの目を気にして、子どもに口うるさく言わなくてはならない…。そんな毎日を送っているお母さんに、今までたくさん出会ってきました。子育ては決してひとりではできません。子どもも、そして、親だって周囲のあたたかいまなざしの中で育ち合うことが、今とても大切だと考えています。

①子どもが主人公の居場所 プレーパーク「なかだの森であそぼう！」の開催

『自分の責任で自由にあそぶ』をモットーに、子ども自身が「やってみたいこと」に挑戦できる遊び場です。すべての子ども(0～18歳)を対象に、参加する親たちと共に居場所づくりをしています。

4. 環境への取組状況

②親も子も育ち合う保育の場 野外保育「まめのめ」の運営

園舎を持たず、日野市周辺の森や川、丘を中心に、季節や天気で日々変わっていく自然をまるごとフィールドに活動している『森のようちえん』。幼稚園と保育園の両方の機能を併せ持っています。

③子ども時代のあそびを保障する「あそべ！子どもたち事業」

日野市周辺の豊かな自然の中でのあそびが、「特別な体験」ではなく「日常的なあそび」のひとつとなることを目指しています。

⑤子どもがいるからつながる「人の輪」事業

子どもにとって本当に大切なことを考え続ける大人の輪を広げていくことを目指しています。

⑥仲田の森蚕糸公園等清掃管理事業

○人数:正会員 58名 応援会員 81名

○活動場所:仲田の森蚕糸公園及び日野市周辺の川や丘陵地など自然豊かなフィールド

○代表者:中川 ひろみ

○連絡先:事務所住所 日野市万願寺 1-25-8 電話 050-3721-1973

mail:info@manazashi2009.sakura.ne.jp

○活動日:年間を通して毎日

○主な活動実績

活動内容	実施日	場 所	参加人数
プレーパーク開催 (参加申込・参加費なし)	毎週金曜日・第2、3土曜日 (年間68回)	仲田の森蚕糸公園	延べ6,846名 (大人2,408名 子ども4,438名)
森のようちえん 野外保育「まめのめ」	毎日9時～17時 (土・日・祭・年末年始以外 毎日)	日野市周辺の自然豊かなフ ィールド(浅川、多摩川、多 摩丘陵など)	在園児32名 (1歳～5歳)
写真展&学習会 「こんな子育てあったんだ」	9月13日～23日写真展 13日 感覚統合学習会 23日「あそび」で育む子どもの力	カワセミハウス	学習会参加者 延べ 152名
川であそぼう！ちびっこ団	7月22日～24日	浅川、多摩川	年中・年長 17名
川であそぼう！がきんちょ団	8月2日～5日	浅川、多摩川 ゆうやけこやけふれあ いの里	年長 6名 小1～小3 34名
飛び出せ！冒険隊！	8月7日・8日(初級) 8月20日～22日(上級)	多摩川 多摩川・城南島海浜公園 (日野市から自転車で多摩川 土手をどこまでも走ります)	小3～小6 11名 小4～小6 8名
山であそぼう！探検隊！	11月4日・11月19日 12月2日～3日	上野原八重山・景信山 大地沢青少年センター	小3～小6 13名
冬をあそぼう！がきんちょ団	12月26日・27日・ 28日	百草神社・七生公園・ 平山城址公園	年長 8名 小1～小3 27名
森の講演会	5月13日	仲田の森蚕糸公園	大人129名
講師派遣	9月16日 11月30日 1月16日 2月4日	東光寺小学校 青山学院女子短期大学 実践女子大学 小金井市公民館	
父親学級	6月17日・12月16日	市民の森ふれあいホール	延べ 59名
森のふれあいカフェ	5月12日～26日 11月17日～12月8日	市民の森ふれあいホール 集会室1-3	第一子が3ヶ月～5ヶ月 の親子 各6組
プレーパーク活動支援	毎月第1日曜日	西平山 平山八幡神社	
仲田の森蚕糸公園等 清掃管理(委託事業)	毎月水木曜日 (月8回程度)	仲田の森蚕糸公園	業務従事者3名

⑧ 市民による都市農業研究会

○ 活動目的・活動内容

当会は、日野にある農地を次世代へと残していくことを目的に、2009 年から農地に関する法令の勉強会や、都市農業の現状視察・講演会などを行なっています。2013 年・2014 年度は、農水省の「農」のある暮らしづくり交付金事業として『都市農業が健康作りに寄与するプロジェクト』を実施し、都市部の農地は生産の場という枠を超え、環境保全や地域防災、福祉、健康づくりにもつながる貴重な空間になりうることを実証しました。

2015 年度は、交付金事業で作成した冊子と、2014 年度に開催した「農でつながる生き生き会議 in 日野」をきっかけに、コアメンバーが各々活動する場においてサポート・コーディネート活動を行い、それを共有しながらまた新しい顔の見える関係を広げていく活動を展開しました。

2016 年度以降は、メンバーが個々に活動しながら、情報交換や情報共有することにより緩やかなつながりを継続しています。

○ 人 数:コアメンバー 10 人、講演会や勉強会などの参加者で登録済みは約 180 人。

○ 連絡先

代 表 者:佐藤美千代 (TEL:080-8891-4930 E-mail:michiyo6969@jcom.zaq.ne.jp)

事 務 局:佐藤由美子 (TEL:090-2641-1250) 黒澤由香 (TEL:090-6142-0366)

○ 活動場所:特定場所はなし。勉強会、講演会は市内公共施設を利用。

○ 情報提供・参加募集方法:メール配信による。

⑨ NPO 法人樹木・環境ネットワーク

○活動目的・活動内容

人と自然のつながりを大事にし持続可能な社会づくりを目指す。

自然の大切さを実感し、物質的・経済的豊かさだけでは得られない本当の豊かさに気づくことが大切だと考え、「森を守る」「人を育てる」「森と人を繋ぐ」をテーマとした様々な活動を展開している。具体的には里山保全活動、自然体験の企画実施、人材育成のための検定事業。

○人数:職員(常勤・非常勤含む)5名

会員数:534名(2017年6月)

○活動場所:日野市内では「多摩動物公園」の森

○代表者:駒沢大学教授 清水 善和

○連絡先:101-0052 東京都千代田区神田小川町3-6 日本分譲住宅会館ビル 8階南

[Tel]: 03-5244-5447 [Fax]: 03-5244-5448 [mail] info@shu.or.jp

○情報提供方法:ホームページ <http://www.shu.or.jp/>

○活動実績(2017年度の活動)

ここでは多摩動物公園の森での活動を報告します。

① 保全活動

毎月第2日曜日および第4土曜日に保全活動を行った。

場所は、ライオンの森、チンパンジーの森、七生公園

(延べ人数)	2017 年度	
	参加人数	回数
定例活動	251 人	23 回
簡易調査	30 人	2 回
団体・他	519 人	9 回

4. 環境への取組状況

② 中学生の総合学習の受け入れ「学校の総合学習支援」

- ・人の手が入ることで保たれる自然 自分と自然との関わり方を学ぼう

2017年6月8日(木)・・・板橋区桜川中学校での事前学習・ワークショップ

2017年6月16日(金)・・・多摩動物公園雑木林での実習

③ 企業の活動受け入れ

近年、企業による環境活動は拡大しており、社員教育やCSR活動の一環として、里山での保全活動を希望する企業も増加傾向にある。

企業名	実施日、場所、参加者数	実施内容
東京セキスイハイム株式会社	2017年4月25日(火) ライオンの森 社員 計38人	CSR活動(環境保全活動への貢献) ※2回とも同様 ササ刈り、杭づくり、薪割り、階段補修
	2017年11月14日(火) ライオンの森 社員 計60人	
SMBC 信託銀行	2017年5月2日(水) ライオンの森 59名	新入社員を対象とした社員研修 里山保全の意義(ワークショップ)、ササ刈、保護柵の補修等
ローソン 株式会社	2017年7月1日(土) ライオンの森 61名	CSR活動及び環境教育プログラムの実施 ササ刈り、薪割り、葉っぱのオリジナルハンカチづくり
新生フィナンシャル株式会社	2017年11月11日(土) ライオンの森 35名	CSR活動及び環境教育プログラムの実施 ササ刈り、薪割り、葉っぱカルタ
凸版印刷株式会社	2017年11月25日(土) ライオンの森 30名	CSR活動及び環境教育プログラムの実施 ササ刈り・アレチウリの駆除、薪割り、階段の補修、どんぐり探し
MOTTAINAI キャンペーン	2017年12月2日(土) ライオンの森 65名	MOTTAINAI×TAMAZO 森づくりプロジェクト ササ刈り、落葉集め、薪割り、秋のいろいろ色探し

⑩ 真堂が谷戸蛸の会

○ 活動目的・活動内容

真堂が谷戸は、日野市の東側百草地区の最東端にある小さな小さな里山です。ここは、雑木林からの湧水だけで、カワニナ、サワガニ、ホタルなどが細々と生息していることから当会では、ホタルだけではなく、生物多様性を考慮した里山の保全活動と位置づけています。

2010年4月には40坪ほどの田圃を復元し、田植えから、稲刈りそして収穫祭(餅つき大会)まで会員一同、楽しく取り組んでいます。

活動内容は、雑木林の下草刈り、萌芽更新作業、流れの管理、畑や田の管理、ビオトープづくり、ホタルの調査などです。

定例活動は月3回とし、会員一同楽しい汗を流しています。

6月上旬から7月初旬までの1ヶ月間は、毎晩3人1組となり、ホタルの調査活動(個体数のカウント、気温、水温、湿度など)を実施しています。今後も、注意深く調査活動を続け見守っていかねばなりません。

また、市と協働で市民を対象に「ホタルの夕べ」を開催し、この貴重な環境を市民に知ってもらい、守ることに挑戦しています。

私たち「真堂が谷戸蛸の会」は、雑木林で、汗をかき、楽しい1日だった事に、喜びを感じるボランティア活動を目指しています。

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

- 会 員 数:26 人
- 活動場所:日野市百草「真堂が谷戸」、百草園前緑地
- 代 表 者:板坂 泰治
- 連 絡 先:事務局 笹木 延吉 電話:042-642-0422
- 活動実績:月 3 回(第 1 日曜日、第 3 木曜日、第 4 土曜日)

実施日	テーマ	場所	参加人数
2017. 4. 2	苗圃の草刈り	真堂が谷戸	10
4. 20	ビオトープの整備	真堂が谷戸	8
4. 29	梅林の草刈り、樹木剪定	百草園前	8
5. 7	総会	自治会館	15
5. 18	田んぼならし、斜面の草刈り	真堂が谷戸	10
5. 27	下草刈り	百草園前	7
6. 4	田植え	真堂が谷戸	15
6. 15	水路際の除草、雑木整理	真堂が谷戸	9
6. 21	蛍の夕べ(日野市と共催)	真堂が谷戸	35
6. 24	斜面草刈り作業	真堂が谷戸	8
7. 2	西側斜面の草刈り他	真堂が谷戸	13
7. 20	草刈り、ミョウガ取り	真堂が谷戸	9
7. 29	梅の選定、下草刈り	百草園前	6
9. 3	道路際の草刈り他	真堂が谷戸	13
9. 14	丘上草刈り他	真堂が谷戸	6
10. 1	田んぼの水抜き、椅子作り	真堂が谷戸	10
10. 14	稲刈り、掛け干し	真堂が谷戸	7
10. 28	梅の剪定、下草刈り、モッコク伐採	百草園前	7
11. 5	フェンス撤去、草刈り	真堂が谷戸	11
11. 16	腐葉土を田圃に運搬	真堂が谷戸	6
11. 25	ユズ、ミカンの収穫と剪定	百草園前	9
12. 3	落ち葉かき、剪定作業	真堂が谷戸	12
12. 21	落ち葉かき	真堂が谷戸	8
2017. 1. 18	落ち葉運搬	真堂が谷戸	6
2. 4	貯水槽の整備	真堂が谷戸	10
2. 15	樹木伐採	真堂が谷戸	7
2. 24	モッコク 3 本伐採、階段作り	百草園前	6
3. 4	間伐材の整理、モミジ植栽	真堂が谷戸	11
3. 15	高木 2 本植栽他	真堂が谷戸	5
3. 24	鉄パイプ抜き、柑橘類植栽他	百草園前	6

⑪ 雑木林ボランティア講座

市民団体と行政の協働で開催している第13期雑木林ボランティア講座(2017年度)は11回開講しました。講座内容の詳細は、水と緑の日野・市民ネットワーク(P. 88)をご参照ください。

4. 環境への取組状況

⑫ツバメのくるまち事業（日野の自然を守る会）

○活動内容

旧日野市環境情報センターから日野の自然を守る会が引継ぎ実施している事業が「ツバメのくるまち絵はがきの作成」です。

市内小学校の協力をいただき、2017年度は202点の応募がありました。この中から優秀賞2点と入選作品8点が選ばれ、賞状と副賞が贈られました。

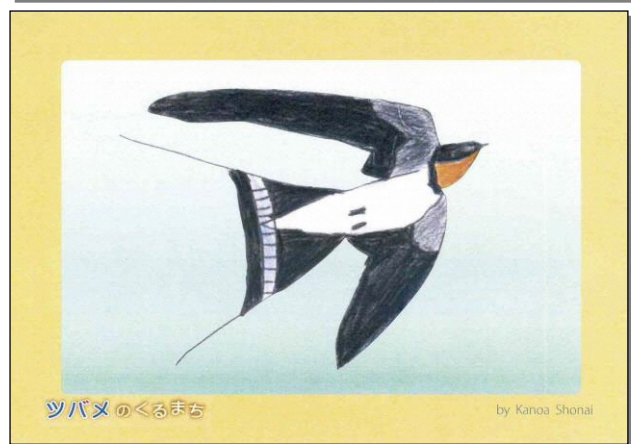
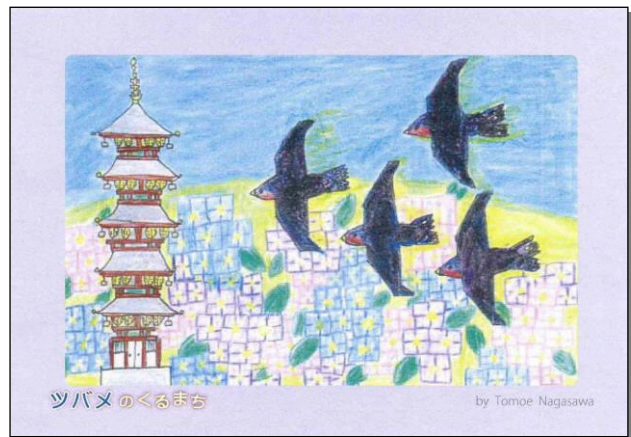
優秀賞の2点はカラー印刷の絵はがきになり、環境関係のイベント会場や自然観察会などで無料配布されます。

＜優秀賞受賞＞は写真の上から順に

- ・永澤 友瑛さん（南平小学校3年）
- ・庄内 叶明さん（第四小学校3年）

です。

なお上記の学年は応募時（2017年度）の学年です。



⑬南丘雑木林を愛する会

○活動目的・活動内容

日野市の雑木林を守るため、市民と行政との協働で開催している「日野市雑木林ボランティア講座」の卒業生を中心に、“明るく健全な雑木林を次世代に”をスローガンに2007年にスタートした雑木林を守るボランティア団体です。

南平丘陵公園を拠点に、雑木林の下草刈り、粗朶(そだ)柵作り、萌芽更新(ほうがこうしん)作業等を中心に活動しています。チェーンソーや刈り払機の使用に際しては、会員を積極的に安全講習会に派遣し、専門的な技術を習得しています。また、イギリスのBTCV(British Trust for Conservation Volunteers)のように、近隣の雑木林や他の団体などに、応援ボランティアを派遣できる成熟した団体を目標に活動しています。

「ボランティアは人のためにやるのではなく、自分のために(目的意識のため)活動するものです。」を合言葉に楽しい汗をかいています。

○会 員 数:34人

○活 動 場 所:南平丘陵公園、近隣の雑木林など

○代 表 者:橋本 幸久

○連 絡 先:事務局 笹木 延吉 TEL:042-642-0422

○活 動 日:毎月第二日曜日、第四木曜日(9:00～15:00)

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

○ 活動実績

実施日	活動内容	場所	参加人数
2017. 4. 9	外来植物等駆除（ヒヨドリバナ、ハルジオン）・植物観察 ＊活動は午前のみ	野草園など	6
4. 27	植物観察（南丘～動物園脇～南平8丁目）＊ 活動は午前のみ	南平丘陵公園他	13
5. 14	平成29年度総会・懇親会	事務所・中央広場	25
	植物観察（フェノロジー調査対象樹木確認）	西側（南高側）	
5. 25	雨天中止		－
6. 11	カシ垣根剪定 スキ刈り（カバナキリエリア） 椎茸ホダ木本伏せ（コナラ x1、カシ x2 伐採）	中央広場 炭焼き小屋裏斜面	20
6. 22	下草刈り（刈払機と手刈りを併用）	野草園 瓢箪池	
7. 9	愛宕山応援・道路側と西住宅側の草刈り フェノロジー調査	愛宕山 南丘	14 1
7. 27	草刈り（刈払機と手刈りを併用） 草刈り除草（カバナキリとカトラノオエリア）	野草園 瓢箪池 中央広場	10
8. 3	日野自工高校ボランティア体験サポート（園 路に砂利を敷く）	東尾根など	
9. 10	刈払機安全講習会事前実技体験、下草刈り（チ ップソーとロープ式を実施）	野草園	22
9. 27	刈払機安全講習会	カワセミハウス	7
9. 28	雨天中止		－
10. 8	ヤマザクラ倒木処理間伐 （コナラ、クヌギ、シデ各1本）	西側（南高側）	15
10. 26	ヤマザクラ倒木処理粗朶柵撤去と草刈り 間伐（イシデ x2、イシデ大径木 x1 は伐倒まで）	西側（南高側）	11
11. 12	愛宕山応援・道路側と西住宅側の草刈りなど 草刈り、倒木処理（材木 x1）	愛宕山 中央広場東、西	10 8
11. 23	雨天中止		－
12. 10	中央広場斜面草刈り（刈払機と手刈りを併用）	中央広場東 西側	19
2018. 1. 14	間伐／萌芽更新、ホダ木作り （コナラ x16、クヌギ x1）	中央広場東斜面	18
1. 25	ヤマザクラ倒木4本処理	ひょうたん池	8
2. 11	間伐／萌芽更新、ホダ木作り、粗朶柵工	中央広場東面	11
2. 22	雨天中止		－
3. 11	間伐（コナラ x1、シデ x1、コノキ x1）、常緑樹伐採 ホダ木整理（長さを揃える）、チェーンソー講習	中央広場東面尾根 中央広場	18
3. 22	雨天中止		

⑭農の学校

○ 活動目的

農業者の高齢化など担い手不足を補うため、「農の学校」を開設し、農業知識と技術を習得してもらい、援農ができるよう援農ボランティアを育成し農業者を支援していく。

○ 人 数：15人 ※2018年1月より「農の学校」14期生開校

○ 代 表 者：農の学校 校長 日野市長

○ 活動場所：日野市立七ツ塚ファーマーズセンター（日野市新町5-20-1）

○ 連 絡 先：日野市役所都市農業振興課農産係 電話：042-514-8447

○ 情報提供方法・活動実績

・平成16年度開校（平成17年1月より）

※第3次日野市農業振興計画・アクションプラン、第2次日野市農業振興計画・アクションプラン、第2次日野市農業振興計画・後期アクションプラン、第5次日野市基本構想・基本計画に基づく。

4. 環境への取組状況

＜内容＞

- ・講座による知識の習得（月 1 回）：農業基礎講座テキスト（野菜の栽培）、農薬の使い方
- ・圃場（畑）での実習により技術の習得（月 2 回～5 回）：
土づくり、鍬・草かき等の道具の使い方、種まき、除草、間引き、収穫など
※作物（ジャガイモ、トウモロコシ、サツマイモ、スイカ、カボチャ、サトイモ、ヤツガシラ、大豆、ダイコン、カブ、ニンジン、ハクサイ、ホウレンソウ、コマツナ、長ネギ）
- 参加者募集方法
 - ・11 月 15 日、12 月 1 日の広報及びホームページ等で募集予定
 - ※ひのよさこい祭り、産業まつり農業展で PR 活動

⑮ 八王子・日野カワセミ会

- 活動の目的
日野市内及び八王子市内で野鳥を観察する市民団体です。浅川や多摩川で野鳥の観察を通じて自然に接し楽しむこと、及びそのために野鳥が安心して棲める環境を作ることに関与することを目的としています。
- 活動の内容と取り組み状況
 - ・月 1 回会員及び一般市民を対象に浅川や多摩川で探鳥会を実施
 - ・20 ヶ所の地域で毎月 1 回、野鳥の生息数をカウント調査
20 ヶ所のうち、日野市内では以下の 4 ヶ所で実施
浅川（長沼橋～一番橋）、浅川（一番橋～多摩川合流付近）
多摩川（谷地川合流付近）、多摩川（浅川合流付近）
 - ・8 ヶ所の東京都指定保全緑地地域での野鳥の生息数をカウント調査
8 ヶ所のうち、日野市内では、東豊田地区で実施
 - ・その他、冬鳥・夏鳥の一斉調査、カルガモ・ツバメ・イワツバメ営巣調査、サシバの渡りなどの調査
 - ・小中学生に対する野鳥観察支援、他団体からの野鳥観察依頼に対し野鳥観察の支援
 - ・日本各地の野鳥観察地に出向き、地元の関係者との交流を通じた野鳥観察
- 設 立 年：1985 年設立
- 会 員 数：241 人、会員は随時募集（年会費 1000 円）
- 連 絡 先：粕谷 和夫（八王子・日野カワセミ会会長）TEL：090-6125-5769
E-mail：kasuya.kazuo688@gmail.com
- 情報提供方法：活動の結果の公表
年 2 回（3 月と 9 月）会報「かわせみ」を発行、日野市内の図書館に寄贈
ホームページで広報 <http://kawasemi.maon.jp/>

⑯ 東豊田緑湧会

- 活動目的・活動内容等
東豊田緑地保全地域の自然環境を荒廃させないため、定期的に手入れを行い、身近な自然を永く保存し、明るい雑木林として維持するために緑地保全等を継続して 20 年になる。企業の社会貢献活動（グリーンシップアクション）も積極的に受け入れ、2005 年度の「水と緑の日野・市民ネットワーク」の設立にも関わり、市の緑環境行政にも精力的に協力している。
- 主な活動項目
 - ・下草刈り、間伐、除伐、古損木処理、剪定、枝打、萌芽更新地管理、実生の移植
 - ・特殊植物保護、清掃活動
 - ・湧水群・流水路の保全・保護
 - ・企業や学校との社会貢献活動の協働

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

・東京都及び日野市との保全計画の協働策定

- 人 数：23人
- 活動場所：東豊田緑地保全地域（黒川清流公園、多摩平第1緑地、多摩平第6公園を含む）
- 連絡先：小太刀 智明（E-mail：tweety-satopi@u01.gate01.com）
- 情報提供の方法：東京都ウェブサイト「里山へGO!」・清流ニュース・広報・チラシなど
- 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数 (延人数)
2017. 4. 1、15	特殊植物保護活動	希少植物の株数記録、生育補助の為に除草 盗掘防止のための花摘み	21
2017. 5. 6、13、20 7. 1、15 9. 2、16 10. 7、21 11. 19 12. 2 2018. 2. 3	下草刈り・笹刈り	萌芽更新地の下草や笹を刈り、雑木の再生を助 長し健康な樹木を育てる	109
2017. 5. 20 11. 18 2018. 3. 24	グリーンシップ アクション	企業の社会貢献活動に対応し、保全活動の 体験作業を開催。 3社3日間	124
2017. 6. 3、17	外来種除去活動	オオバクサやキシノウエなどの外来種を除 去する作業。	16
2017. 8. 5、19	湧水の保全・保護	流水路の除草と落葉採り 湧水口の整備	15
2017. 11. 4	草地管理	草地の環境を維持する為の選択除草 外来種・先駆的植物の調整及び除去	9
2017. 12. 17	大規模清掃活動	保全地域全域の不法投棄物回収と巡視 小規模な清掃活動は随時実施	10
2018. 1. 6 2. 17 3. 3、17	倒木処理・剪定	風倒木や枯損木の処理と既存樹木の剪定。 樹形整備の目的。	27
2018. 1. 20	除伐	常緑照葉樹類の除去・混み合い樹木の間引 不法に植栽された園芸種の除去	7

⑪ 日野産大豆プロジェクト

- 活動目的
「地元で採れた大豆を学校給食で子供たちに食べてほしい」と日野市内の小・中学校の栄養士、調理員、農業者、大学生、市民ボランティアなどが協力して立ち上げたプロジェクトで、2017年度で14年目となりました。収穫された大豆は、市内の全小中学校の学校給食で活用されます。また、大豆の種は小学校の学童農園用の種にも提供され、収穫した大豆は豆腐づくりや味噌づくり等の食農教育に活かされます。なお、11月の日野市産業まつり等で、日野産大豆プロジェクト活動を市民に広くPRしています。
- 人 数：約30人
- 活動場所：東光寺地区
- 連絡先：事務局：日野市役所 都市農業振興課 農産係 TEL:042-514-8447
- 代表者：和田 守男
- 参加募集方法等：市HP、チラシ等
- 活動実績：種まき、除草作業4回、収穫、脱穀、選別、豆腐作り体験

4. 環境への取組状況

⑩ ひの市民リサイクルショップ回転市場

○ 活動目的・活動内容

日野市の支援のもと 1992 年創立。市民から無償で提供された中古衣類・雑貨品等の販売を通して、「使い捨てのくらしを見直し、①物を大切に使うくらし ②ごみになる物を買わないくらし ③ごみを出さないくらし」に変えていく呼び掛けをし、それに役立つ情報の発信と実践活動をしています。また、安全で環境に負荷の少ない石けん製品の販売もしています。売上金は店の運営や市民還元イベントなどに活用しています。また、開店当初から買い物袋持参でレジ袋辞退を呼びかけています。

○ 人 数:17 人

○ 活動場所:万願寺店 多摩平店 日野市生活・保健センター

○ 連絡先:万願寺店 (TEL:042-587-1787)・地域協働課 (TEL:042-581-4112)

○ 代表者:吉田 克美

○ 情報提供・会員募集・イベント参加募集:店頭・広報ひの・ポスター・チラシ

○ 活動実績

実施日	内 容	参加人数
2017. 7. 1	創立 25 周年記念フェア/市民還元イベントの同時開催 回転市場を支援して下さる全ての皆様に感謝をこめて両店で実施。スタッフによる手作りワンポイント刺繍の布巾を購入者に進呈。福祉作業所、リサイクル事務所等他団体との協賛。初めての取り組みとして、NPO 法人フードバンク TAMA との協賛でフードドライブを行った。	150

他に「会員学習会」「着物特別販売」「出張キャンペーン」を開催。「まちづくり市民フェア」「日野市レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」「くらしの輪連絡会」「まち活」に参加。

⑪ 日野団塊世代広場

○ 活動目的・活動内容

「日野団塊世代広場」は、『生きがい、働きがい、地域がい』を持って、健康で生活を楽しみながら地域づくりに貢献することを目的として活動しています。新選組まつり等のイベントのお手伝いやパソコン、太極拳などの教室も開催しています。

活動の一環として 2009 年から百草山での「明るい雑木林」作りに取り組んでいます。11 人で雑木林チームを編成しており、8 人は「雑木林ボランティア講座」の修了生です。活動としては、林の手入れ作業を行いながら次のような取り組みを行なっています。

- ・植物の貴重種の確認など現況の調査及び観察会の実施
- ・竹ぼうくりの製作、イベントにて子供たちに配布を行い子供の運動能力向上に資する。
- ・作業後放置していた竹・笹に生ごみ発酵促進剤を使って早期腐葉土化の試み、市民無償配布時に『生ごみを燃えるごみとして出さない』よう呼びかける。
- ・どんぐりクラフトづくりをイベントにて子供たちに実施、工作の楽しさを教える。
- ・産業まつりや市民活動フェアに出展し、日野団塊世代広場の活動のPRや手作り品等の販売

○ 人 数:24 人 百草山活動者 延べ 133 人/2017 年度

○ 活動場所:京王百草園駅から徒歩5分、百草園の北側に隣接した雑木林主体の緑地

○ 活 動 日:第2日曜日、第4土曜日9時～15時

○ 連絡先:日野団塊世代広場事務所(日野市平山台健康・市民支援センター内)

TEL:042-843-8723 E-mail:info@dsedai.com

○ 情報提供・参加募集方法等:ホームページ <http://www.dsedai.com/>

“日野団塊世代広場”で検索

⑳ ひのどんぐりクラブ（日野市環境学習サポートクラブ）

○ 活動目的・活動内容

ひのどんぐりクラブの主な活動は、市内小・中学校の生活科、総合学習、理科など児童・生徒たちの野外での体験学習の付き添いや指導、自然物（木の実や葉っぱ）を使った工作などの学習支援です。

2017年度の学校などへの支援数は86回、支援対象人数は延べ7,088人でした。

○ 人 数:15人

○ 代 表 者:有馬 佳代子

○ 活動場所: 日野市内小・中学校、市内公園・緑地・浅川・多摩川、カワセミハウスなど

○ 連 絡 先: 日野市立カワセミハウス内 杉浦 TEL:042-581-1164 FAX:042-581-1164

○ 活動実績

月日	学校名等	学年	学級・クラブ	児童数	テーマ	支援人数
2017.4.1	カワセミハウス				アイスバーの竹トンボ	7
4.24	南平小	3	2	77	ツバメの学習	2
4.25	南平小	1	3	82	ネイチャービンゴ	6
5.11	三小	2	2	60	タンポポの不思議	5
5.13	潤徳小	水辺の楽校			竹笛、ストンペイント他	5
5.23	仲田小	3	PTA		布の精錬と打合せ	3
5.29	南平小	3	3	80	ツバメの観察	4
5.30	潤徳小	4	4	128	ガサガサ	6
6.6	潤徳小	2	4	113	葉っぱでスタンプ	5
6.7	一小	4	2	70	日野の自然、仲田の森	4
6.9	四小	2	4	129	ガサガサ	6
6.10	南平小	1	3	82	葉っぱでスタンプ	6
6.10	滝合小	3	2	66	ガサガサ	2
6.14	四小	1	4	122	ガサガサ	5
6.20	仲田小	4	2	62	ガサガサ	8
6.23	南平小	3	2	77	ガサガサ	7
6.26	南平小	1	3	82	ガサガサ	5
6.27	仲田小	4	2	62	多摩川博士になろう（鳥、植物）	3
7.4	仲田小	3	2	60	藍染	6
7.4	三小	4	2	67	ガサガサ	1
7.5	三小	ひばり学級	1	28	谷地川事前学習	2
7.7	平山小	3	3	90	ガサガサ	7
7.10	三小	ひばり学級	1	28	ガサガサ（第一回谷地川探検）	2
7.11	五小	1・2	4	122	黒川清流公園ビンゴと水遊び	6
7.13	五小	1・2	4	122	黒川清流公園ビンゴと水遊び	4
7.14	一小	1・2	4	137	バッタ取りの事前学習	1
7.30	日野高校			30	天体観察会	4
8.13	あゆ祭り				生き物カルタと日野写真展	10
8.27	黒川子供育成会			35	葉っぱでスタンプ	5
9.4	南平小	1・3	5	159	バッタ捕り	4
9.4	三小	6	2	45	生き物のつながり	1
9.5	潤徳小	3	3	105	バッタ捕り	4
9.5	七小	6	1	31	生き物のつながり	1
9.6	七小	6	1	30	生き物のつながり	1
9.8	七小	6	1	30	生き物のつながり	1
9.8	平山小	3・若草	3	101	バッタ捕り	6
9.9	平山小	3	3	87	葉っぱでスタンプ	8
9.9	水辺の楽校			20	バッタ捕り	2
9.9	滝合小	3	2	66	ガサガサ	2
9.11	一小	2	2	67	バッタ捕り	4
9.13	府中一小			12	どんぐりクラブの活動報告	1
9.14	仲田小	3	2	60	バッタ捕り	4
9.15	七小	2	3	98	魚の話	1
9.16	七小	3	3	102	ガサガサの事前学習	1
9.21	七小	3	3	102	ガサガサ	6
9.24	学芸大学			200	科学の祭典	1
10.3	四小	3	2	63	バッタ捕り	3
10.5	三小	ひばり	1	22	バッタ捕り（谷地川探検）	4
10.5	四小	3	2	63	バッタ捕り	5

4. 環境への取組状況

月日	学校名等	学年	学級・クラブ	児童数	テーマ	支援人数
10. 6	五小	1	4	124	松ボックリの剣玉	6
10. 10	六小	1	4	112	どんぐり拾いとゲーム	5
10. 10	三小	4	2	62	ガサガサ	1
10. 11	七小	2・3	6	200	バッタ捕り	7
10. 13	多摩平児童館			60	ペンダント作り	5
10. 16	一小	4	2	69	葉っぱでスタンプ	6
10. 17	一小	2	2	67	葉っぱでスタンプ	8
10. 21	八小	1	4	121	葉っぱでスタンプ	6
10. 21	滝合小	3	2	68	魚の話	1
11. 1	七小	2	3	98	どんぐり拾いとゲーム	3
11. 6	四小	3	4	126	多摩川の植物調べと草遊び	5
11. 9	四小	2	4	126	どんぐり拾い	5
11. 10	南平小	1	3	82	壁掛け	8
11. 13	三小	2	2	61	紙飛行機	5
11. 15	六小	1	4	122	壁掛け	7
11. 22	四小	1	4	122	朝顔のリースと松ぼっくりツリー	6
11. 24	四小	2	4	126	芋づるのリース	5
11. 27	三小	1	2	68	葉っぱでスタンプ	4
11. 29	東光寺小	2	3	83	ヤジロベイ	4
12. 1	南平小	1	3	82	アサガオのリース	4
12. 5	滝合小	1	3	82	芋づるのリース	5
12. 7	三小	1	2	68	松ぼっくりツリー	5
12. 8	八小	2	4	109	松ぼっくりツリー	4
12. 14	東光寺小	2	3	83	松ぼっくりツリー	6
12. 15	平山小	1	3	85	芋づるのリース	7
12. 21	四小	2	4	126	松ぼっくりツリー	6
1. 13	六小	2	4	115	松ボックリの剣玉	5
1. 16	平山小	1	3	85	連風作り	6
1. 19	一小	4	2	69	地図作り	6
1. 22	三小	2	2	61	連風作り	4
1. 26	四小	1	4	122	連風作り	6
1. 27	四小	2	4	126	松ボックリの剣玉	4
1. 30	南平小	1	3	82	連風作り	8
2. 13	八小	1	4	121	連風作り	5
2. 16	八小	2	4	113	アイスバーの竹トンボ	8
2. 22	七小	4	3	94	生き物の冬越し（事前学習）	1
3. 13	七小	4	3	94	冬芽など冬越しの観察	5
児童延べ人数				7088	支援延べ人数	389

㊴日野の自然を守る会

○ 活動目的・活動内容

本会は、日野の自然を守り、市民の間に自然尊重の心を養い、その保全と復元に努力し、人間性豊かな社会の発展に寄与することを目的とする。（会則第三条 目的）

活動内容としては、本会の目的を達成するため、日野の自然を守る市民運動、調査・研究、自然保護に関する啓蒙普及、自然観察会・研究会等の実施、会誌その他出版物の発行その他本会の目的達成に必要な事業を行う。（会則第四条 事業）

○ 会 員 数：160名（2017年度末）

○ 代 表 者：山本 浩

○ 活動場所：日野市を中心として首都圏・関東一円

○ 連 絡 先：事務局 〒191-0062 日野市多摩平3-12-2（江面方） TEL042-583-6808

○ 情報提供：会誌 日野の自然（月刊）

会ホームページ <http://hinonosizen.sakura.ne.jp>

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

○活動実績

実施日	行事名	参加人数	備考
2017. 4. 2	楽しい昆虫ウォッチング 6「石砂山で春の女神キョウと昆虫たちを観る」	21	
4. 11	植物ウォッチング 10「春の高尾小下沢で植物を観る」		雨天中止
4. 16	奥多摩ウォッチング 16「武蔵五日市駅・戸倉城山」	12	
4. 30	より鳥みどり観察会 69「新緑の雑木林で渡り途中の夏鳥を探す」	49	
5. 7	楽しい昆虫ウォッチング 7「生きている化石ムシと春のチョウを観る」	15	
5. 21	植物ウォッチング 11「陣馬山の植物を観る」	18	
5. 28	地球の窓シリーズ 15「日野の台地の生いたちをさぐる No.1」	18	
6. 4	より鳥みどり観察会 70「ツバメと浅川の夏鳥たち」	26	
6. 11	中央線沿線ウォッチング 136「西国分寺駅・八国山緑地」	20	
6. 21	植物ウォッチング 12「初夏の小野路」		雨天中止
6. 25	楽しい昆虫ウォッチング 8「雑木林の蝶と初夏の昆虫たち」	7	
7. 17～18	楽しい宿泊昆虫ウォッチング 9「八ヶ岳高原の昆虫を観る」	11	
7. 23	植物ウォッチング 13「ワタハコ咲く高尾蛇滝道」	23	
7. 30	楽しい昆虫ウォッチング 10「夏の夜の林の昆虫たち」	26	
8. 4	親子観察会「川の生き物を探そう」	15	
8. 6	楽しい昆虫ウォッチング 11「空飛ぶ宝石タマシとコムサキ」	12	
8. 11	植物ウォッチング 14「バアツ咲く東光寺緑地」	22	
8. 27	中央線沿線ウォッチング 137「立川駅・矢川緑地とママ下湧水」	18	
8. 28	「大木島自然公園で自然観察とアイの生葉染め」	19	
9. 10	楽しい昆虫ウォッチング 12「秋の夜長にマツムシ、スズメシ、カンタンを聴く」	12	
9. 24	植物ウォッチング 15「多摩川上流ー古里から鳩ノ巣溪谷」	13	
9. 30	より鳥みどり観察会 71「城山鳥見ハク&日影沢の秋の花」	27	
10. 7～8	宿泊ハイキング「八ヶ岳高原の自然」	17	
10. 15	楽しい昆虫ウォッチング 13「河川敷の秋の蝶と昆虫を観る」		雨天中止
10. 22	植物ウォッチング 16「秋の花咲く小峰公園」		雨天中止
11. 5	地球の窓シリーズ 16「日野の台地の生いたちをさぐる No.2」	12	
11. 12	奥多摩ウォッチング 17「武蔵五日市駅・大羽根山」	16	
11. 19	より鳥みどり観察会 72「秋の浅川の身近な野鳥たち」	27	
11. 26	植物ウォッチング 17「紅葉の大垂水峠から高尾を歩く」	22	
12. 3	より鳥みどり観察会 73「バードウォーク 2017」	35	
12. 24	中央線沿線ウォッチング 138「都留市駅・烽火山」	17	
1. 14	奥多摩ウォッチング 18「宮の平駅・馬引沢峠」	22	
1. 21	より鳥みどり観察会 74「黒川公園ニューイヤーカウント 2018」	26	
1. 28	植物ウォッチング 18「白山神社から絹の道を歩く」	18	
2. 17	地球の窓シリーズ 17「日野の台地の生いたちをさぐる No.3」	18	
2. 18	より鳥みどり観察会 75「多摩丘陵の冬の野鳥と生き物たちの冬越し」	29	
2. 25	植物ウォッチング 19「早春の高尾ー初沢山」	24	
3. 11	観察会「八王子市堀之内の緑を巡る」	7	
3. 18	より鳥みどり観察会 76「多摩川・浅川合流点付近：渡り前の冬鳥達と河原の春」	35	
3. 25	植物ウォッチング 19「カクリ咲く片倉城址周辺を歩く」	33	
	参加者小計	742	
特別行事			
2017. 4. 29	第 46 回定期総会	21	
2018. 1. 7	新春自然へのお誘い	34	
	参加者小計	55	
	観察会・特別行事参加者合計	797	
その他			
毎月 2 回	大木島自然公園の手入れ	217	
	述べ参加人数合計	1014	

4. 環境への取組状況

㊼日野の水車活用プロジェクト

○ 活動目的・活動内容

プロジェクトの活動目的は水車が廻る環境を活用して市民が共通の話題で集うコミュニティの場として、また水車による精米と用水の関係を研究、子供たちの環境学習に日野の歴史と用水の大切さを学ぶ場としての出前授業等、そして近き将来は再生可能エネルギーの一つである小水力発電(マイクロ発電)の可能性を追求する事。その他市外の関係団体との交流と学習をする。

○ 人 数 :40人

○ 活動場所:水車小屋、市内会議室、市外

○ 代 表 者:多田 啓介 TEL:042-594-3739

○ 事 務 局:佐藤 美千代 TEL:042-594-0745

○ 情報提供:会報、E-mail:michiyo6969@jcom.zaq.ne.jp、リーフレット等

○ 活動実績

実施日	テーマ	内 容	参加人数
2017. 4. 1	カワセミハウス開所式に出展参加	プロジェクトのPRの為のパネル3枚と発電用機器、模型の水車を展示、パンフレットも置いた	5
4. 15	日野市環境保全課主催「小水力発電を考える会」に参加	「小水力発電を考える会」のメンバーとして各グループに分かれて参加	4
5. 19	同上	「小水力発電を考える会」のメンバーとして各グループに分かれて参加	3
6. 1	同上	「小水力発電を考える会」のメンバーとして「ピコピカ水車」の組立イベントに参加	3
6. 22	イモ洗い水車の実演	せせらぎ農園収穫祭でジャガイモをイモ洗い水車で実演	12
7. 1	日野市環境保全課主催「小水力発電を考える会」に参加	万願寺中央公園で開催の「一日エコパーク」に参加イモ洗い水車の実演と模型の水車・手動発電機の展示	6
8. 13	アユ祭りに参加出展	アユ祭り開催時に模型の水車を出展、午後には向島親水路の水車で精米の実験や粃すり機の実演とラセン水車「ピコピカ」の実験を披露	15
10. 15	まちづくり市民フェアに参加	フェアに模型の水車・手動式発電機の展示及び活動状況などのパネル展示などのPR活動	6
10. 15	日野用水開削 450 周年シンポジウムに参加	シンポジウムに参加	3
11. 4	カワセミハウスオクトーバーフェスに出展参加	近隣自治会、環境関係の団体と一緒に模型の水車・手動発電機の展示と活動状況説明のパネル展示など	5
11. 11	水車小屋の補修	向島水車小屋のテーブルの汚れ落としサンダーで研磨、小屋内の清掃	8
11. 21	潤徳小学校 5 年の授業支援	潤徳小学校 5 年の授業支援で精米と粃すり体験をし、水車の働きなど紙芝居と動画で説明(4 クラス 120 名に分かれて順番に)	153
12. 2	山梨県西原の水車見学	西原のびりゅう館の水車や他の水車を見学、地元の人たちとの交流	9
12. 16	万願寺中央公園での「一日限りのイルミネーション」イベントに参加	「小水力発電を考える会」主催のイベントに協力参加。模型の水車・手動式発電機の展示など	10
2018. 2. 17	カワセミハウス環境分科会キックオフに参加	キックオフ会議に参加	2
3. 24	落川交流センター保管の水車の検討	保管水車の今後の活用について検討	4

㊸日野みどりの推進委員会

○ 活動目的・活動内容

東京都が緑地保全活動の目的で1974年に「緑の監視員」制度を設立し、後に「みどりの推進委員」に名称変更して2003年度まで存続しましたが、都の組織改革に伴い廃止になりました。その後、日野地区会はボランティア団体として名称を「日野みどりの推進委員会」に変更して活動を続けてきました。南平丘陵公園を中心とした自然観察会を毎月実施し、観察会を通して「緑地の保護・保全の必要性」を参加者にアピールし、「保全作業へのボランティア参加・協力」を呼びかけています。

- ・自然観察会：毎月（原則第4土曜（8月を除く年11回））市と共催して実施。観察会を通して緑地保全がいかに大切かを市民に紹介している。
- ・その他：市の行事等への協力

○ 人数：12人

○ 活動場所：南平丘陵公園ほか市内及び近隣市外緑地

代 表 者：会 長 杉浦 忠機

連 絡 先：事務局 日野市緑と清流課 TEL：042-514-8307

○ 参加応募方法

毎月の自然観察会への参加応募は市の広報紙「広報ひの」で毎月案内します。マスコミにも連絡して広く案内されるよう努力しています。

○ 活動実績（定例観察会）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2017. 4. 22	「春の里山を訪ねて～珍しい野草が待っているよ」	大宮神社、百草八幡宮、百草の緑地信託地等で春に咲く花を観察	26
2017. 5. 27	「初夏の浅川を散策しよう～サイカチの花を見よう」	長沼橋から河原に咲く草花を観察	17
2017. 6. 24	南平丘陵公園でキノコを観察しよう	南平丘陵公園で雑木林に自生するキノコを観察	15
2017. 7. 20	夜の雑木林を観察しよう	夕暮れ時に活動する昆虫や、夜に光に集まる昆虫などを親子で雑木林の中で観察 講師 川那部真氏（昆虫博士）	42
2017. 9. 23	小宮公園で初秋の雑木林を訪ねよう	講師の話を聴きながら小宮公園内の雑木林を観察しながら散策 講師 菱山忠三郎氏（八王子自然友の会）	20
2017. 10. 28	「秋の多摩川を訪ねよう」アワコガネギクを見よう	雨天のため中止	0
2017. 11. 25	赤や黄色に染まった晩秋の雑木林を訪ねよう	多摩動物園駅から付近の程久保の雑木林を観察しながら散策 講師 筒井千代子氏（八王子自然友の会）	15
2017. 12. 2	クリスマスリース・正月飾りを作ろう	日野市立カワセミハウスでクリスマスリースやしめ縄を作成	18
2018. 1. 27	都立長沼公園で冬の雑木林を散策しよう	降雪のため中止	0
2018. 2. 24	百草園でウメを見よう	百草園から百草八幡宮までウメやスタジイを観察しながら散策	21
2018. 3. 24	日野に咲くカタクリを見よう	日野駅付近に咲く植物を見ながら東光寺のカタクリを観察 講師 筒井千代子氏（八王子自然友の会）	35
		参加者数合計	209

4. 環境への取組状況

㊼ ひの緑のトラスト

○ 活動目的・活動内容

日野市の百草地区には、地元の方々の努力などで、市内で唯一、貴重な里山の景観が残されています。日野市ではこの地区に相続があった場合、雑木林相続面積の1/2 を寄付、残りの1/2は国に物納し、何年か後に市が買収するという方法を相続人のご好意で実施し、多くの雑木林を保存してきました。

しかしながら、市は財政危機に直面し、何年か前に物納された百草の真堂が谷戸の雑木林(3,509㎡)を国から買い取ることを中止しました。

この土地は、クヌギ、コナラなどの雑木林で、湧水が流れ、日野市ではわずかに残るホタルが生息しており、エビネの群落などの貴重植物も自生しています。また、歴史的遺物も多く出土している貴重な場所です。

この貴重な雑木林を公有化して保全を進めることを強く願う緑関連の市民団体が協議し、2009年12月に「ひの緑のトラスト」を設立しました。取得資金の一助となるよう「募金」へのご協力を市民の皆さまに呼びかけてきました。

この活動等が市を動かし、2016年度には真堂が谷戸の雑木林を公有地化することが決定しましたが、今後も市内の緑地保全のための活動を続けていきます。

○ 構成団体

倉沢里山を愛する会、真堂が谷戸螢の会、南丘雑木林を愛する会、東豊田緑湧会、日野市環境基本計画推進会議 みどりグループ、日野の自然を守る会、百草山の自然と文化財を愛する会、緑地管理ボランティアの会、市民環境大学OB会、谷仲山緑地を守る会

○ 代 表 者:会長 笹木延吉

連 絡 先:ひの緑のトラスト事務局 日野市立カワセミハウス TEL:042-581-1164

○ 情報提供・参加募集方法:広報ひの、緑のトラストパンフレット

カワセミハウスホームページ:<http://kankyo-hino.com/>

㊽ ひの・まちの生ごみを考える会

○ 活動目的・活動内容等

当会は、家庭の生ごみを可燃として出さずに資源として循環させるしくみを作りたいとの思いから、2002年に発足しました。発足以来、ごみゼロプランに基づき、ごみゼロ推進課と協働で生ごみリサイクルの拡大に取り組んでいます。その中で、下記の「まちの生ごみ活かし隊」「生ごみリサイクルサポーター連絡会」などを立ち上げてきました。

当会は、毎月1回定例会を開き、毎回ごみゼロ推進課の職員も出席して、当会としての活動についての協議や各団体の活動についての情報共有や協議を行っており、協議体の役割も果たしています。

<当会としての活動>

「まちづくり市民フェア」「シルバー人材センターリサイクルフェア」などのイベントへの参加、講演会や各種講座の開催、日野市のごみ情報誌『エコー』の「市民のページ」の編集、玄関ドアなどに掲示してもらう「生ごみリサイクルステッカー」の配布などを通じて、市民への啓発を行っています。

<まちの生ごみ活かし隊の活動> (詳細は次項参照)

2006年に発足。2008年10月に新井にコミュニティガーデンとして「せせらぎ農園」を開設し、約200世帯から回収した生ごみを畑に直接すき込み、土ごと発酵させて、野菜や草花を栽培しています。

<生ごみリサイクルサポーター連絡会の活動>

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

2009年3月に発足。2011年9月から生ごみを手軽に堆肥化できる「ダンボールコンポスト」(基材は竹パウダー)の販売を開始しました。

ダンボールコンポストの普及啓発のために、2017年度は講習会を4回開催し、また、「まちづくり市民フェア」や「カワセミハウスオープンフェスタ」などでの展示・説明を9回行っています。2017年度の申込数は171基、発売から2017年度末までの累計申込数は1,406基となっています。購入者に対するアフターフォローとして、『生ごみ菌ちゃん通信』(隔月)を発行しています。

○ 人 数：10名＋日野市ごみゼロ推進課職員

○ 活動場所

ひの市民活動支援センター(多摩モノレール甲州街道駅より徒歩3分)

○ 連絡先

代表者：佐藤 美千代 TEL:042-594-0745

ごみゼロ推進課(TEL:042-581-0444)も可

○ 参加募集：常時募集。問い合わせは、ごみゼロ推進課(電話 042-581-0444)も可。

○ 情報提供方法

ごみ情報誌『エコー』の「市民のページ」、『生ごみ菌ちゃん通信』、イベントでの展示・説明、日野市のホームページ。

○ 活動実績

「まちの生ごみ活かし隊」と「生ごみリサイクルサポーター連絡会」の活動を除いた、当会としての活動のみ掲載。

実施日	テーマ	目的・内容	参加人数
毎月 第4金曜日	定例会議	活動報告と活動計画の検討	毎回 10名前後
2017. 4. 1	カワセミハウスオープンフェスタ参加	ダンボールコンポスト展示・申込受付	60
5. 27	シルバー人材センターリサイクルフェア参加	〃	50
7. 1	万願寺交流センターまつり参加 回轉市場まつり参加	〃 〃	30 15
8. 4	エコ・クッキング講座開催	親子へのエコ・クッキングの啓発	32
9. 22	武蔵野クリーンセンター見学・意見交換	最新ごみ焼却施設の見学と武蔵野市民との意見交換・交流	10
10. 15	まちづくり市民フェア参加	ダンボールコンポスト展示・申込受付	100
2018. 2. 3	吉田俊道氏講演会&市立幼稚の 実践報告会開催	生ごみを使った、ビタミンやミネラルが豊富な野菜作りをすすめる講演と、幼稚園児たちが自ら生ごみで野菜を育て、それを食べている様子の報告。	57

㊼ まちの生ごみ活かし隊

○ 活動目的・活動内容

日野第八小学校区約 200 世帯の生ごみを回収してコミュニティガーデン「せせらぎ農園」で堆肥化し、野菜や花を育てること年間約 30 トン以上の生ごみを減量しています。農体験を通じた食育や環境教育も行なっており、年間延べ 5000 人が訪れる生ごみリサイクル情報発信の場となっています。2015 年度より田んぼの復活。2016 年度からは新たな取り組みとして①中央大学生のバスツアー受け入れ、②C-Plant(子ども食堂を企画する大学生の団体)への協力、③東京イナゴンピック開催、を行っています。幼稚園などにも出張して生ごみを使用した菌ちゃん野菜作りをサポートし、畑とお腹(腸)の微生物の働きを関連づけた食育活動を推進しています。

○ 人 数：農園登録メンバー：182 人・生ごみ回収参加者会員：171 世帯

○ 活動場所：「せせらぎ農園」 連絡先：佐藤 美千代 (TEL:042-594-0745)

4. 環境への取組状況

- 情報提供方法: ホームページ <http://ikasitai/info/>
 ブログ <http://ikasitai.at.webry.info/>
- 活動実績

	定例作業		来訪者数	せせらぎ農園で行った主なイベント	農園以外でのイベント
	活動日数	参加者数			
4 月	15	202	81		*ひょうたん田んぼ開所式 *カワセミハウスオープンフェスタ *落川交流センター炊き出し 市民マルシェ (以下: 落川市民マルシェ)
5 月	21	251	507	*天ぷらパーティー *田起こし *みさわ保育園・みさわ児童館・第五幼稚園サツマイモ定植	*「万願寺交流センター」菌ちゃん土づくり *「生活保健センター花壇」菌ちゃん土づくり *中央大学にて授業 *カワセミハウス協議会 *落川市民マルシェ
6 月	17	244	214	*麦刈り *玉ねぎ収穫 *田植え *第五幼稚園じゃがいも掘り *中大生バスツアー *チアーズクラブ環境学習 *ボランティアセンター入門講座 *じゃがいも収穫祭	*生ごみリサイクル交流集会 in 多摩 *落川市民マルシェ
7 月	17	210	90	*生ごみ参加者とご近所にじゃが玉セット配布 *みさわ保育園 小麦のとうみかけ体験 *公立11保育園の先生向け実演講習	*「実践女子大学」吉田氏講演会 *万願寺交流センター祭り *一日エコパーク *落川市民マルシェ
8 月	14	223	51	*鎌とぎ講習会 *ハーブティーバッグづくり *ブドウ狩り *カレーランチ	*青年会議所主催「まちづくり市民パーク」 *落川市民マルシェ
9 月	18	206	270	*堆肥切返し *第五幼稚園大根種まき *ラベンダー挿し芽講習 *中大生ボランティア *第八小学校生活科 まち探検 *第二回東京イナゴンピック	*武蔵野クリーンセンター見学 *落川市民マルシェ
10 月	14	220	387	*稲刈り *児童館と保育園の先生サツマイモのソル切り *台風後の片付け・大掃除 *みさわ保育園・みさわ児童館サツマイモ収穫祭	*ひの市民フェア *都市農地活用支援センター主催セミナーにて講演
11 月	17	199	417	*くん製づくり *干し柿づくり *もみすり *南新井自治会 里芋収穫祭 *第五幼稚園 サツマイモ掘り *みさわ保育園 観察・宝さがし *第五幼稚園 大根引き	*ごみゼロ収穫祭
12 月	14	185	124	*「トリノス」すいとんパーティー *みさわ保育園 宝さがし *しめ飾り作り *望年会	*小水力発電イベント参加 *落川市民マルシェ
1 月	10	134	148	*七草摘み *みさわ保育園 麦踏み *小屋づくり *雪かき・道づくり	*落川交流センターもちつき大会 *七草がゆ調理 *三河屋にてオカラ味噌づくり
2 月	10	144	51	*たこ焼きパーティー *落葉回収	*吉田俊道氏講演会&幼稚園報告会 *落川市民マルシェ *カワセミハウス環境分科会キックオフ
3 月	18	148	108	*第五幼稚園 みさわ保育園 京王キッズ じゃがいも植え付け *ビニールハウス作り	*落川市民マルシェ *「ヒラヤマちべっと」菌ちゃん土作り *「浅川リバーハウス」菌ちゃん土作り
合計	185 日	2366 人	2448 人		
総計		4814 人			

㊦ふだん着でCO₂をへらそう事業

○ 活動目的

ふだん着でCO₂をへらそう事業は、二酸化炭素（CO₂）を削減し、次世代へふるさとひのを引き継ぐと、市民、関係団体、企業、市による「ふだん着でCO₂をへらそう実行委員会」を立ち上げ、平成20年度から全国に先駆けて開始した。

市民や事業所の方々に、ふだんの生活の中で無理なくできる省エネ活動に取り組むことを啓発することで、省エネ行動を全市的な取り組みとし、日野市から排出されるCO₂を削減する事を目的とし、また、省エネ行動に向け、市民や事業所の方々に省エネ行動を宣言するという形で意思表示をしていただいている。

本事業開始時(2008年度)の宣言目標数は一般世帯35,000世帯、事業所2,500事業所であったが、これまでに目標数を大きく超える43,942世帯、2,559事業所からの宣言が集まっている。(2018年3月末現在) 今後も引き続き普及啓発を行うことで、省エネ行動の定着を図っていく。

○2017年度の主な活動内容

・事業のPR活動

市内及び各地で開催されたイベント等に参加し、日野市・ふだん着事業及びキャラクターのPRを行った。

・子ども関連施設での環境学習（小学校2校、幼稚園・保育園21園）

・自治会等地域への環境普及啓発（省エネセミナー）

・日野市環境フェアの開催（省エネ取組発表会、省エネ啓発ショー、生き物や自然についてのお話、食品ロスの啓発等）

・日野市環境かるた事業

地球温暖化を防止するため、私たちの暮らし方を見直し、地球温暖化の原因とされているCO₂の排出量を少しでも抑えるために、市内の多くの小学生から環境かるたの標語を募集し、平成27年度に環境かるたを作成した。この環境かるたを用いて環境かるた大会（ペア戦）を開催した。

・キャラクターを用いた物品の販売事業

エコクマ・エコアラのキャラクターを用いた物品を販売し、地球温暖化対策に向けた省エネ行動を広くPRした。

・「ふだん着でCO₂をへらそう 10周年記念誌～10年の振り返り～」を発行した。



日野市エコキャラクター
エコアラ・エコクマ

※ふだん着でCO₂をへらそう事業は、地球環境に配慮した持続可能な社会をつくることのできる事業として高く評価され、特定非営利活動法人環境カウンセラー全国連合会から「環境大賞」を受賞。

4. 環境への取組状況

㊼ FFATOKYO (フライ・フィッシャーズ・アグリー東京)

○活動目的・内容

2015 年 12 月に、日野市を拠点にフライ・フィッシングを始めようとする初心者、中級者を対象とした講座を開催するために発足。準備期間を 3 ヶ月もち市民活動団体、教育委員会後援の許可を受けて日野市の施設を活動拠点として、2016 年 3 月より講座を開始。

年間の連続講座で、フライ・キャストイング(投げる)講座・フライ・タイイング講座(毛ばりを作る)を隔週で開催をおこなっている。(スタディ教室 水生昆虫・陸生昆虫の学習・ライフサイクル・観察)

発眼卵放流を各地団体との連携で放流協力を行っている。(ヤマメ・イワナ)
講座は、釣りだけを目的ではなく、釣りに関わる、自然環境の学習、環境保全なども含めの学習と体験を主体としている。

○人数 正会員 26 名 賛助会員 18 名 支部 岡山(FFA 岡山) 24 名 北海道(FFANOTH) 17 名
阪神大阪フライ・フィッシャーズ 24 名
協力組織 JFF(ジャパン・フライ・フィッシャーズ)
FFI(フライ・フィッシャーズ・インターナショナル US)

○活動場所

キャストイング講座 日野市民の森 ふれあいホール・浅川・各地河川
タイイング講座(スタディ教室) カワセミハウス 日野市民活動支援センター
オープン講座 豊田南公園用地 浅川(平山橋～新井橋下流)・一般河川
2017 年 8 月より、タイイング教室はカワセミハウスに拠点を移動し、より環境に関する情報の共有を図る目的と参加者の利便性を考慮している。

○代表者 高橋 静夫 専属講師 3 名 非常勤講師 3 名 (有資格者)

○連絡先 メール ffatokyoagree@gmail.com 電話 080-6572-6298 (高橋)

○参加の方法 メールまたは、電話にて活動日を確認し参加。(消耗品費用 1 回 500 円)
初心者は道具の貸し出し品があります。

○活動の記録

教育委員会の登録で活動は、1 月～12 月の記録(2018 年度より 4 月～3 月に変更予定)

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

2017年 活動報告 (日野市教育委員会報告) 2017年1月～12月

月	活動のテーマ	活動の内容	場所	開催数	参加人数	備考		
1	フライ・フィッシング講座	フライ・タイイング教室	日野市民活動支援センター	4	32			
		実釣りスクール	うらたんざ清流釣り場	1	8			
		オープン教室	豊田南公園用地1号	1	7			
		日野市アクションプラン3中	高幡福祉センター	1	1	メンバーとして参加		
		フライ・タイイング教室	日野市民活動支援センター	2	16			
2	フライ・フィッシング講座	フライ・キャストイング教室	日野市民ふれあいホール	2	16			
		実釣りスクール	うらたんざ清流釣り場	1	7			
		まち活	豊田	1	3	日野市民活動支援センターイベント		
		JFFナチュアルミーティング	京王プリンスホテル	1	1	ゲスト 公演(活動の紹介)		
		日野市アクションプラン3中	高幡福祉センター	1	1	メンバーとして参加		
3	フライ・フィッシング講座	フライ・タイイング教室	日野市民活動支援センター	3	25			
		フライ・キャストイング教室	日野市民ふれあいホール	2	18			
		オープン教室	豊田南公園用地1号	1	6			
		実釣りスクール	うらたんざ清流釣り場	2	25			
		日野市アクションプラン3中	高幡福祉センター	1	1	メンバーとして参加		
4	フライ・フィッシング講座	フライ・タイイング教室	日野市民活動支援センター	2	18			
		フライ・キャストイング教室	日野市民ふれあいホール	2	19			
		水生昆虫スタディ	日野市民活動支援センター	1	12			
		オープン教室	うらたんざ清流釣り場	1	16	JFF川崎教室合同		
		実釣りスクール	うらたんざ清流釣り場	1	11			
5	フライ・フィッシング講座	日野市アクションプラン3中	高幡福祉センター	1	1	メンバーとして参加		
		フライ・タイイング教室	日野市民活動支援センター	2	15			
		フライ・キャストイング教室	日野市民ふれあいホール	2	16	新規参加者		
		水生昆虫スタディ	日野市民活動支援センター	1	10			
		オープン教室	フィッシュオン・鹿留	1	12			
		実釣りスクール	うらたんざ清流釣り場	1	16	JFF川崎教室合同		
		日野市アクションプラン3中	高幡福祉センター	1	1	メンバーとして参加		
		浅川あゆまつりプロジェクト	市役所503	1	2	スタッフとして参加		
		6	フライ・フィッシング講座	フライ・タイイング教室	日野市民活動支援センター	2	18	
				フライ・キャストイング教室	日野市民ふれあいホール	2	12	
水生昆虫スタディ	日野市民活動支援センター			1	12			
実釣りスクール	うらたんざ清流釣り場			1	16			
日野市アクションプラン4中	高幡福祉センター			1	1	メンバーとして参加		
7	フライ・フィッシング講座	オープン教室	養沢毛ばり釣り場	1	25			
		フライ・タイイング教室	日野市民活動支援センター	4	45	川崎教室1回		
		フライ・キャストイング教室	日野市民ふれあいホール	2	15			
		水生昆虫スタディ	日野市民活動支援センター	1	10			
		実釣りスクール	うらたんざ清流釣り場	1	18	JFF川崎教室合同		
8	浅川あゆまつりプロジェクト	日野市アクションプラン4中	高幡福祉センター	1	1	メンバーとして参加		
		地域懇談会	市民会館	1	1	メンバーとして参加		
		浅川あゆまつりスタッフ会議	市役所503	1	2	スタッフとして参加		
		浅川あゆまつり 展示・デモ	ふれあい橋広場	1	25	姉妹都市 岩手県波田町 卒展示		
		フライ・フィッシング体験	浅川グラウンド	1	86	指導スタッフ 20名		
		フライ・タイイング教室	日野市民活動支援センター	1	25	あゆまつり準備含む		
		フライ・キャストイング教室	日野市民ふれあいホール	2	12			
		水生昆虫スタディ	日野市民活動支援センター	1	9			
		実釣りスクール	うらたんざ清流釣り場	1	22	JFF川崎教室合同		
		日野市アクションプラン4中	高幡福祉センター	1	1	メンバーとして参加		
9	フライ・フィッシング講座	フライ・タイイング教室	カワセミハウス	2	19	8月24日より拠点変更(木・金)		
		フライ・キャストイング教室	カワセミハウス	5	36	川崎教室1回		
		水生昆虫スタディ	日野市民活動支援センター	1	9			
		実釣りスクール	うらたんざ清流釣り場	1	11			
		日野市アクションプラン4中	高幡福祉センター	1	1	メンバーとして参加		
10	フライ・フィッシング講座	フライ・タイイング教室	カワセミハウス	5	36	川崎教室1回		
		フライ・キャストイング教室	カワセミハウス	1	3	個人レッスン ラウンジ		
		フライ・キャストイング教室	日野市民ふれあいホール	2	12			
		水生昆虫スタディ	カワセミハウス	1	11	タイイングと同時開催		
		実釣りスクール	うらたんざ清流釣り場	1	11			
		オープン教室	浅川ふれあい橋下	1	18	JFF川崎教室合同		
		日野市アクションプラン4中	高幡福祉センター	1	1	メンバーとして参加		
		オクトバーフェスト	カワセミハウス	1	5	フェスト打ち合わせ		
		オクトバーフェスト 煙製	カワセミハウス	1	150	煙製サービス		
		オクトバーフェスト デモ	カワセミハウス	1	7	体験タイイング		
11	フライ・フィッシング講座	フライ・タイイング教室	カワセミハウス	4	32			
		フライ・キャストイング教室	日野市民ふれあいホール	1	8			
		水生昆虫スタディ	カワセミハウス	1	11	タイイングと同時開催		
		実釣りスクール	うらたんざ清流釣り場	1	16	川崎教室 講師として参加		
		オープン教室	浅川ふれあい橋下	1	18	JFF川崎教室合同		
		日野市アクションプラン4中	高幡福祉センター	1	1	メンバーとして参加		
		カワセミハウス協議会	カワセミハウス	1	1	協議会委員として参加		
		発願開放漁事業	秋川 御岳 他	3	70	JFF協力活動		
		12	フライ・フィッシング講座	フライ・タイイング教室	カワセミハウス	4	36	
				フライ・キャストイング教室	日野市民ふれあいホール	1	8	
水生昆虫スタディ	カワセミハウス			1	36	タイイングと同時開催		
実釣りスクール	うらたんざ清流釣り場			1	14	川崎教室 講師として参加		
オープン教室	浅川ふれあい橋下			1	12	JFF川崎教室合同		
日野市アクションプラン4中	高幡福祉センター	1	1	メンバーとして参加				
				参加数	1,275	(参加人員中、イベント来賓数含む)		

4. 環境への取組状況

㊸ 程久保川を考える会

○ 活動目的・活動内容

水源から浅川との合流まで日野市内で終結する程久保川を身近な川として親しんでほしく、まず汚れていた川を何とかしたいということで始めました。どれだけ汚れているかを知る為の水質検査、そしてごみ拾いを行なっています。

○ 人 数:8人

○ 活動場所:程久保川

○ 連絡先:日野市三沢 850-4-201「程久保川を考える会」藤村

○ 情報提供方法:クリーンデーは日野市の広報に出しています。

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
5月・10月	クリーンデー	年2回ですが、川の中に下りてのごみ拾いです。	ボランティア 40～60
毎月(第2か第3) 水曜日	水質検査	どれだけ汚れているか、人が入って大丈夫かが気になり、5ヶ所を検査。	会員 4

㊹ まちづくり市民フェア2017

○ 活動目的

日野市内の市民活動団体が協働し合い、消費者市民社会構築の視点を入れつつ、市民の主導によるより良いまちづくりへの参加を呼びかけるイベントとして開催。

○ 参加団体数:78 団体

○ 活動場所:日野市市民の森ふれあいホール

○ 連絡先:TEL:042-581-6144(市民フェア実行委員会事務局 ひの市民活動支援センター内)

○ 情報提供方法: パネル展示、講演会

○ 活動実績

実施日	目的・対象・内容	参加人数
2017. 10. 15	・ 環境に配慮した防災紙食器の利用 ・ 市民による環境保全への取り組み発表、環境に配慮した物販などのブース設置 ・ 来場者に環境クイズを答えていただく市民啓発を実施	1,500

㊺ みずとくらす・ひの

○ 活動目的・活動内容

2013年度にスタートした「水辺のある風景日野50選プロジェクト」は、市民、行政職員、法政大学エコ地域デザイン研究所メンバーによるワーキンググループにより水辺の選定などを行いました。2014年度は市内小、中学校や選定された場所の所有者や関係者への選定書の配布などを行いました。2015年度は選定された水辺への標識設置プロジェクトを行なっています。2015年にワーキンググループは市民団体「みずとくらす・ひの」として再スタートし、行政などと連携しながら水辺を後世に残すための活動を行なっています。

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

- 人数:25人
- 活動場所:主に日野市内
- 代表者:井上 博司
- 連絡先:090-8024-7933(井上)
- 情報提供:web Facebook -水辺のある風景 日野50選-
- 活動実績

〈第五小学校（5年生全員）水辺のオブジェづくり〉

製作期間：2017年10月～2018年3月

設置箇所：No. 22 黒川清流公園（カワセミハウス敷地内に設置）

作成方法：絵を彫り込んだ陶板を製作、全作品を合わせた集合作品のオブジェを設置

〈浅川潤徳水辺の楽校（潤徳小児童・保護者、水辺の楽校関係者）水辺のオブジェづくり〉

製作期間：2017年10月～2018年3月

設置箇所：No. 41 向島用水親水路

作成方法：水辺の楽校イベントで石絵を製作、全作品を合わせた集合作品のオブジェを設置

〈標識のみを設置〉

製作期間：2017年4月～2018年3月

設置箇所：下記8カ所

No. 1 平堰、No. 14 豊田用水上流、No. 20 こだわりの橋のかかる水路、No. 23 上田用水、

No. 27 浅川、No. 30 平山用水取水堰、No. 33 南平の田んぼのある風景、

No. 34 自噴井のある家

〈水辺のある風景日野50選ガイドツアー〉

2017/12/9 川北、上村用水歩き（参加者17名）

2018/3/3 南平、高幡用水歩き（参加者24名）

③② 水と緑の日野・市民ネットワーク

- 活動目的・活動内容

緑や水の保全・育成等を行っている市民団体等が情報を共有し、「団体相互が緩やかに有機的に連携・協力することにより、日野市の水と緑を守り、育て、次世代へ引き継いでいく」ことを目的として、様々な実践活動を推進していく協力体です。環境保全に携わる人材育成事業として雑木林ボランティア講座を2005年度から、地球環境を正しく知ることを通して、地球規模の環境をみんなで考えていく「市民環境大学」を2009年度から開講しました。

- 参加団体:12団体
- 活動場所:日野市内
- 代 表 者:会長 飯島 利三
- 連 絡 先:事務局 日野市緑と清流課 TEL: 042-514-8307
日野市立 カワセミハウス TEL:042-581-1164

4. 環境への取組状況

○ 活動実績

雑木林ボランティア講座

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2017. 5. 20	講座 1 開講式・講義 オリエンテーション	日野の自然環境、植物 講座概要、OT 講師：日野市緑と清流課職員2名 講師：杉浦 忠機氏(日野の自然を守る会)	30
6. 10	講座 2. 視察	市内の緑地めぐり	26
7. 15	講座 3. 実習	道具の正しい使い方(鎌、鋸、剪定鋏 他) 講師：飯島 利三氏(水と緑の日野・市民ネット ワーク)	29
8. 19	講座 4. 講義・実習	雑木林の保全と管理・活用方法、安全対策 講師：松井一郎 (NPO法人森づくりフォーラム)	24
9. 9	講座 5. 実習	刈払機の仕組み、操作方法と刈払い実習 講師：橋本 幸久(南丘雑木林を愛する会)	26
10. 21	講座 6. 講義、観察	里山づくり・雑木林の植物観察 講師：倉本 宣氏(明治大学農学部教授)	20
11. 11	講座 7. 視察・実習	市外の緑地ボランティア視察と作業実習 「八王子滝山里山保全地域」	22
12. 16	講座 8. 実習、観察	落ち葉かき、落ち葉だめ、冬芽と葉痕の観察 講師：飯島 利三氏(水と緑の日野・市民ネット ワーク)、加藤 勝康	22
2018. 1. 20	講座 9. 講義・実習	チェンソーの構造と使い方・丸太切り 講師：橋本 幸久氏(南丘雑木林を愛する会)	24
2. 10	講座 10. 実習	チェンソーを使って雑木の伐採と粗朶作り 講師：橋本 幸久氏(南丘雑木林を愛する会)	23
3. 10	講座 11 実習・修了式	椎茸のほだ木づくり実習、修了式	25

市民環境大学

実施日	回数	目的・対象・内容	参加人数
2017. 5. 11	前期①	地球環境問題の概要	27
5. 18	前期②	炭素・窒素の循環	27
5. 25	前期③	物質循環と人間活動	22
6. 1	前期④	フィールドワーク①黒川清流公園の春 (湧水)	25
6. 8	前期⑤	地球温暖化と温室効果ガス	20
6. 15	前期⑥	地球温暖化の生態系への影響	22
6. 22	前期⑦	ヒートアイランド現象と身近な対策	22
6. 29	前期⑧	黒川清流公園緑地周辺の気温測定のマニュアル検討	21
7. 6	前期⑨	フィールドワーク②黒川清流公園の初夏 (植物) (公開講座)	39
7. 13	前期⑩	フィールドワーク③黒川清流公園緑地周辺の気温測定	22
10. 5	後期①	水の文化と水の特異的な性質	21
10. 12	後期②	水の循環 (都市の水循環) と人間活動	20
10. 19	後期③	フィールドワーク④黒川清流公園の秋 (雨天のため室内)	21
10. 26	後期④	水収支と水資源	21
11. 2	後期⑤	仮想水 (バーチャルウォーター)	21
11. 9	後期⑥	富栄養化と排水の総量規制	21
11. 16	後期⑦	地下水汚染 (揮発性有機塩素化合物と硝酸塩)	19
11. 30	後期⑧	越境大気汚染と酸性雨	20
12. 7	後期⑨	フィールドワーク⑤黒川清流公園の初冬 (野鳥) (公開講座)	26
12. 14	後期⑩	フィールドワーク⑥黒川清流公園緑地周辺の気温測定	17

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

市民環境大学 OB 会（環境学習会）

実施日	テーマ	参加人数
2017. 4. 20	環境学習会 1	13
5. 18	環境学習会 2	13
6. 15	環境学習会 3	13
7. 20	環境学習会 4	12
8. 17	環境学習会 5	10
9. 22	環境学習会 6	11
10. 20	環境学習会 7	12
11. 16	環境学習会 8	19
12. 21	環境学習会 9	13
2018. 1. 18	環境学習会 10	11
2. 15	環境学習会 11	8
3. 15	環境学習会 12	10

ニュースレターの発行

- 第 14 号発行 2017. 5. 18 谷仲山での湧水量測定結果のまとめ
 第 15 号発行 2017. 7. 20 OB 会活動カワセミハウスで開始
 第 16 号発行 2017. 9. 21 谷仲緑地の自然
 第 17 号発行 2017. 11. 19 黒川清流公園の湧水枯渇危機
 第 18 号発行 2018. 1. 19 北野水再生センター見学会
 第 19 号発行 2018. 3. 15

市民環境大学OB会 空間放射線量・黒川公園周辺湧水量*の測定

<放射線量測定>

- Aエリア 仲田の森公園・多摩川堤防周辺：7地点
 Bエリア 市役所周辺：6地点、生活保健センター

実施日	参加人数
2017. 4. 27	5
5. 25	7
6. 22	6
7. 27	6
8. 24	5
9. 28	6
10. 26	6
11. 30	6
12. 14	4
2018. 1. 25	6
2. 23	6
3. 22	6

<湧水量・放射線量測定>
清水谷公園・剣道場前

実施日	参加人数
2017. 7. 20	8
8. 17	5
9. 21	6
9. 28	6
10. 26	6
11. 28	4
12. 21	5
2018. 1. 18	9
2. 15	6
3. 15	6

*環境情報センターがカワセミハウスへの移転に伴い、谷中山湧水量調査は2016年度（2017年3月）で終了、2017年度は7月より黒川清流公園周辺の湧水調査を実施した。

その他

実施日	テーマ	内 容
2017. 5. 6	シンポジウム「黒川清流公園の自然・シリーズ⑤かこ・いま・これから」	会場 日野市立カワセミハウス 参加者数 89 名 ①基調講演「実物を見る大切さ」 講師：矢島稔氏（日本に初めて昆虫館を作った人） ②パネルディスカッション（コーディネーター：矢島稔氏） 中西由美子氏（環境基本計画推進会議みどりグループ） 片岡容子氏、金子凱彦氏（日野の自然を守る会） 小太刀智明氏（東豊田緑湧会）
2017. 6. 4	身近な水環境の全国一斉調査に参加	日野市参加地点 48 地点 参加者数 112 名

4. 環境への取組状況

③③ 緑を愛する会日野

○ 活動目的・活動内容

「緑を愛する会 日野」は、仲田の森蚕糸公園という市街地の身近な自然保存・育成のために平成 17 年(2005 年)からスタート。活動に参加する皆さんには、自然は特別な怖い存在ではないことを ” 日々の生活の中 ” で実感してもらえるよう、そこに重点を置きながら活動を展開している。活動は緑と清流課に協力を頂きながら行っている。主な活動は以下 4 つ。(1)仲田の森蚕糸公園の一角をミニビオトープとして多種多様な草木を植え、50 年後豊かな森にしていこう活動。現在は枝打ち草刈りが主な活動 (2)園芸品種と山野草 2 種類の花壇を配置し、花で来訪者が親しみやすい場を設ける。堆肥には生ごみ堆肥を活用 (3)市内のドングリを集めてどんぐり苗を育て、市内緑化で必要な際には日野産苗を供出できる準備 (4)諸団体との連携(情報交換・体験学習の相談対応) これらすべての活動は写真で記録している。

緑を愛する会 日野のスローガンは「人と自然の和」

○ 会員数:6人

○ 活動場所: 主に仲田の森蚕糸公園

○ 代表者: 佐伯直俊

○ 連絡先: 090-3546-7117 (佐伯) forestimage0123@gmail.com

○ 情報提供: 以下ホームページ (HP) もしくはメール配信、不定期刊行物。

ツイッターHP (日々の更新はこちら): <https://twitter.com/nakadanomori>

ブログ HP (まとめサイトの活用): <http://nakadanomoridayori.blogspot.jp/>

TBS『風の言葉・日野用水』(2012 年) <https://www.youtube.com/watch?v=T2YtaUfjKps>

③④ 南平・緑と水のネットワーク

○ 活動目的・活動内容

当会は 2012 年「南平駅前や周辺の用水沿いを緑豊かな水辺にしたい」という住民の提案でスタートしました。会の目的は、地域の特徴である 用水など歴史的環境資源を守りつなげ、またその過程で南平のまちを再発見し、安心して安全な、南平らしい豊かな暮らしを目指すことです。

- ・駅前「ばけっと広場」は、「緑の環境デザイン賞」の「国土交通大臣賞」を受賞しています。
- ・七生中地区地域懇談会「ななお B O N まつり」、児童館行事等、地区の行事にも協力・参加しています。

- ・「用水沿いにまちの顔をつくる」を目的に、市民活動支援補助金事業として「南平駅周辺を考える」アンケート (約 700 部回収)・ワークショップを実施。地域の皆様・行政との協力のもと、新たな事業を進めています。

○ 人 数:活動参加者83人 どなたでも参加自由なオープンな会です

○ 活動場所: 南平児童館、南平駅周辺用水路沿い

○ 代表者:清水 守男

○ 連絡先:みなみだいら児童館ぶらねっと (館長:梅崎 満州夫) TEL:042-599-0166

○情報提供方法:自治会回覧、市の掲示板、ぶらねっとより、市内団体掲示板HiKnow!

Facebookページ(アカウントがなくても閲覧可能)、Jcom番組他

○主な活動:毎月最終日曜日午前 草取りと観察会など、イベントの開催

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

○活動実績

実施日	テーマ	目的・内容等	参加人数
2017. 4. 2	「野点・南平の四季」	南平高校茶道部と児童館で野点開催 地域・学校との交流	59
4. 16	花オクラねばねばプロジェクト	児童館の子供とともに、花オクラの種まき	15
4. 29	4 月定例会	定例の清掃・除草・植栽手入れ・用水手入れ	13
5. 13	活動報告	日野市環境共生部へ「環境白書」を提出	-
6. 4	花オクラねばねばプロジェクト	児童館の子供とともに、近隣家庭へ花オクラの苗お裾分け	20
6. 25	6 月定例会	定例除草、植付、用水清掃	11
7. 2	「南平駅周辺を考える」	市民活動支援補助事業にエントリー準備	10
7. 30	7 月定例会	定例会	8
8. 2	活動準備（BONまつり）	ななお BON まつり 配布苗の種まき 収穫種の選別	8
8. 12	活動準備（BONまつり）	ななお BON まつり 販売準備、アンケート設問づくり	10
8. 26	活動準備（BONまつり）	ななお BON まつり 展示、本の選書準備	10
8. 27	8 月定例会	定例除草、用水清掃	5
9. 2	活動準備（BONまつり）	ななお BON まつり 展示最終確認	4
9. 9	ななお BON まつり 展示	展示「ぶっくこらぼれーしょん」市長・参加者へ説明 苗等販売	7+参加者
9. 24	9 月定例会	定例除草、植付、用水清掃	11
10.	活動報告	日野市へ「用水守実績報告書」提出	-
10. 29	10 月定例会	「南平駅周辺を考える」アンケート配布	8
11. 19	「南平駅周辺を考える」	まち歩き	14
11. 25	「南平駅周辺を考える」	まち歩きに基づくワークショップ。問題点と改善策を考える	7
11. 26	11 月定例会	定例清掃・除草・植栽手入れ	6
12. 17	「南平駅周辺を考える」	改善案の検討	17
2018. 1. 21	新年会	今年度の活動反省、来年度企画について 会員間の懇親	12
2. 18	「南平駅周辺を考える」	アンケートに基づくワークショップ。問題点と解決策を考える	19
2. 26	2 月定例会	定例除草、植付、用水清掃 土作り	6
3. 10	「南平駅周辺を考える」	京王線南平駅前プランターの土づくり	6
3. 17	「南平駅周辺を考える」	京王線南平駅前プランターの花の植付け	7
3. 25	3 月定例会	芝張り、植栽の植え付け	15
3. 31	「野点・南平の四季」	4/1 開催準備	10

4. 環境への取組状況

㊥ 百草山の自然と文化財を守る会

○ 活動目的

多摩丘陵の一角、日野市百草山の自然を保全し、そのなかに含まれる古代・中世寺院跡(真慈悲寺)などの遺跡の調査・保全を目指しています。

○ 現在までの活動内容

- ・百草山斜面の開発抑制のための署名活動
- ・百草山の散策イベントの実施
- ・百草山の文化財調査
- ・市と協力して三沢中学校区探検隊を組織して散策マップを作成
- ・百草山の清掃活動(西斜面<三沢>の周辺)
- ・現在は、倉沢里山を愛する会、幻の真慈悲寺調査の会と合流して、日常活動をしている
- ・百草山の一角の大規模墓地開発計画を中止させた募金活動
- ・百草山の一角、真堂が谷戸の市の買い取りを求める募金活動、昨年度は、買い取りが実現した。

○ 設立年月日：1995年(平成7年)11月3日

○ 代表者名：峰岸 純夫

○ 活動場所：日野市百草山

○ 活動日：特定せず、随時活動(現在は休眠状態)

○ 活動人数：若干名(中心層 60から70代)

○ 募集：無

○ 連絡先：峰岸 純夫 住所：日野市百草971-250 TEL:042-591-0605 FAX:042-591-0605

E-mail:mine3gisi2@ab.auone-net.jp

五十子 満大 住所：日野市百草971-250 TEL:042-591-6086 FAX:042-591-6086

E-mail:ablamenroku@yahoo.co.jp

㊦ 谷仲山緑地を守る会

○ 活動目的・活動内容等

日野市の谷仲山緑地を明るく健全な雑木林に維持・管理し併せて里山の生物多様性を復活し、次の世代に引き継ぐことを目的に2016年4月にスタートした雑木林ボランティア団体です。

当緑地は、カタクリ、ニリンソウ、イチリンソウなど貴重種の野草が群落しており、雑木林や野草の保全活動と併せて、カタクリの開花時の2018年年3月下旬に案内看板を立て、一般市民にカタクリなどを観察して楽しんでもらい、環境保全の大切さを訴える事が出来ました。会員は一般市民、日野市職員OBなど様々で、目的意識を持ったボランティア活動を通し、楽しい汗を流しています。

主な活動項目

- ・雑木林の育成・維持・管理に関する作業
- ・植生調査及び植物の保護
- ・カタクリ等の野草観察会の開催
- ・環境学習の開催(主に子供たちを対象)
- ・他のボランティア団体との交流
- ・見学会や学習会の開催

○ 人数：20名

○ 活動場所：谷仲山緑地(神明第1緑地～神明第7緑地)

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

○ 代 表 者：笹木延吉

○ 連 絡 先：日野市立 カワセミハウス Tel 042-581-1164

小太刀 智明 (E-mail : kawasemihouse@jcom.zaq.ne.jp)

○ 情報提供・参加募集方法等：直接連絡、カワセミハウス通信、清流ニュース、チラシ など

○ 活動実績

実施日	活動内容	参加人数
2017. 4. 16	第3緑地の園路整備、アオキの伐採と剪定、 第6緑地の春植物の観察、下草刈り	10
5. 21	平成29年度定期総会（谷仲山地区センター）、 第6緑地の下草刈り	12
6. 18	第6緑地の下草刈り、遊水池のセキショウの刈り込み、 アラカシ伐採	11
7. 16	第6緑地の下草刈り、古木(梅)を伐採、処理	10
8. 20	第6緑地の下草刈り、貴重植物自生地下草刈り(手刈り)、 アズマネザサ刈り(刈払機)	9
9. 17	台風の影響で活動休み	-
10. 15	笹刈り、下草刈り	7
	日野用水450周年記念シンポジウムに参加（日野市民会館）	11
11. 19	第3緑地くい打ち、第6緑地樹木伐採(チェンソーで)、 ウルシ2本、コナラ2本、アオキ3本	9
12. 17	第3緑地ロープ柵設置(くい打ち)・倒木、枯れ木の片付け	11
2018. 1. 21	大雪のため活動休み	-
2. 18	第3緑地のカタクリの状況調査、柿の古木伐採、 第6緑地でシロダモ、アオキ、エゴノキ伐採・粗朶柵づくり	10
3. 18	第6緑地シロダモ伐採、粗朶柵づくり・ハチオウジアザミ、 ウバユリの枯れ茎整理、貴重植物調査・緑の連絡会（日野市・ 市民団体）の観察会が開かれ説明した	9

㊿ 緑地管理ボランティアの会

○ 活動目的・活動内容

日野東光寺緑地保全地域の植生と風景を豊かにするため、手入れを行い、崖線の緑を永く保存し、明るい雑木林として維持するために緑地保全等を継続して行っている。

2010年度からは明星大学の緑地保全活動サークル「クローバー」の学生とも一緒に活動し、同校のグリーン・キャンパス・プログラム事業も実施、指導している。

主な活動項目

- ・下草刈り、間伐、除伐、古損木処理、剪定、枝打
- ・竹林の管理
- ・特殊植物保護、植生調査、清掃活動
- ・学校との社会貢献活動の協働
- ・東京都及び日野市と保全計画の協働策定

4. 環境への取組状況

- 人 数：15名
- 活動場所：日野東光寺緑地保全地域、東光寺第1,2緑地
- 連絡先：小太刀 智明 E-mail:tweety-satopi@u01.gate01.com
- 情報提供・参加募集方法等：直接連絡、東京都ウェブサイト「里山へGO!」・清流ニュース・チラシ、大学内情報誌・など
- 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2017. 4. 9	竹の植生管理	筍と竹の調整・伐採、間引き	8
5. 14	笹・下草刈り	笹・草刈り、筍の調整・伐採、間引き	6
6. 11	竹の植生管理	筍の調整・伐採、間引き	6
7. 9	除伐・間伐	竹伐採・古損木伐採・特定外来種除去	5
8. 6	笹・下草刈り	笹刈り、常緑樹伐採、灌木処理	5
9. 3、24	笹・下草刈り	笹刈り、常緑樹伐採、灌木処理	延 12
10. 8	笹・下草刈り	笹刈り、常緑樹伐採	6
10. 9	自立と協働 (一年生必修授業)	グリーン・キャンパス・プログラム (竹伐採・草刈り)	63
11. 5	笹・下草刈り	笹刈り、常緑樹伐採、灌木処理	6
12. 3	除伐・間伐	竹伐採・常緑樹伐採	7
2018. 1. 14	除伐・剪定	常緑樹伐採・障害木剪定	5
2. 11	竹林整備	竹の間伐	8
3. 11	竹林整備	竹の間伐	10

(2) 行政による環境への取組状況

ここでは、行政が主体となっていて行なっている環境への取り組みについて記載しています。

環境保全課（市役所 3 階 TEL:042-514-8294、042-514-8298）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2017. 5. 28	市内一斉清掃	まちの環境美化・自治会等地域団体	16,530 (280 団体)
8. 22	喫煙マナーアップキャンペーン	喫煙マナー向上・環境美化	10
11. 14	喫煙マナーアップキャンペーン	喫煙マナー向上・環境美化	10
11. 26	市内一斉清掃	まちの環境美化・自治会等地域団体	16,580 (281 団体)
2018. 2. 17	環境フェア (煉瓦ホール大ホール)	生活スタイルの見直しと省エネ行動の実践による CO ₂ 削減を啓発するイベント。環境かるた大会入賞者や市内小学校エコ委員会による CO ₂ 削減の取り組み紹介、マスコットキャラクターによる啓発ショー、環境かるたクイズ大会等を開催。	約 500
2. 13	喫煙マナーアップキャンペーン	喫煙マナー向上・環境美化	10

緑と清流課（市役所 3 階 TEL:042-514-8309）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2017. 4. 1 ～ 5. 31	緑の募金	事業所、老人クラブ等の団体や個人に緑化推進のため、緑の募金への協力を依頼	—
4. 1～11. 4	第 7 回 あさかわ写真コンクール	八王子市との浅川流域連携事業の取組みの一つ(募集期間 4/1～8/31、表彰式 11/4)	応募総数 415
4. 23	多摩川・浅川クリーン作戦	多摩川・浅川の同時清掃	1850
5. 6	シンポジウム 「黒川清流公園」	水と緑の日野・市民ネットワーク主催講演会	89
6. 4	身近な水辺の一斉調査	浅川、多摩川、程久保川及び市内を流れる用水の水質調査（全国水環境マップ実行委員会主催）	95 (浅川流域)
6. 11～11. 30	コスモスアベニュー事業	花のまちづくり事業の一環として、浅川スポーツ公園外周で、緑化の推進・普及・啓発のため、市民によるコスモスの種まき及び育成管理を実施（公財）日野市環境緑化協会共催	354
6. 21	ホテルの観察会	真堂が谷戸にて実施した市民参加イベント。ホテルの生態についての座学の後、ホテルの観察を行った。真堂が谷戸蛍の会との共催。	25
8. 9	子どもの交流事業	八王子市との浅川流域連携事業。多摩川の干潟での活動を通して、将来の浅川の水辺づくりの担い手となる両市内の小学校 5, 6 年生を対象とした交流事業	25
9. 30～10. 28	ミニ水族館開設	市役所 1 階フロアにて実施	—

4. 環境への取組状況

10. 8	用水守懇談会	用水守連絡会、活動内容の報告および意見交換	22
10.16 ～10.29	緑と清流ポスター展	市役所 1 階フロア、多摩平イオンモールにて実施。展示 180 点 (応募総数 1,441 点)	—
11.19	日野用水クリーンデー	栄町 5 丁目交差点からコープとうきょう日野駅前店までの日野用水(約 2km)の清掃	100
年間	程久保川クリーンデー	5/21 (2017 年は 1 回のみ実施)	100
年間	自然観察会	日野みどりの推進委員会と共催 年間 9 回実施	209
年間	浅川・潤徳水辺の楽校行事	浅川・向島親水路を中心に年間 15 回の行事を開催	1000
年間	滝合水辺の楽校行事	4, 8, 11, 2 月実施	約 200

ごみゼロ推進課 (クリーンセンター 日野市石田 1-210-2 TEL:042-581-0444)

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2017. 6.29 ～30	職場体験	七生中	2
通年	クリーンセンター施設見学	日野第一小、日野第四小、日野第六小、日野第七小、日野第八小、豊田小、仲田小、夢が丘小、七生緑小、潤徳小、三沢中、自治会・ごみゼロ推進員、その他団体、一般市民ほか	1,245
通年	講師派遣 出前講座	日野第六小、日野第七小、日野第八小、仲田小、夢が丘小、七生緑小、豊田小、とよだ保育園、たまだいら保育園、ひらやま保育園、みさわ保育園、たかはた台保育園、みなみだいら保育園、あさひがおか保育園、もぐさ台保育園、おおくぼ保育園、しんさかした保育園、つくしんぼ保育園、日野第二保育園、ひよこハウス多摩平、芝原保育園、日野駅前かわせみ保育園、至誠いしだ保育園、むこうじま保育園、第二幼稚園、第四幼稚園、第五幼稚園、第七幼稚園、日野・多摩平幼稚園、日野わかくさ幼稚園、百草台幼稚園、日野ひかり幼稚園、杉野幼稚園、日野しらゆり幼稚園、ほか	3,342
通年	清掃活動	日野高、三沢中、平山中、大坂上中地区青少年育成会	1,403

都市農業振興課 (市役所 3 階 TEL:042-514-8447)

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2017 年度	小学校における日野産大豆栽培体験	食育推進の観点から、市内小学校における日野産大豆栽培を支援する。年度当初に栽培希望校を募集し、種子の配布を行う。収穫した大豆は、授業での体験学習(豆腐作り等)及び次年度の種子として活用する。	一小、三小、五小、夢が丘小

文化スポーツ課 (市役所 3 階 TEL:042-514-8465)

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2017.5.14 ～2018.3.31	ちょこっとウォーキング	ちょこっとウォーキングは市内外各所を巡り、健康増進及び市民の親睦を図ることを目的に実施するウォーキングです。また、四季に応じた自然に親しむコースを取り入れることで、運動を通して自然の魅力を発信しています。	323

(2) 行政による環境への取組状況

子育て課（市役所 2 階 TEL:042-514-8579）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2017. 7. 26	自然の中で遊ぼう	檜原村「都民の森」を散策し、自然観察・木工を行う 小学校 3 年生～小学校 6 年生 小動物・昆虫・植物の観察、木工	39
8. 9	自然の中で遊ぼう	檜原村「都民の森」を散策し、自然観察・木工を行う 小学校 3 年生～小学校 6 年生 小動物・昆虫・植物の観察、木工	36
8. 24	自然の中で遊ぼう	檜原村「都民の森」を散策し、自然観察・木工を行う 小学校 3 年生～小学校 6 年生 小動物・昆虫・植物の観察、木工	40
6. 4～12. 23	自然の中で遊ぼう	緑の大切さを感じる 小学校 5 年生～中学校 3 年生 野外炊飯・テント泊・キャンプファイヤー	延べ 722
7. 21～ 8. 31	自然の中で遊ぼう	緑の大切さを感じる 市内の子ども 子どもたちが自発的に活動やルールを創出した 中での遊びや体験、キャンプ活動ほか 野外炊飯・キャンプファイヤー	延べ 1,404
11. 25	自然の中で遊ぼう	緑の大切さを感じる 市内の子ども たき火、焼き芋、工作、ネイチャーゲーム	約 1,000

中央公民館（日野市日野本町 7-5-23 TEL:042-581-7580）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2017. 4. 15 ～12. 2	田んぼの学校（2 コース）	水田での稲作りを通じて日野市の農業、環境、地域コミュニティを考える。	770
2017. 5. 13 ～ 8. 26 (全 5 回)	楽しい農業体験 親子でスイカを作ろう	親子で土に触れ、土を楽しみ、食物を育てることで、自然と人間との共生、人間相互の共生を図る。スイカを育て、収穫する。	144
2017. 5. 13 ～ 6. 10 (全 2 回)	(ひの市民大学) ハーブ王子と摘む野草でつくる 塩焼きそば	野草研究家「ハーブ王子」の指導により食べられる野草を摘み料理することで日野の自然の豊かさを学ぶ。	19
2017. 7. 15 (全 1 回)	(ひの市民大学) プラスチックリサイクルの基礎知識	身の回りのプラスチックとそのリサイクルについて学ぶ。	15
2017. 7. 29 ～2018. 1. 20 (全 5 回)	親子で大豆を育てて豆腐を作ろう	親子で土に触れ、土を楽しみ、食物を育てることで、自然と人間との共生、人間相互の共生を図る。大豆を育て、収穫し、豆腐をつくる。	65
2017. 9. 30 ～11. 11 (全 3 回)	大人の理科室～生き物万歳	一般市民（親子含む）を対象に、自然に生きる動物たちのたくましさを学ぶ	60

4. 環境への取組状況

郷土資料館（日野市程久保 550 TEL:042-592-0981）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
4. 22～ 7. 9	企画展「姉妹都市盟約締結記念展～異聖歌と岩手県紫波町・日野市～」	日野で後半生を過ごした異聖歌の著作などを紹介した。日野やふるさと紫波町との関わりが作品にもあらわれ、地域を見つめる心を伝えた。	521
7. 15～11. 26	企画展「どっき土器展～七ツ塚遺跡を中心に～」	七ツ塚遺跡の土器や石器などを展示し、自然とともに生きた大昔の暮らしを紹介した。	1,045
12. 2～ 2018. 4. 15	企画展「七生丘陵～歩いて探した自然と歴史～」	植物の種や、七生丘陵地域の動植物の写真や資料を展示した。種のもつ多様な形や不思議な力や豊かな丘陵の自然を紹介した。	628(平成 29 年度分)
9. 30～12. 3	特別展「日野用水開削 450 周年記念特別展～日野人が守り育てた緑と清流～」	2017 年の日野用水開削 450 年を機に、歴史や自然に資料を展示し、日野の原風景である用水を守り、次世代に引き継いでいくというメッセージを伝えた。	3,186
10. 28	特別展開連事業：講演会「日野市域を流れる用水の謎～その開削時期を考える」	日野市域を流れる用水の成り立ちについて、日野の地形や、発掘調査の成果などから、用水の歴史を探った。	77
11. 23	特別展開連事業：見学会「JR 日野駅直下、日野煉瓦造の山下堀アーチコルベルトに潜る！」	雨天のため、日野煉瓦関連遺構の見学会を実施し、近代化日野用水に関連した歴史を学んだ。	15
11. 25	特別展開連事業：バス利用見学会「グルッと日野用水ひとまわり！」	日野用水の取水口に始まり、日野用水の各所を見学し、日野用水の特徴や用水周辺地域の変遷などを学んだ。	17
5. 13～8. 26	農業体験講座「親子でスイカを作ろう」(公民館と共催)(全 5 回)	親子を対象とした農業体験。農作業をとおして、地球環境や自然に触れ、緑化の一步に貢献。食べ物のできる仕組み、食べ物の大切さを学んだ。	144
7. 29～ 2018. 1. 20	農業体験講座「親子で大豆を育てて豆腐を作ろう」(公民館と共催)(全 5 回)	上記と同様の親子を対象とした農業体験。さらに、収穫物で豆腐作りを行った。	65
7. 29、8. 26	体験学習会「石田散薬を作ろう」	用水沿いに生えるミゾソバを採取し、ほうろくで黒焼きして薬研で粉薬にした。野草を用いた土方歳三家に伝わる家伝薬を再現した。	48
12. 16	体験学習会「お正月飾りを作ろう」	正月飾りのしめ縄作りを通して、主食である稲の藁を活用する時代の生活を考える機会となった。市民が講師として参加。	26
2018. 1. 13	どんど焼き	茅の小屋とともに正月飾りなどを燃やし、健康を願う小正月行事。伝統行事を伝え、焼却物の分別も呼びかけ環境に配慮した。準備から市民協働で実施した。	960
1. 19～ 2018. 2. 13	パネル展「富士山と日野」	富士山の見える市内の風景写真を展示し、地域の景観について考える機会を提供した。高幡不動駅の通路にて展示を行い多くの市民が見学できる機会となった。	2,050
3. 17	体験学習会「化石でたどる大昔の日野」	多摩川の河川敷で見られる化石を含む地層の観察会を行った。過去の環境変化を学び、自然の不思議さを伝えた。	16

(2) 行政による環境への取組状況

3. 24	「地図と景観を楽しむ ～百草地域を歩こう」	郷土資料館での講座の後、百草地域を散策し周囲の環境や歴史について学んだ。午後は七生丘陵調査団の市民が案内役として参加した。	23
4. 1～ 2018. 3. 31	七生丘陵の自然と歴史調査	人の暮らしと自然とのかかわりを調査し、散策会やパネル展示などの普及活動も行った。市民との協働調査。	302 (年間参加者数)
4. 1～ 2018. 3. 31	真慈悲寺調査研究	中世に存在した大寺院「真慈悲寺」の調査研究を、環境保護にも意識して取り組んだ。パネル展示などで市民に百草地域の歴史を伝える活動を行った。市民と協働して実施。	1, 043 (年間参加者数)

(公財) 日野市環境緑化協会 (日野市神明 2-13-1 TEL:042-585-4740)

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2017. 4. 22	緑のリサイクル	市民から提供された植物を配布 提供者 34 名、合計 964 点を配布	受領者 399 名
2017. 5 月	ガーデニングコンテスト	市民からガーデニング作品を募集 一次審査 (写真): 5 月 12 日 二次審査 (現地): 5 月 16 日 を行い、入選者 4 件を選出	応募件数 12 件
2017. 5. 23 ～ 6. 6	ガーデニングコンテスト写真展	市役所、市民ホールにてガーデニングコンテスト応募者全員の写真を展示	—
2017. 7. 15	子ども昆虫教室	市内の小学生を対象に昆虫の話や標本観察、屋外での昆虫採集を実施	参加者 12 名
2017. 9. 22	カサギク貴重品種の配布	日野市だけが継承しているカサギクの貴重品種「白多摩・黄多摩」をプランターに植付け、観賞用として小中学校等の公共施設に配布	34 箇所
2017. 10. 31 ～11. 9	配布苗: 菊花コンテスト	市役所庁舎前、市民プラザにて実施。表彰式はひの煉瓦ホールにてポットマム、スプレー菊、大菊の種類別に合計 23 点を表彰 (応募数)・市民一般の部 合計 42 鉢 ・老人クラブの部 合計 130 鉢 ・小学校の部 合計 110 鉢 ・大菊の部 合計 35 鉢	(苗配布) 8, 569 株 (個人・団体含む)
2017. 12. 15 ～12. 25	緑の写真展	市役所、市民ホールにて実施。 テーマ 1 「日野の四季」 17 点を展示 テーマ 2 「わが家の緑」 応募なし	応募者 6 名
2017. 12 月	作文集「緑のまち」発行	市内小学校 4・6 年生を対象に環境に関する作文を募集して審査を行い、入選作 110 編及びカット入選 59 作品を掲載した作文集を発行	応募総数 2, 369 編
2018. 3. 31 ～ 4. 1	第 16 回スプリングフェスタ ひの	実行委員会と共催で開催	来場者 6, 500 名
年間	緑化講習会	○大菊の育て方講習会 7 月 20 日 ○ポットマム・スプレー菊の育て方講習会 8 月 3 日 ○庭木の手入れ講習会 10 月 5 日 ○稲わら・竹細工講習会 12 月 14 日 ○春の草花・家庭果樹の管理講習会 2 月 1 日 ○ガーデニング講習会 3 月 8 日	参加者合計 173 名

4. 環境への取組状況

(3) 学校等による環境への取組状況

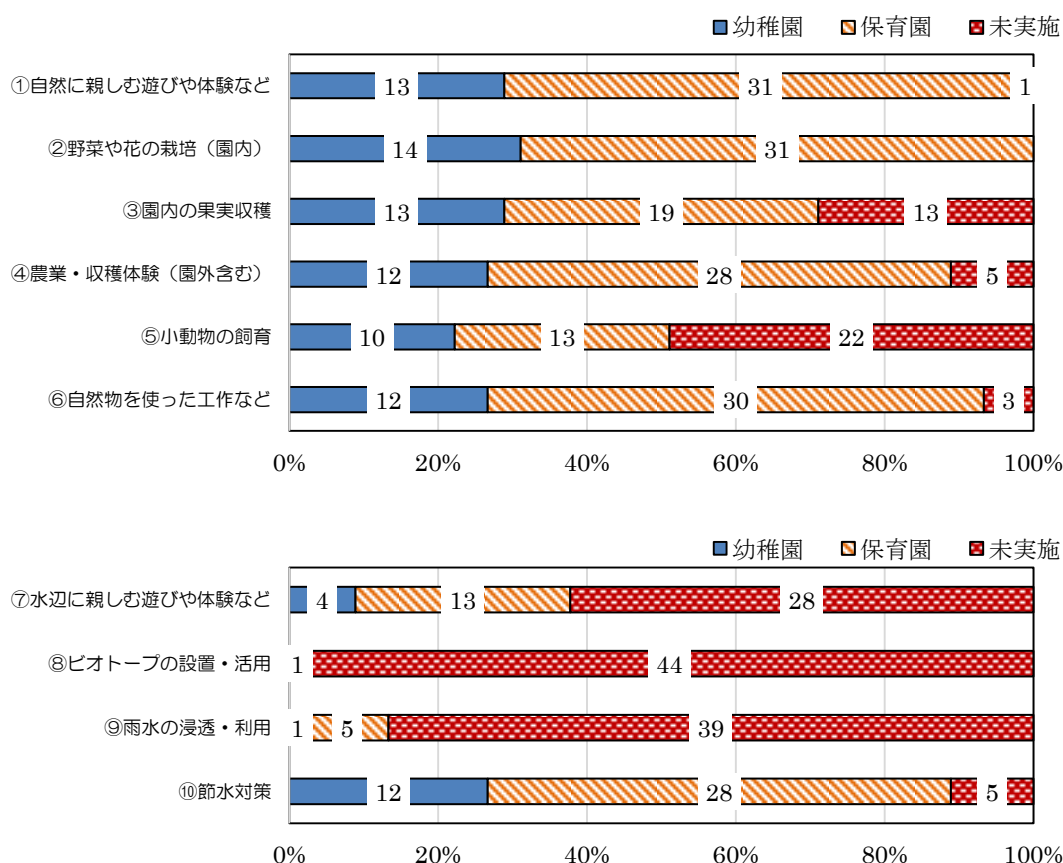
日野市内には、幼稚園 14 園（市立 4 園、私立 10 園）、認可保育園 37 園（公立 11 園、私立 26 園）、小学校 17 校、中学校 8 校、高等学校 3 校があります。これらの学校等による環境への取り組みについて、①幼稚園・保育園、②小学校、③中学校・高校、に分け、とりまとめました。

① 幼稚園・保育園における環境への取り組み

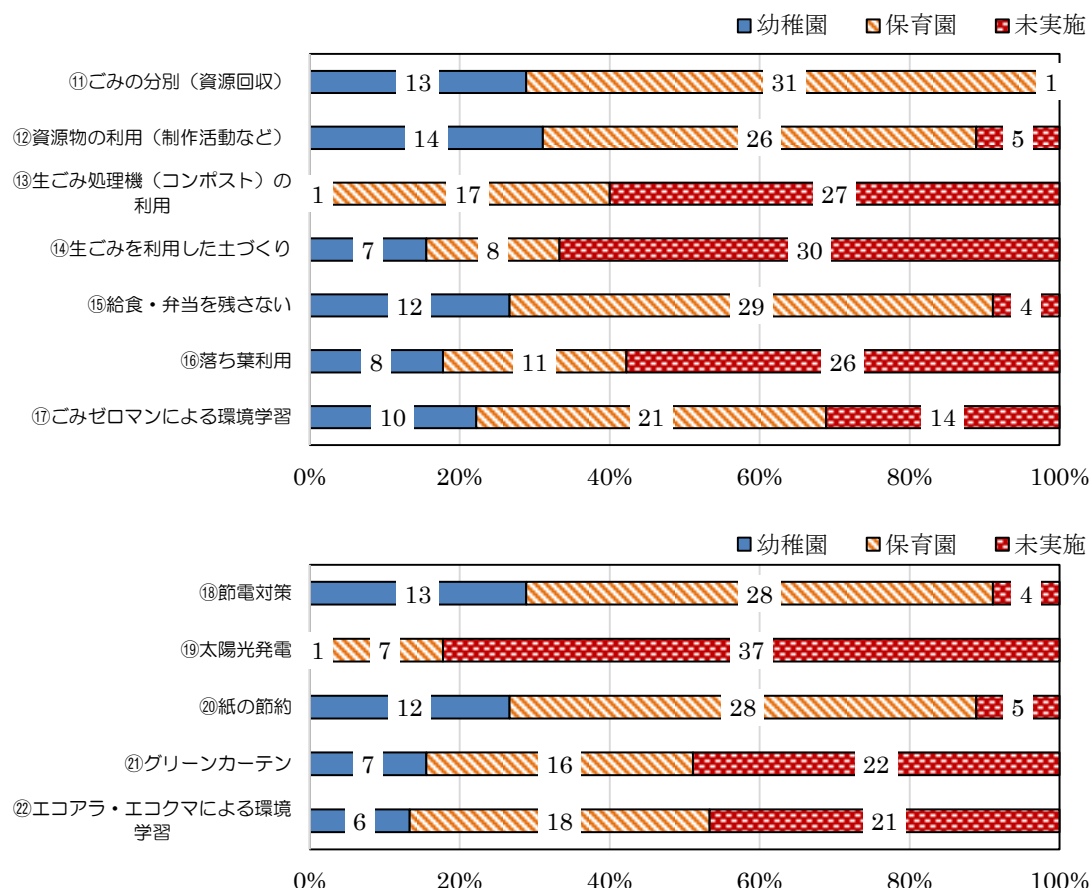
主な取り組み項目を 22 項目としてアンケートを実施し、幼稚園 14 園、保育園 31 園の 45 園から回答が得られました。

幼稚園及び保育園で多く取り組まれている項目としては、全ての園で園内において野菜や花の栽培が行われていた他、自然に親しむ遊びや自然物を使った工作、農業・収穫体験など園児が直接自然に触れるような取り組みが多く行われています。また、日常生活の習慣として、ごみの分別、節水、節電、紙の節約、食べ残しを出さないことが多くの園で取り組まれています。エコアラ・エコクマやごみゼロマンといった子供向けのキャラクターを活用した環境学習が行われているのも幼稚園・保育園の特色です。

一方、雨水の浸透・利用やビオトープの設置、太陽光発電といった、設備や整備などに費用がかかる項目については、実施している園は少ないという結果でした。



(3) 学校等による環境への取組状況



アンケート項目以外のその他の取り組み・独自の取り組みとしては以下の回答がありました。

- ・日野市立幼稚園（全園）では、まちの生ごみを考える会の皆様・地域の方からのご協力を得て、生きる力の基礎を育む体験として、野菜くずを利用した生ゴミリサイクルで作った土を使い元気野菜を栽培しています。命の循環を五感を使って感じるこのわくわくドキドキの体験を進めています（平成 22 年度より）（第二幼稚園）
- ・園外保育に出掛けた際、その場のゴミ拾いをしてから帰るようにしている（第四幼稚園）
- ・野菜くずを利用した土づくりを年間数回行い、幼児にもその仕組みが理解できるように教材での説明や実体験をつなげながら伝えていっている（第四幼稚園）
- ・物にもいのちがあることに気付かせる（欣浄寺みのり幼稚園）
- ・自然に囲まれた幼稚園の為、畑作りをしてジャガイモ、大根作りをして給食の食材に入れる等取り組んでいます（光塩女子学院日野幼稚園）
- ・愛鳥モデル園となっております。年 2 回「野鳥の会」の方に指導していただいて、双眼鏡の使い方を教えていただいたり、近隣の公園で野鳥の観察をしています（たまだいら保育園）
- ・給食の生ゴミ（野菜くず）を利用して、自園の畑や花だんの土づくり（再生化）をしています。無農薬の野菜を使って調理活動も行っています。エコアラ・エコクマの大ファンです（みさわ保育園）
- ・生活発表会にて、環境への取り組みを保護者向けに掲示・周知した（たかはた台保育園）
- ・用務職員による園児への環境学習（ごみの分別、食べ残しをしない）（たかはた台保育園）

4. 環境への取組状況

- ・土づくりの為、家庭から・保育園廃棄分・給食食材納品業者廃棄分の野菜くずを集めばかしと混ぜていく作業を年長児と実施（たかはた台保育園）
- ・手作り教材を使った環境学習の実施（みなみだいら保育園）
- ・地域一斉清掃参加（至誠第二保育園）
- ・ペットボトルキャップ、使用済切手回収（至誠第二保育園）
- ・井戸水の利用（至誠第二保育園、日野第二保育園）
- ・緑の募金を届けに行っています（つくしんぼ保育園）
- ・蓄熱冷房（日野わかば保育園）
- ・収穫野菜の調理体験（日野わかば保育園）
- ・食育にて旬の食材を知り、料理を食べ、興味関心を持つ（たかはた北保育園）
- ・食育活動の実施（たけのこ、とうもろこし、そら豆の皮むき、梅ジュース作り、クッキング）（至誠あずま保育園）
- ・豊田の豊かな自然環境の中で保育をすすめていくことを園の特色としています（芝原保育園）
- ・壊れた玩具を修理し大切に使うようにしている（栄光豊田駅前保育園）
- ・日野市で栽培している果物・野菜を給食に使用（むこうじま保育園）

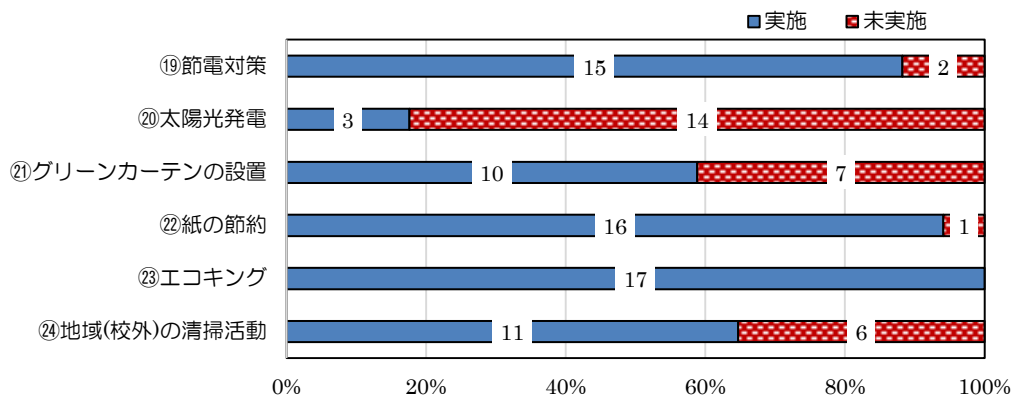
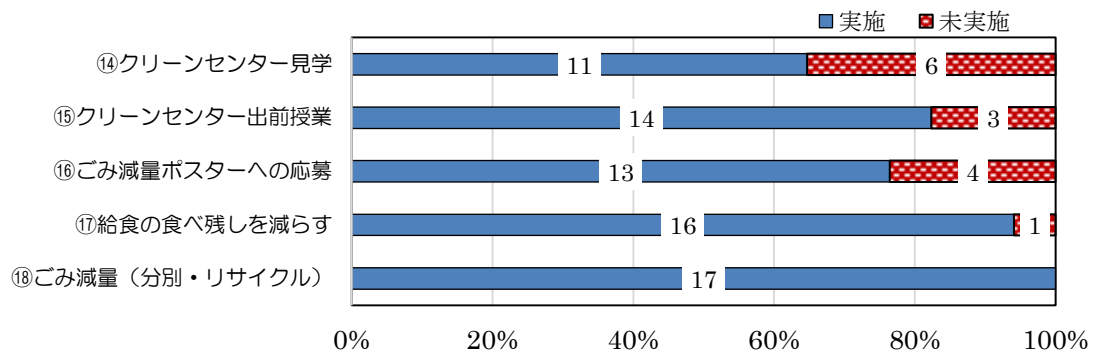
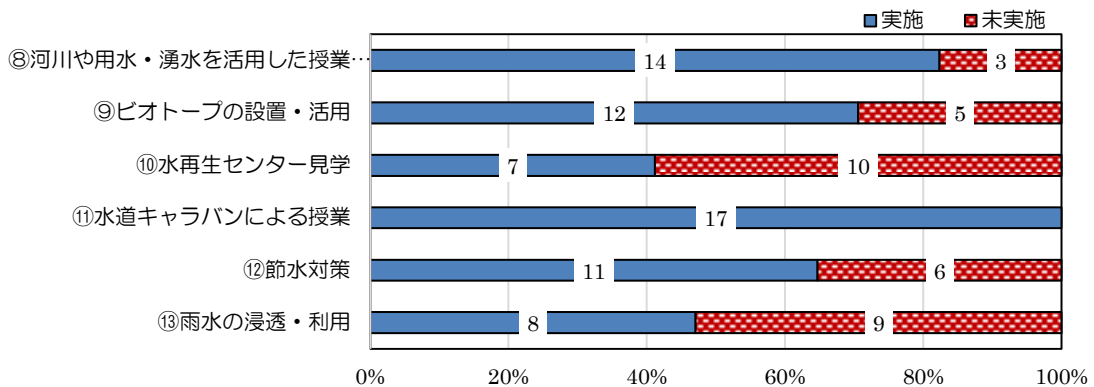
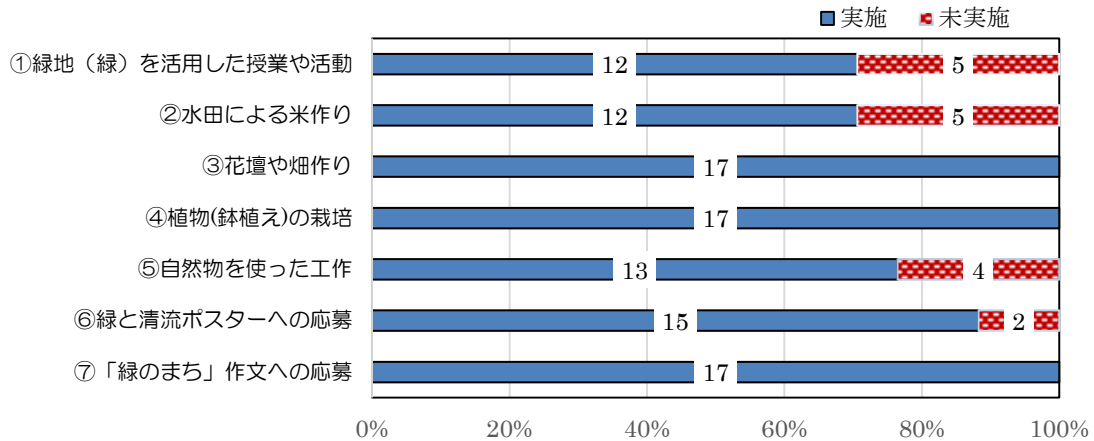
② 小学校における環境への取り組み

主な取り組み項目を23項目としてアンケートを実施し17校より回答が得られました。なお、「エコキング」についてはすべての小学校で実施していることからアンケート項目には含めませんでしたが、全校実施として集計グラフには加えており、取り組み項目は全部で24項目です。

小学校の特色として、植物の栽培、花壇や畑作り、緑に関する作文やポスターへの応募、自然物を使った工作など、みどり分野の取り組みが環境学習として多くの学校で実施されています。また、水道キャラバンによる授業、水辺を活用した授業、水田による米作りなど、水分野の取り組みも比較的多くの学校で実施されており、水環境豊かな日野市の特色が表れています。他にも、給食の食べ残しを減らす、ごみ減量、紙の節約、エコキングなど、様々な分野の取り組みが多くの学校で実施されています。

一方、太陽光発電や雨水の浸透・利用については、実施率が50%以下となっており、グリーンカーテンも60%を下回っています。費用の面だけでなく、施設や設備面での課題があるものと考えられます。

(3) 学校等による環境への取組状況



4. 環境への取組状況

アンケート項目以外のその他の取り組み・独自の取り組みとして以下の回答がありました。

- ・会議のペーパーレス（校務支援システムの活用）
- ・全校児童によるトライ＆チャレンジ(校庭、地域の清掃活動)（日野第六小学校）
- ・全校児童による菊栽培（日野第六小学校）
- ・ひのっこエコアクション振り返りシート記入（日野第六小学校）
- ・六小のシンボル「おたまが池」自然観察（日野第六小学校）
- ・環境美化委員会による清掃活動・校庭の石拾い（日野第六小学校）
- ・理科・栽培委員会による花の栽培活動（日野第六小学校）
- ・地域支援ボランティア・PTAの支援と協力によるガーデニングを実施している（平山小学校）
- ・3年・4年生が一人一鉢の菊作り（平山小学校）
- ・4年生がゴーヤのカーテンを実施（平山小学校）
- ・「人権の花運動」の担当校となり、5年・6年生の委員会活動で実施する（平山小学校）
- ・代表委員会によるエコ推進活動として、児童が主体的にポスター作りや給食中の啓発の放送を行っています（日野第八小学校）
- ・菊の全校一人一鉢栽培（東光寺小学校）
- ・地域の農家の方のご指導ご協力による、種まきからの稲作・校庭芝生の維持管理・東光寺大根作り・たくあん漬け体験・たまねぎ作りと給食への活用・和食器を使った給食体験・ぶどう農園の観察学習（東光寺小学校）
- ・廃材を活用した図工の学習（東光寺小学校）

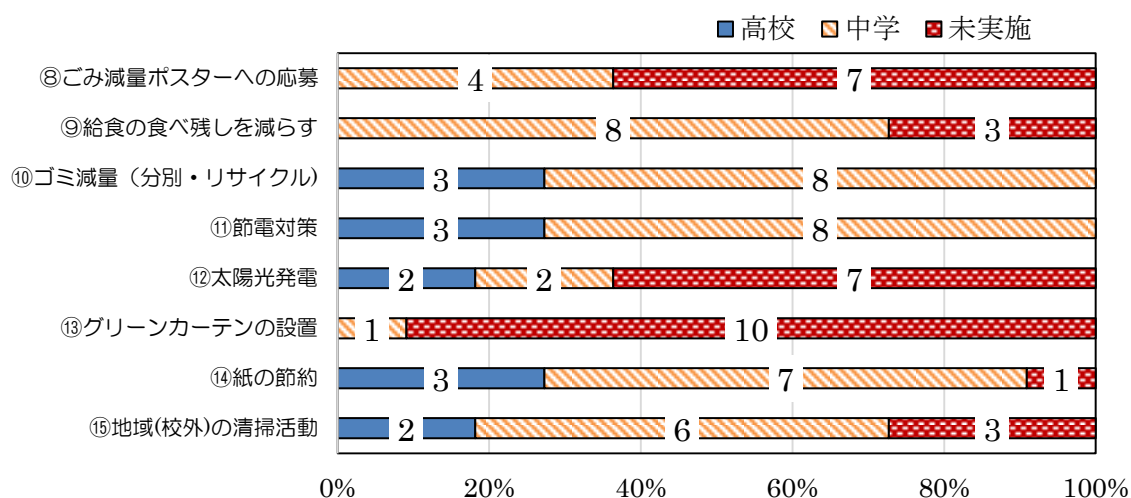
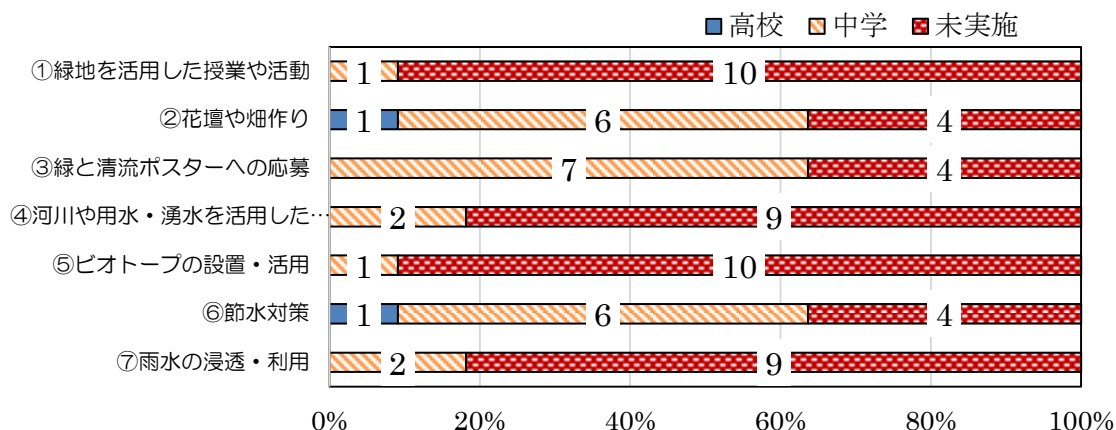
③ 中学校・高校における環境への取り組み

主な取り組み項目は15項目としてアンケートを実施し、中学校8校、高校3校から回答が得られました。

ごみ減量、節電、紙の節約については、ほぼすべての中学校・高校で行われていました。一方で、小学校では回答の多かったみどりや水に関する環境教育については、中学校で花壇や畑づくり、緑と清流ポスターへの応募が比較的多くの学校で取り組まれています。他の項目についてはあまり実施されていませんでした。給食の食べ残しを減らす、清掃活動については、中学校ではほとんどの学校で取り組まれています。

実施率の低かった、ビオトープの設置・活用、雨水の浸透・利用、グリーンカーテンの設置については、費用面・設備面での課題があるものと思われます。

(3)学校等による環境への取組状況



アンケート項目以外のその他の取り組み・独自の取り組みとして以下の回答がありました。

- ・一中緑のカーテンは、各学年、委員会、部活動で役割を分担しながら10年以上継続している取組で、PTA や地域の協力も受けながら、環境意識を高める事に成果をあげている（日野第一中学校）
- ・生徒会やボランティア部、自然科学部等を中心に、ペットボトルキャップの回収やひまわりデー清掃活動等のボランティア活動に取り組んでいる（日野第一中学校）
- ・年間を通して生徒会活動としてエコキャップの回収を実施。その中で、エコキャップ週間を設定し全校で取り組み、一週間で51kgを回収した（日野第三中学校）
- ・ペットボトルキャップ（エコキャップ）の回収（三沢中学校、平山中学校、他1校）
- ・「環境」について調べ学習（1年生）（平山中学校）
- ・「身の回りの物質」の学習を通して環境について考えた（1年生理科）（平山中学校）
- ・「エネルギー」の単元で、様々な発電方法やエネルギー資源についての学習を通して、持続可能な社会をつくるために必要なことを考えた（3年生理科）（平山中学校）
- ・紙パックのリサイクル（生徒会）（平山中学校）

4. 環境への取組状況

④ まとめ

多くの学校等において、種々の取り組みが行われています。

傾向としては、低年齢ほど、自然や動植物に触れ合うなど、情操教育的な効果が期待できる環境教育が多く実施されていると言えます。年齢が進むにつれて、自然と触れ合う機会は少なくなり、環境教育のテーマがごみ問題や地球温暖化問題へ移行していくことがうかがえます。施設としての取り組みでは、ごみの分別、節電、節水については多くの学校等で取り組まれています。太陽光発電、雨水の浸透・利用、グリーンカーテンなどについては実施率が低く、費用面・設備面での課題があるものと考えられます。

(アンケートに回答いただいた学校等)

市立幼稚園

第二幼稚園, 第四幼稚園, 第五幼稚園, 第七幼稚園

私立幼稚園

日野・多摩平幼稚園, 日野台幼稚園, 欣浄寺みのり幼稚園, 日野ふたば幼稚園, 光塩女子学院日野幼稚園, 日野わかくさ幼稚園, 百草台幼稚園, 日野ひかり幼稚園, 杉野幼稚園, 日野しらゆり幼稚園

市立保育園

とよだ保育園, たまだいら保育園, ひらやま保育園, あらい保育園, みさわ保育園, たかはた台保育園, みなみだいら保育園, あさひがおか保育園, もぐさ台保育園, おおくぼ保育園, しんさかした保育園

私立保育園

栄光保育園, 至誠第二保育園, つくしんぼ保育園, 日野保育園, 日野第二保育園, 日野わかば保育園, 万願寺保育園, ひよこハウス多摩平, ひよこハウス豊田, たかはた北保育園, 栄光保育園南平分園, しせい太陽の子保育園, 至誠あずま保育園, 栄光平山台保育園, 芝原保育園, 栄光豊田駅前保育園, 日野駅前かわせみ保育園, 至誠いしだ保育園, むこうじま保育園, 栄光多摩平中央保育園

小学校

日野第一小学校, 豊田小学校, 日野第三小学校, 日野第四小学校, 日野第五小学校, 日野第六小学校, 潤徳小学校, 平山小学校, 日野第八小学校, 滝合小学校, 日野第七小学校, 南平小学校, 旭が丘小学校, 東光寺小学校, 仲田小学校, 夢が丘小学校, 七生緑小学校

中学校

日野第一中学校, 日野第二中学校, 七生中学校, 日野第三中学校, 日野第四中学校, 三沢中学校, 大坂上中学校, 平山中学校

高等学校

都立日野高校, 都立日野台高校, 都立南平高校

(4) 大学による環境への取組状況

ここでは、日野市内にキャンパスがある 3 つの大学について、環境への取組状況を紹介します。

実践女子大学の環境への取組

〒191-8510 日野市大坂上 4-1-1 (042-585-8817) URL <http://www.jissen.ac.jp/>

実践女子大学日野キャンパスでは、生活科学部の学生約 1,900 名が学んでいます。本学は、各キャンパスにエネルギー管理責任者を置き、エネルギー管理を行うと共に、教職員や学生に対して省エネルギーや温室効果ガス排出削減に関する啓発活動を展開しています。そして、全学的な「クールビズ」の実施や「CO₂削減／ライトダウンキャンペーン」への参加など、地球温暖化対策に積極的に取り組んでいます。日野キャンパスにおける 2017 年度の電気使用量は 2,213kW で、前年度比 1.34%の消費削減となりました。

また、2016 年 3 月に完成した第 3 館には、自然の力を利用した先進的エコシステムを導入しました。「サーマルチューブ」により地中熱を採熱して安定した地中の温度を活かす空調システムの導入、温まった空気が自然に上昇することを利用した重力換気システム「ソーラーチムニー」の採用、全体空調によるエネルギーロスを防ぐため人の接する床下からじんわり空調を行う「床放射空調」を取り入れるなど、快適さと環境配慮を両立させた建物とし、キャンパス全体の省エネルギーに寄与しています。

首都大学東京日野キャンパスの環境への取組

〒191-0065 日野市旭が丘 6-6 (042-585-8610) URL <http://www.sd.tmu.ac.jp/>

公立大学法人首都大学東京日野キャンパスでは、教員、職員、学生だけでなく、生協や清掃事業者、警備事業者なども含むすべての関係者が同じキャンパスに生活する一員として、それぞれの立場を超えて、自然環境と人間環境の両立に配慮したエコキャンパスの整備と未来を志向したエコライフスタイルの実践に取り組んでいます。

例えば、教職員や警備事業者などの関係者は、夏季における節電対策のライフスタイルの実践として暑さをしのぎやすい服装での執務を行う「夏のライフスタイル」を行っています。

また、首都大学東京全体で、環境に配慮又はそれに寄与するための研究活動や高い環境意識を持った学生を社会へ輩出する活動として「エコキャンパス・グリーンキャンパス」を推進しており、日野キャンパスにおいても推進部会を設置し、具体的な取り組みを検討及び実施しています。

この取り組みの一環として、2017 年度も、学生主体の環境保全活動を進めるため、全研究室に学生のエコリーダーを設置しました。

2017 年度の主な省エネルギー施策

- ・ゴミ分別の徹底(ゴミ箱を施錠し、廃棄時間を設定したうえ、事務室で分別確認を実施)
- ・ポスターによる節電等の啓発強化
- ・不要となった物品の斡旋(リユース)
- ・再資源化を目的にしたパソコンや周辺機器及び古紙類等の売払いを実施
- ・空調機器の効率的運用や適切な温度設定により電気等の使用量を削減

明星大学の環境への取組

〒191-8506 日野市程久保 2-1-1 (042-591-5111) URL <https://www.hino.meisei-u.ac.jp/>

明星大学は、2010 年度に日野市、明星大学、東京都の間で「東京グリーン・キャンパス・プログラム」の協定を結んで以来、日野市東光寺緑地保全地域を活動フィールドとした授業及び学生のサークル活動を行って来ました。

10 月 9 日に環境・生態学系 1 年生の 45 名が、授業(自立と体験 2 必修科目)の一環として緑地保全活動を行いました。活動は 6 名で 8 班に分かれ、各班には 4 年生が TA として 1 名配属され、

4. 環境への取組状況

緑地管理ボランティアの会の方に指導していただき、モウソウチクの伐採や下草刈りを行いました。林床部がアズマネザサやススキなどに覆われ生物の多様性が失われていましたが、本活動により、絶滅が危惧されている希少種の生育環境が整備されています。

緑と清流の町、日野市での緑保全の取組の経験を活かし、緑関連のコンサルタントや市役所に就職して活躍している学生も増えてきました。日野市民の方々と交流しながら、市内に残存する貴重な緑を守る活動に参加した経験は、社会人になっても活かしています。

(5) 事業者による環境への取組状況

日野市環境基本計画ではその主体を市民、民間団体、事業者、市の四者としています。2002年度に国内でも先進的な取り組みとして、事業者自らがその事業内容を地域に積極的に公開する「リスクコミュニケーション」を始めたことをきっかけに、白書でも市内の事業者（8事業者）の環境への取り組みを掲載しています。

(株)いなげや 環境への取組

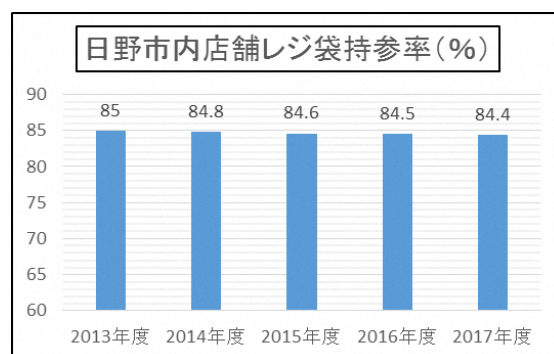
〒190-8517 東京都立川市栄町 6-1-1(本社) (042-537-5111) URL <http://www.inageya.co.jp/>

いなげやの環境問題への取組

レジ袋有料化の取組

日野市・杉並区の店舗におきまして各行政と地域のお客様のご協力のもと“レジ袋無料配布中止”を実施しております。

循環型社会の構築と地球温暖化防止に向け、マイバック持参運動に取り組んでおります。レジ袋ご利用のお客様には有料販売しております。



店別削減実績データ(累計)

(18'3月時点)

	レジ袋削減枚数(枚)	CO2削減量(kg)	石油換算量(ℓ)	杉1本換算(本)
日野駅前	3,588,411	218,893	65,668	15,635
日野栄町	5,324,645	324,803	97,441	23,200
日野万願寺	6,440,992	392,901	117,870	28,064

アイバスケットの推進

アイバケットは精算後詰め替える手間もなく、そのままお持ち帰りできる便利なものです。



アイバケットをもっていなげやに



アイバケットを店内のかごと重ねてお買い物



レジ精算でアイバケットに商品を移します。
支払い済みのしるしをつけてそのままお持ち帰り

食品リサイクルへの取組

2018年3月で市内店舗を含む96店舗で食品残渣のリサイクルを実施しており、リサイクル率は68%と毎年上昇中です。市内3店舗では、野菜屑やパン等を分別回収し、飼育肥料としております。

作業場での分別回収を実施



野菜屑やパン等から豚の餌に



従業員への啓蒙活動



ペットボトル回収で循環型社会の推進と地域貢献への取組

日野駅前店と日野万願寺駅前店では、ペットボトルの圧縮回収機を設置し、再びペットボトルに戻すという循環型社会の実現に取り組んでおります。両店舗で集まったボトルの売却益は地域小学校へ環境備品として寄付させていただいております。



ペットボトル募金報告	
回収本数×0.2円に換算	
当店の回収本数(2016年度)	302,260本
日野市内設置店舗(合計回収本数)	452,738本
日野市への寄付金額	90,548円
当店で回収したペットボトルの寄付額を、環境備品に換算し、 日野市立潤徳小学校へ、贈呈させていただきました。 リサイクルへのご協力ありがとうございました。	
店長	

すこやけくの森・・・花粉の少ない杉の植樹と森林整備活動でCO₂の削減を推進中

東京都青梅市にある「花粉の少ない杉」は創業110周年を記念して、2010年に植樹しました。10年間にわたり、整備費を負担し森林の整備活動を新入社員を中心に毎年実施しております。

「すこやけくの森」は順調に成長を続けております。



コニカミノルタ東京サイト 環境への取組

〒191-8511 日野市さくら町1 (042-660-9426)

URL <http://konicaminolta.jp/>

コニカミノルタグループの環境への取り組み

地球環境問題は喫緊の課題であり、環境負荷を抑制して持続可能な社会づくりを実現していくうえで、グローバル企業が大きな責任を有しています。コニカミノルタは、地球温暖化防止や資源循環、生物多様性の保全に向けて、2050年をターゲットとする長期環境ビジョン「エコビジョン2050」を2009年に策定し、さまざまな取り組みを進めています。

エコビジョン2050

- 1.製品ライフサイクルにおけるCO₂排出量を、2050年までに2005年度比で80%削減するとともに、ステークホルダーと連携することで、製品ライフサイクルにおけるCO₂排出量を上回る削減効果を生み出し、カーボンマイナスを実現する。
- 2.限りある地球資源の有効活用の最大化と資源循環を図る。
- 3.生物多様性の修復と保全に取り組む。

4. 環境への取組状況

グリーンプロダクツ(製品)への取り組み

コニカミノルタは、優れた環境性能を持つ製品を評価・認定する独自の「グリーンプロダクツ認定制度」を導入し、事業や製品特性に合わせた環境価値を創出し、お客様や社会での環境負荷低減に貢献することを目指しています。

【製品紹介】

① 使用済みミルクボトルをトナーボトルに再生

ポリエチレン製ミルクボトルを複合機用のトナーボトルにリサイクルしています。牛乳の臭いや品質悪化につながる微細細胞を取り除く洗浄技術を開発し、トナー容器の原材料における再生素材中で使用される回収材料の割合は40%となっています。

② 使用済みペットボトル・PC ガロンボトルを複合機の外装材に再生

使用済みペットボトルおよびPC ガロンボトルを複合機の外装材に、また使用済み遊技機から回収したABS樹脂を内装材にリサイクルする開発に成功しました。2016年度発売した製品では再生率70%以上の外装材を採用しています。



再生素材で生産したトナーボトル



東京サイト日野の活動紹介：工場植栽の適正管理

コニカミノルタでは、グループ生産拠点において、敷地内の植栽の適正管理を行っています。拠点ごとに植栽管理リストを作成して定期的にチェックすることで、新たに播種する種子も含めて、外来侵入種が含まれないことを確認しています。

また、敷地内で希少種が発見された場合には、立て看板や柵を設け、従業員や来訪者へ周知することで保護活動に努めています。例えば東京サイト日野では、絶滅危惧種のキンラン、カノコユリを管理・保護しています。



東京サイト日野のキンラン

GE ヘルスケア・ジャパン(株) 日野本社・工場 環境への取組

〒191-8503 日野市旭が丘 4-7-127 (042-585-5111) URL <http://www.gehealthcare.co.jp/>

Hino Brilliant Factory (日野ブリリアント・ファクトリー)

GE は、ご存知のとおり発明王エジソンが発明した電球の生産から始まった世界最大級の製造メーカーです。

GE ヘルスケア・ジャパンは 1882 年の創設以来、スマートな省エネ工場の実現を目指しています。その取り組みとして、始めたのがブリリアント・ファクトリーです。デジタル化によって製造工程を効率化することで二酸化炭素の排出を減らし、脱炭素を実現しながら生産性をスマートに向上させるプロジェクトです。



例えば、CT スキャナーの生産ラインは、10 年前には、数十人の従業員が昼夜のシフト勤務で行う生産体制でしたが、現在では生産台数を変えることなく、昼間勤務のみを数名の従業員で担当する体制を実現しました。

深夜勤務がなくなったことで、工場のエネルギー消費量の大幅削減に成功しました。また、従業員にとっては深夜勤務の負荷がなくなり、より快適な労働環境が生まれました。

カギを握っているのは、いわゆる「ビッグデータ」で、さまざまなモノや従業員に取り付けられたセンサーが、作業にかかる時間など生産に関わるあらゆるデータをリアルタイムで収集します。工場で働く従業員の行動を視覚化することで、無駄な動きを直ぐに発見することができるようになります。それらのデータを見つつ、データ・サイエンティストが工場の担当者と話し合い、改善点を見つけていきます。こうした改善への取り組みの積み重ねにより、生産性を大幅に向上させることに成功しました。

GE ヘルスケア・ジャパン日野工場では、スマートに省エネを実現しながら、働き方改革にもつながる「ブリリアント・ファクトリー」の構築に向けて継続的な努力を行っています。

このブリリアント・ファクトリーの取り組みが話題になり、日野工場は NHK ニュースでも紹介されました（2018 年 3 月）。



今後も GE ヘルスケア・ジャパンは、持続可能な社会のために環境改善を推進してまいります。

(株) スーパーアルプス 環境への取組

〒192-0011 八王子市滝山町 2-351 (本社) (042-692-2739) URL <http://www.superalps.co.jp/>

当社では、環境への取り組みとして、大きく分けておもに、次に挙げる 2 つの面で推進しております。

1. 省エネルギー、省資源の取り組み
2. 廃棄物の削減、リサイクルの推進

まず、ひとつめの省エネルギー、省資源についての中心となるのが、節電対策です。2017 年は、南平店を一時閉店し、建物を解体、そして新店舗を建設いたしました。そのことにより、①冷蔵冷凍設備が一新されて最新の省エネルギー型のものに入れ替わりました。また、②照明についても、すべて LED 化しました。さらに、③空調設備についても最新の省エネルギー型のものに入れ替わりました。この 3 点を実施したことにより、店舗の電力使用量は建て替え前と比較して約 30%削減されました。南平店以外の店舗におきましても、冷蔵冷凍設備・空調設備の入れ替え、照明の LED 化を進めてまいります。

次に、ふたつめの、廃棄物の削減、リサイクルの推進についてです。分別・再生を行っているものとして、食品残渣、プラスチック、ペットボトル、キャップ、トレイ、たまご容器、牛乳パック、空き缶、段ボール、紙、発泡スチロールがあります。リニューアルした南平店については、店頭に設置しているリサイクル回収ボックスを以前より大きなものに変更いたしました。お客様がより便利に利用できるようになりました。また、現在、従業員を対象として、店舗からの排出物がより良い分別となるように教育・指導活動を進めております。特に紙類と食品残渣の分別をさらに徹底し、リサイクル率の向上に努めていきたいと考えております。また、店舗への納品形態について、定期的に繰り返し取引のある業者様につきましては、可能な範囲で、コンテナによる納品を推進していただいております。他、エコバック・マイバック持参に対して、2 ポイント、2 円相当のポイント付与を継続して実施し、レジ袋の削減に努めています。

4. 環境への取組状況

セイコーエプソン(株) 日野事業所 環境への取組

〒191-8501 日野市日野 421-8 (042-586-6226) URL <http://www.epson.jp/SR/environment/>

エプソンでは、地球の環境負荷許容量を認識し、2050 年に向けて、「商品とサービス」のライフサイクルにわたる CO₂排出を 10 分の 1 にすることを目指す「環境ビジョン 2050」を 2008 年に策定しました。

この長期目標の実現に向けて、中間目標を立て、生産工程の環境負荷低減や商品そのものによる環境貢献、さらにはお客様の業務プロセスで生じる環境負荷低減に貢献できる商品・サービスの提供を展開しています。

当事業所はセイコーエプソンとグループ会社で構成されており、環境活動は共通課題の「省エネ」、「省資源・再資源化」、「地域社会貢献」を 3 本柱として、連携・協力して推進しています。

1. 省エネ活動

省エネに関する社内ガイドラインを設けて、事業所全体で省エネ活動を推進しています。空調管理の徹底（夏期 28℃、冬期 20℃設定）、定時退社日の徹底等による節電対策およびこまめな照明消灯等の全従業員参加の節電活動を展開し、2017 年度は電気使用量を 2010 年度比で 36%削減することができました。

2. 省資源・再資源化

事業所から排出される廃棄物は、36%が紙類、4%が金属くず、15%がプラスチック類で、そのほとんどを再資源化しています。一方、再資源化できない可燃ゴミについては、一人当たりの一日の排出量を抑制する活動を継続的に推進していて、2017 年度は年間平均値で 14.2g/人という成果をあげることができました。

3. 社会貢献活動

春・秋 2 回の日野市内一斉清掃への参加、エコキャップ活動などを実施。2012 年度から実施している、当社製使用済みインクカートリッジの回収では、2017 年度は 10,608 ポイントをベルマーク財団経由で寄贈。資源の有効活用と廃棄物の減少による地球環境保全を図りながら、教育支援という社会貢献活動への参画を実現しております。



2017. 11. 24 朝 日野市内一斉清掃に協力、事業所周辺の清掃活動を実施しました

東京ガス株式会社 環境への取組

〒192-0071 立川市曙町 3-6-13 (042-526-6125) URL <http://www.tokyo-gas.co.jp/>

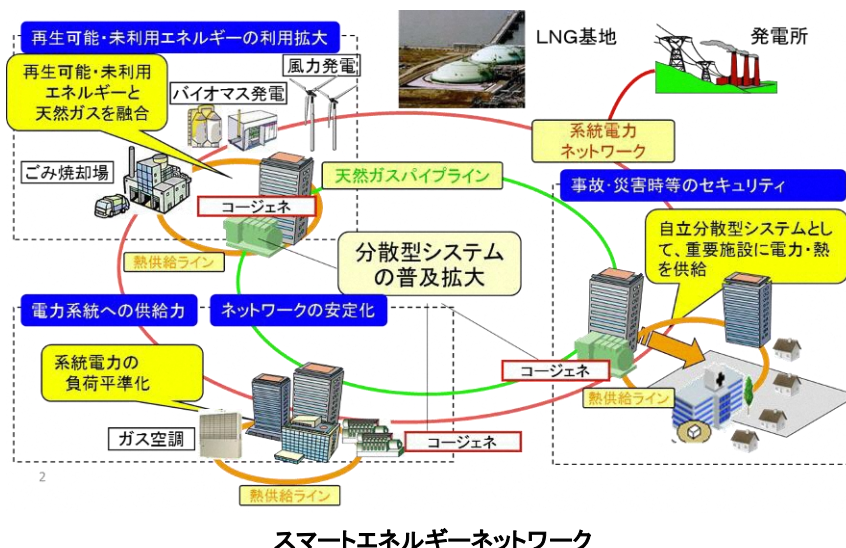
東京ガスは事業活動における CO₂排出の抑制、および、お客さまのエネルギー利用における環境負荷の低減に努めています。お客さまのエネルギー利用に伴う CO₂排出の抑制対策として、環境性に優れた天然ガスの利用促進や高効率機器の開発・普及に積極的に取り組んでおり、天然ガスコージェネレーションシステムによる分散型エネルギーシステムの普及拡大、太陽光・太陽熱・バイオマスを始めとする再生可能エネルギーの利用促進、家庭用燃料電池「エネファーム」等の省エネ機器の普及促進により、環境負荷低減に貢献しています。また、地域全体の効率化としてスマートエネルギーネットワークの構築に取り組むと共に、次世代へのエネルギー環境教育にも力を入れ、低炭素社会の実現に貢献してまいります。

1. 家庭での取り組み 「エネファーム・エコジョーズなど省エネ機器の普及促進」

都市ガスから取り出した水素と空気中の酸素との化学反応で発電する、家庭用燃料電池「エネファーム」。発電時の廃熱を利用し、お湯を作るガスを削減できるため、エネルギーを効率的に利用でき温暖化対策の切り札として期待されています。給湯器では、熱効率が95%まで向上した「エコジョーズ」が省エネ・CO₂削減に貢献しています。また、身近にできる省エネのコツや省エネ機器の選び方などの情報提供を行ない、お客さまの省エネ活動を推進しています。

2. 地域全体の効率化の取り組み 「スマートエネルギーネットワークの構築」

スマートエネルギーネットワークは、既存の都市ガス・電気のネットワークと、高効率コージェネレーションなどの分散型エネルギーシステム、太陽光・太陽熱などの再生可能エネルギー、廃熱などの未利用エネルギーを組み合わせ、ICT（情報通信技術）を使って建物単位、地域でエネルギーを面的に最適利用し、省エネ・省 CO₂ を図り、事故・災害時等のセキュリティ向上を可能とする次世代のエネルギーシステムです。この実現に向け、さまざまな技術が研究・開発され、複数の地域や街で導入を開始しています。



3. 市民への環境情報等の提供や小・中学校での出張授業の実践

東京ガスは日野市の小中学校への出張授業、エコ・クッキングの講座開催、企業館での校外学習等を通じてエコライフや省エネの生活提案を行っています。これからも人と環境に優しい活動を実践・支援してまいります。

4. 環境への取組状況

日野自動車(株) 環境への取組

〒191-8660 日野市日野台 3-1-1 (042-586-5563)

URL <http://www.hino.co.jp/>



写真：左から、大型観光バス「日野セレガ」、大型トラック「日野プロフィア」、
中型トラック「日野レンジャー」、小型トラック「日野デュトロ」

日野自動車は「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」の企業理念のもと、環境保全を経営における重要課題と位置づけ、積極的な活動を推進してきました。地球規模で進む地球温暖化や環境汚染を低減していくことは人類共通の課題であり、グローバル化を進める日野自動車の果たすべき社会的責任も大きくなっています。「社会・地球の持続的な発展」のためにも、今後も日野グループ全員参加で積極的に社会貢献や環境保全に取り組んでいきます。

1. 製品開発における環境への取組み

日野自動車は1991年に世界で初めてハイブリッドバスを商品化・販売して以来、常に業界をリードしてきました。近年ではCO₂を発生しない水素をエネルギーとする燃料電池バスの開発にトヨタ自動車殿と共同で取り組みました。これからも日野自動車が持つ技術力を活かし、次世代の物流を担う商品を世界に提供することにより、環境保全に貢献していきたいと考えます。

2. 生産活動における環境への取組み

生産活動においても、日野自動車は環境負荷低減活動（CO₂削減活動、省資源活動、節水活動など）に積極的に取り組んでいます。

設備更新時等には、企画・設計段階から「順法」「環境リスクの未然防止」「環境パフォーマンス向上」を追求する『エコファクトリー活動』を通じて、環境に配慮した工場設計を行っています。また中期計画となる「環境取り組みプラン」を5年ごとに策定し、具体的な目標を掲げて「環境にやさしい製品を環境にやさしく作る」活動を推進しています。

3. 地域社会との交流による環境への取組み

日野自動車は周辺地域の皆様とのコミュニケーションを大切にしています。情報交換会や地域行事、定期的な懇親会などを通じて得られた皆様の声を企業市民としてしっかりと受け止め、日野自動車の環境活動につなげていきたいと考えています。

富士電機（株） 東京工場 環境への取組

〒 191-8502 東京都日野市富士町 1 (042-583-6115) URL <http://www.fujielectric.co.jp/>

富士電機(株)東京工場では“環境経営推進で持続的に発展する循環型社会への貢献”をスローガンとして、環境負荷軽減に向け以下のような取組みを推進しています。

1. 環境貢献製品（新スプール形超音波流量計）の開発・生産

流量計は主に鉄鋼・化学プラントやごみ処理施設で使われている冷温水や排水を最適な流量に調整することでモータの負荷を軽減し、電力量を低減することで環境に貢献しています。

今回、超音波式を開発することで、電気を通さないオイルや真水も測定可能となり適用範囲が拡大すると同時に、センサーを配管の中に入れることなく測定可能となり、メンテナンスフリーを実現しています。



【スプール形超音波流量計】

2. 環境に優しい設備の導入

長年、東京工場の冬季の暖房は重油を使用したボイラーを使用していましたが、設備の老朽化や環境への影響に配慮し、電気やガスを使用した空調設備へ順次更新を進めることで昨年ボイラーを廃止しました。

また、工場内の照明についても蛍光灯からLED照明へ順次切替えており、主な建屋については85%LED化が完了しています。

これらの設備を導入することでCO₂排出量を年間387t削減しており、約168人が通常の生活で排出するCO₂を削減したことになります。

3. 雑木林の整備

工場敷地の東側には雑木林がありますが、生物多様性の観点からこの雑木林を整備し、クヌギやコナラといったどんぐりのなる木を植え、巣箱を取付けました。

またこれに合わせ、遊歩道やベンチを設置することで、従業員の余暇の充実を図っています。



5. 環境関連決算額

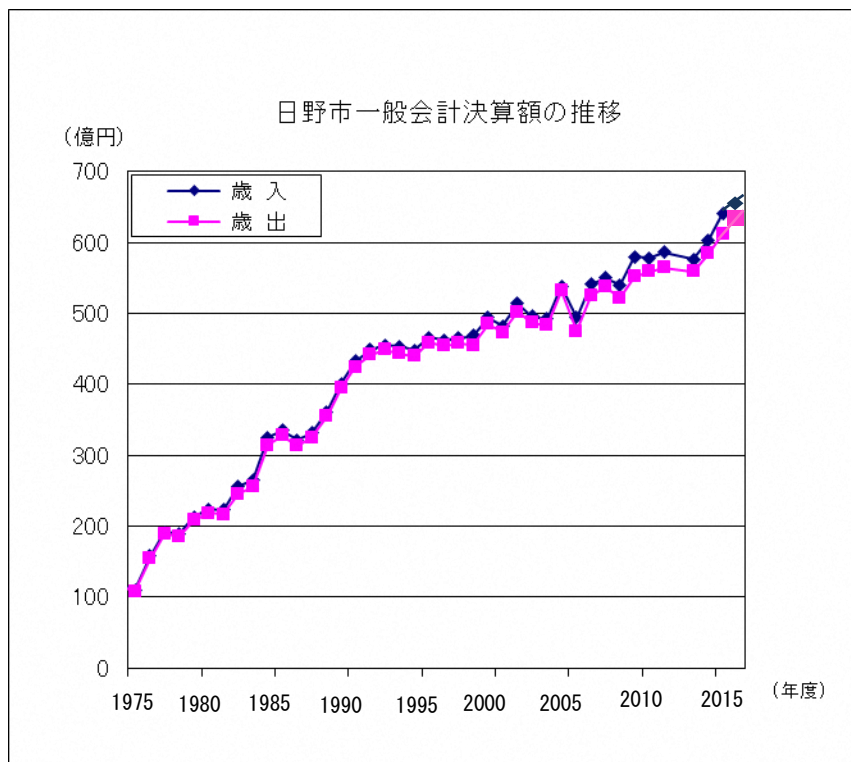
5. 環境関連決算額（2016 年度）

※本書編集時点で最新となる 2016 年度のデータを掲載しています。

(単位 千円)

関連分野／項目		2016 年度
緑	環境緑化基金繰入金	222,700
	農業体験等推進事業	65
	農業改善経費	127
	振興対策経費	7,040
	市民農園育成経費	200,280
	援農制度育成経費	553
	都市農地保全自治体フォーラム・都市農業シンポジウム経費	869
	認定農業者支援経費	988
	援農ボランティアコーディネート事業経費	70
	日野産ブランド支援事業経費	207
水	学校給食用地元野菜等供給支援	7,737
	七ツ塚ファーマーズセンター管理運営費	8,114
	都市農業活性化支援事業経費	75,000
	公園管理経費	111,496
	公園整備経費	519,575
	緑化推進事業経費	25,885
	緑の保全事業経費	13,253
	七生丘陵の自然と歴史調査事業	181
	田んぼの学校運営業務経費	224
	みんなで川へ繰り出そう！事業経費（衛生費）	6,016
ごみ	し尿処理施設経費	8,992
	し尿収集経費	30,511
	し尿処理施設整備経費	19,657
	河川総務費一般管理事務経費	1,121
	清流啓発事業経費	2,556
	雨水浸透施設設置事業経費	921
	河川維持管理経費	166,135
	河川新設改良経費	7,614
	「水都・日野」事業経費	10,142
	下水道事業繰出金	1,923,268
ごみ	生ごみ処理機保守	358
	生ごみ処理機借上料	46
	クリーンセンター維持経費	67,095
	清掃総務費一般管理事務経費（人件費を除く）	19,706
	ごみゼロ施策推進事業経費	140,301
	資源回収奨励事業経費	14,546
	資源物回収事業経費	397,095
	容器包装リサイクル法関係事業経費	37,287
	資源有効利用促進法関連事業経費	73
	生ごみリサイクル事業経費	2,472
ごみ	広域循環組合経費	440,254
	浅川清流環境組合経費	98,182

関連分野／項目		2016 年度
ごみ	第3次ごみゼロプラン策定事業経費	2,596
	ごみ処理施設経費	133,272
	ごみ処理施設延命化対策経費	261,714
	可燃ごみ収集経費	387,090
	粗大ごみ収集経費	58,709
	不燃ごみ収集経費	185,291
	動物死体収集運搬経費	1,996
	ごみ焼却施設運転管理・警備経費	123,660
	ごみ処理施設排出物調査経費	1,911
	クリーンセンター施設更新準備経費	28,987
地球温暖化防止	P C B 廃棄物処理経費	2,241
	新可燃ごみ処理施設周辺環境整備経費	138,112
	ふだん着で行う CO ₂ 削減事業経費	2,066
	歩きたくなるまちづくり経費	5,911
	L E D 街灯対策経費	21,578
	自転車対策経費	39,531
	交通網整備支援経費	100,815
	消費者啓発事業経費	2,300
	消費生活相談事業経費	8,069
	消費生活運動育成事業経費	705
生活環境	地域の食育推進事業	26
	第3期食育推進計画策定経費食育推進会議を含む	3,163
	生きもの共生事業	1,634
	空き地環境保全経費	15
	市内一斉清掃事業経費	1,329
	喫煙マナーアップ経費	517
	公害環境対策経費（人件費を除く）	4,857
	空き家対策経費	976
	市民参画での居場所づくり推進経費	385
	環境審議会事務経費金	261
総合	環境保全推進経費	64
	再生可能エネルギー活用推進事業経費	6,044
	環境情報センター経費（人件費を除く）	8,323
	生物多様性地域戦略推進事業経費	5,940
	（仮称）東豊田複合施設建設準備経費	168,400
	まちづくり条例経費	1,036
	まちづくり計画経費	26,262
	開発指導・地区計画届出受理経費	214
	ユニバーサルデザイン事業経費	677
	みんなで川へ繰り出そう！事業経費（土木費）	19,764
		6,345,721



日野市一般会計決算額の推移

2016 年度一般会計決算額

歳入 65,978,549,853 円

歳出 63,685,222,189 円

日野市一般会計決算額は（歳出）4.0%増。環境関係決算額は 14.8%増。

<主な増加予算>

- 増加
- ・環境緑化基金繰入金
 - ・市民農園育成経費
 - ・し尿処理施設整備経費
 - ・河川新設改良経費
 - ・クリーンセンター施設更新準備経費
 - ・新可燃ごみ処理施設周辺環境整備経費
 - ・歩きたくなる街づくり経費
 - ・喫煙マナーアップ経費
 - ・まちづくり条例経費

- 新規
- ・みんなで川へ繰り出そう！事業経費（衛生費、土木費）
 - ・「水都・日野」事業経費
 - ・浅川清流環境組合経費
 - ・PCB廃棄物処理経費
 - ・LED街路灯導入促進事業経費
 - ・第3期食育推進計画策定経費
 - ・市民参加での居場所づくり推進経費
 - ・新可燃ごみ処理施設周辺環境整備経費
 - ・(仮称)東豊田複合施設建設準備経費

6. 市役所の環境配慮の状況

(1) 日野市環境マネジメントシステム

日野市の事務事業における環境負荷の低減と環境保全への積極的な貢献を行う仕組みを確立し、運用することを目的とし導入しています

<これまでの経過>

2000 年度	日野市環境方針制定、マネジメントシステム運用開始、ISO14001 認証登録
2003 年度～ 2007 年度	生活・保健センター、防災情報センター、水道事務所、建築指導課、環境情報センター、郷土資料館、中央公民館、高幡台分館、図書館（全館）を適用範囲に加えた。
2011 年度	クリーンセンター事務所を加えた。
2012 年度	認証期間の満了に合わせて ISO14001 自己適合宣言に移行（12/6）※
2014 年度	日野市独自の環境マネジメントシステム「ひのエコ」に移行
2016 年度	環境方針に「市は市民・事業者・市民団体と連携・協力」を追記

※自己適合宣言とは、外部機関からの認証ではなく、自らがシステムに適合していることを宣言するもの

<環境マネジメントシステムでの取り組み>

毎年度、各部署の事務事業がどれくらい環境に影響を与えるかを調査し、その結果を基に具体的な目標・目的を設定して各部署が取り組むプログラムを作り実行します（2017 年度は 65 プログラムを実施）。そして、各プログラムの達成状況を四半期ごとに評価し、進捗状況に応じて取り組み方法を見直すなどの改善を行ない、目標の達成に向けて行動しています。

<取り組みのチェック及び評価制度>

年に一度、環境監査を実施しています。これは、環境監査員に任命された職員が各職場に入り、各課の取り組み（プログラム）状況や、決められた手順に従い実施しているかをチェックするものです（2017 年度は 7 月 19 日、20 日実施）。日野市では、2014 年 4 月に日野市独自の環境マネジメントシステム「ひのエコ」に移行しました。これは、環境方針に基づくシステムに関する事項を定め、日野市一丸となった環境改善と管理、維持を行なっていくもので、外部機関のチェックが無いことから、自己チェックが大変重要となります。



2017 年度環境監査風景

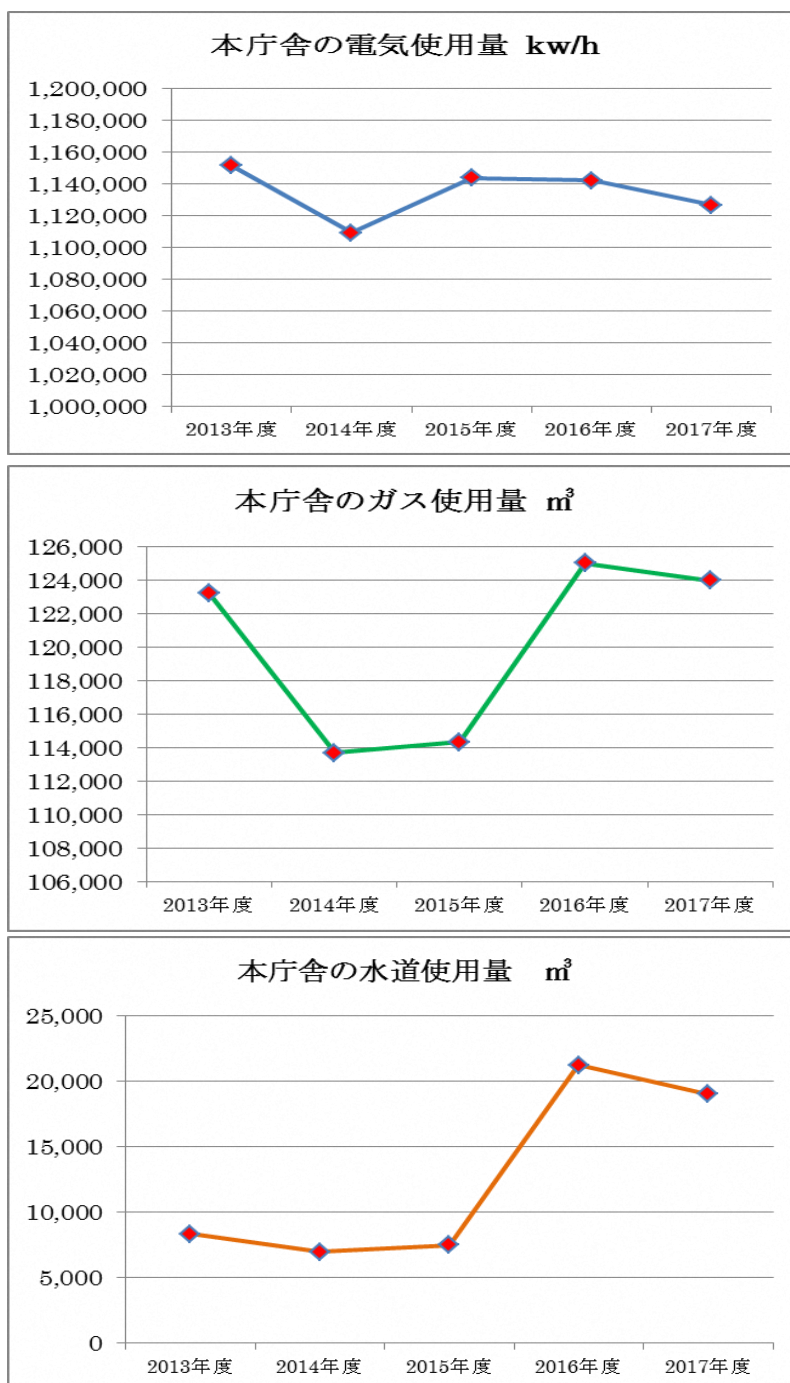
そこで、環境監査の充実を目的に調布市、府中市、昭島市と 2014 年 9 月に環境マネジメントシステムに係る相互環境監査に関する覚書を交換し、4 市での相互監査を行っています。ルールに従い各課が取り組んでいるのかを確認するほか、環境監査としてしっかり機能しているかについても 4 市でお互いにチェックしています。

〔クローズアップ優秀部署表彰の取組事例〕

年度	該当部署	取組事例
2017	第五幼稚園	園児に分かりやすくごみ・資源物の分別を促し、また、家庭の生ごみを園で肥料にする活動で保護者にも関心が持てる機会をつくっている。
	中央公民館	更なるごみ減量を目指し、イベントでリユース食器を使用し、また参加者に My 食器・My 箸の持参を呼び掛けている。

〔環境負荷低減の実績～本庁舎～〕

職員一人ひとりが省エネ・省資源の意識と取り組みを確実に実践してきました。直近5年の結果を下記のグラフに示しています。ISO14001 導入により、本庁舎内にあった冷蔵庫や電気ポット、コーヒーメーカーなどをほぼ撤去するなど、エネルギーの使用削減に向けた徹底した取り組みがスタートしました。その後、土曜開庁や1人1台パソコンの導入など、エネルギー消費増につながる施策もありましたが、職員は地道な環境配慮行動を実践してきました。東日本大震災の影響による電力の安定供給が危ぶまれた2011年の大規模な節電対策に対しても、混乱することなく粛々と取り組めたのはこの12年間の経験があったからだと思われます。今後も引き続き、環境負荷低減に取り組んでまいります。



※2016年度にガスと水道の使用量が増加しているが、ガスは気温による空調稼働増、水道は浄化槽から下水道への切り替えを行ったことが主な要因。継続的な省エネの取り組みにより2017年度は微減となった。

7. 環境基本計画の推進体制

（１）環境基本計画の推進

第2次環境基本計画策定から6年が経過しました。確実かつ継続的に計画に取り組むためには、推進体制の確立が非常に重要です。第1次計画の策定時にも推進体制を整備しましたが、役割分担が明確でなかったこともあり、効果的に進めることができませんでした。その課題を踏まえ、第2次計画では市・市民・事業者の役割を明確にしたうえで、市が進めるべき施策はその主管課が中心となり、市民の皆さんと定期的に検討して進めていく仕組みを整備しました。

現在、みどり分野、水分野、ごみ分野、CO₂分野の4つの分野に分かれ、それぞれの主管課と定期的な会議を開催しています。

先人から受け継いだ豊かな自然を次の世代に引き継ぐために、多くの市民の皆さんと共に取り組んでいきたいと思えます。日野市の自然に関心のある方は、ぜひ各分野の会議に参加してください。

各分野の会議に参加し、計画を推進している市民の皆さんから、これまでの取組状況や課題などを報告します。

【みどりグループ】

上半期は、環境基本計画推進会議の仕組みについて、推進会議を形式的なものではなく実効力のあるものにすべきとの認識に立って、「コアメンバー会議」の設置を推進会議に提案しました。また、みどりグループとしてカワセミハウス協議会にどうかかわっていくかについても議論しました。最終的には、協議会への参加を決定しました。

後半は、11月のみんなの環境セミナーに向けての準備を行いました。みどりと水の関わりに着目し、程久保川の上流から下流までたどることによって、人々の暮らしの変化とともに自然とのかかわりがどう変化していったかを学ぶ場としました。程久保川上流のかつての里山環境から、改修された程久保川を下流へとたどりながら、川とのかかわりを考えてもらう機会になるように組み立てました。参加人数、参加年齢層をみると、開催時間や時期、コース取りなどに課題が見えてきましたので、次年度への糧にしようと話し合いました。

【水グループ】

約1年間出来なかった定例会議が確実にできるようになり、環境基本計画重点施策目標設定シートの再確認、管理シートの目標達成のために実施すること6項目に挑んだが、②用水カルテまとめの成果・課題への対応策の確認、②水田残存状況・水利権維持の現状、農家継承意識調査の情報共有 ④水辺環境整備計画の時点修正は環境共生部、緑と清流課としての対応方針にも関わる課題であり、部、課の積極的なバックアップがない中、主管係（水路清流係）の準備不足となり、後半には定例会議もむづかしくなった。

主管課の業務が多すぎ、かつ目的が明確でないイベント、マスタープランはじめ種々基本計画への対応が全体状況に関係なく、それぞれ個々に対応されることにあるように感じられる。環境基本計画推進会議事務局（環境保全課）も目的を明確にした担当課への対応が求められる。

【ごみグループ】

ごみグループとしては、市民と行政が協働で「日野市ごみゼロプラン」を推進している「日野市ごみ減量推進市民会議」と、生ごみの減量とともに、生ごみの堆肥化とそれを使った野菜作りや花作りを推進している「ひの・まちの生ごみを考える会」があり、それぞれごみゼロ推進課と毎月1回定例会議を持っています。

「日野市ごみ減量推進市民会議」は、主にレジ袋の削減や容器包装の店頭への返却、新聞紙の販売店回収の利用の促進に取り組んでいます。レジ袋の削減では、スーパーとの「レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」を定期的に開催し、また、各スーパーの出口でマイバッグ持参率調査を実施しています。

「ひの・まちの生ごみを考える会」には2つの下部組織があり、「生ごみリサイクルサポーター連絡会」は、ダンボールコンポストの普及に取り組み、一方、「まちの生ごみ活かし隊」は、新井にある「せせらぎ農園」で生ごみを使って野菜作りをし、幼稚園に生ごみでの野菜作りを広めています。

【CO₂グループ】

CO₂グループは、月に一回の定例会を開催し、「低炭素社会を築く」を目標に、施策を具体的に進めようと努力しています。

施策の中心は、市内の全小学校を対象とした夏、冬各一回行うアンケート「エコキング」で、家庭の省エネを推進、啓発しています。

2016年度からは、保護者に対してもアンケートを実施し、地球温暖化の被害、対策に対する啓発を主眼として実施しています。

2017年度は、富士電機日野工場見学、ミーティングを実施し、企業との連携を計り、意識高揚に繋がりました。

今後は、更に企業とのコミュニケーション、大学とのコミュニケーションを計り、連携の輪を広げて結果を出せるように計画しております。

2018年度以降は、パリ協定締結による世界大企業行動の変化(RE100 リニューアルエネルギー100)、欧米金融業界のグリーン投資の急拡大による再生エネルギーの成長性を読み込んだ施策を参考に、して取組を計りたいと思います。

日野市役所に対して、再生可能エネルギー促進の補助金拡大、炭素に対する規制創設等によって、税金控除と税金創設の検討をお願いしたいと思っております。

さらに、日本全体の脱石炭と炭素税導入の啓発活動を行う計画をしています。

(2) 日野市立カワセミハウスの活動状況

2017年度の日野市立カワセミハウスの活動状況は次のとおりです。

①日野市ならではの魅力発信

・「みんなの環境セミナー」等の開催

「みんなの環境セミナー」は、日野市の自然環境の魅力を市民に広く知ってもらい、その保全への意識を高めてもらうことを目的に、自然や動植物を観察し体験する講座です。2017年度にはセミナー8回と学習会1回の計9回を開催し、延べ189人の参加者がありました。

7. 環境基本計画の推進体制

実施日	テーマ	講師・会場	参加者
2017年6月18日	駅のツバメ	講師：金子凱彦氏・村岡明代氏、場所：豊田駅周辺	11
7月 6日	黒川清流公園の夏を探そう 《大》	講師：小倉紀雄氏・杉浦忠機氏、場所：黒川清流公園	39
7月23日	黒川清流公園で昆虫採集をしよう	講師：森川正昭氏、場所：黒川清流公園	親子 31
10月21日	里山づくり 《雑》	講師：倉本宣氏、場所：カワセミハウス	26
11月25日	みどりと水の原風景 みてみて！程久保川	講師：環境基本計画推進会議みどりグループ 場所：程久保川上・中流域	9
12月 7日	黒川清流公園の冬を探そう！ 《大》	講師：村岡明代氏、場所：黒川清流公園	26
2018年1月20日	水をテーマとした環境学習会	講師：カワセミハウス・中島事務局長 場所：カワセミハウス	10
1月27日	今が旬！冬芽の観察会	講師：馬場多久男氏、場所：黒川清流公園	23
1月28日	親子で楽しむ野鳥観察	講師：金子凱彦氏・小久保雅之氏 場所：黒川清流公園	14
合 計	実施 9回	参加者数	189 人

注 1) 《大》は市民環境大学の、《雑》は雑木林ボランティア講座の公開講座であることを示します。

注 2) 合計欄に示す延べ人数 189 人には、市民環境大学および雑木林ボランティア講座の受講生、それぞれ 41 人と 22 人の計 63 人が含まれています。

・「日野の生きもの写真展」の開催

日野市の生物多様性地域戦略にもとづく活動の一環として、日野市内で見られる貴重植物や生きものの写真展を 4 回開催しました。会場はカワセミハウスで、昆虫と野鳥の写真展は、関連する「みんなの環境セミナー」と同時期の開催としました。

開催期間	テーマ	写真提供など
2017年 7月20日－7月25日	日野の昆虫たち	写真提供：日野の自然を守る会 森川正昭氏
9月26日－10月 5日	日野の魚たち	写真提供：水生生物研究家 鶴田大三郎氏
11月28日－12月 3日	日野の植物たち	写真提供：日野の自然を守る会 植物研究グループ
2018年 1月23日－1月30日	日野の野鳥たち	写真提供：日野の自然を守る会 小久保雅之氏・園村茂夫氏

・日野市環境白書パネル展の開催

カワセミハウスでは、日野市環境白書 2016 年度版の内容を市民に知ってもらうために、その重要部分を 10 枚のパネルにまとめ 2018 年 2 月に「環境白書パネル展」を開催しました。

・アートディレクション事業の実施

日野市出身の版画家蟹江杏さんと市内の中学校の生徒 9 名との協働により、日野市の宝である身近な自然環境を代表する黒川清流公園と東豊田緑地保全地域を素材に、日野市で暮らす豊かさを絵本として表現するアートディレクション事業を行いました。7 月から年度末にかけて開催した 7 回のワークショップを通して「ぼくのまちにはもりがある」と題する絵本が完成しました。2018 年 3 月 3 日にカワセミハウスで開かれた絵本の発表会には、日野市長をはじめとする約 60 人もの出席者がありました。

・「黒川マイスター講座」の開講準備

黒川マイスター制度とは、東豊田緑地保全地域及び黒川清流公園を活動の拠点として、この地の恵まれた環境に学び、実際の保全（管理）活動を通して身近な自然環境の大切さを実感することにより、日野市の宝である緑と清流保全のリーダーの育成と地域づくりへの積極的な参画を促すことを目的としています。

また、カワセミハウスを拠点に集まる高齢者にも積極的に参画していただくことにより、高齢者の居場所として活用されるだけでなく、充実感を持っていきいきと活躍できる拠点としての活用を目指していきいたいと考えています。カワセミハウスでは、黒川マイスターを養成する講座を2018年度からスタートするために、準備作業として講座カリキュラムの作成や講師の手配、関係機関との調整などを行いました。

・館内展示や書籍・文献等による環境情報の発信

カワセミハウスでは、自然や環境に関する様々な図鑑や研究に役立つ文献に加え、映像・画像データなども収集し、来館者の皆様へ公開しています。この他に、官公庁や環境活動団体が発行するイベントのパンフレットやニュースレターなども掲示しています。

また、市民から寄せられるヘビやハチの巣、巣から落ちた野鳥への対応の仕方、カブトムシやバッタの飼育方法、夏休みの自由研究など様々な相談にアドバイスするなど必要な対応をしています。

② 日野市環境白書の刊行

日野市環境白書は、日野市環境基本条例に基づいて作成される年次報告書であり、日野市の環境に関する情報を網羅する内容となっています。カワセミハウスでは2016年度の環境白書作成に当たり、各種の環境データや、市民団体、事業所、学校、行政が行なっている環境への取り組みに関する情報の収集を4月から開始し、9月に評価結果も含めた報告を取りまとめ、12月の議会承認を経て刊行しました。カラー版50部とモノクロ版300部を印刷し、市内外の関係機関や団体に送付しました。

また、白書の内容を広く市民に知っていただくために、白書の概要を紹介したダイジェスト版を2018年1月に作成しました。



③ 環境学習の実施

・学校へ出張授業

市内の小・中学校の総合学習（低学年は生活科）等へ出張授業は、環境学習をサポートする市民団体“ひのどんぐりクラブ”との協働で実施しました。2017年度の実施回数は86回で支援した児童数は7,088人に上りました。活動の詳細は75～76ページをご覧ください。

・市民環境大学の開催

市民環境大学は、市民が大気や水に関する科学的な知識を身に付け、自らの暮らしの在り様と密接に関係する環境問題を考えることを目的に2009年度から毎年開催されているもので、年間に20回の連続講義を行なっています。第9期となる2017年度には21人の受講生が講義を修了し、

7. 環境基本計画の推進体制

9 期を通した修了者は延べ 140 人に上っています。また、修了者の有志が OB 会をつくり、空間放射線量測定や湧水量の調査などを毎月行なっています。

④環境に関わる市民団体等との連携・協働

カワセミハウスの職員は、環境保全課の一員として環境基本計画推進会議や生物多様性地域戦略の計画策定、ふだん着でCO₂をへらそう実行委員会等に参画しています。また、環境市民団体とは下表に示したように様々な内容で連携・協働に努めています。

区分	連携・協働団体等	活動等の内容
行政	日野市環境基本計画推進会議	みどり・CO ₂ グループの定例会議に参加（毎月） エコキングの夏・冬の調査実施（エコキングとは、CO ₂ グループの活動として毎年の夏と冬に行われる一日環境家計簿で、2017 年度は夏・冬合わせて 14,473 人の小学生が参加、これは市内小学生の約 8 割に当たる） みどりグループと共に環境セミナーの開催、市民啓発活動の支援など
	生物多様性地域戦略策定委員会	委員会メンバーとして計画立案への参画（2017 年度委員会 5 回、市民参画部会 3 回）
	ふだん着でCO ₂ をへらそう実行委員会	実行委員会会議及び日野市環境フェア等への参画
	TRM（多摩川リバーミュージアム）事業	国土交通省京浜河川事務所が行なう TRM のサテライトの一つとして、多摩川の魅力や保全に関する情報の発信など
市民団体	ひのどんぐりクラブ	事務局（毎月）、どんぐりクラブメンバーが市内の小・中学校での総合学習（低学年は生活科）等へ出張し授業を支援する。2017 年度は実施回数 86 回、出張したメンバーは延べ 389 人、授業を受けた児童数は 7,088 人に上る。
	市民環境大学 OB 会	事務局、空間放射線量の測定実施、月例会の開催など
	全国一斉水質調査	全国調査に参加し日野市での水質調査を実施（1 回/年）
	ひの緑のトラスト	事務局（数回/年）
	浅川流域市民フォーラム	会議やイベントの企画・運営（1 回/月程度）
	水と緑の日野・市民ネットワーク	事務局、自然環境に関するシンポジウムの開催を支援
	浅川潤徳水辺の楽校	協議会メンバーとして、月 1～2 回行う水辺の楽校イベントの企画・実施を支援。2017 年度の楽校への参加者延べ 2,781 人。
	雑木林ボランティア講座	事務局、年間 11 回の講座開催で 2017 年度は修了者 27 人（延べ修了者 296 人）
	谷仲山緑地を守る会	連絡窓口
	東豊田緑湧会	連絡窓口

⑤地域コミュニティの形成と活動の支援

カワセミハウス協議会を中心に、地域団体や各種市民団体、大学、行政との連携・協働により幅広い用途、目的に応じて利用されています。

区分	支援・連携団体	活動等の内容
地域団体等	カワセミハウス協議会	・自治会や子ども会、環境団体を中心とする多様な 43 の団体と個人 1 名で構成されるカワセミハウスの運営の基盤となる組織。設立初年度は年 4 回開催した会議を通して、年間の事業計画や集会室の予約、ルール作りなどを行なった。 ・カワセミハウス年末大掃除の実施（12 月 9 日）
	黒川かわせみサロン	・地域の婦人有志と実践女子大学ボランティア学生のコラボ事業として月 1 回開催される高齢者を対象とする市民交流会
大学	実践女子大学	・“オクトーバーフェスト”の開催（11 月 4 日）：実践女子大学生を中心とする協議会の有志メンバーが、「こだわり」「つながり」「チャレンジ」をコンセプトに日野市ブランド「TOYODA BEER」を使ったフェスティバルを開催

⑥ カワセミハウスの運営

・運営協議会の活動

カワセミハウス協議会は、カワセミハウスの事業を推進することを目的にカワセミハウス条例に基づいて設置されています。協議会は市民、事業者、市等で構成されており、2017 年度末時点で 43 団体と個人 1 名が会員登録しています。2017 年度には 4 回の会合が開催され、11 月の第 3 回協議会においては「環境分科会」の設置が了承されました。これを受けて 2018 年度から環境分科会の活動をスタートするための作業が有志により始まりました。

開催日	出席団体数	主な議題
第1回 2017年 7月20日	30	会長・副会長の選出、今年度市事業の説明、集会室使用に関する運用方法の取り決めなど
第2回 9月26日	27	カワセミハウスの利用者アンケートの結果報告、黒川かわせみサロンの経過報告、オクトーバーフェストの開催提案、その他運営に関する質疑
第3回 11月21日	27	オープン後 6 か月間の利用状況の報告、2018 年度の集会室予約日の調整、環境分科会（仮称）立ち上げの提案
第4回 2018年 2月24日	29	2018 年度の協議会行事予定、環境分科会キックオフ会議の報告、カワセミハウス運営方法変更の報告など

・（旧）環境情報センター年報 2016 年度版の刊行

カワセミハウスの前身である（旧）環境情報センターが 2016 年度に行った「みんなの環境セミナー」やセンターの施設利用実績などの記録を中心に、“水と緑の日野・市民ネットワーク”主催のシンポジウムの配布資料などを掲載した報告書を 2018 年 1 月に刊行しました。

・カワセミハウス通信の発行

「カワセミハウス通信」は、カワセミハウスの活動を中心に環境行政に関するその時々の特ピックや市民環境団体の活動、予定などを紹介するものであり、2017 年 5 月の第 1 号から 3 か月ごとに第 4 号まで 4 回（5 月、7 月、10 月、1 月）発行しました。

・その他

2018 年 1 月、緑と清流課の事業として芝生広場の一角に太陽電池パネルとバッテリーを持つ「自立型ソーラースタンド」を設置する工事が行われました。このスタンドは LED ライトと携帯電話等の充電コネクタを備えており、夜間や災害時でも使用可能なものです。

⑦ 施設の利用状況

・情報発信ラウンジ

館内の「情報発信ラウンジ」では、環境に関する調査報告書や年報、文献、動植物に関する図鑑などの公開、行政情報及び地域活動、サークル活動等の各種パンフレット類の配備やポスター等の掲出、写真作品など各種展示物の発表などを行っており、この他に図書館との協働による図書の配備も行なっています。併せて、市内の川や用水に生息する淡水魚の水槽、樹齢 131 年のサワラの年輪標本（日野市関連年表を表示）、手作りの小水力発電機なども展示しています。

7. 環境基本計画の推進体制

オープンキッチンと円形テーブルを配置したラウンジと2階のロフトでは、多様な世代が談話や勉強、少人数の趣味のグループの集まり、散策後の休憩、仲間同士のランチタイム、遊び等の利用で毎日賑わっており、誰もが居心地の良い場所として活用されています。

また、カワセミハウスを利用する子どもたちに呼びかけて「カワセミハウスサポーター」というグループを結成してもらい、情報発信ラウンジの片づけ、昆虫や魚など生きものの世話、図書の整頓、イベントの補助など、カワセミハウス運営の一部を手伝ってもらっています。

・来館者と集会室の利用状況

玄関に設けたカウンターでは、2017年度は合計104,651、月平均8,721カウントでした。最高値は8月の14,273カウントで、学校が夏休みとなる時期を含む7月～9月のカウントが高くなっています。集会室の利用では、3つの集会室の利用者数は10,615人で、利用した団体数は延べ437団体、利用回数は783回でした。

なお、利用回数は、複数の集会室同時に、あるいは午前・午後継続して使用した場合、複数室で1回使用したものと数えています。また、来場者のカウントは、玄関に設置したセンサー前を人が2回通過すると1カウントしています。

集会室については、3室で年間1,195コマ（午前・午後・夜間の3つの時間帯があり、各時間帯1回の利用を1コマとする）の利用があり、利用率は43%でした。月別でみると、上半期（4月～9月）よりも下半期（10月～翌年3月）の利用率が高くなっており、11月・12月・3月は50%を上回っています。このことから、市民の間でカワセミハウスの認知が進むにつれ集会室の利用率が高まってきていることがうかがえます。

なお、午前・午後・夜間の時間帯ごとの利用率を見ると、昼間が50%を超えているのに対し、夜間は18%と低い利用率となっています。

8. 環境審議会の意見等

(1) 審議会の意見

前回発行の白書(2016年度版)では下記のと通りの意見を日野市環境審議会からいただきました。

平成29年10月25日

日 野 市 長

大坪 冬彦 様

日野市環境審議会会長

千賀 裕太郎

日野市環境審議会の意見について

日野市環境基本条例（平成7年条例第18号）第18条に基づき、本環境白書案について、平成29年10月25日に開催された日野市環境審議会で審議しました。意見は下記のとおりです。今後市行政においてこれらの事項に十分に対応するとともに、次年度における白書作成時にその成果を検討するようお願いいたします。

記

1 指標の年次変化への対応について

指標の年次変化については、その理由や今後の方針などを記述された方が望ましい。

8. 環境審議会の意見等

前回の白書についてご審議いただいたのは平成 29 年度の日野市環境審議会の委員です。

平成 29 年度 日野市環境審議会 委員(※敬称略)

公募市民

大竹 貫一、岡村 和夫、彦谷 有三、野田 実

学識経験者

尾崎 義昭、瀬川 爾朗、千賀 裕太郎、田中 優、宮沢 清子

事業者

榎田 光仁(日野市商工会)、大塚 政雄(日野市商工会)、横島 靖(日野自動車(株) 安全環境推進部長)

環境保全関係行政機関、関係団体

金子 凱彦(日野の自然を守る会)、岸野 國男(日野市用水組合連合会長)、

吉田 茂幸(東京都多摩環境事務所廃棄物対策課長)

(2) 日野市環境審議会(平成 29 年 10 月 25 日)意見への対応について

1 指標の年次変化についての理由や今後の方針などの記述について

担当部署から情報提供を受け、指標の年次変化についての理由や今後の方針などについて記述しました。

(例) 指標 20：地下水揚水量

指標 27：マイバッグ持参率・レジ袋辞退率

指標 30：生ごみ処理器補助の件数

指標 34：クリーンセンター見学者数

指標 38：バス路線の整備状況：市内連絡バス（ミニバス）年間利用者数

指標 40：ワットチェッカー等貸出状況

(環境保全課)

9. 省エネ法に関する措置

※本書編集時点で最新となる 2016 年度のデータを掲載しています。

「エネルギーの使用の合理化に関する法律」（以下、省エネ法という。）は、エネルギー消費量が大幅に増加している業務部門と家庭部門におけるエネルギーの使用の合理化をより一層推進することを目的に、2008年5月に改正されました。

日野市では、市長部局と教育委員会がそれぞれ個別の事業者として、所管する施設について国に対してエネルギー使用量の報告を行っています。2016年度分のエネルギー使用量は次のとおりです。

	エネルギー使用量(原油換算)	対前年度比
市長部局	4,271k1	92.5%
教育委員会	2,519k1	104.5%

付表 指標・参考データ出典一覧

指標・参考データ		ページ	出典
指標 1	緑の構成比	12	東京都土地利用現況調査(都市計画課)
指標 2	緑被率	12	
指標 3	耕地面積	13	農林水産省作物統計(都市農業振興課)
(参考)	生産緑地面積	13	都市計画決定図書(都市計画課)
指標 4	一人当たり都市公園面積	14	日野市公園調書(緑と清流課)
(参考)	多摩地区の一人当たり都市公園面積	14	東京都建設局公園調書
指標 5	市が寄付や買取等で取得した樹林地面積	16	緑と清流課
指標 6	緑地信託面積	16	
指標 7	緑のトラストへの寄付件数	16	緑のトラスト受付簿(環境保全課)
指標 8	雑木林ボランティア講座修了者数	17	緑と清流課
指標 9	市民農園の面積	17	都市農業振興課
指標 10	援農人数	17	
指標 11	2017 年度に実施した「市」の開催日数	18	
指標 12	学校給食における地元野菜等利用率	18	
指標 13	給食野菜納品農業者数	18	
指標 14	生垣の助成件数	19	緑と清流課
指標 15	浅川の平均河川水量・水位	20	国土交通省京浜河川事務所
(参考)	浅川の流量測定結果	21	国土交通省京浜河川事務所、日野市環境共生部
指標 16	月別雨量と調査地点の総湧水量	22	湧水量および地下水位計測調査業務委託・調査報告書(緑と清流課)
(参考)	湧水地点の状況	22	日野市水質調査 調査報告書(環境保全課)
指標 17	各用水路の水質分析結果	24	
指標 18	河川・用水・湧水の水生生物の確認状況	25	日野市水生生物調査 調査報告書(環境保全課)
(参考)	水生生物による水質の生物学的判定	26	
指標 19	水辺に親しみや潤いを感じる市民の割合	28	日野市市民意識調査結果報告書
指標 20	地下水揚水量	30	地下水揚水量一覧(環境保全課)
指標 21	雨水浸透ます設置個数	30	緑と清流課
(参考)	第二次日野市交通バリアフリー特定事業計画の透水性舗装整備状況	31	都市計画課、道路課
指標 22	下水道普及率	32	下水道課
指標 23	水辺イベントの開催数	32	緑と清流課
(参考)	「ビオトープづくり」の取組件数	33	
指標 24	「用水守」の登録団体数	33	
指標 25	ごみ・資源排出原単位	35	多摩地域ごみ実態調査(公益財団法人 東京市町村自治調査会)
(参考)	ごみの行方	36	
指標 26	資源化率	36	
(参考)	ごみ量内訳	37	日野市の清掃概要(ごみゼロ推進課)
指標 27	マイバック持参率・レジ袋辞退率	39	大手スーパーでの出口調査(レジ袋無料配布中止に向けた協議会議)
指標 28	ペットボトル、発泡トレの行政回収量	39	日野市の清掃概要(ごみゼロ推進課)
指標 29	焼却ごみの組成	40	ごみゼロ推進課
(参考)	焼却ごみの組成割合(2017 年度分析結果・湿ベース)	40	
指標 30	生ごみ処理器補助の件数	41	
指標 31	生ごみリサイクルステッカー掲世世帯数	42	
指標 32	環境学習出前講座の実施回数	42	
指標 33	ごみ相談窓口への相談件数	43	
指標 34	クリーンセンター見学者数	43	
指標 35	新聞紙の行政回収量	43	日野市の清掃概要(ごみゼロ推進課)
指標 36	二酸化炭素排出量	45	オール東京 62 市区町村共同事業「多摩地域の温室効果ガス排出量」報告書
(参考)	エネルギー消費量	46	
指標 37	公共交通機関(ミニバス・バス)の整備率	47	交通空白地域図(都市計画課)
指標 38	バス路線の整備状況:市内連絡バス(ミニバス)年間利用者数	47	都市計画課
指標 39	「ふだん着で CO ₂ をへらそう宣言」の宣言数及び CO ₂ 削減量	48	
指標 40	ワットチェッカー等貸出状況	49	環境保全課
指標 41	省エネ診断の参加事業者数	49	
指標 42	太陽光発電等の導入補助件数	50	
指標 43	公共施設の新エネルギー導入状況	50	
指標 44	都市計画道路の整備率	51	
指標 45	心安らぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合	52	日野市市民意識調査結果報告書
(参考)	苦情受付件数	52	環境保全課
指標 46	マナーアップのための啓発活動状況	54	
指標 47	浮遊状粒子物質(SPM)年平均	54	東京都環境局
指標 48	二酸化窒素の年平均濃度	55	
指標 49	二酸化窒素 24 時間測定結果	56	窒素酸化物調査報告書(環境保全課)
指標 50	雨の酸性度	56	酸性雨市民モニターによる計測
(参考)	富士山ウォッチング(富士山が見えた日数)	57	東京都環境局・成蹊学園気象観測所・日野市
指標 51	道路交通騒音	58	環境保全課
指標 52	横田飛行場に係る航空機騒音	59	
(参考)	市内空間放射線量測定	60	

エコクマ、エコアラ

地球温暖化で棲んでいるところを追われ、東京都日野市にやってきたエコクマ。日野市の多摩動物園で生まれたエコアラ。地球温暖化に心を痛め、エコ活動を始めたよ。

2人で力を合わせてがんばるぞ。応援よろしくね！



2017 年度（平成 29 年度）
日野市環境白書
日野市環境基本条例第 18 条に基づく年次報告書

発行：2018 年(平成 30 年)9 月 日野市

編集：日野市立カワセミハウス

〒191-0052 東京都日野市東豊田 3-26-1

TEL 042-581-1164

URL <http://www.kankyo-hino.com/>

身近な生きものと共生できる環境を次世代につなごう！